

令和7年度
第2期富谷市地域福祉計画
アンケート調査

－調査結果報告書－

令和8年3月

富谷市

保健福祉部 長寿福祉課

<目 次>

I 調査概要	1
II 調査結果（市民）	3
1 回答者ご自身について.....	3
1-1 性別.....	3
1-2 年齢.....	3
1-3 家族構成.....	4
1-4 職業.....	4
2 地域との関わりについて.....	5
2-1 居住地区.....	5
2-2 居住年数.....	5
2-3 居住地域に愛着があるか.....	6
2-4 居住地域の人々は助け合い・支え合いに積極的か.....	8
2-5 居住地域での課題・問題.....	10
2-6 隣近所の人との付き合いの程度.....	12
2-7 身近に感じる「地域」の範囲.....	14
3 地域福祉について.....	16
3-1 地域福祉の認知度【地域福祉計画成果目標】.....	16
3-2 市民による自主的な助け合いや支え合いの関係が必要だと思うか.....	18
3-3 日常生活で困っている家庭があった場合にできる手助け.....	20
3-4 日常生活が不自由になった場合にしてほしい手助け.....	22
4 地域活動について.....	25
4-1 参加しているボランティア活動【地域福祉計画成果目標】.....	25
4-2 ボランティアに参加していない理由.....	27
4-3 今後ボランティア活動をしたいと思うか.....	29
4-4 活動したいボランティアの内容.....	31
4-5 地域活動やボランティアへの参加にあたり行政に求める支援.....	34
5 福祉サービス・支援制度について.....	36
5-1 高齢者福祉に関するサービスの認知度【地域福祉計画成果目標】.....	36
5-2 障がい者福祉に関するサービスの認知度【地域福祉計画成果目標】.....	37
5-3 児童福祉に関するサービスの認知度【地域福祉計画成果目標】.....	38
5-4 市の福祉サービスや福祉施設の情報の入手先の認知度.....	39
5-5 生活困窮の問題や支援制度の認知度.....	41
5-6 生活困窮に関する相談窓口の認知度.....	42
5-7 生活困窮の問題や支援制度について最も必要な支援.....	43
5-8 成年後見制度の認知度.....	44
5-9 市民後見人の認知度.....	45

5-10	今後成年後見制度が必要になった場合に利用したいか	46
5-11	成年後見制度を利用する場合に後見人になってほしい人	47
5-12	成年後見制度の利用を考えていない理由	48
5-13	市民後見人の活動への関心	49
5-14	成年後見制度に関する相談窓口の認知度	50
5-15	市の福祉サービスや福祉施設について最も必要なこと	51
6	災害時の対応について	53
6-1	地域の防災訓練への参加状況	53
6-2	災害時に支援を必要とする人の手助けができるか	55
6-3	災害に対して地域で必要だと思う備え	57
7	こころの健康について	59
7-1	趣味などの生きがい	59
7-2	眠れないこと	61
7-3	気分が沈み、気が晴れないように感じる	63
7-4	自分は価値のない人間だと感じる	65
7-5	毎日の暮らしの中での不安や悩み	67
7-6	不安や悩みの相談先	69
7-7	不安や悩みを人に相談・支援を求めることのためらい	71
7-8	誰かに悩みを相談したり、助けを求めたりすることにためらいを感じる理由	73
7-9	自殺予防週間／自殺対策月間	75
7-10	「こころの相談電話」などの電話相談窓口	76
7-11	よりそいホットライン	78
7-12	SNSを活用した相談	79
7-13	ゲートキーパー	81
7-14	自死対策の認知度	82
7-15	身近な人から「死にたい」と打ち明けられたときの最も良い対応	83
7-16	今後必要になる自死対策	84
8	関係機関について	86
8-1	富谷市社会福祉協議会に期待すること	86
9	これからの地域福祉について	87
9-1	行政と地域住民とのあるべき協力関係【地域福祉計画成果目標】	87
9-2	地域で安心して暮らしていくために市が取り組むべきこと	89
9-3	地域づくりを進めるための考え・福祉に関する意見	91
10	調査結果（市民）について	95
10-1	地域との関わりについて	95
10-2	地域福祉について	96
10-3	ボランティア活動について	97
10-4	福祉サービス・支援制度について	98
10-5	災害時の対応について	98

10-6	こころの健康について	99
10-7	富谷市社会福祉協議会に期待すること	99
10-8	結果のまとめ	100

Ⅲ 調査結果（団体） 101

1	団体の概要について	101
1-1	所属先	101
1-2	所属人数	101
1-3	設立年数	102
2	団体の活動等について	103
2-1	取り組んでいる事業や分野	103
2-2	地域と一緒にやっていることやイベント等	104
2-3	他の団体・機関等との交流・連携の状況	105
2-4	具体的な交流・連携	106
3	地域への認識について	108
3-1	助け合いに対する意識の高さ	108
3-2	地域の問題点や日常の困りごと	109
3-3	日々の困りごとの中で既に取り組んでいること・実施できること	110
3-4	事業所の普段の業務におけるボランティアの受け入れ状況	111
3-5	事業所におけるボランティアの活動内容	111
3-6	団体が活動を行う上で困っていること	112
3-7	団体の活動情報の発信方法	113
3-8	助け合い・支え合い活動を活発にするために重要なこと	114
3-9	活動をしていく上で市に望むこと	115
3-10	地域福祉の推進についての意見・要望等	116
4	調査結果（団体）について	118
4-1	団体の活動等について	118
4-2	地域への認識について	118
4-3	団体の活動情報の発信方法	120
4-4	活動をしていく上で市に望むこと	120
4-5	結果のまとめ	120

Ⅳ 調査結果（学生） 121

1	回答者ご自身について	121
1-1	性別	121
1-2	学年	121
1-3	家族構成	122
1-4	居住地区	122

2	地域福祉について	123
2-1	地域福祉の認知度.....	123
2-2	身近に感じられる「地域」の範囲.....	124
2-3	普段、隣近所の人とどの程度関わりがあるか.....	124
2-4	居住地域に愛着があるか	125
2-5	日常生活が不自由になった場合にしてほしい手助け	126
2-6	災害時に地域で最も必要だと思う備え	127
2-7	現在ボランティア活動をしているか	128
2-8	今後ボランティア活動をしたいと思うか	128
2-9	活動したいボランティアの内容	129
2-10	市の福祉サービスなどの情報の入手先として知っているもの	130
2-11	日常生活について	131
2-12	毎日の暮らしの中での不安や悩み	132
2-13	不安や悩みの相談先.....	133
2-14	不安や悩みを人に相談・支援を求めることのためらい.....	134
2-15	誰かに悩みを相談したり、助けを求めたりすることにためらいを感じる理由..	135
2-16	相談窓口の認知度	136
3	調査結果（学生）について	137
3-1	地域福祉について.....	137
3-2	ボランティア活動について	138
3-3	福祉サービスなどの情報の入手先について	138
3-4	不安や悩みについて	139
3-5	結果のまとめ.....	140
V	成果目標の達成状況.....	141
1	基本目標1「ともに学び、ともに活かす」	141
2	基本目標2「地域でつながり、守り育む」	142
3	基本目標3「自分らしく暮らせる地域を築く」	143
4	基本目標4「地域福祉の輪を広げる」	146
VI	資料編.....	148
1	使用した調査票（市民）	148
2	使用した調査票（団体）	153
3	使用した調査票（学生）	155

I 調査概要

1 調査の目的

社会福祉法（昭和 26 年法律第 45 号）第 107 条第 1 項に規定する「市町村地域福祉計画」を策定するにあたり、市民のニーズ等を把握し策定のための基礎資料とするためのアンケート調査及び市内各地域で活動している団体や事業所の取り組み等を把握することにより、団体や事業所から見た地域の現状を確認し、地域課題や今後の取り組みの参考とすることを目的とする。

また、「子どもにやさしいまちづくり事業（C F C I）」実践自治体として、市内の中学生及び高校生を対象に地域福祉に関する意見や日常の生活状況等を把握するため、今回、新たにアンケート調査を実施するもの。

2 調査期間

市民・団体：令和 7 年 11 月 25 日（水）～令和 7 年 12 月 11 日（木）（18 日間）

学 生：令和 7 年 11 月 13 日（木）～令和 7 年 12 月 23 日（火）（41 日間）

3 調査対象

市民 1,000 件・団体 107 件・学生 707 件

4 調査方法

市民・団体：郵送配布・郵送回答（WEB 併用）

学生：WEB 配布・WEB 回答

5 回答状況

区分		発送数	有効回収数（有効回答率）		うちWEB 回答率
市民	郵送		1,000 件	364 件（36.4%）	620 件
	WEB	256 件（25.6%）		（62.0%）	
団体	郵送	107 件	62 件（57.9%）	86 件	27.9%
	WEB		24 件（22.4%）	（80.4%）	
学生	WEB	707 件	707 件（100.0%）		100.0%

6 調査結果の見方

○n（number of cases）は回答割合算出における基数であり、100.0%が何人の回答に相当するかを表している。

○回答割合は百分率で表し、小数第 2 位を四捨五入して算出している。したがって、単一回答式の質問においては、回答割合を合計しても 100.0%にならない場合がある。

また、複数回答式の質問においては、各設問の調査数を基数として算出するため、全ての選

I 調査概要

- 択肢の割合を合計すると 100.0%を超える場合がある。
- 回答が皆無（0件）であった選択肢の回答割合は、図表中では「-」と表記している。
 - 調査数（n）が少数のものは、回答割合の信頼性が低いため、コメントを省略している場合がある。
 - 図表及びコメントで、選択肢の語句等を一部簡略化等している場合がある。
 - 前回調査との比較において、設問や選択肢等が異なる場合には、前回調査と類似した選択肢との比較を行うこととしている。
 - 市民アンケートについては同時期に市内中学2年生・高校2年生を対象とした学生アンケート調査を実施していることから、同じ設問については比較対象として学生アンケート調査の内容も掲載している。

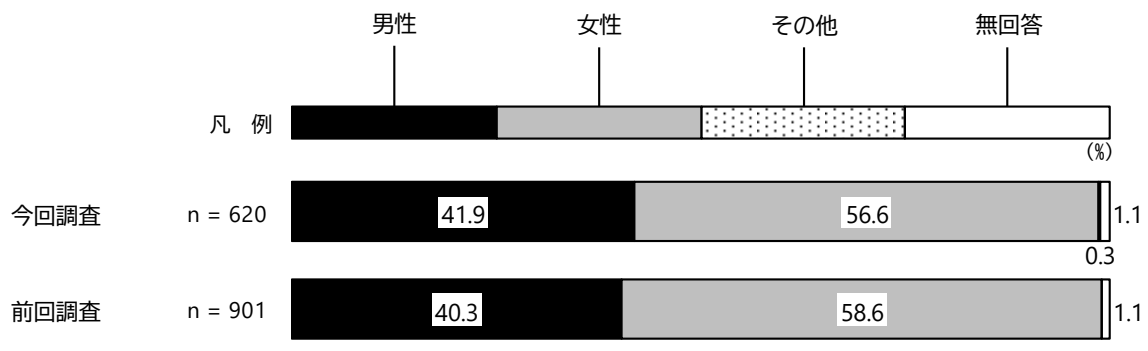
Ⅱ 調査結果（市民）

1 回答者ご自身について

1-1 性別

▶ 性別については、「男性」が41.9%、「女性」が56.6%となっている。

問1 あなたの性別を教えてください。（1つに○） ※自認する性別でお答えください。



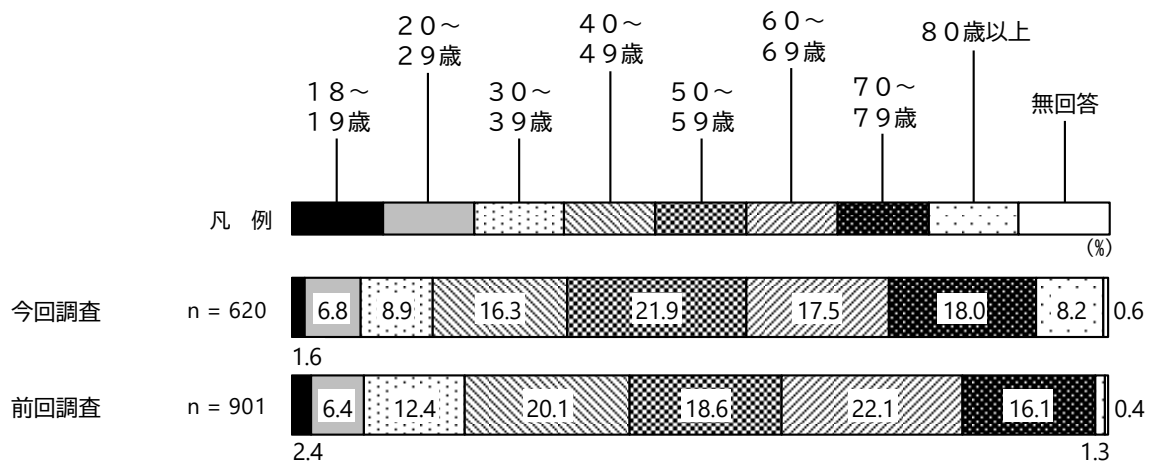
※「その他」は今回調査で追加された選択肢であり、前回調査では未聴取。

1-2 年齢

▶ 年齢については、「50～59歳」が21.9%と最も高く、次いで、「70～79歳」(18.0%)、「60～69歳」(17.5%)となっている。

問2 あなたの年齢を教えてください。（1つに○）

※令和7年10月1日現在の年齢でお答えください。

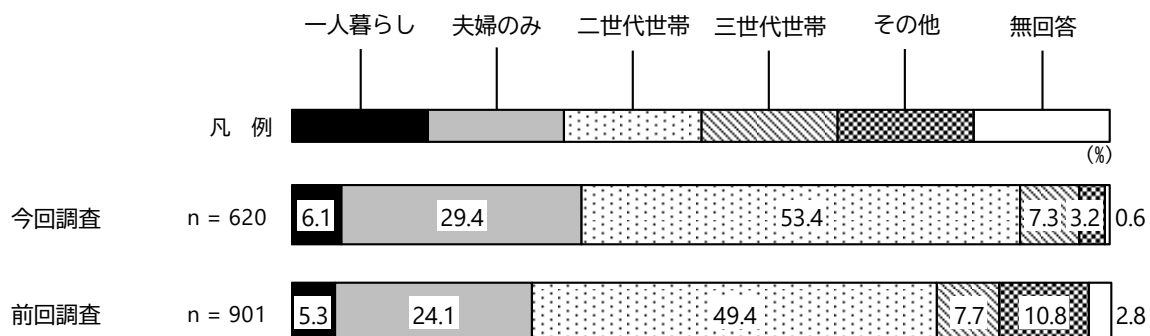


Ⅱ 調査結果（市民）

1-3 家族構成

- ▶ 家族構成については、「二世世代世帯」が 53.4%と最も高く、次いで、「夫婦のみ」(29.4%)、「三世世代世帯」(7.3%)となっている。

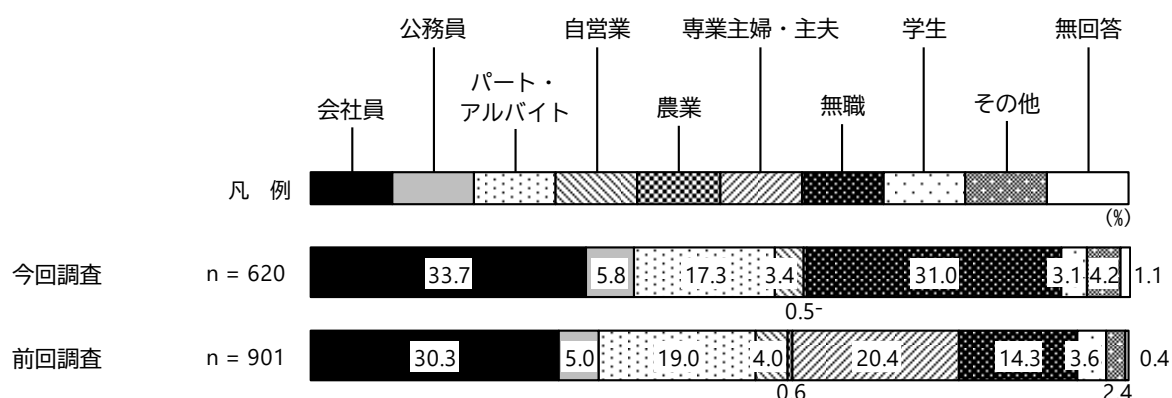
問3 現在あなたが同居している家族構成を教えてください。（1つに○）



1-4 職業

- ▶ 職業については、「会社員」が 33.7%と最も高く、次いで、「パート・アルバイト」(17.3%)、「公務員」(5.8%)となっている。なお、「無職」が (31.0%) となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「無職」が 16.7ポイント高くなっているが、今回の調査で「専業主婦・主夫」の選択肢がなかったことが影響していると思われる。

問4 あなたの職業を教えてください。（1つに○）



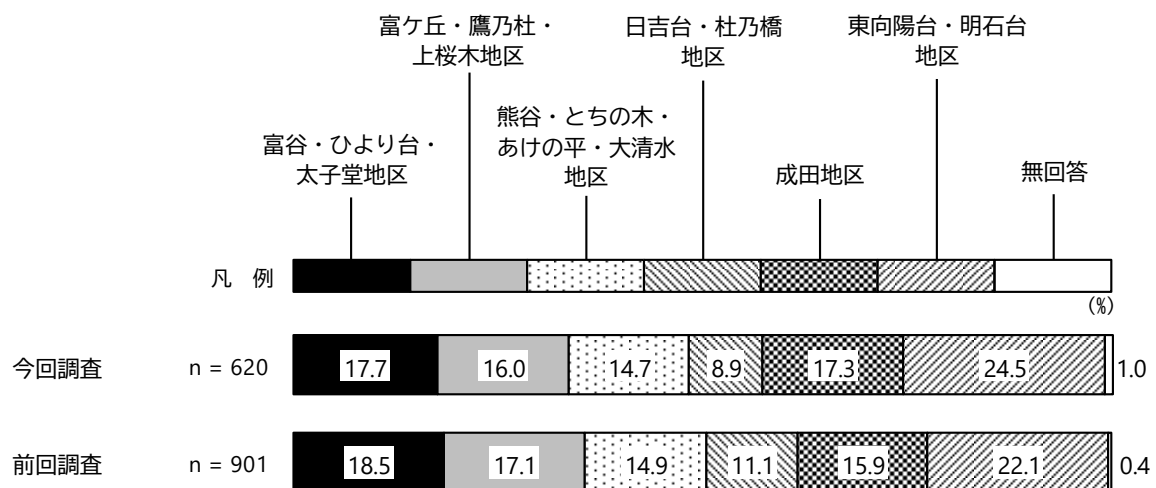
※前回調査の選択肢「専業主婦・主夫」(20.4%)は今回調査では未聴取。

2 地域との関わりについて

2-1 居住地区

- ▶ 居住地区については、「東向陽台・明石台地区」が24.5%と最も高く、次いで、「富谷・ひより台・太子堂地区」（17.7%）、「成田地区」（17.3%）となっている。

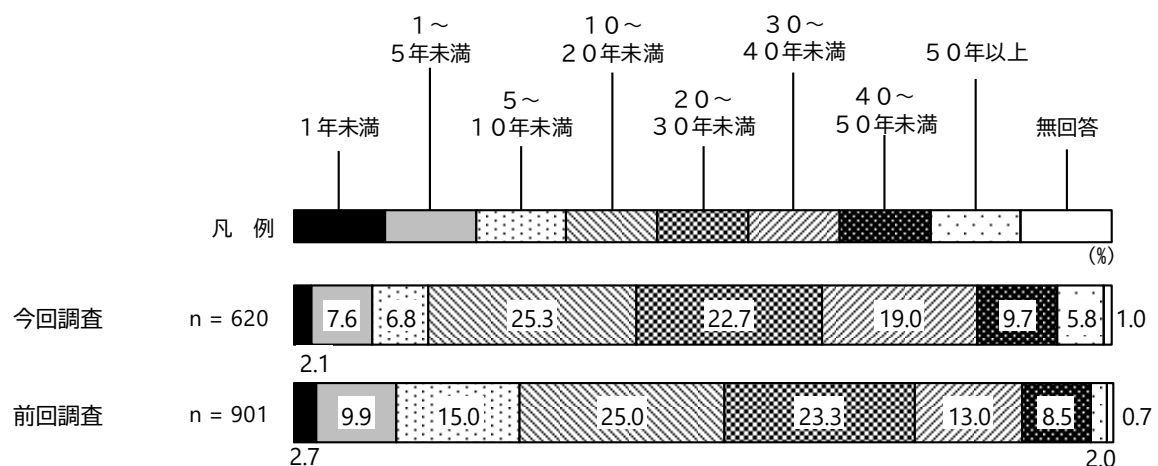
問5 現在あなたのお住まいの地区を教えてください。（1つに○）



2-2 居住年数

- ▶ 居住年数については、「10～20年未満」が25.3%と最も高く、次いで、「20～30年未満」（22.7%）、「30～40年未満」（19.0%）となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「5～10年未満」がやや低くなっている。

問6 あなたは現在の地区（問5の地区）に住んで何年になりますか。（1つに○）

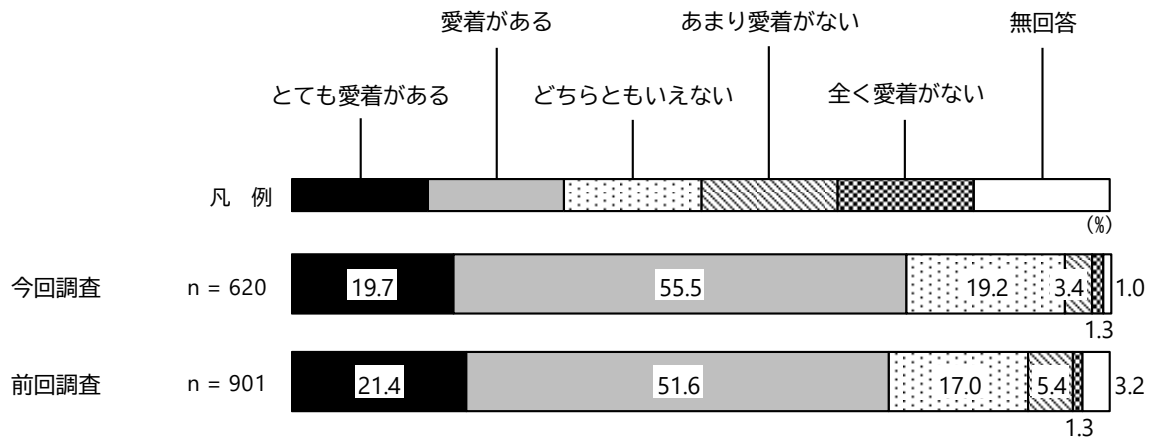


Ⅱ 調査結果（市民）

2-3 居住地域に愛着があるか

- ▶ 居住地域に愛着があるかについては、「愛着がある」が55.5%と最も高く、次いで、「とても愛着がある」（19.7%）、「どちらともいえない」（19.2%）となっている。

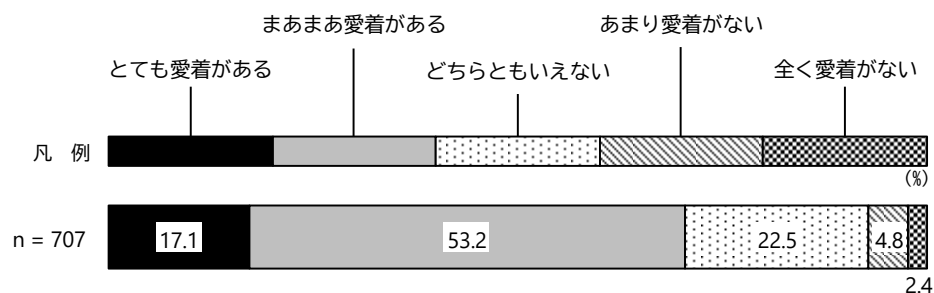
問7 あなたは現在住んでいる地域（問5の地区）に愛着がありますか。（1つに○）



※「愛着がある」は前回調査の「まあ愛着がある」と比較した。

【参考】学生アンケートの結果

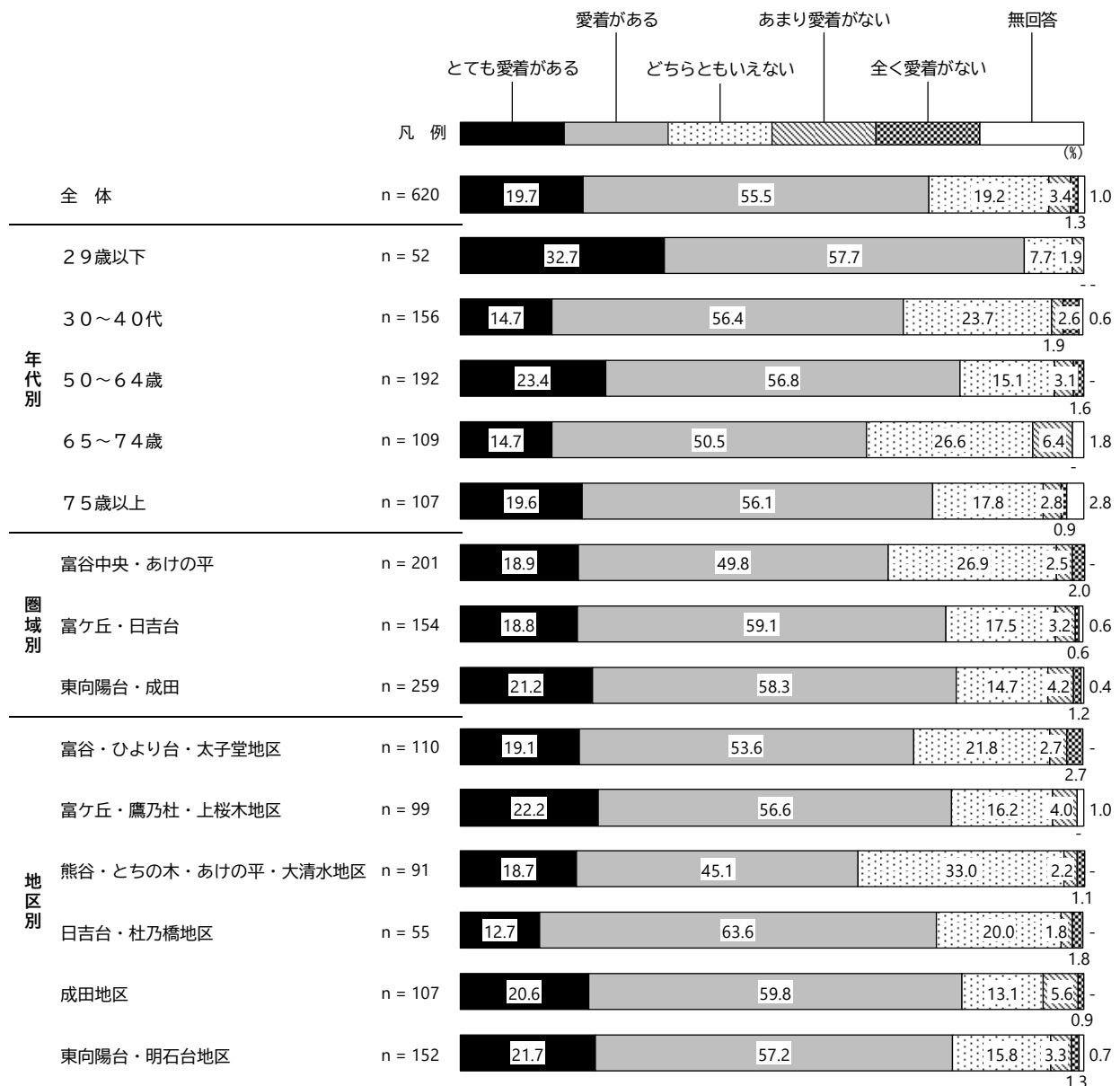
- ▶ 居住地域に愛着があるかについては、学生アンケート調査においても市民アンケート調査同様の傾向が見られた。



※学生アンケートの結果は「Ⅳ 調査結果（学生）2-4（125ページ）」参照。

【年代別・圏域別・地区別・家族構成別／居住地域に愛着があるか】

- ▶ 年代別にみると、『29歳以下』では「とても愛着がある」（32.7%）が他の年代と比べてやや高くなっており、「どちらともいえない」（7.7%）が他の年代と比べてやや低くなっている。
- ▶ 圏域別にみると、『富谷中央・あけの平』では「どちらともいえない」（26.9%）が他の圏域と比べてやや高くなっている。
- ▶ 地区別にみると、『熊谷・とちの木・あけの平・大清水地区』では「どちらともいえない」（33.0%）が他の地区と比べて高くなっている。



※圏域別は問5（居住地区）の回答をもとに以下の通り合算して集計した。以降の圏域別の結果を掲載している設問も同様。

『富谷中央・あけの平』＝「富谷・ひより台・太子堂地区」＋「熊谷・とちの木・あけの平・大清水地区」

『富ヶ丘・日吉台』＝「富ヶ丘・鷹乃杜・上桜木地区」＋「日吉台・杜乃橋地区」

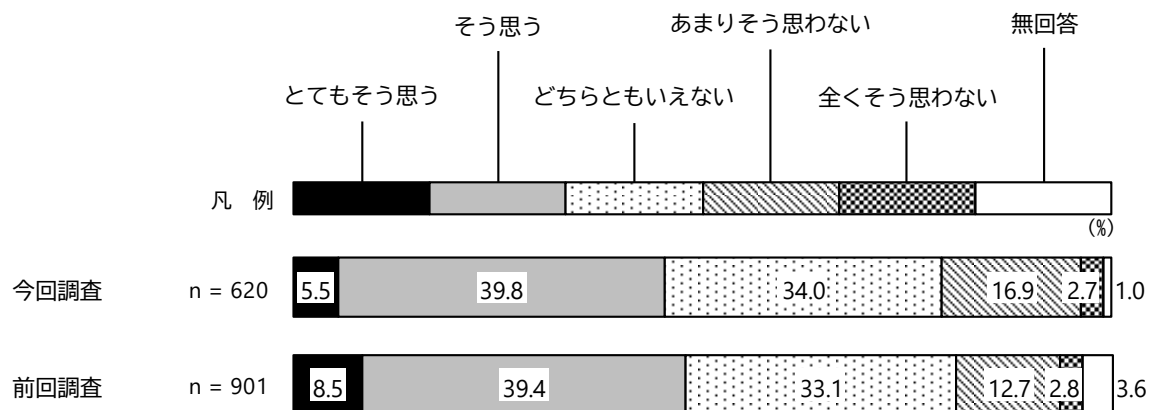
『東向陽台・成田』＝「東向陽台・明石台地区」＋「成田地区」

Ⅱ 調査結果（市民）

2-4 居住地域の人々は助け合い・支え合いに積極的か

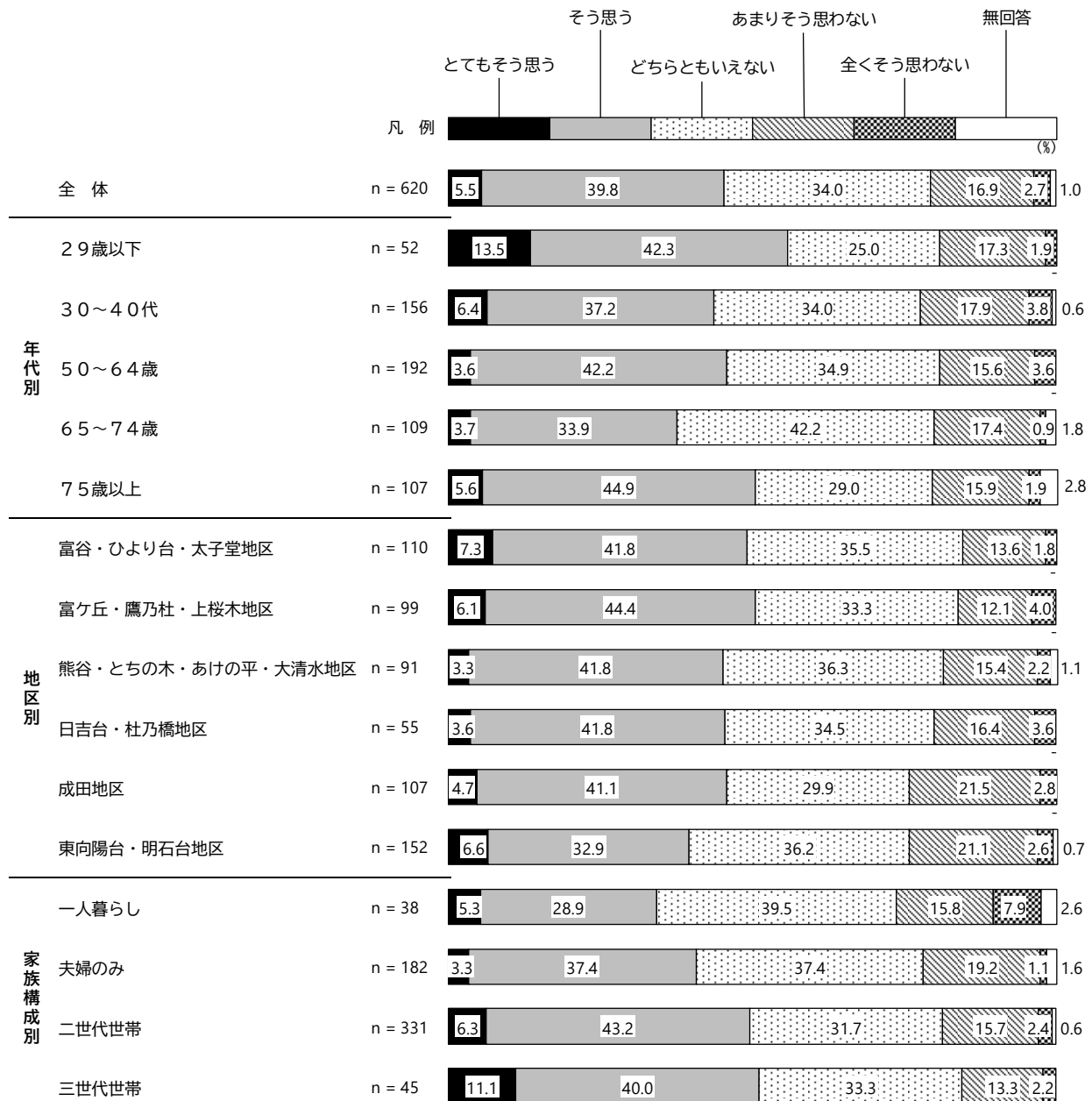
- ▶ 居住地域の人々は助け合い・支え合いに積極的かについては、「そう思う」が39.8%と最も高く、次いで、「どちらともいえない」(34.0%)、「あまりそう思わない」(16.9%)となっている。

問8 あなたが住んでいる地域（問5の地区）の人々は地域の助け合い・支え合いに積極的だと思いますか。（1つに○）



【年代別・圏域別・地区別・家族構成別／居住地域の人々は助け合い・支え合いに積極的か】

- ▶ 年代別にみると、『29歳以下』では「とてもそう思う」（13.5%）が、『65～74歳』では「どちらともいえない」（42.2%）が他の年代と比べてやや高くなっている。
- ▶ 地区別にみると、『東向陽台・明石台地区』では「そう思う」（32.9%）が他の地区と比べてやや低くなっている。
- ▶ 家族構成別にみると、『一人暮らし』では「そう思う」（28.9%）が他の家族構成と比べてやや低くなっている。

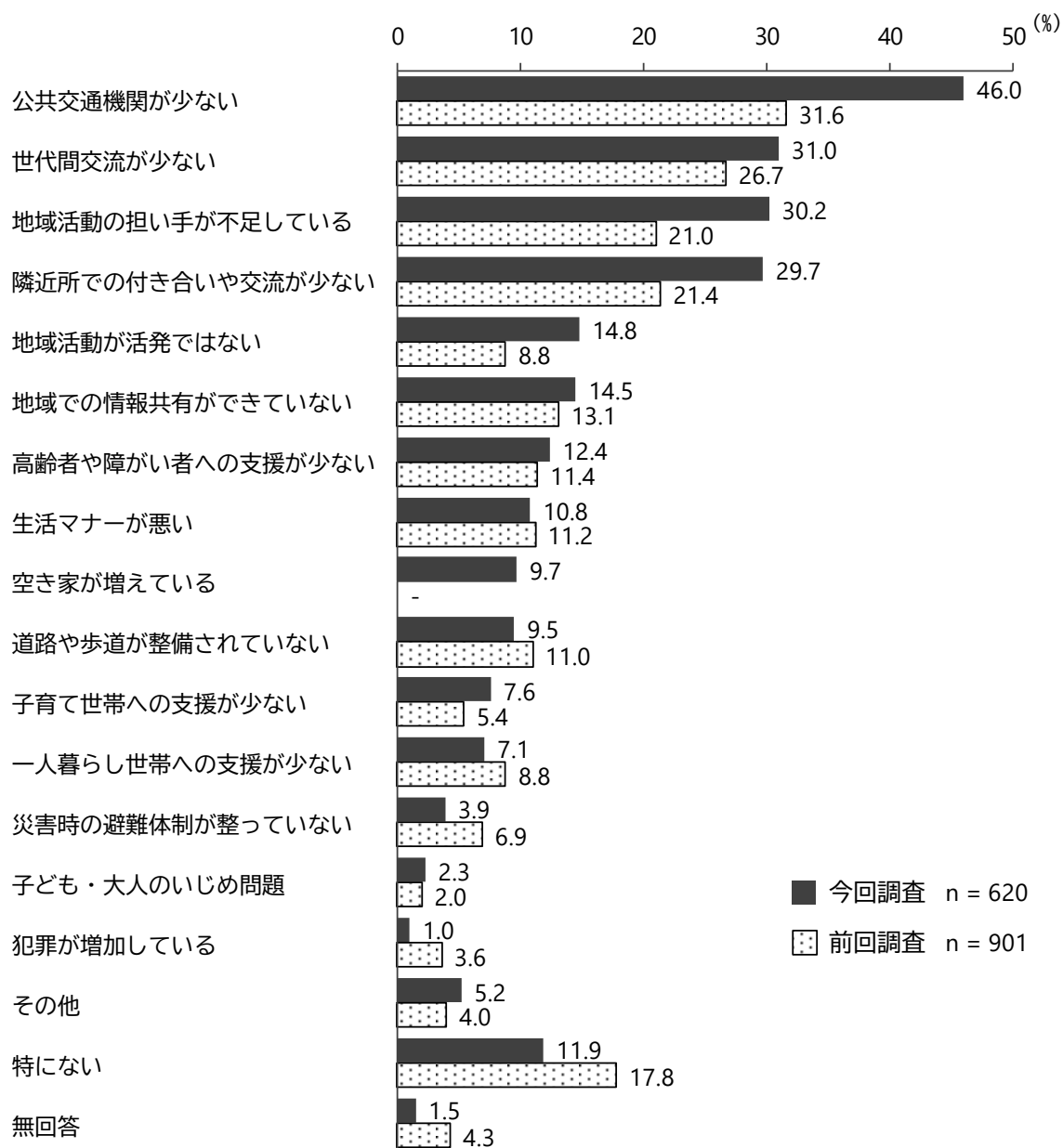


Ⅱ 調査結果（市民）

2-5 居住地域での課題・問題

- ▶ 居住地域での課題・問題については、「公共交通機関が少ない」が46.0%と最も高く、次いで、「世代間交流が少ない」(31.0%)、「地域活動の担い手が不足している」(30.2%)となっている。なお、「特にない」が11.9%となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「公共交通機関が少ない」が14.4ポイント高くなっている。

問9 あなたが住んでいる地域（問5の地区）ではどのような課題・問題があると感じていますか。（あてはまるものすべてに○）



※「空き家が増えている」は今回調査で追加された選択肢であり、前回調査では未聴取。

【年代別・圏域別・地区別・家族構成別／居住地域での課題・問題】

- ▶ 年代別にみると、「公共交通機関が少ない」は、年代が上がるにつれて概ね低くなっており、「隣近所での付き合いや交流が少ない」、「地域での情報共有ができていない」、「高齢者や障がい者への支援が少ない」は、年代が上がるにつれて高くなっている。
- ▶ 地区別にみると、『成田地区』では「地域活動の担い手が不足している」（15.9%）が他の地区と比べて低くなっている。『富谷・ひより台・太子堂地区』、『富ヶ丘・鷹乃杜・上桜木地区』、『熊谷・とちの木・あけの平・大清水地区』では「空き家が増えている」が1割台前半と他の地区と比べて高くなっている。

		n	公共交通機関が少ない	世代間交流が少ない	地域活動の担い手が不足している	隣近所での付き合いや交流が少ない	地域活動が活発ではない	地域での情報共有ができていない	高齢者や障がい者への支援が少ない	生活マナーが悪い	空き家が増えている	道路や歩道が整備されていない	その他	特にない	無回答
全 体		620	46.0	31.0	30.2	29.7	14.8	14.5	12.4	10.8	9.7	9.5	5.2	11.9	1.5
年代別	29歳以下	52	63.5	19.2	19.2	15.4	15.4	5.8	7.7	5.8	5.8	11.5	-	7.7	1.9
	30～40代	156	51.9	30.8	30.1	27.6	16.7	14.1	6.4	12.2	5.8	5.8	9.0	10.3	0.6
	50～64歳	192	51.6	27.6	28.1	27.6	11.5	14.6	12.0	12.0	12.0	11.5	5.7	13.0	0.5
	65～74歳	109	32.1	39.4	38.5	34.9	13.8	16.5	16.5	11.9	8.3	10.1	5.5	9.2	3.7
	75歳以上	107	32.7	32.7	31.8	37.4	18.7	17.8	18.7	8.4	13.1	10.3	-	17.8	1.9
地区別	富谷・ひより台・太子堂地区	110	55.5	30.0	30.9	27.3	13.6	15.5	13.6	9.1	14.5	10.9	5.5	10.9	0.9
	富ヶ丘・鷹乃杜・上桜木地区	99	43.4	34.3	30.3	32.3	11.1	15.2	13.1	13.1	14.1	13.1	5.1	12.1	-
	熊谷・とちの木・あけの平・大清水地区	91	38.5	31.9	42.9	31.9	18.7	14.3	14.3	8.8	11.0	9.9	4.4	12.1	2.2
	日吉台・杜乃橋地区	55	52.7	29.1	29.1	38.2	18.2	14.5	14.5	16.4	1.8	5.5	3.6	9.1	-
	成田地区	107	53.3	29.9	15.9	29.0	6.5	10.3	12.1	10.3	5.6	8.4	6.5	14.0	-
	東向陽台・明石台地区	152	38.8	31.6	32.9	27.0	21.1	17.1	9.9	10.5	7.9	7.9	5.3	11.8	1.3

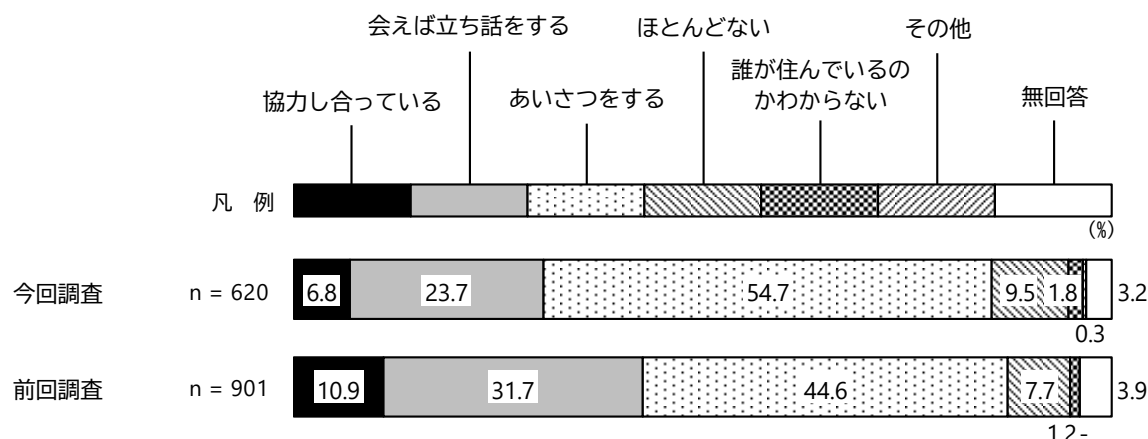
※上位10項目および「その他」、「特にない」、無回答を抜粋して掲載している。

Ⅱ 調査結果（市民）

2-6 隣近所の人との付き合いの程度

- ▶ 隣近所の人との付き合いの程度については、「あいさつをする」が54.7%と最も高く、次いで、「会えば立ち話をする」(23.7%)、「ほとんどない」(9.5%)となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「あいさつをする」が10.1ポイント高くなっている。

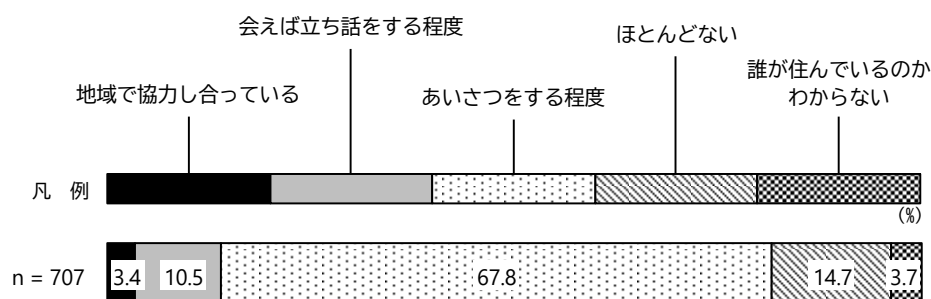
問10 あなたは普段、隣近所の人とどの程度のお付き合いをしていますか。（1つに○）



※「その他」は今回調査で追加された選択肢であり、前回調査では未聴取。

【参考】学生アンケートの結果

- ▶ 隣近所の人との付き合いの程度については、「あいさつをする」が67.8%と最も高く、学生アンケート調査においても市民アンケート調査同様の傾向であった。

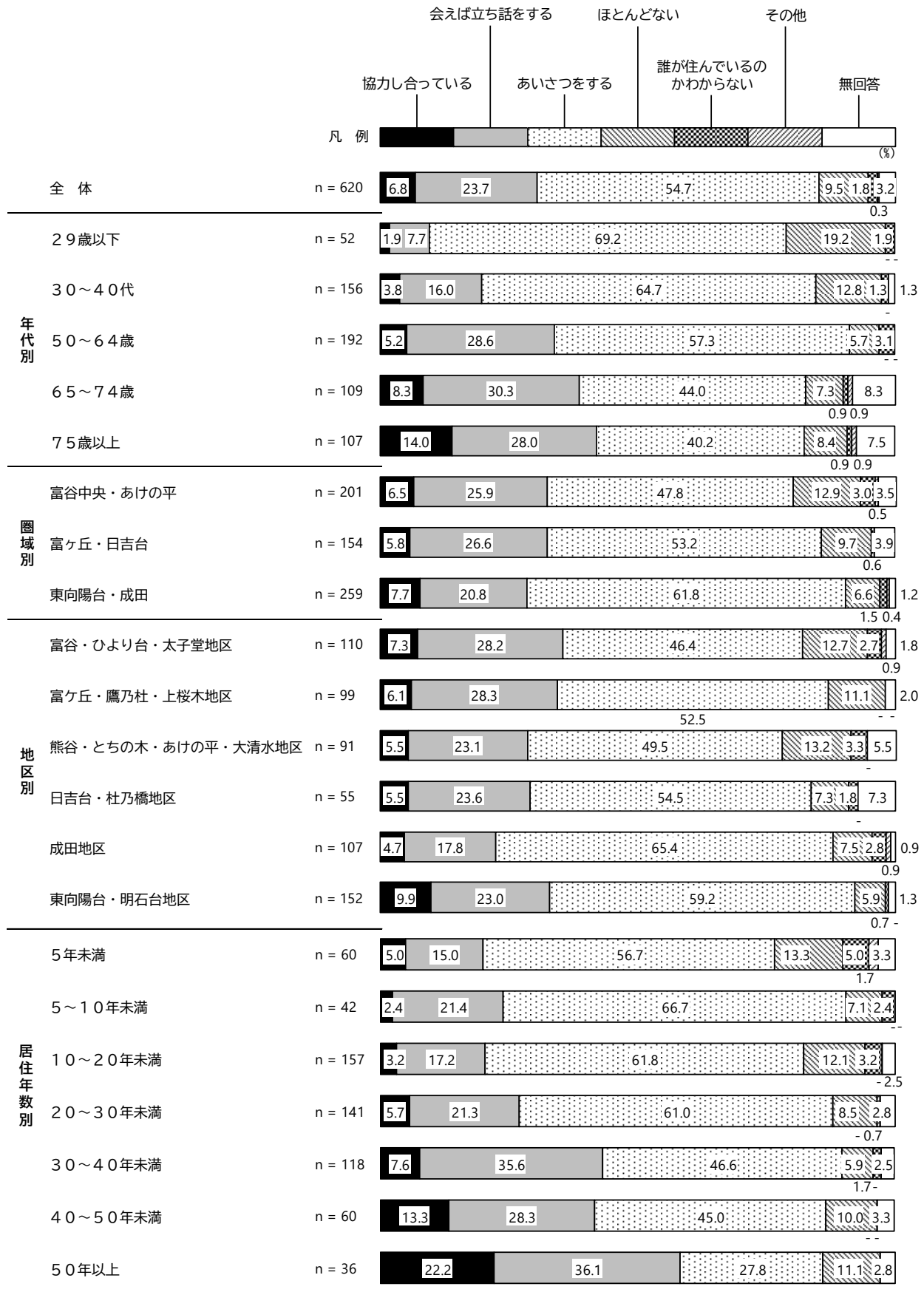


※学生アンケートの結果は「Ⅳ 調査結果（学生）2-3（124ページ）」参照。

【年代別・圏域別・地区別・家族構成別・居住年数別／隣近所の人との付き合いの程度】

- ▶ 年代別にみると、「協力し合っている」は、年代が上がるにつれて高くなっており、「あいさつをする」は、年代が上がるにつれて低くなっている。また、40代以下では「会えば立ち話をする」が2割以下と他の年代と比べて低くなっている。
- ▶ 圏域別にみると、『東向陽台・成田』では「あいさつをする」(61.8%)が他の圏域と比べてやや高くなっている。
- ▶ 居住年数別にみると、「協力し合っている」は年数が上がるにつれて概ね高くなっている。また、30年以上では「あいさつをする」が4割台半ば以下と他の年代と比べて低くなっており、『50年以上』では27.8%と特に低くなっている。30年以上では「会えば立ち話をする」が約2割～3割台半ばと他の年代と比べてやや高くなっている。

Ⅱ 調査結果（市民）

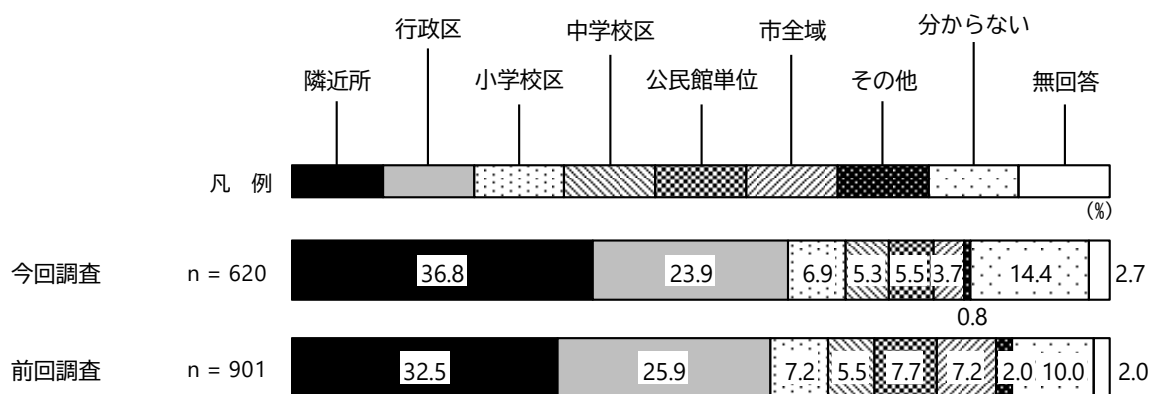


Ⅱ 調査結果（市民）

2-7 身近に感じる「地域」の範囲

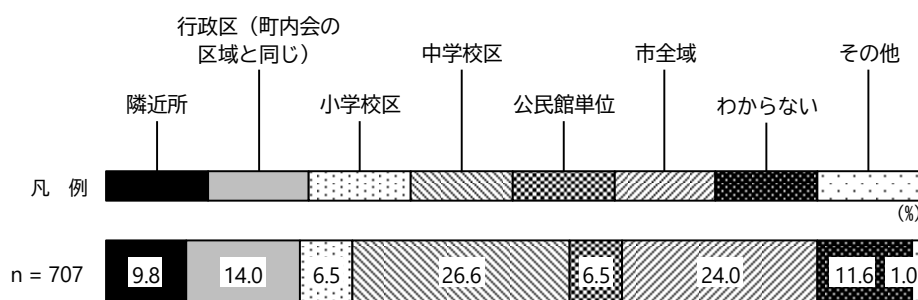
- ▶ 身近に感じる「地域」の範囲については、「隣近所」が36.8%と最も高く、次いで、「行政区」（23.9%）、「小学校区」（6.9%）となっている。なお、「分からない」が14.4%となっている。

問 11 あなたにとって身近に感じられる「地域」の範囲を教えてください。（1つに○）



【参考】学生アンケートの結果

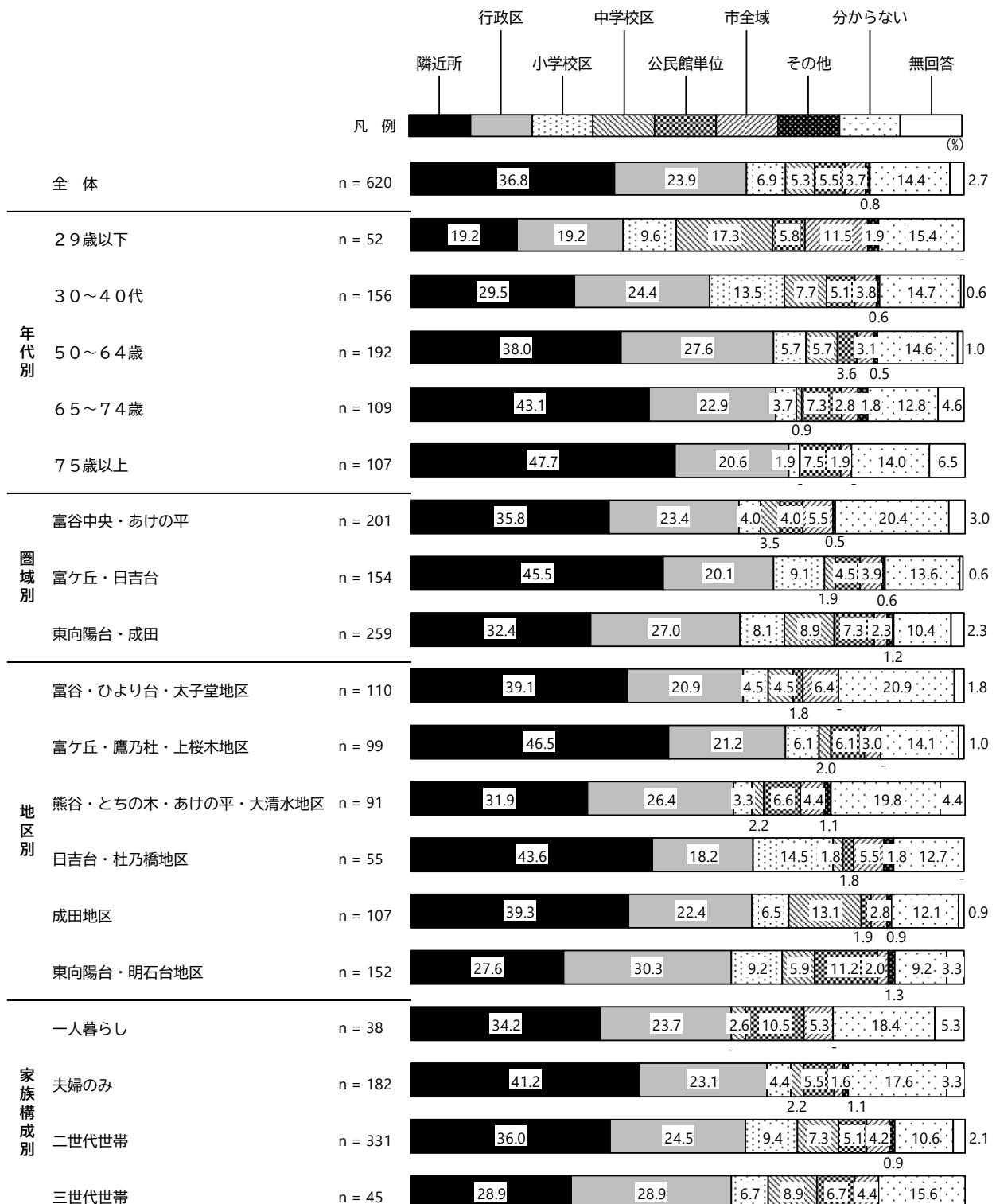
- ▶ 身近に感じる「地域」の範囲については、「中学校区」が26.6%と最も高く、次いで「市全域」（24.0%）、「行政区」（14.0%）となっている。



※学生アンケートの結果は「Ⅳ 調査結果（学生）2-2（124ページ）」参照。

【年代別・圏域別・地区別・家族構成別／身近に感じる「地域」の範囲】

- ▶ 年代別にみると「隣近所」は年代が上がるにつれて高くなっている。『29歳以下』では「中学校区」（17.3%）、「市全域」（11.5%）が他の年代と比べてやや高くなっている。
- ▶ 圏域別にみると、『富ヶ丘・日吉台』では「隣近所」（45.5%）が他の圏域と比べてやや高くなっている。
- ▶ 地区別にみると、『熊谷・とちの木・あけの平・大清水地区』、『東向陽台・明石台地区』では「隣近所」が3割前後と他の地区と比べてやや低くなっている。『成田地区』では「中学校区」（13.1%）が他の地区と比べてやや高くなっている。

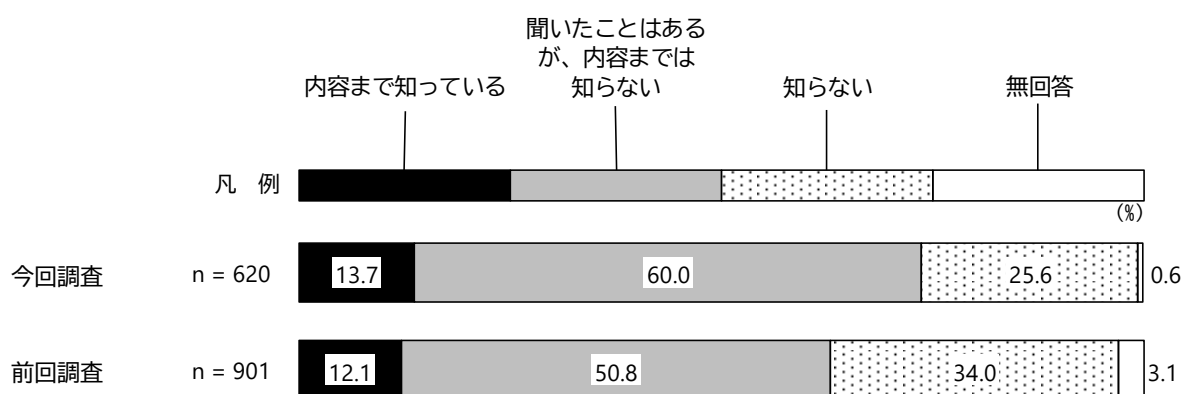


3 地域福祉について

3-1 地域福祉の認知度【地域福祉計画成果目標】

- ▶ 地域福祉の認知度については、「聞いたことはあるが、内容までは知らない」が60.0%と最も高く、次いで、「知らない」（25.6%）、「内容まで知っている」（13.7%）となっている。

問 12 あなたは、「地域福祉」という言葉を知っていますか。（1つに○）

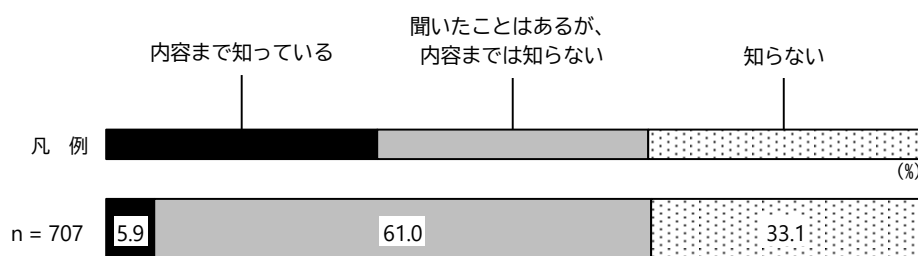


【富谷市地域福祉計画成果目標】

『地域福祉』について、「内容まで知っている」、もしくは「聞いたことはあるが、内容までは知らない」と回答した割合について、令和元年度は62.9%であった。令和7年度の目標値は68.0%としている。

【参考】学生アンケートの結果

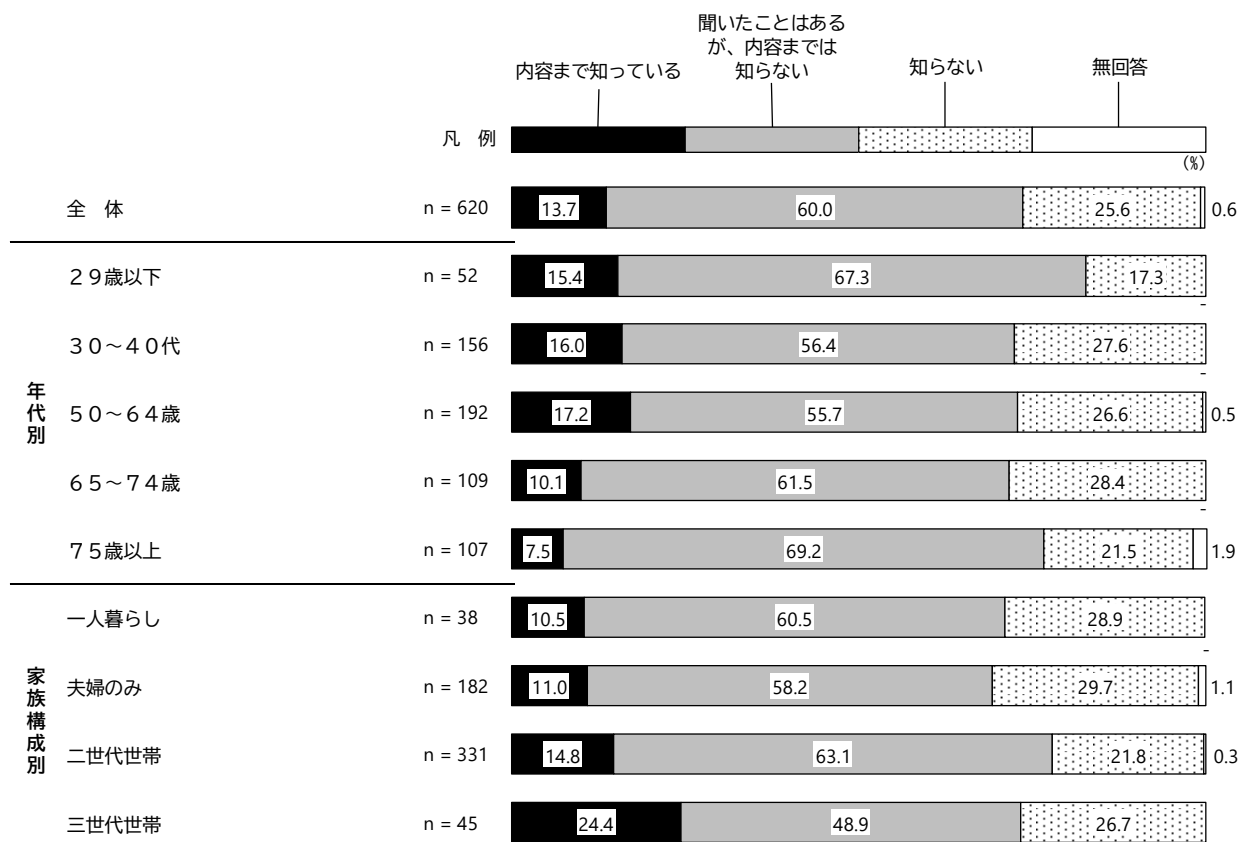
- ▶ 地域福祉の認知度については、「聞いたことがあるが、内容までは知らない」が61.0%と最も高くなっている。また、「内容まで知っている」が5.9%と市民アンケート調査より低い結果となった。



※学生アンケートの結果は「Ⅳ 調査結果（学生）2-1（123ページ）」参照。

【年代別・圏域別・地区別・家族構成別／地域福祉の認知度】

- ▶ 家族構成別にみると、「内容まで知っている」は、世帯構成が多世代になるにつれて高くなっている。

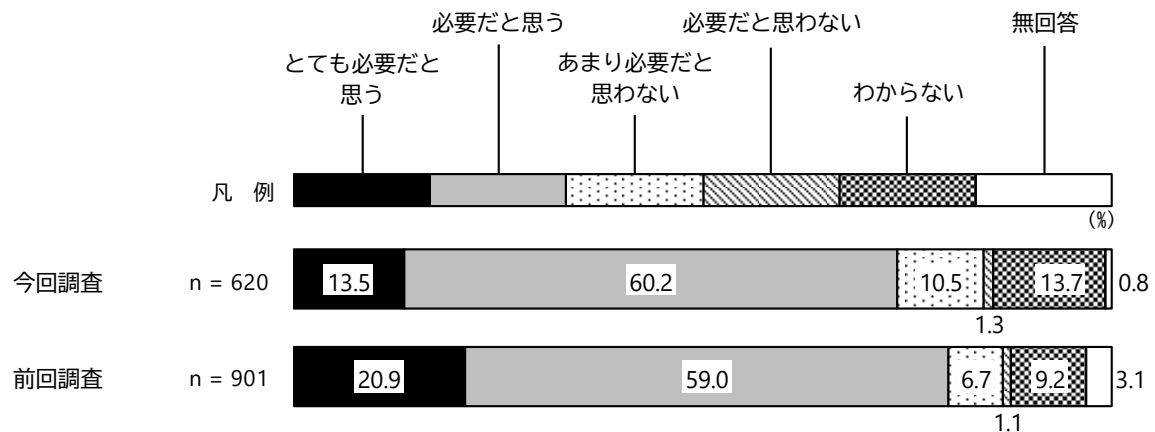


Ⅱ 調査結果（市民）

3-2 市民による自主的な助け合いや支え合いの関係が必要だと思うか

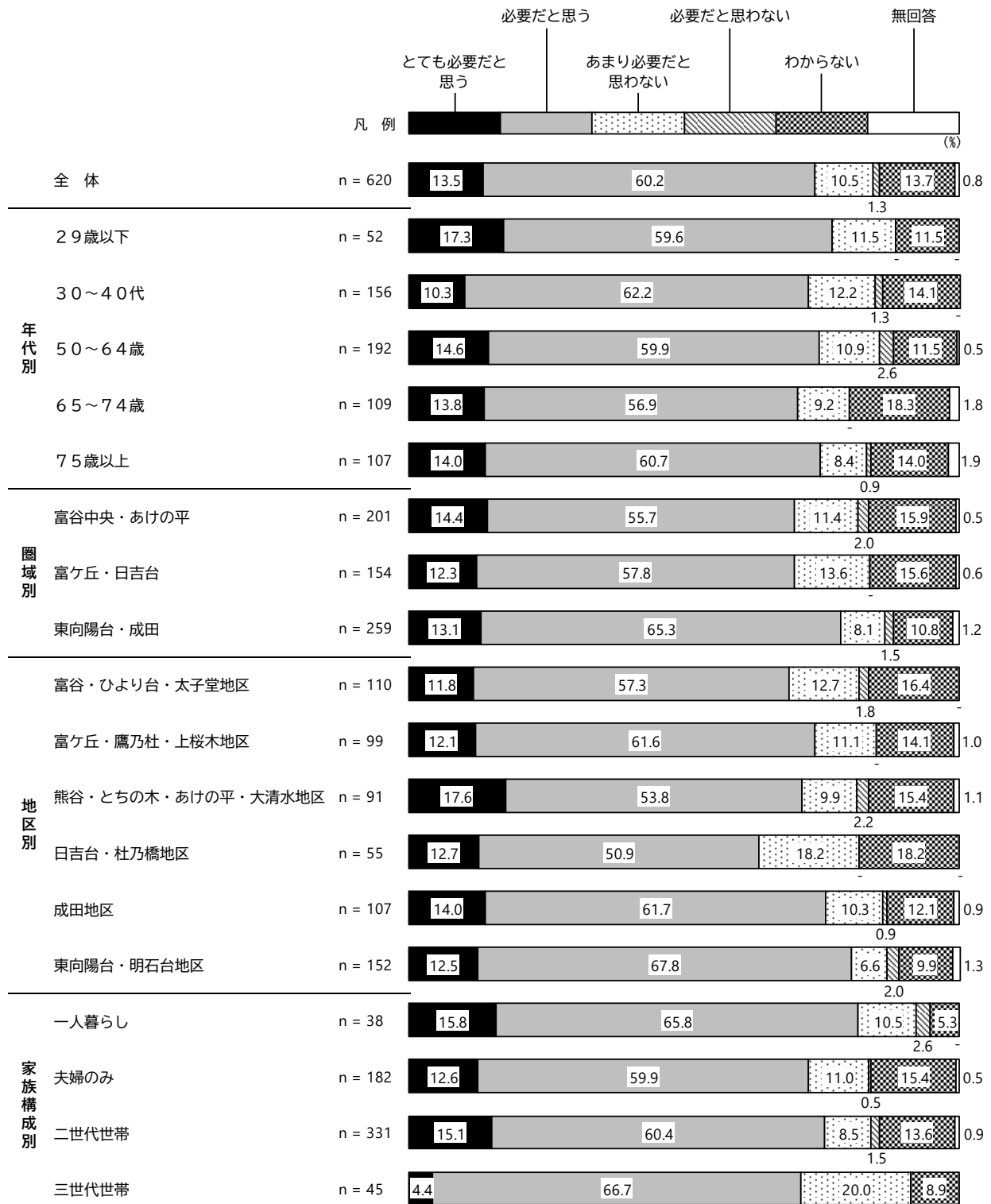
- ▶ 市民による自主的な助け合いや支え合いの関係が必要だと思うかについては、「必要だと思う」が60.2%と最も高く、次いで、「とても必要だと思う」(13.5%)、「あまり必要だと思わない」(10.5%)となっている。なお、「分からない」が13.7%となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「とても必要だと思う」がやや低くなっている。

問13 あなたは、市民による自主的な助け合いや支え合いの関係が必要だと思いますか。(1つに○)



【年代別・圏域別・地区別・家族構成別／市民による自主的な助け合いや支え合いの関係が必要だと思うか】

- ▶ 圏域別にみると、『東向陽台・成田』では「必要だと思う」（65.3%）が他の圏域と比べてやや高くなっている。
- ▶ 家族構成別にみると、『三世代世帯』では「とても必要だと思う」（4.4%）が他の家族構成と比べてやや低くなっており、「あまり必要だと思わない」（20.0%）が他の家族構成と比べてやや高くなっている。

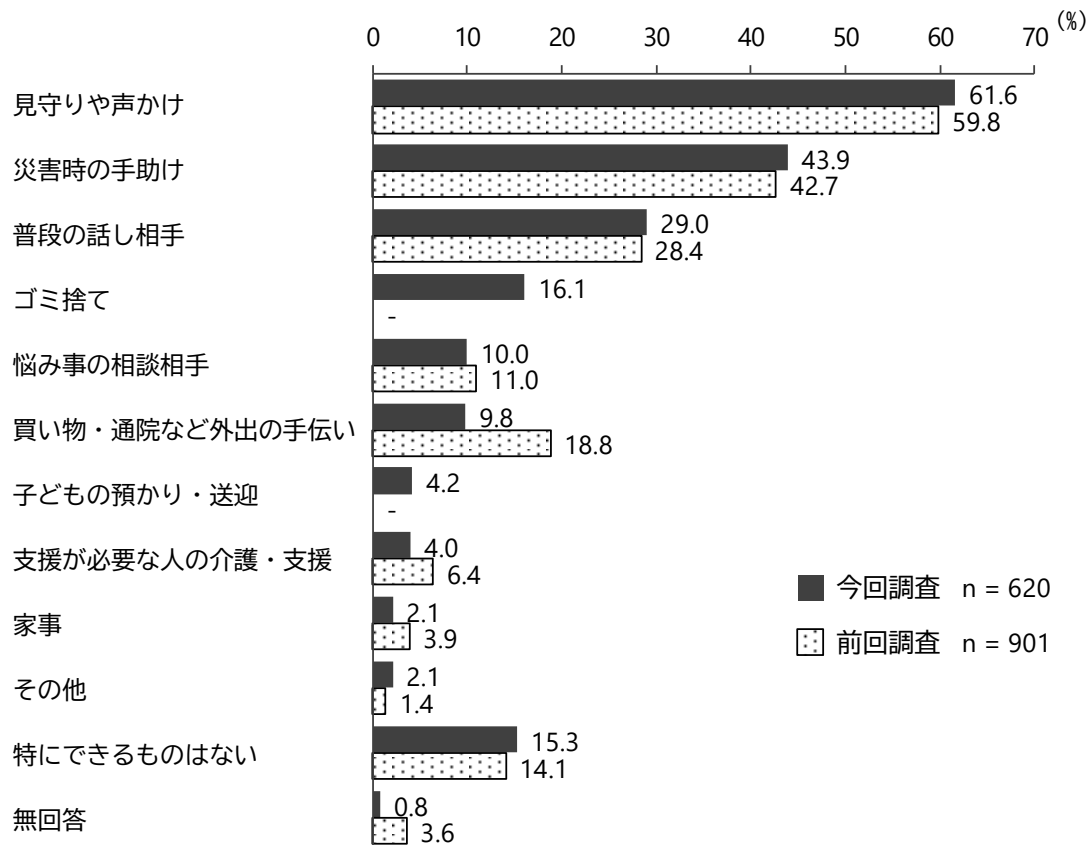


Ⅱ 調査結果（市民）

3-3 日常生活で困っている家庭があった場合にできる手助け

- ▶ 日常生活で困っている家庭があった場合にできる手助けについては、「見守りや声かけ」が61.6%と最も高く、次いで、「災害時の手助け」(43.9%)、「普段の話し相手」(29.0%)となっている。なお、「特にできるものはない」が15.3%となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「買い物・通院など外出の手伝い」がやや低くなっている。

問 14 隣近所に、日常生活で困っている家庭があった場合、あなたはどのような手助けができますか。（あてはまるものすべてに○）



※「ゴミ捨て」は今回調査で追加された選択肢であり、前回調査では未聴取。

Ⅱ 調査結果（市民）

【年代別・圏域別・地区別・家族構成別／日常生活で困っている家庭があった場合にできる手助け】

- ▶ 年代別にみると、『75歳以上』では「見守りや声かけ」（44.9％）が他の年代と比べて低く、「普段の話し相手」（43.9％）が他の年代と比べて高くなっている。『29歳以下』では、「悩み事の相談相手」（28.8％）が他の年代と比べて高くなっている。
- ▶ 家族構成別にみると、『二世代世帯』では「災害時の手助け」（48.3％）が他の家族構成と比べてやや高くなっている。

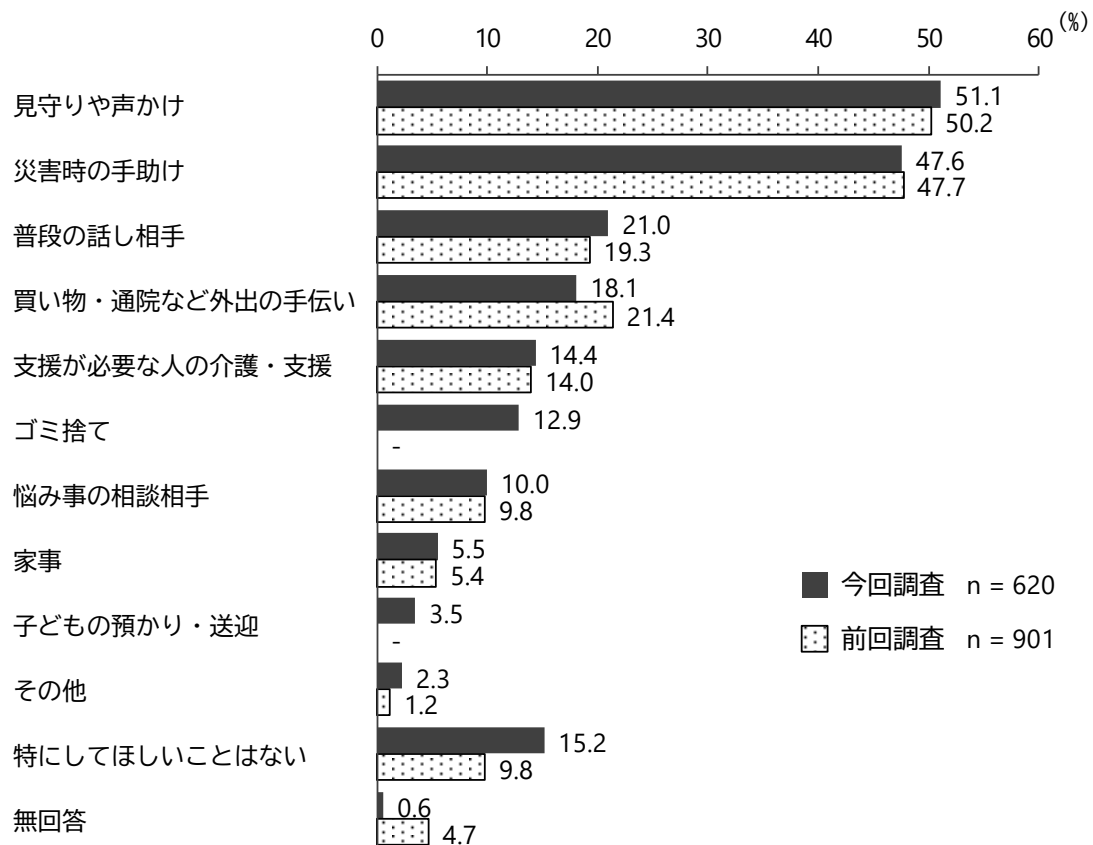
		n	見守りや声かけ	災害時の手助け	普段の話し相手	ゴミ捨て	悩み事の相談相手	伝い物・通院など外出の手	子どもの預かり・送迎	支援が必要な人の介護・支	家事	その他	特にできるものはない	無回答
全 体		620	61.6	43.9	29.0	16.1	10.0	9.8	4.2	4.0	2.1	2.1	15.3	0.8
年代別	29歳以下	52	59.6	38.5	28.8	7.7	28.8	11.5	7.7	1.9	1.9	-	21.2	-
	30～40代	156	64.1	43.6	26.3	12.8	9.0	9.0	6.4	5.1	3.2	2.6	10.9	0.6
	50～64歳	192	66.7	53.1	28.6	18.8	8.3	11.5	4.7	3.6	1.0	3.1	13.5	-
	65～74歳	109	67.9	43.1	20.2	20.2	6.4	11.9	2.8	5.5	1.8	0.9	17.4	0.9
	75歳以上	107	44.9	30.8	43.9	15.9	9.3	4.7	-	2.8	2.8	1.9	18.7	2.8
圏域別	富谷中央・あけの平	201	56.7	42.3	31.3	16.4	10.9	10.9	4.5	4.0	3.5	2.0	17.4	1.0
	富ヶ丘・日吉台	154	62.3	44.8	27.3	16.9	8.4	11.0	3.2	3.9	2.6	1.3	14.3	1.3
	東向陽台・成田	259	64.5	44.4	28.6	15.1	10.0	8.5	4.6	3.5	0.8	2.7	14.3	0.4
地区別	富谷・ひより台・太子堂地区	110	52.7	36.4	33.6	20.9	10.0	11.8	4.5	3.6	4.5	0.9	19.1	0.9
	富ヶ丘・鷹乃杜・上桜木地区	99	59.6	40.4	29.3	16.2	8.1	10.1	2.0	4.0	2.0	1.0	14.1	2.0
	熊谷・とちの木・あけの平・大清水地区	91	61.5	49.5	28.6	11.0	12.1	9.9	4.4	4.4	2.2	3.3	15.4	1.1
	日吉台・杜乃橋地区	55	67.3	52.7	23.6	18.2	9.1	12.7	5.5	3.6	3.6	1.8	14.5	-
	成田地区	107	64.5	44.9	26.2	15.9	7.5	12.1	2.8	6.5	0.9	4.7	14.0	0.9
	東向陽台・明石台地区	152	64.5	44.1	30.3	14.5	11.8	5.9	5.9	1.3	0.7	1.3	14.5	-
家族構成別	一人暮らし	38	60.5	39.5	34.2	15.8	7.9	2.6	2.6	10.5	2.6	2.6	15.8	-
	夫婦のみ	182	62.6	41.2	29.7	18.7	6.6	12.1	4.9	2.2	1.1	1.6	16.5	1.1
	二世代世帯	331	63.1	48.3	28.7	15.1	11.8	8.2	4.2	3.9	2.4	2.7	12.4	0.6
	三世代世帯	45	66.7	33.3	28.9	15.6	15.6	17.8	4.4	8.9	4.4	-	17.8	2.2

Ⅱ 調査結果（市民）

3-4 日常生活が不自由になった場合にしてほしい手助け

- ▶ 日常生活が不自由になった場合にしてほしい手助けについては、「見守りや声かけ」が51.1%と最も高く、次いで、「災害時の手助け」（47.6%）、「普段の話し相手」（21.0%）、となっている。なお、「特にしてほしいことはない」が15.2%となっている。

問 15 あなたやご家族の中で日常生活が不自由になったとき、地域の人にどのような手助けをしてほしいですか。（あてはまるものすべてに○）

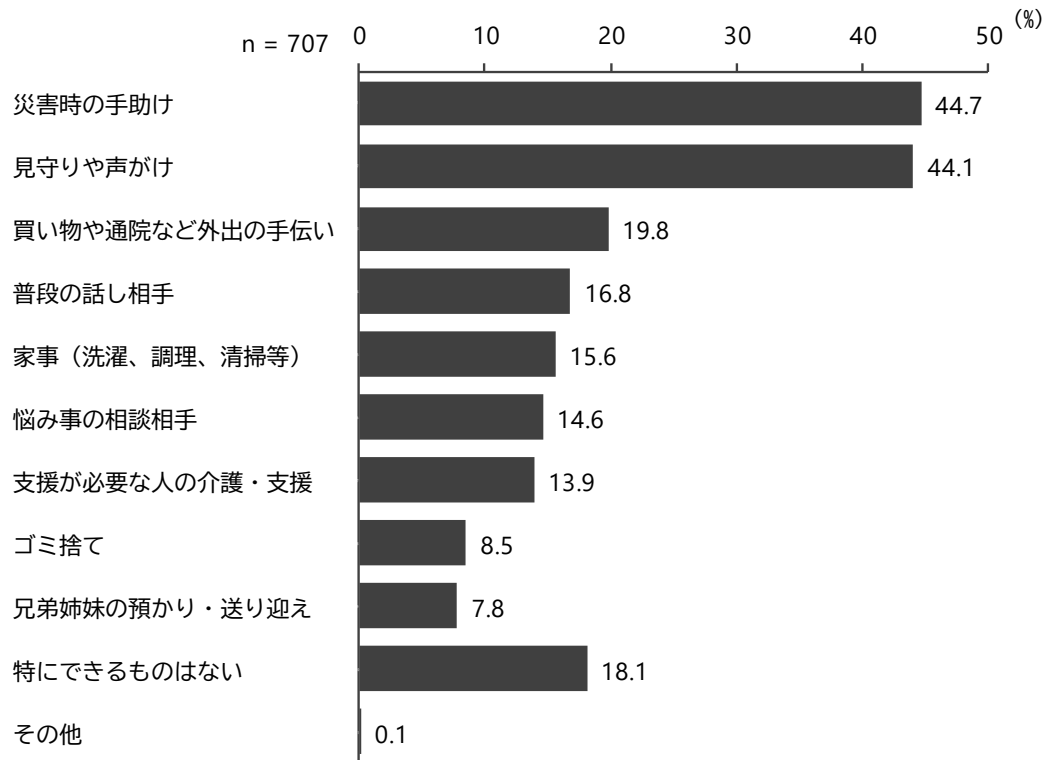


※「ゴミ捨て」は今回調査で追加された選択肢であり、前回調査では未聴取。

※前回調査の選択肢「子どもの預かり」（5.8%）、「子どもの送り迎え」（5.4%）は今回調査では未聴取。

【参考】学生アンケートの結果

- ▶ 日常生活が不自由になった場合にしてほしい手助けについては、「災害時の手助け」が44.7%、「見守りや声がけ」が44.1%であった。



※学生アンケートの結果は「Ⅳ 調査結果（学生）2－5（126ページ）」参照。

Ⅱ 調査結果（市民）

【年代別・圏域別・地区別・家族構成別／日常生活が不自由になった場合にしてほしい手助け】

- ▶ 年代別にみると、「ゴミ捨て」は、年代が上がるにつれて高くなっている。
- ▶ 圏域別にみると、『東向陽台・成田』では「災害時の手助け」（54.4％）が他の圏域と比べて高くなっている。
- ▶ 地区別にみると、『熊谷・とちの木・あけの平・大清水地区』では「特にしてほしいことはない」（26.4％）が他の地区と比べて高くなっている。また、『富谷・ひより台・太子堂地区』では「買い物・通院など外出の手伝い」（28.2％）が他の地区と比べてやや高くなっている。
- ▶ 家族構成別にみると、「家事」は、世帯構成が多世代になるにつれて低くなっている。また、『二世世代世帯』では「買い物・通院など外出の手伝い」（13.0％）が他の家族構成と比べてやや低くなっている。

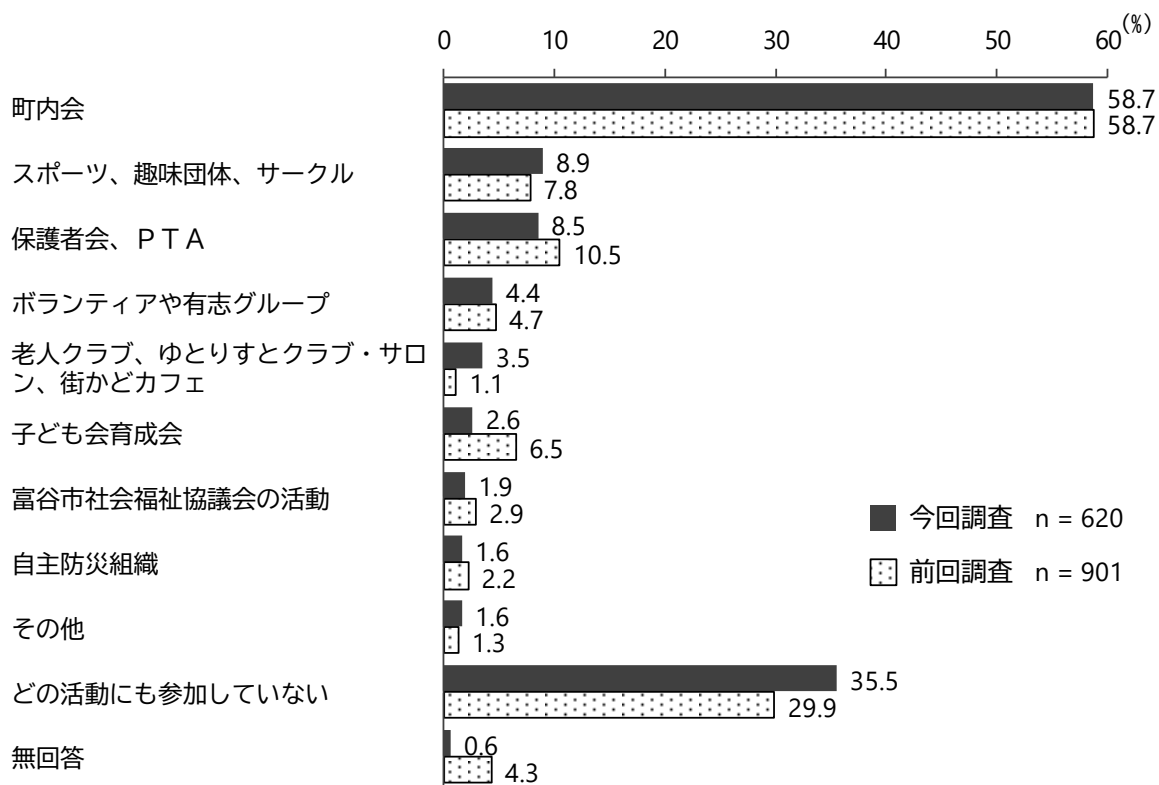
															(%)
		n	見守りや声かけ	災害時の手助け	普段の話し相手	買い物・通院など外出の手	支援が必要な人の介護・支	ゴミ捨て	悩みの相談相手	家事	子どもの預かり・送迎	その他	特にしてほしいことはない	無回答	
全 体		620	51.1	47.6	21.0	18.1	14.4	12.9	10.0	5.5	3.5	2.3	15.2	0.6	
年 代 別	29歳以下	52	57.7	42.3	26.9	15.4	21.2	5.8	17.3	5.8	1.9	-	17.3	-	
	30～40代	156	49.4	48.1	22.4	14.7	12.8	8.3	10.3	5.8	10.3	0.6	17.3	-	
	50～64歳	192	56.3	55.7	19.8	20.3	9.9	10.9	10.9	4.7	2.6	3.1	13.0	0.5	
	65～74歳	109	45.0	34.9	15.6	20.2	15.6	18.3	3.7	5.5	-	1.8	18.3	1.8	
	75歳以上	107	47.7	46.7	23.4	18.7	20.6	20.6	11.2	6.5	-	3.7	12.1	0.9	
圏 域 別	富谷中央・あけの平	201	48.3	40.3	20.9	22.9	13.9	13.9	8.5	6.5	2.5	4.5	18.9	-	
	富ヶ丘・日吉台	154	51.3	44.2	22.7	17.5	13.0	13.0	7.1	6.5	4.5	0.6	14.3	0.6	
	東向陽台・成田	259	52.5	54.4	19.7	14.3	14.7	10.8	12.4	4.2	3.9	1.5	13.1	1.2	
地 区 別	富谷・ひより台・太子堂地区	110	48.2	41.8	23.6	28.2	15.5	17.3	8.2	10.0	3.6	2.7	12.7	-	
	富ヶ丘・鷹乃杜・上桜木地区	99	47.5	47.5	25.3	16.2	15.2	15.2	9.1	6.1	4.0	1.0	13.1	1.0	
	熊谷・とちの木・あけの平・大清水地区	91	48.4	38.5	17.6	16.5	12.1	9.9	8.8	2.2	1.1	6.6	26.4	-	
	日吉台・杜乃橋地区	55	58.2	38.2	18.2	20.0	9.1	9.1	3.6	7.3	5.5	-	16.4	-	
	成田地区	107	51.4	55.1	12.1	19.6	15.9	13.1	11.2	3.7	1.9	1.9	15.9	1.9	
	東向陽台・明石台地区	152	53.3	53.9	25.0	10.5	13.8	9.2	13.2	4.6	5.3	1.3	11.2	0.7	
家 族 構 成 別	一人暮らし	38	42.1	42.1	15.8	28.9	13.2	23.7	10.5	10.5	-	7.9	18.4	-	
	夫婦のみ	182	52.2	46.2	20.9	24.2	13.2	19.2	7.1	6.6	-	2.2	18.1	1.1	
	二世世代世帯	331	51.4	49.5	22.4	13.0	15.1	8.2	11.5	4.5	5.4	1.5	13.0	0.6	
	三世世代世帯	45	60.0	37.8	17.8	22.2	15.6	13.3	11.1	2.2	6.7	2.2	15.6		

4 地域活動について

4-1 参加しているボランティア活動【地域福祉計画成果目標】

- ▶ 参加しているボランティア活動については、「町内会」が58.7%と最も高く、次いで、「スポーツ、趣味団体、サークル」(8.9%)、「保護者会、PTA」(8.5%)となっている。なお、「どの活動にも参加していない」が35.5%となっている。

問 16 あなたは、どのような内容の地域活動やボランティア活動に参加していますか。（あてはまるものすべてに○）



※前回調査の選択肢「婦人防火クラブ」(3.4%)は今回調査では未聴取。

【富谷市地域福祉計画成果目標】

地域活動やボランティア活動について、「どの活動にも参加していない」と回答した割合の減少としており、令和元年度は29.9%、令和7年度の目標値は24.0%としている。

Ⅱ 調査結果（市民）

【年代別・圏域別・地区別・家族構成別／参加しているボランティア活動】

- ▶ 年代別にみると、『29歳以下』では「町内会」（21.2％）が他の年代と比べて低くなっており、「どの活動にも参加していない」（71.2％）が他の年代と比べて高くなっている。『30～40代』では「保護者会、PTA」（24.4％）が他の年代と比べて高くなっており、『75歳以上』では「老人クラブ、ゆとりすとクラブ・サロン、街かどカフェ」（15.0％）が他の年代と比べて高くなっている。
- ▶ 圏域別にみると、『富谷中央・あけの平』では「町内会」（51.7％）が他の圏域と比べてやや低くなっている。
- ▶ 家族構成別にみると、『夫婦のみ』では「町内会」（68.7％）が他の家族構成と比べて高くなっており、『二世帯世帯』、『三世帯世帯』では「保護者会、PTA」が1割台前半と他の家族構成と比べて高くなっている。

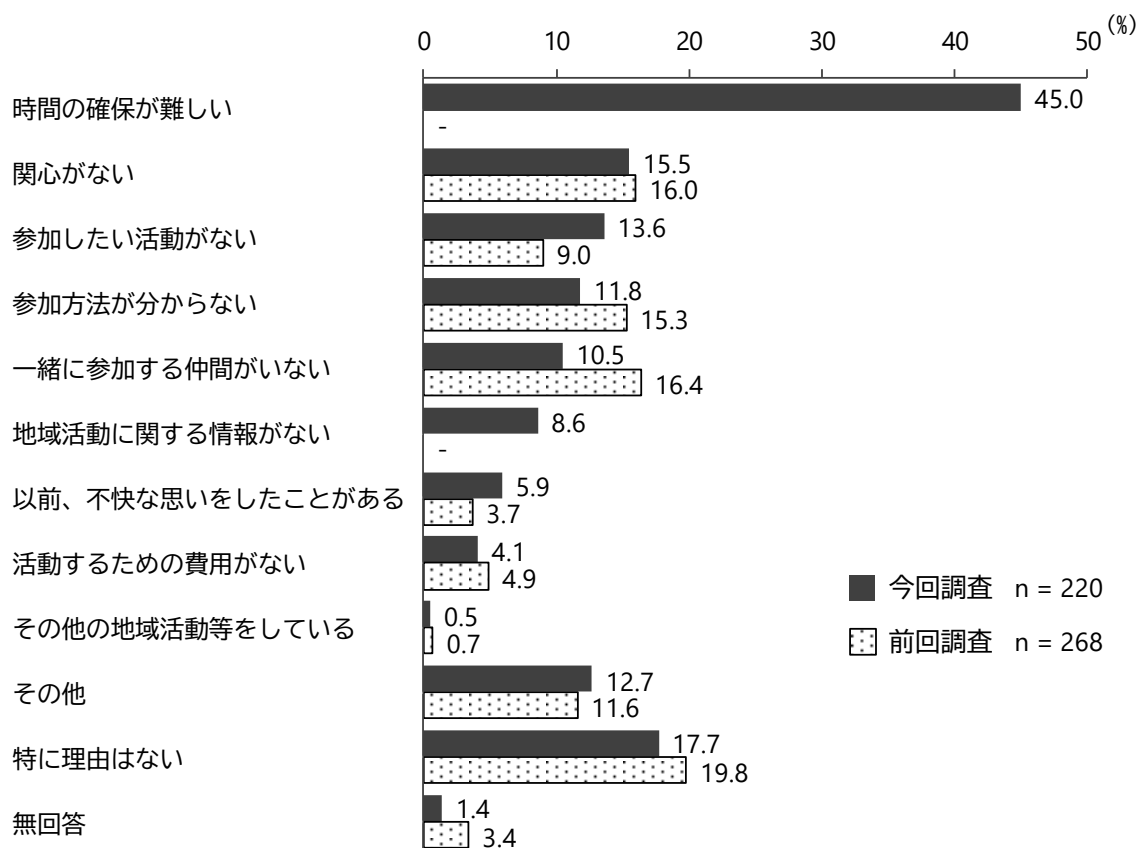
		n	町内会	クスポート、趣味団体、サー	保護者会、PTA	ボランティアや有志グループ	老人クラブ、ゆとりすとクラブ・サロン、街かどカフェ	子ども会育成会	富谷市社会福祉協議会の活動	自主防災組織	その他	どの活動にも参加していない	無回答
全 体		620	58.7	8.9	8.5	4.4	3.5	2.6	1.9	1.6	1.6	35.5	0.6
年代別	29歳以下	52	21.2	7.7	-	3.8	-	-	1.9	-	-	71.2	-
	30～40代	156	55.1	4.5	24.4	0.6	0.6	6.4	0.6	0.6	0.6	41.0	-
	50～64歳	192	67.7	7.8	7.8	3.6	0.5	2.1	0.5	1.6	2.6	27.6	-
	65～74歳	109	67.0	11.9	-	8.3	3.7	0.9	2.8	1.8	0.9	26.6	0.9
	75歳以上	107	58.9	13.1	-	7.5	15.0	0.9	5.6	3.7	1.9	32.7	2.8
圏域別	富谷中央・あけの平	201	51.7	7.5	6.0	5.5	6.0	2.5	2.5	1.0	2.0	40.3	0.5
	富ヶ丘・日吉台	154	59.7	11.0	5.8	2.6	2.6	1.9	1.3	1.9	1.3	36.4	0.6
	東向陽台・成田	259	63.3	8.9	12.4	4.6	2.3	3.1	1.9	1.9	1.5	31.3	0.8
地区別	富谷・ひより台・太子堂地区	110	51.8	7.3	5.5	3.6	7.3	1.8	1.8	1.8	1.8	37.3	0.9
	富ヶ丘・鷹乃杜・上桜木地区	99	59.6	11.1	7.1	2.0	3.0	3.0	1.0	2.0	-	38.4	1.0
	熊谷・とちの木・あけの平・大清水地区	91	51.6	7.7	6.6	7.7	4.4	3.3	3.3	-	2.2	44.0	-
	日吉台・杜乃橋地区	55	60.0	10.9	3.6	3.6	1.8	-	1.8	1.8	3.6	32.7	-
	成田地区	107	60.7	8.4	13.1	4.7	1.9	1.9	0.9	2.8	1.9	33.6	0.9
	東向陽台・明石台地区	152	65.1	9.2	11.8	4.6	2.6	3.9	2.6	1.3	1.3	29.6	0.7
家族構成別	一人暮らし	38	50.0	7.9	-	2.6	10.5	-	2.6	-	2.6	42.1	-
	夫婦のみ	182	68.7	8.2	0.5	6.6	3.3	1.1	1.6	2.2	2.7	29.1	0.5
	二世帯世帯	331	58.0	9.1	13.9	3.3	2.4	3.3	1.5	1.8	0.9	35.0	0.9
	三世帯世帯	45	51.1	11.1	13.3	6.7	6.7	6.7	6.7	-	-	40.0	-

4-2 ボランティアに参加していない理由

- ▶ ボランティアに参加していない理由については、「時間の確保が難しい」が45.0%と最も高く、次いで、「関心がない」（15.5%）、「参加したい活動がない」（13.6%）となっている。なお、「その他」は12.7%となっており、具体的な内容としては「身体が思うように動かない」や「自分自身の生活で精一杯」などが多くなっている。また、「特に理由はない」が17.7%となっている。

【問16で、「どの活動にも参加していない」を選択した方にお聞きします】

問17 参加していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）



※「時間の確保が難しい」、「地域活動に関する情報がない」は今回調査で追加された選択肢であり、前回調査では未聴取。

※前回調査の選択肢「仕事が忙しい」（42.9%）、「家事や育児が忙しい」（12.7%）、「家族の介護が忙しい」（5.6%）は今回調査では未聴取。

Ⅱ 調査結果（市民）

【年代別・圏域別・地区別・家族構成別／ボランティアに参加していない理由】

- ▶ 年代別にみると、「関心がない」は、年代が上がるにつれて低くなっている。また、『75歳以上』では「時間の確保が難しい」（8.6％）が他の年代と比べて低くなっており、「その他」、「特に理由はない」（いずれも 31.4％）が他の年代と比べて高くなっている。
- ▶ 圏域別にみると、『東向陽台・成田』では「地域活動に関する情報がない」（13.6％）が他の圏域と比べてやや高くなっている。
- ▶ 地区別にみると、『富谷・ひより台・太子堂地区』、『成田地区』では「時間の確保が難しい」が3割台後半と他の地区と比べてやや低くなっている。
- ▶ 家族構成別にみると、一部の家族構成では調査数（n）が少ないことに留意が必要だが、『夫婦のみ』では「時間の確保が難しい」（37.7％）、「参加方法が分からない」（3.8％）が他の家族構成と比べて低くなっている。

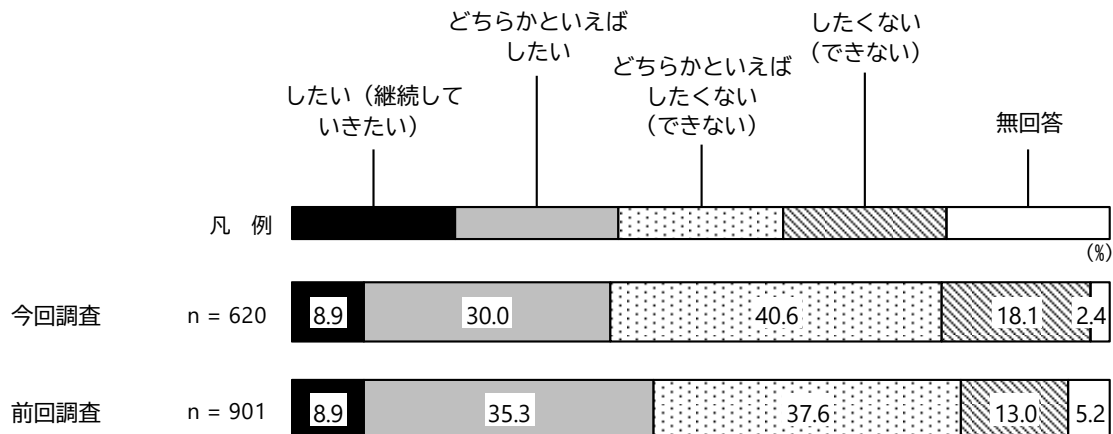
															(%)
		n	時間の確保が難しい	関心がない	参加したい活動がない	参加方法が分からない	一緒に参加する仲間がいない	地域活動に関する情報がない	と以前、不快な思いをしたことがある	活動するための費用がない	その他の地域活動等をしていない	その他	特に理由はない	無回答	
全 体		220	45.0	15.5	13.6	11.8	10.5	8.6	5.9	4.1	0.5	12.7	17.7	1.4	
年代別	29歳以下	37	43.2	21.6	13.5	13.5	13.5	8.1	2.7	2.7	-	5.4	16.2	-	
	30～40代	64	56.3	18.8	20.3	17.2	10.9	12.5	1.6	4.7	1.6	4.7	12.5	-	
	50～64歳	53	58.5	17.0	7.5	9.4	5.7	7.5	11.3	1.9	-	11.3	18.9	-	
	65～74歳	29	41.4	13.8	13.8	6.9	17.2	10.3	6.9	6.9	-	20.7	10.3	3.4	
	75歳以上	35	8.6	2.9	11.4	8.6	5.7	2.9	8.6	5.7	-	31.4	31.4	5.7	
圏域別	富谷中央・あけの平	81	42.0	17.3	12.3	12.3	11.1	6.2	7.4	3.7	-	11.1	17.3	2.5	
	富ヶ丘・日吉台	56	50.0	14.3	8.9	16.1	16.1	5.4	7.1	5.4	-	12.5	16.1	1.8	
	東向陽台・成田	81	44.4	13.6	17.3	8.6	6.2	13.6	3.7	2.5	1.2	14.8	19.8	-	
地区別	富谷・ひより台・太子堂地区	41	36.6	17.1	7.3	14.6	7.3	4.9	4.9	2.4	-	14.6	17.1	2.4	
	富ヶ丘・鷹乃杜・上桜木地区	38	47.4	18.4	7.9	18.4	13.2	7.9	7.9	5.3	-	10.5	15.8	2.6	
	熊谷・とちの木・あけの平・大清水地区	40	47.5	17.5	17.5	10.0	15.0	7.5	10.0	5.0	-	7.5	17.5	2.5	
	日吉台・杜乃橋地区	18	55.6	5.6	11.1	11.1	22.2	-	5.6	5.6	-	16.7	16.7	-	
	成田地区	36	38.9	11.1	16.7	8.3	-	13.9	5.6	5.6	2.8	13.9	22.2	-	
	東向陽台・明石台地区	45	48.9	15.6	17.8	8.9	11.1	13.3	2.2	-	-	15.6	17.8	-	
家族構成別	一人暮らし	16	50.0	25.0	-	18.8	18.8	12.5	6.3	6.3	-	12.5	18.8	-	
	夫婦のみ	53	37.7	15.1	13.2	3.8	9.4	5.7	13.2	1.9	-	18.9	13.2	3.8	
	二世世代世帯	116	48.3	16.4	16.4	14.7	12.1	9.5	3.4	6.0	0.9	10.3	18.1	0.9	
	三世世代世帯	18	50.0	5.6	11.1	16.7	-	16.7	5.6	-	-	5.6	22.2	-	

4-3 今後ボランティア活動をしたいと思うか

- ▶ 今後ボランティア活動をしたいと思うかについては、「どちらかといえばしたくない（できない）」が40.6%と最も高く、次いで、「どちらかといえばしたい」（30.0%）、「したくない（できない）」（18.1%）となっている。

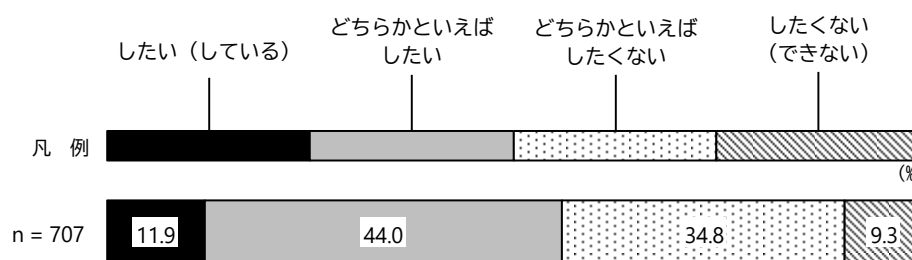
【すべての方にお聞きします】

問 18 あなたは、今後ボランティア活動をしたいと思いますか。（1つに○）



【参考】学生アンケートの結果

- ▶ 学生アンケートでは「どちらかといえばしたい」が44.0%で最も高く、「したい（している）」は11.9%であった。

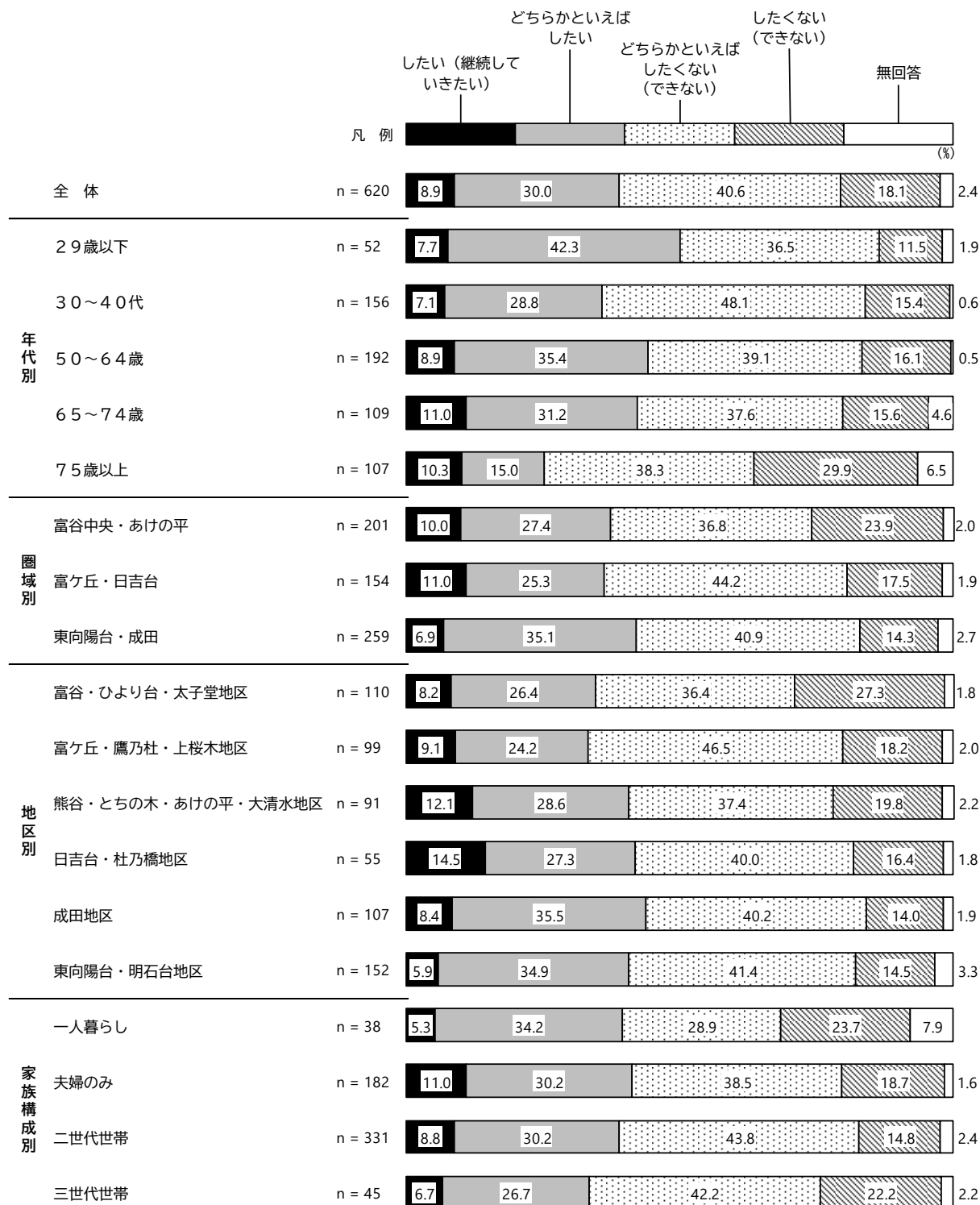


※学生アンケートの結果は「Ⅳ 調査結果（学生）2-8（128ページ）」参照。

II 調査結果（市民）

【年代別・圏域別・地区別・家族構成別／今後ボランティア活動をしたいと思うか】

- ▶ 年代別にみると『75歳以上』では「どちらかといえばしたい」（15.0%）が他の年代と比べ低く、「したくない（できない）」（29.9%）が他の年代と比べて高くなっている。
- ▶ 圏域別にみると、『東向陽台・成田』では「どちらかといえばしたい」（35.1%）が他の圏域と比べてやや高くなっている。
- ▶ 地区別にみると、『富谷・ひより台・太子堂地区』では「したくない（できない）」（27.3%）が他の地区と比べてやや高くなっている。
- ▶ 家族構成別にみると、「どちらかといえばしたい」は、世帯構成が多世代になるにつれて低くなっている。

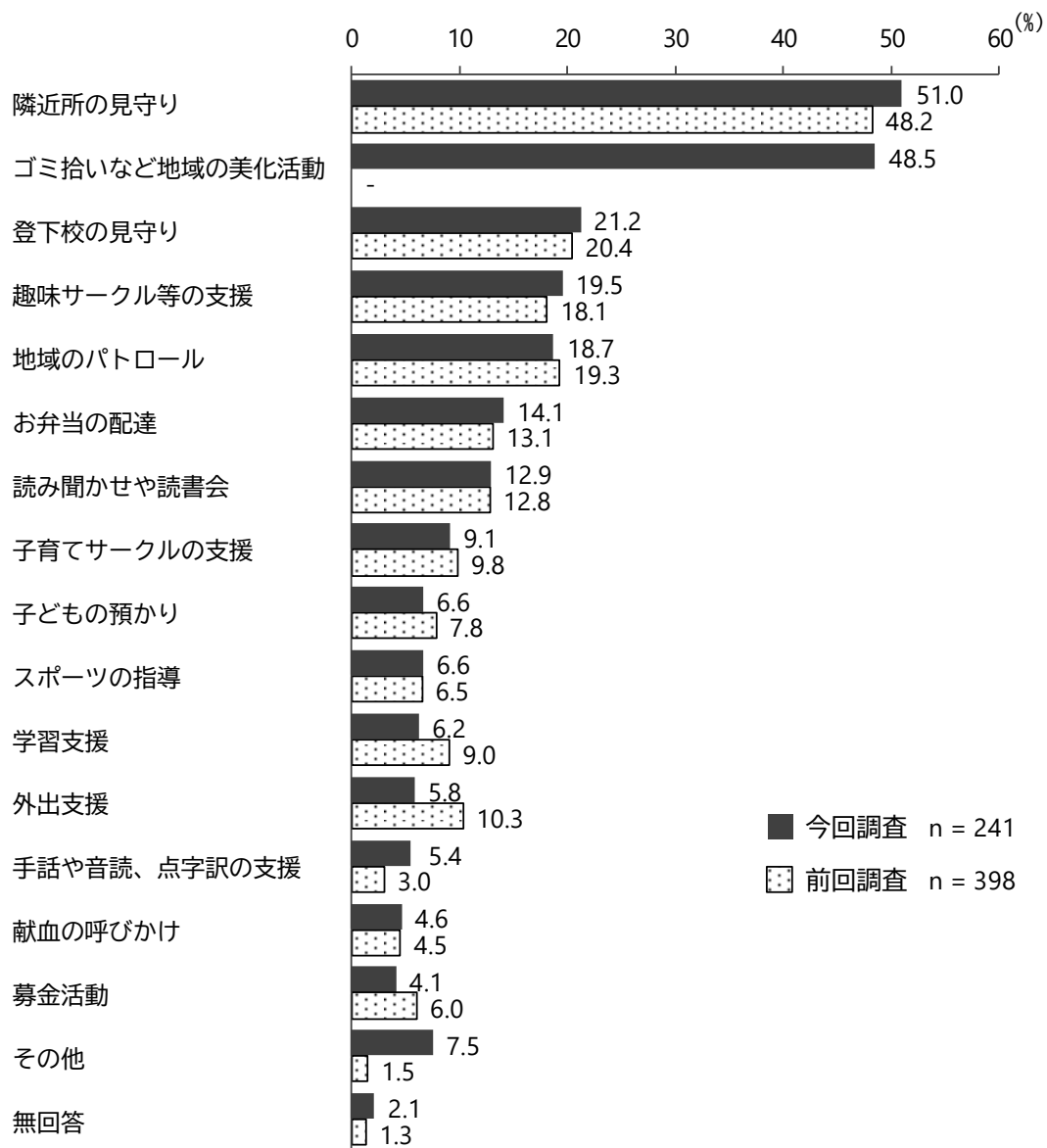


4-4 活動したいボランティアの内容

- ▶ 活動したいボランティアの内容については、「隣近所の見守り」が51.0%と最も高く、次いで、「ゴミ拾いなど地域の美化活動」（48.5%）、「登下校の見守り」（21.2%）となっている。

【問18で、「したい（継続していきたい）」「どちらかといえばしたい」を選択した方にお聞きします】

問19 どのような内容のボランティア活動をしたいですか。（あてはまるものすべてに○）

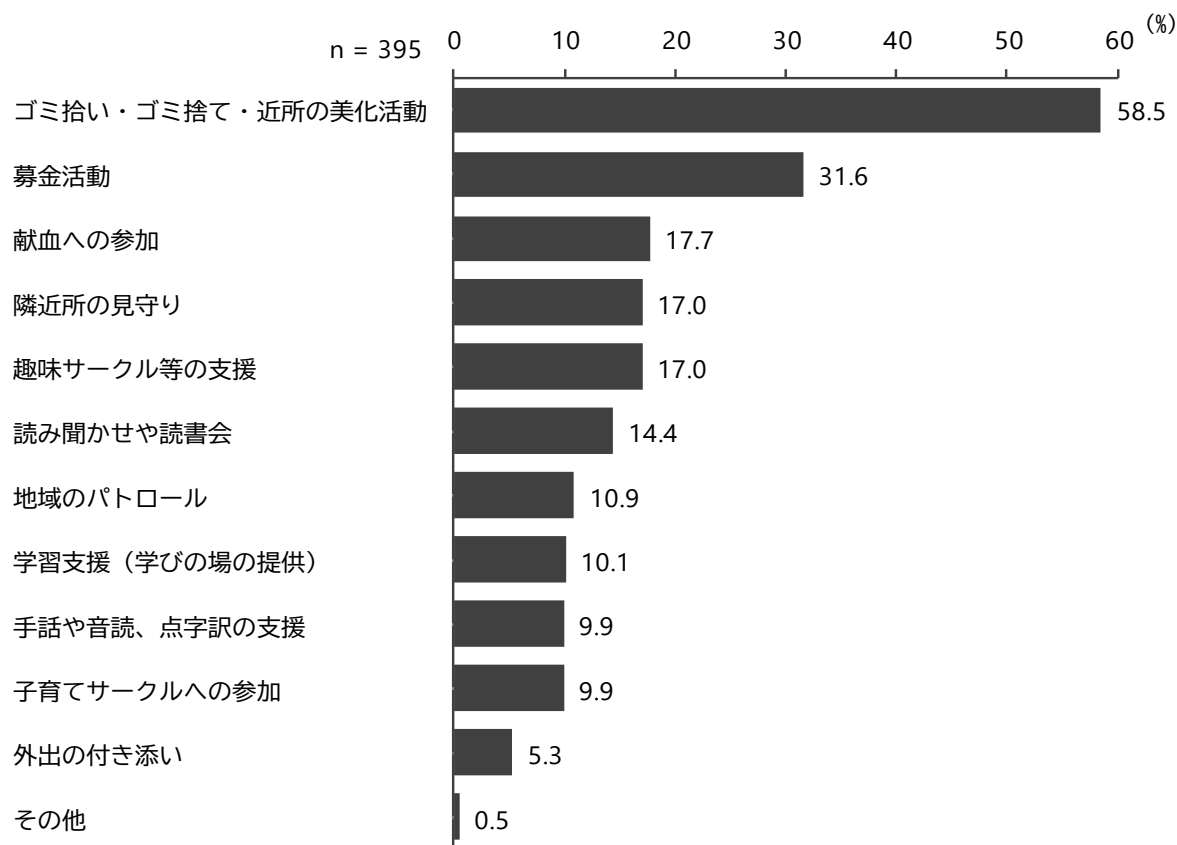


※前回調査の選択肢「ゴミ拾い」（39.4%）、「近所の美化活動」（33.7%）、「自然や野生動物の生態調査」（10.1%）、「自然教室の案内」（2.8%）、「外国人との交流」（6.3%）、「通訳や翻訳」（1.5%）、「生活やこころの相談」（7.3%）、「スポーツ大会の運営」（5%）は今回調査では未聴取。

Ⅱ 調査結果（市民）

【参考】 学生アンケートの結果

- ▶ 活動したいボランティアの内容については、「ゴミ拾い・ゴミ捨て・近所の美化活動」が58.5%と最も高く、次いで「募金活動」(31.6%)、「献血への参加」(17.7%)となっている。



※学生アンケートの結果は「Ⅳ 調査結果（学生）2－9（129ページ）」参照。

【年代別・圏域別・地区別・家族構成別／活動したいボランティアの内容】

- ▶ 年代別にみると、『29歳以下』では「隣近所の見守り」（26.9%）が他の年代と比べて低くなっている。『30～40代』では「子育てサークルの支援」（21.4%）が他の年代と比べて高くなっている。『75歳以上』では「ゴミ拾いなど地域の美化活動」（37.0%）が他の年代と比べて低くなっている。
- ▶ 圏域別にみると、『富谷中央・あけの平』では「隣近所の見守り」（58.7%）が他の圏域と比べて高くなっている。
- ▶ 地区別にみると、『日吉台・杜乃橋地区』では「隣近所の見守り」（26.1%）が他の地区と比べて低くなっており、「趣味サークル等の支援」（34.8%）が他の地区と比べて高くなっている。『東向陽台・明石台地区』では「隣近所の見守り」（43.5%）が『日吉台・杜乃橋地区』を除いた他の地区と比べて低くなっている。
- ▶ 家族構成別にみると、一部の家族構成では調査数（n）が少ないことに留意が必要だが、「趣味サークル等の支援」、「読み聞かせや読書会」、「子育てサークルの支援」は、世帯構成が多世代になるにつれて高くなっている。

		(%)											
	n	隣近所の見守り	ゴミ拾いなど地域の美化活動	登下校の見守り	趣味サークル等の支援	地域のバトロール	お弁当の配達	読み聞かせや読書会	子育てサークルの支援	子どもの預かり	スポーツの指導	その他	無回答
全 体	241	51.0	48.5	21.2	19.5	18.7	14.1	12.9	9.1	6.6	6.6	7.5	2.1
年 代 別	29歳以下	26	26.9	50.0	23.1	15.4	23.1	19.2	19.2	3.8	11.5	11.5	7.7
	30～40代	56	48.2	50.0	25.0	19.6	26.8	12.5	12.5	21.4	10.7	8.9	1.8
	50～64歳	85	57.6	49.4	17.6	20.0	14.1	15.3	15.3	7.1	7.1	9.4	2.4
	65～74歳	46	52.2	52.2	26.1	15.2	17.4	10.9	2.2	2.2	-	10.9	6.5
	75歳以上	27	59.3	37.0	14.8	29.6	14.8	3.7	3.7	7.4	-	11.1	-
圏 域 別	富谷中央・あけの平	75	58.7	48.0	17.3	17.3	25.3	14.7	12.0	8.0	8.0	1.3	9.3
	富ヶ丘・日吉台	56	46.4	51.8	17.9	21.4	16.1	16.1	12.5	5.4	5.4	8.9	7.1
	東向陽台・成田	109	48.6	47.7	25.7	20.2	15.6	12.8	12.8	11.9	6.4	9.2	6.4
地 区 別	富谷・ひより台・太子堂地区	38	50.0	55.3	23.7	15.8	31.6	18.4	13.2	10.5	7.9	2.6	5.3
	富ヶ丘・鷹乃杜・上桜木地区	33	60.6	51.5	18.2	12.1	24.2	15.2	6.1	3.0	6.1	9.1	6.1
	熊谷・とちの木・あけの平・大清水地区	37	67.6	40.5	10.8	18.9	18.9	10.8	10.8	5.4	8.1	-	13.5
	日吉台・杜乃橋地区	23	26.1	52.2	17.4	34.8	4.3	17.4	21.7	8.7	4.3	8.7	8.7
	成田地区	47	55.3	46.8	19.1	21.3	12.8	17.0	19.1	6.4	6.4	8.5	6.4
	東向陽台・明石台地区	62	43.5	48.4	30.6	19.4	17.7	9.7	8.1	16.1	6.5	9.7	6.5
家 族 構 成 別	一人暮らし	15	53.3	40.0	-	13.3	6.7	13.3	6.7	-	6.7	-	13.3
	夫婦のみ	75	61.3	44.0	28.0	18.7	16.0	12.0	9.3	5.3	5.3	4.0	5.3
	二世帯世帯	129	49.6	52.7	16.3	20.2	23.3	12.4	14.7	11.6	6.2	8.5	6.2
	三世帯世帯	15	26.7	46.7	53.3	33.3	13.3	20.0	20.0	13.3	13.3	6.7	13.3

※上位 10 項目および「その他」、無回答を抜粋して掲載している。

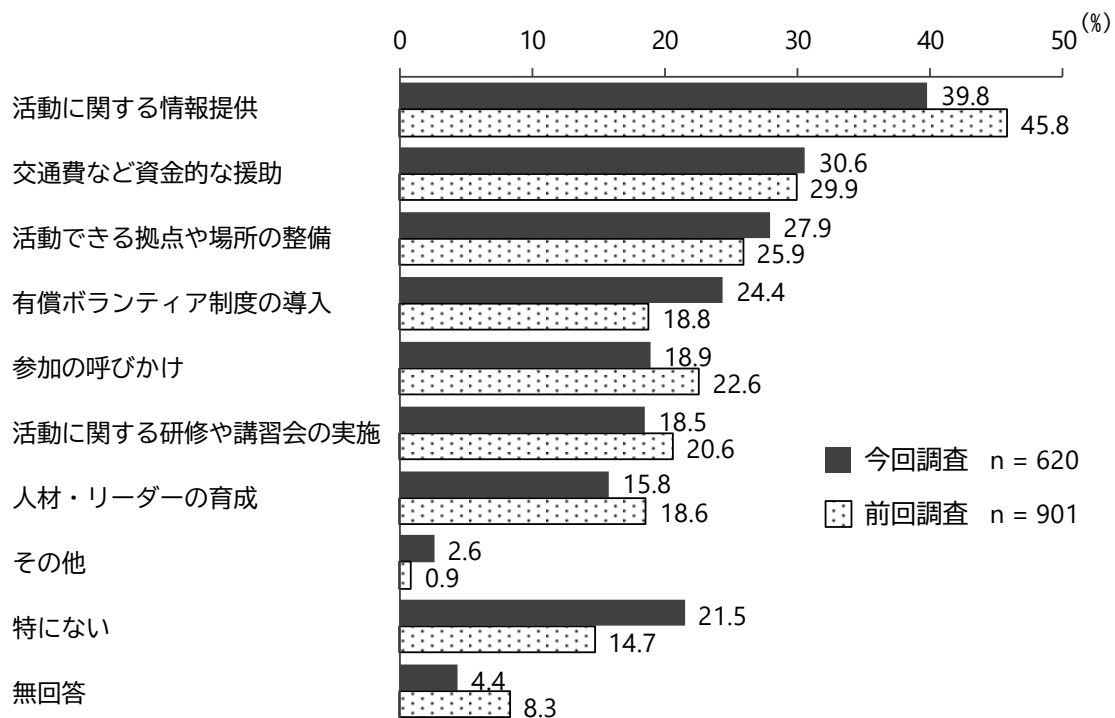
Ⅱ 調査結果（市民）

4-5 地域活動やボランティアへの参加にあたり行政に求める支援

- ▶ 地域活動やボランティアへの参加にあたり行政に求める支援については、「活動に関する情報提供」が39.8%と最も高く、次いで、「交通費など資金的な援助」(30.6%)、「活動できる拠点や場所の整備」(27.9%)となっている。なお、「特にない」が21.5%となっている。

【すべての方にお聞きします】

問 20 今後、地域活動やボランティア活動に参加するうえで、行政に支援してほしいことを教えてください。（あてはまるものすべてに○）



【年代別・圏域別・地区別・家族構成別／地域活動やボランティアへの参加にあたり行政に求める支援】

- ▶ 年代別にみると、「活動できる拠点や場所の整備」は、年代が上がるにつれて低くなっている。また、『75歳以上』では「交通費など資金的な援助」（13.1%）、「有償ボランティア制度の導入」（4.7%）が他の年代と比べて低くなっており、「特にない」（36.4%）が他の年代と比べて高くなっている。
- ▶ 圏域別にみると、『富谷中央・あけの平』では「有償ボランティア制度の導入」（17.4%）が他の圏域と比べて低くなっている。
- ▶ 地区別にみると、『日吉台・杜乃橋地区』、『成田地区』では「有償ボランティア制度の導入」が3割台前半と他の地区と比べてやや高くなっている。
- ▶ 家族構成別にみると、『二世世代世帯』では「活動できる拠点や場所の整備」（34.7%）が他の家族構成と比べてやや高くなっている。『一人暮らし』、『夫婦のみ』では「活動に関する研修や講習会の実施」が2割台と他の家族構成と比べてやや高くなっており、『一人暮らし』では「人材・リーダーの育成」（26.3%）が他の家族構成と比べてやや高くなっている。

		n	活動に関する情報提供	交通費など資金的な援助	活動できる拠点や場所の整備	有償ボランティア制度の導入	参加の呼びかけ	活動に関する研修や講習会の実施	人材・リーダーの育成	その他	特にない	無回答
全 体		620	39.8	30.6	27.9	24.4	18.9	18.5	15.8	2.6	21.5	4.4
年代別	29歳以下	52	40.4	34.6	40.4	25.0	21.2	11.5	13.5	1.9	21.2	3.8
	30～40代	156	39.7	32.7	35.3	30.1	17.3	12.8	17.3	0.6	19.9	0.6
	50～64歳	192	46.4	39.1	31.8	32.8	21.4	22.4	20.8	2.1	16.1	2.1
	65～74歳	109	37.6	28.4	19.3	20.2	15.6	28.4	17.4	4.6	19.3	8.3
	75歳以上	107	29.9	13.1	14.0	4.7	17.8	14.0	4.7	2.8	36.4	10.3
圏域別	富谷中央・あけの平	201	38.8	27.9	25.9	17.4	16.4	15.4	12.9	3.0	25.4	4.5
	富ヶ丘・日吉台	154	36.4	28.6	19.5	27.9	19.5	18.2	16.2	3.2	20.1	4.5
	東向陽台・成田	259	42.9	34.4	34.7	27.8	20.8	21.2	18.1	1.9	18.9	3.9
地区別	富谷・ひより台・太子堂地区	110	36.4	28.2	28.2	14.5	14.5	15.5	14.5	1.8	29.1	1.8
	富ヶ丘・鷹乃杜・上桜木地区	99	35.4	27.3	20.2	25.3	23.2	17.2	13.1	3.0	22.2	5.1
	熊谷・とちの木・あけの平・大清水地区	91	41.8	27.5	23.1	20.9	18.7	15.4	11.0	4.4	20.9	7.7
	日吉台・杜乃橋地区	55	38.2	30.9	18.2	32.7	12.7	20.0	21.8	3.6	16.4	3.6
	成田地区	107	45.8	36.4	30.8	34.6	23.4	24.3	16.8	0.9	19.6	1.9
	東向陽台・明石台地区	152	40.8	32.9	37.5	23.0	19.1	19.1	19.1	2.6	18.4	5.3
家族構成別	一人暮らし	38	31.6	28.9	18.4	13.2	21.1	23.7	26.3	-	23.7	10.5
	夫婦のみ	182	39.6	26.9	19.8	19.8	15.9	25.3	13.2	3.8	20.9	6.6
	二世世代世帯	331	42.3	32.6	34.7	28.4	19.6	16.3	18.1	1.2	19.3	3.3
	三世世代世帯	45	37.8	33.3	26.7	26.7	24.4	13.3	6.7	4.4	26.7	-

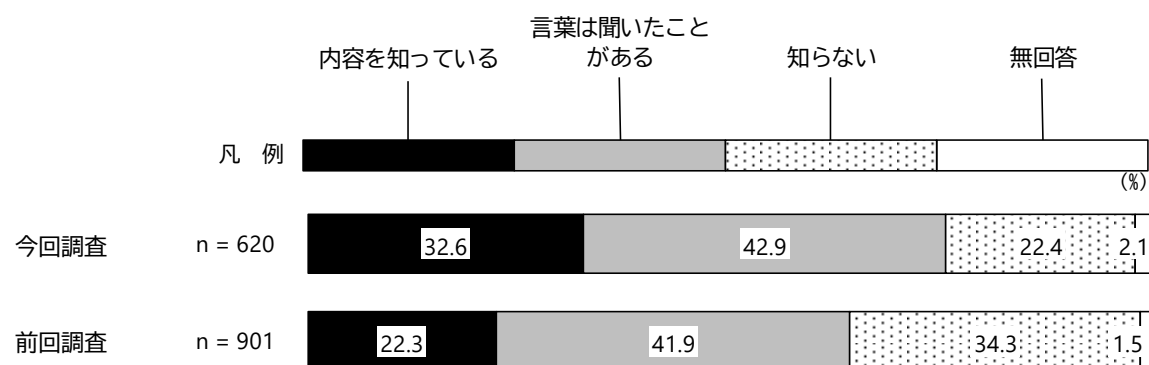
5 福祉サービス・支援制度について

5-1 高齢者福祉に関するサービスの認知度【地域福祉計画成果目標】

- ▶ 高齢者福祉に関するサービスの認知度について「言葉は聞いたことがある」が42.9%と最も高く、次いで「内容を知っている」(32.6%)、「知らない」(22.4%)となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「内容を知っている」が10.2ポイント高くなっている。また、「知らない」が11.9ポイント低くなっている。

問 21 あなたは以下の内容について知っていますか。（1つに○）

①高齢者福祉に関するサービスの認知度



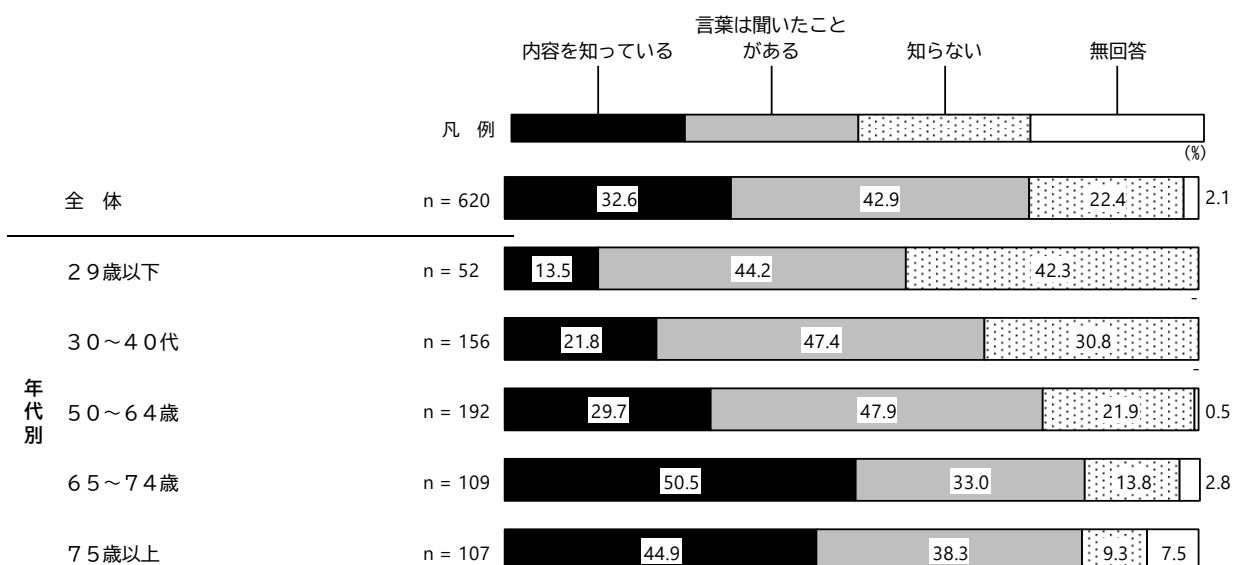
※「高齢者福祉に関するサービスの認知度」は前回調査の設問「高齢者福祉に関するサービス（ゆとりすとクラブ・サロン、地域包括支援センター等）」と比較。

【富谷市地域福祉計画成果目標】

各福祉サービスや福祉施設について、「内容を知っている」もしくは「言葉は聞いたことがある」と回答した割合の増加としており、高齢者福祉に関して、令和元年度は64.2%、令和7年度の目標値は70.0%としている。

【年代別／高齢者福祉に関するサービスの認知度】

- ▶ 年代別にみると、「知らない」は、年代が上がるにつれて低くなっている。

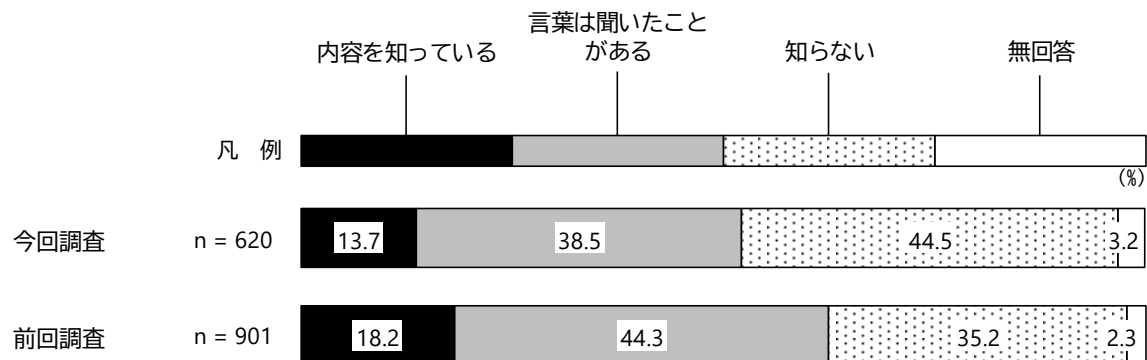


5-2 障がい者福祉に関するサービスの認知度【地域福祉計画成果目標】

- ▶ 障がい者福祉に関するサービスの認知度については、「知らない」が44.5%と最も高く、次いで、「言葉は聞いたことがある」（38.5%）、「内容を知っている」（13.7%）となっている。

問 21 あなたは以下の内容について知っていますか。（1つに○）

②障がい者福祉に関するサービスの認知度

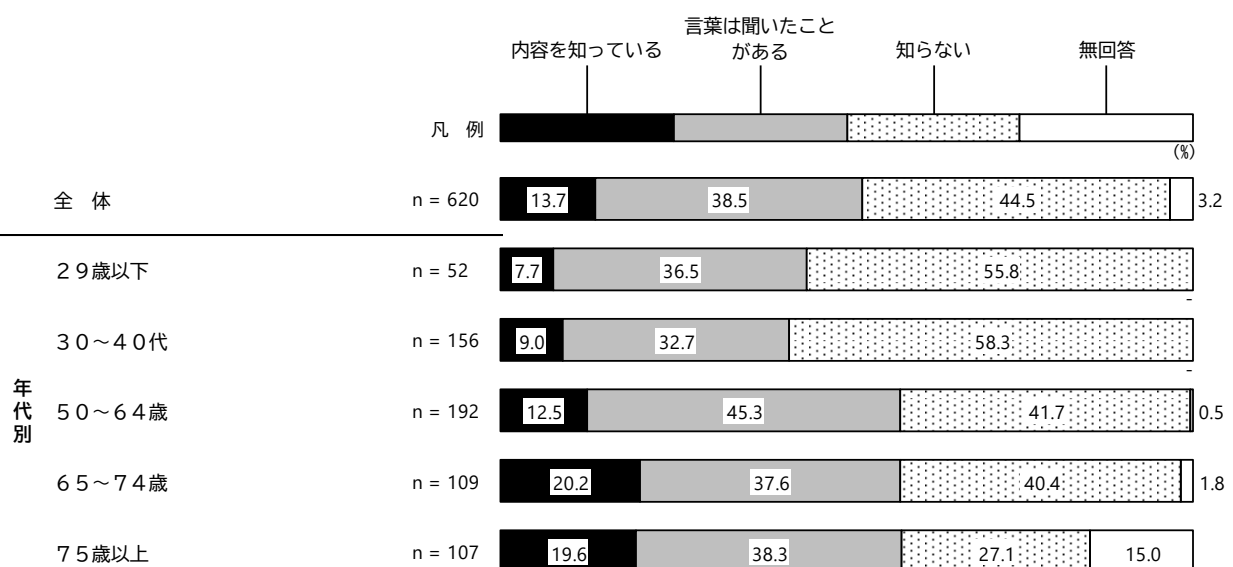


【富谷市地域福祉計画成果目標】

各福祉サービスや福祉施設について、「内容を知っている」もしくは「言葉は聞いたことがある」と回答した割合の増加としており、障がい者福祉に関して、令和元年度は62.5%、令和7年度の目標値は68.0%としている。

【年代別／障がい者福祉に関するサービスの認知度】

- ▶ 年代別にみると、「内容を知っている」は、年代が上がるにつれて概ね高くなっており、「知らない」は、年代が上がるにつれて概ね低くなっている。



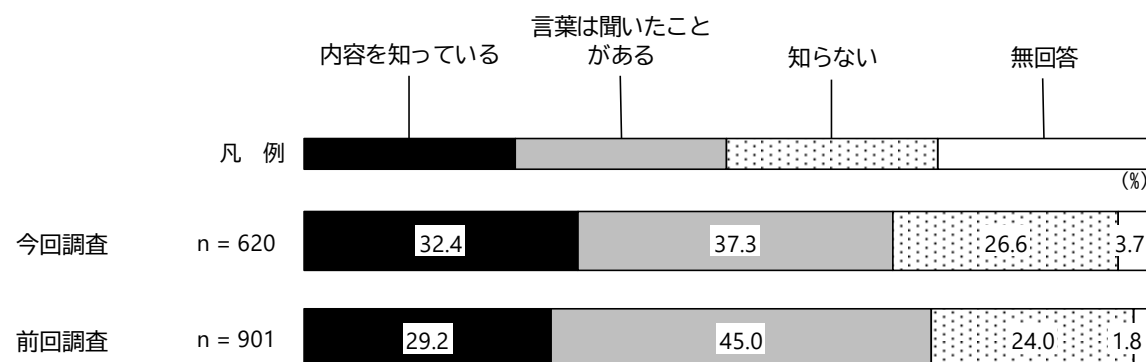
Ⅱ 調査結果（市民）

5-3 児童福祉に関するサービスの認知度【地域福祉計画成果目標】

- ▶ 児童福祉に関するサービスの認知度については、「言葉は聞いたことがある」が37.3%と最も高く、次いで、「内容を知っている」(32.4%)、「知らない」(26.6%)となっている。

問 21 あなたは以下の内容について知っていますか。（1つに○）

③児童福祉に関するサービスの認知度

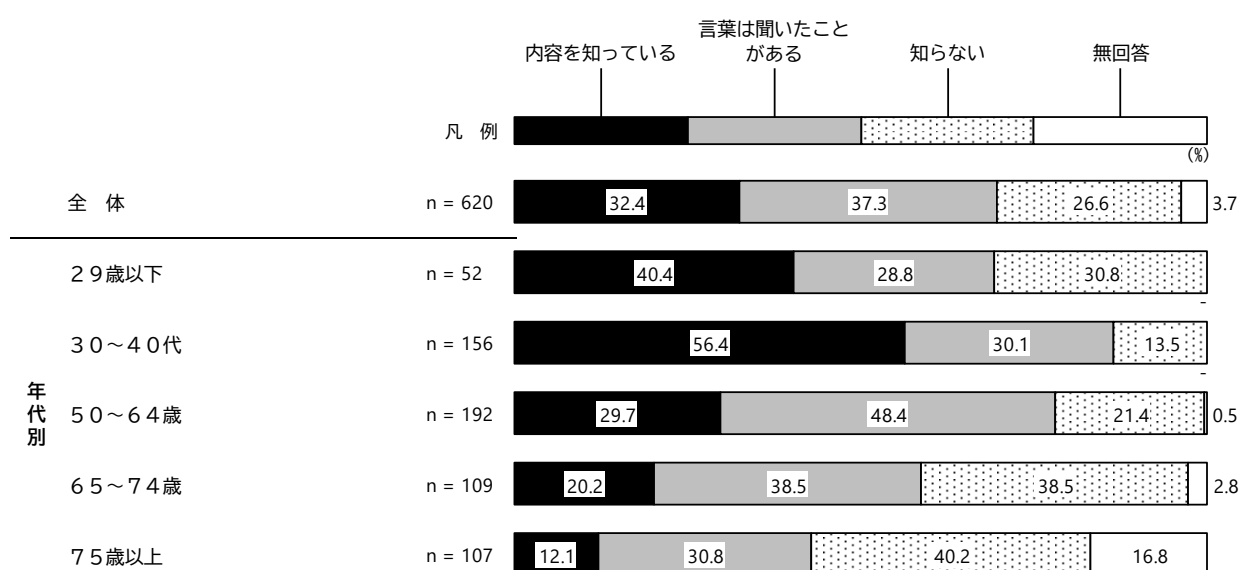


【富谷市地域福祉計画成果目標】

各福祉サービスや福祉施設について、「内容を知っている」もしくは「言葉は聞いたことがある」と回答した割合の増加としており、児童福祉に関して、令和元年度は74.2%、令和7年度の目標値は80.0%としている。

【年代別／児童福祉に関するサービスの認知度】

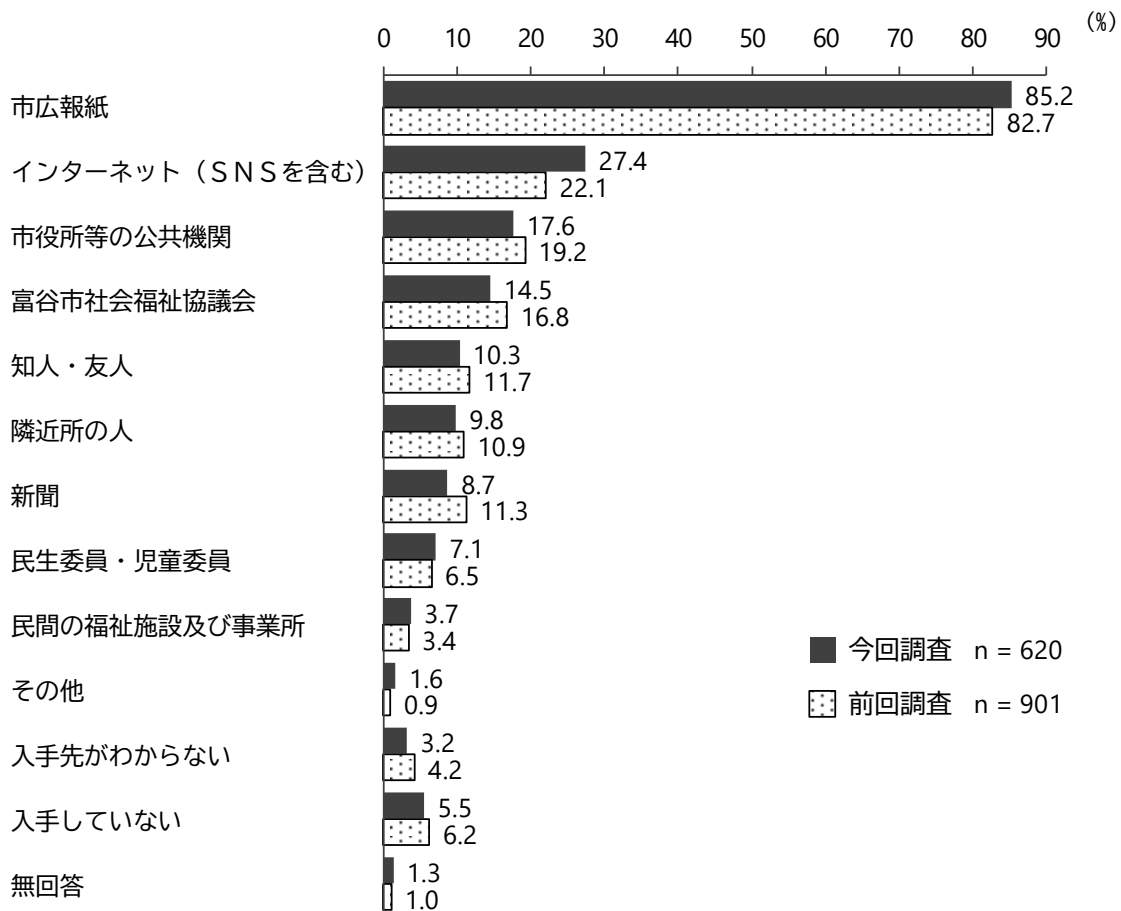
- ▶ 年代別にみると、30代以上において「内容を知っている」は、年代が上がるにつれて低くなっており、「知らない」は、年代が上がるにつれて高くなっている。



5-4 市の福祉サービスや福祉施設の情報の入手先の認知度

- ▶ 市の福祉サービスや福祉施設の情報の入手先の認知度については、「市広報紙」が85.2%と最も高く、次いで、「インターネット（SNSを含む）」（27.4%）、「市役所等の公共機関」（17.6%）となっている。

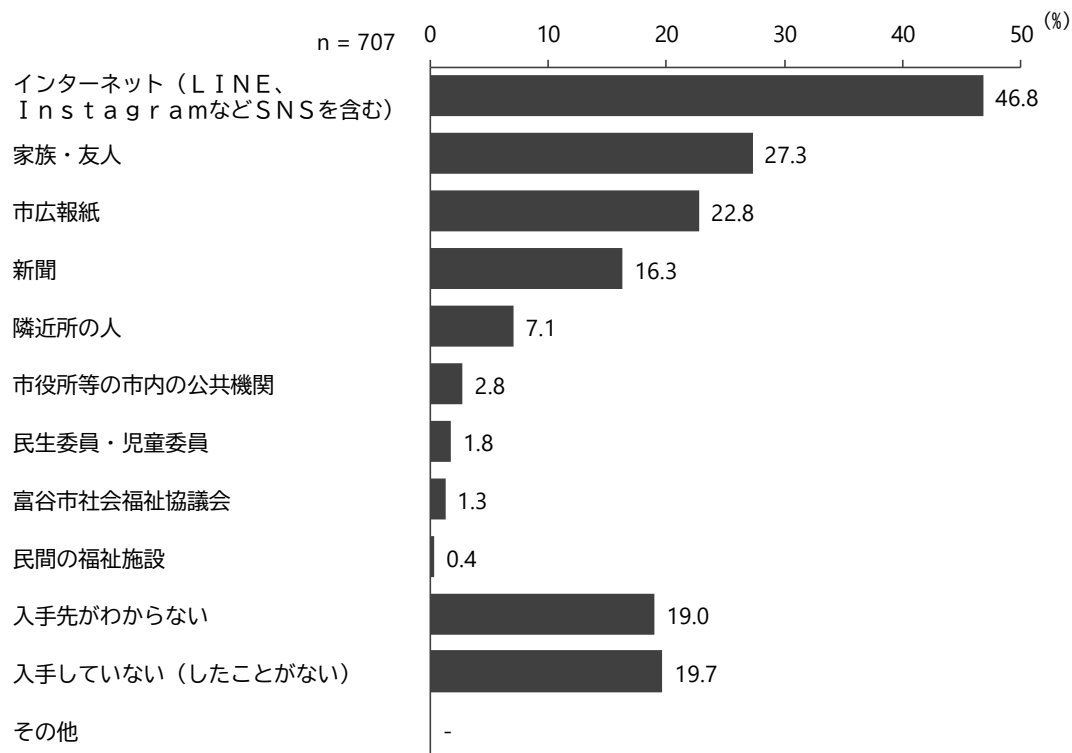
問 22 市の福祉サービスや福祉施設の情報の入手先として知っているものを教えてください。（あてはまるものすべてに○）



Ⅱ 調査結果（市民）

【参考】学生アンケートの結果

- ▶ 学生アンケートでは、「インターネット」が46.8%と最も高く、次いで「家族・友人」（27.3%）、市広報紙（22.8%）と続いている。



※学生アンケートの結果は「Ⅳ 調査結果（学生）2-10（130ページ）」参照。

【年代別／市の福祉サービスや福祉施設の情報の入手先の認知度】

- ▶ 年代別にみると、「富谷市社会福祉協議会」、「知人・友人」、「民生委員・児童委員」は、年代が上がるにつれて高くなっている。また、『29歳以下』では「市役所等の公共機関」（3.8%）が他の年代と比べて低くなっており、65歳以上では「インターネット（SNSを含む）」が3割以下と他の年代と比べて低くなっている。

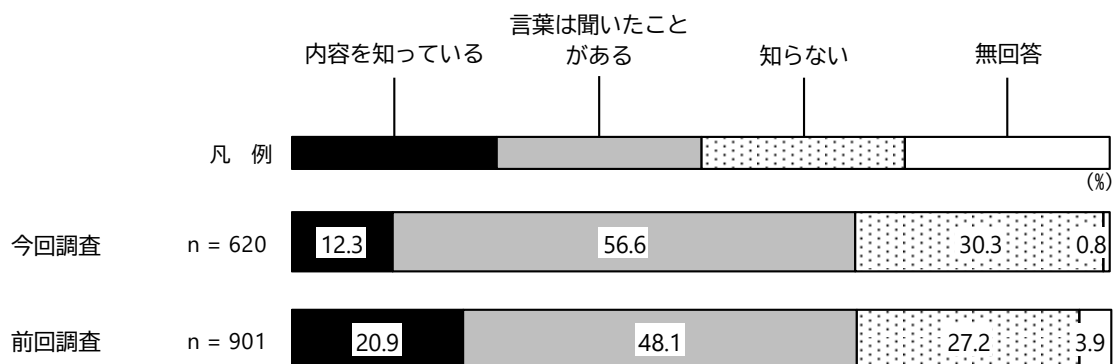
		(%)												
	n	市広報紙	インターネット（SNSを含む）	市役所等の公共機関	富谷市社会福祉協議会	知人・友人	隣近所の人	新聞	民生委員・児童委員	民間の福祉施設及び事業所	その他	入手先がわからない	入手していない	無回答
全 体	620	85.2	27.4	17.6	14.5	10.3	9.8	8.7	7.1	3.7	1.6	3.2	5.5	1.3
年 代 別	29歳以下	52	76.9	30.8	3.8	-	5.8	9.6	1.9	-	7.7	3.8	13.5	-
	30～40代	156	83.3	37.8	17.9	7.7	10.9	4.5	3.2	3.2	0.6	2.6	6.4	-
	50～64歳	192	88.5	32.8	16.7	15.6	9.9	6.3	4.7	2.6	1.0	4.2	4.2	0.5
	65～74歳	109	89.9	21.1	23.9	19.3	12.8	11.9	9.2	7.3	1.8	1.8	2.8	0.9
	75歳以上	107	81.3	8.4	19.6	23.4	14.0	13.1	20.6	17.8	4.7	3.7	5.6	5.6

5-5 生活困窮の問題や支援制度の認知度

- ▶ 生活困窮の問題や支援制度の認知度については、「言葉は聞いたことがある」が56.6%と最も高く、次いで、「知らない」（30.3%）、「内容を知っている」（12.3%）となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「言葉は聞いたことがある」がやや高くなっている。また、「内容を知っている」がやや低くなっている。

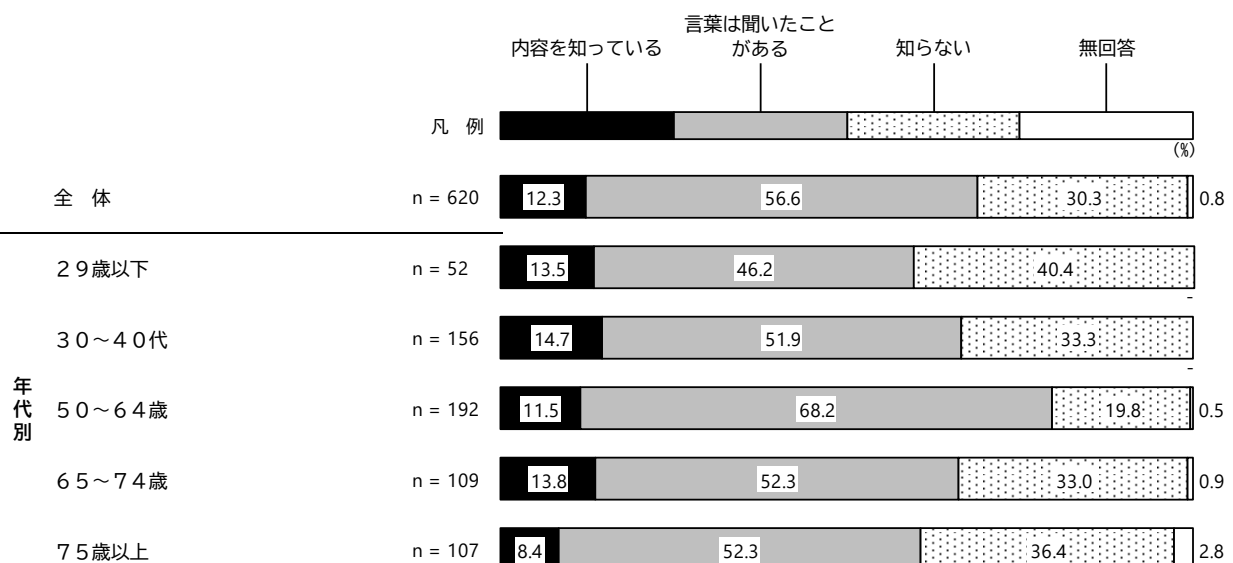
問 23① あなたは、生活困窮※の問題や支援制度について知っていますか。（1つに○）

※生活困窮：経済的な問題等により、最低限度の生活を維持できなくなるおそれのある状態。



【年代別／生活困窮の問題や支援制度の認知度】

- ▶ 年代別にみると、『50～64歳』では「言葉は聞いたことがある」（68.2%）が他の年代と比べて高くなっており、「知らない」（19.8%）が他の年代と比べて低くなっている。



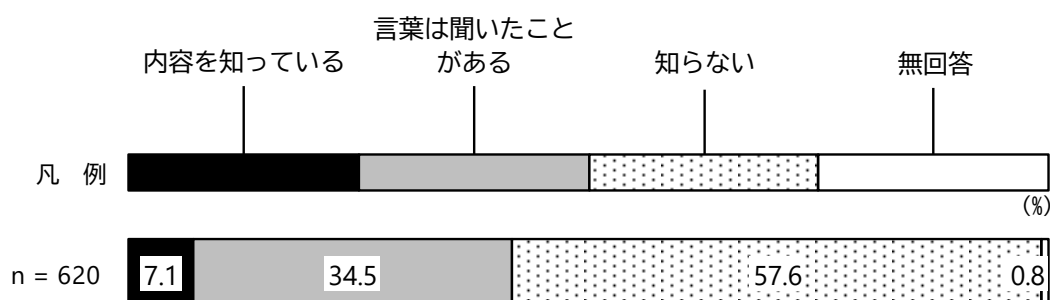
Ⅱ 調査結果（市民）

5-6 生活困窮に関する相談窓口の認知度

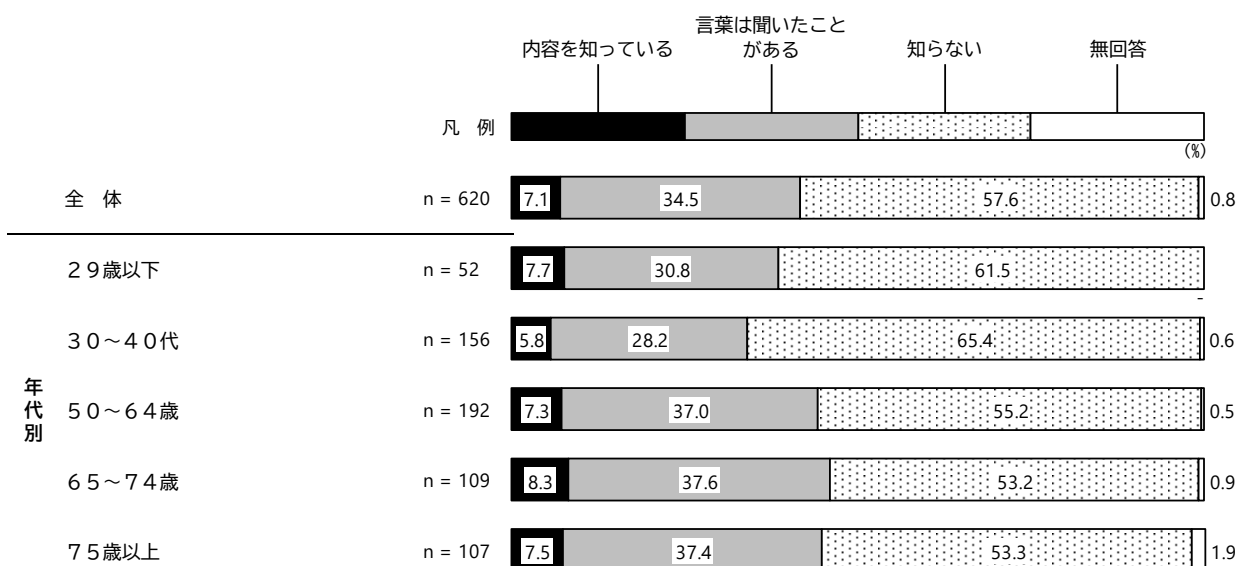
- ▶ 生活困窮に関する相談窓口の認知度については、「知らない」が57.6%と最も高く、次いで、「言葉は聞いたことがある」(34.5%)、「内容を知っている」(7.1%)となっている。

問 23② あなたは、生活困窮に関する相談窓口（富谷市自立相談支援センター※）を知っていますか。（1つに○）

※富谷市自立相談支援センター：生活が困窮している方や就労経験がなく就労に不安を抱えている方などに対し、専門の相談支援員が問題の解決に向けて、自立に関する支援を行っている機関。



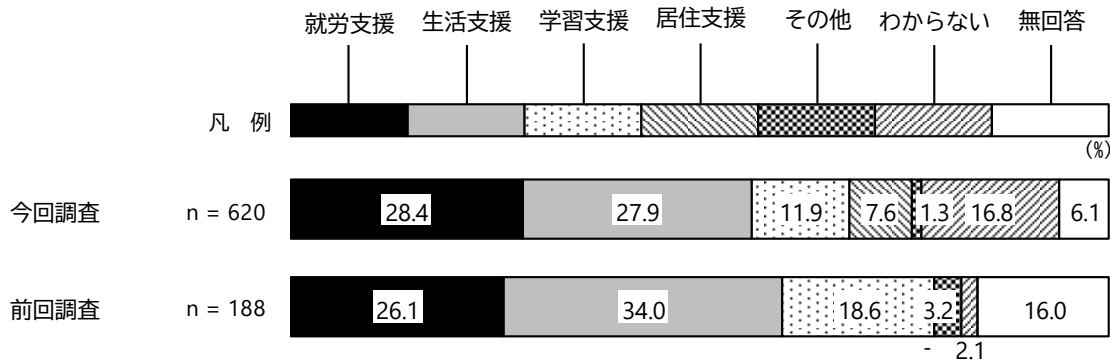
【年代別／生活困窮に関する相談窓口の認知度】



5-7 生活困窮の問題や支援制度について最も必要な支援

- ▶ 生活困窮の問題や支援制度について最も必要な支援については、「就労支援」が28.4%と最も高く、次いで、「生活支援」(27.9%)、「学習支援」(11.9%)となっている。なお、「わからない」が16.8%となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「わからない」が14.7ポイント高くなっている。

問 24 あなたは、生活困窮の問題や支援制度について、具体的にどのような支援が最も必要だと思いますか。（1つに○）



※「居住支援」は今回調査で追加された選択肢であり、前回調査では未聴取。

Ⅱ 調査結果（市民）

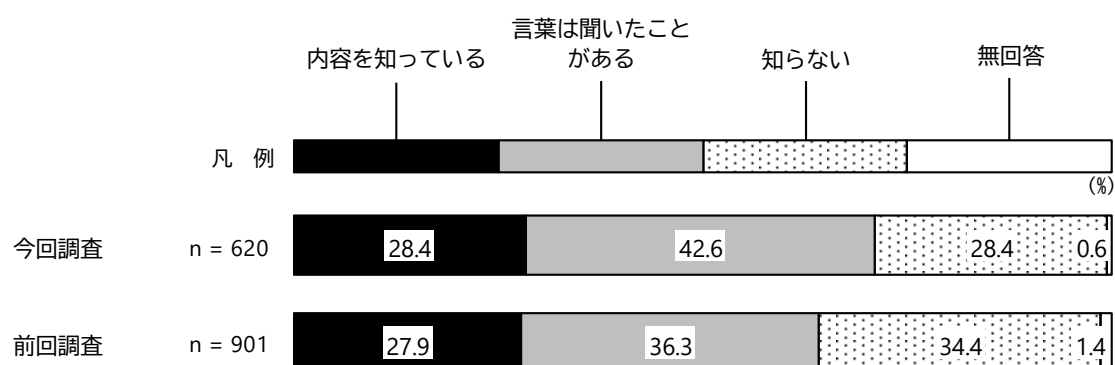
5－8 成年後見制度の認知度

- ▶ 成年後見制度の認知度については、「言葉は聞いたことがある」が42.6%と最も高く、次いで、「内容を知っている」、「知らない」（いずれも28.4%）、となっている。

問 25 あなたは、成年後見に関する以下の事柄について知っていますか。（1つに○）

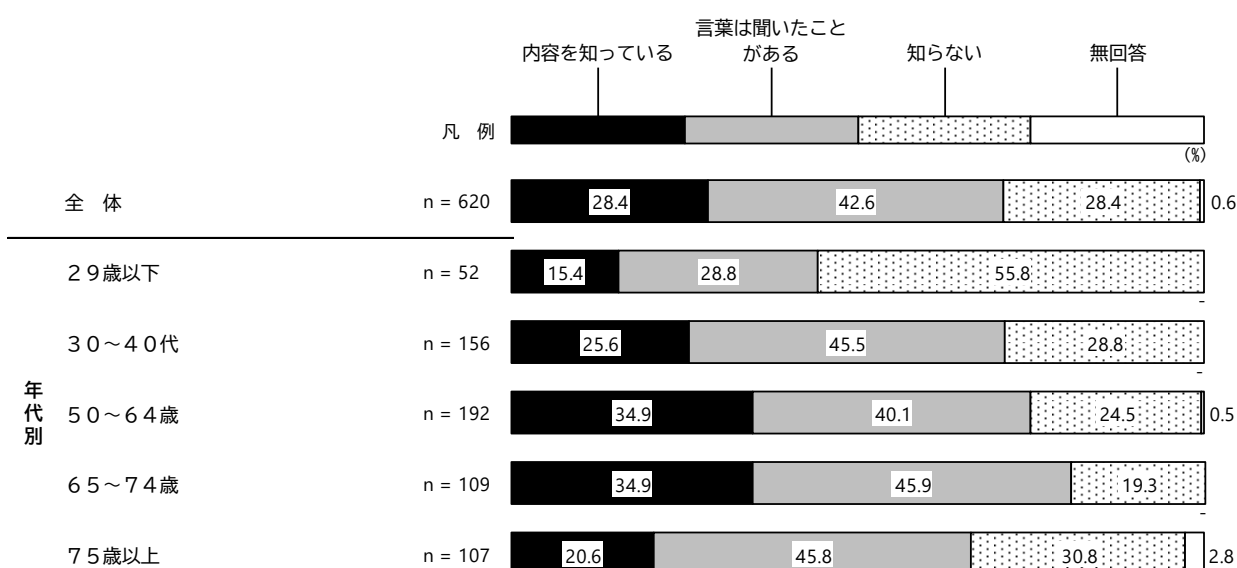
①成年後見制度※

※成年後見制度：認知症状や障がいなどの理由で、様々な契約や手続きを一人で行うことが難しい方へ、ご本人の意思を尊重した上で、法律行為等の支援を行う制度。支援を行う方のことを「成年後見人」等という



【年代別／成年後見制度の認知度】

- ▶ 年代別にみると、『29歳以下』では「言葉は聞いたことがある」（28.8%）が他の年代と比べて低くなっており、「知らない」（55.8%）が他の年代と比べて高くなっている。



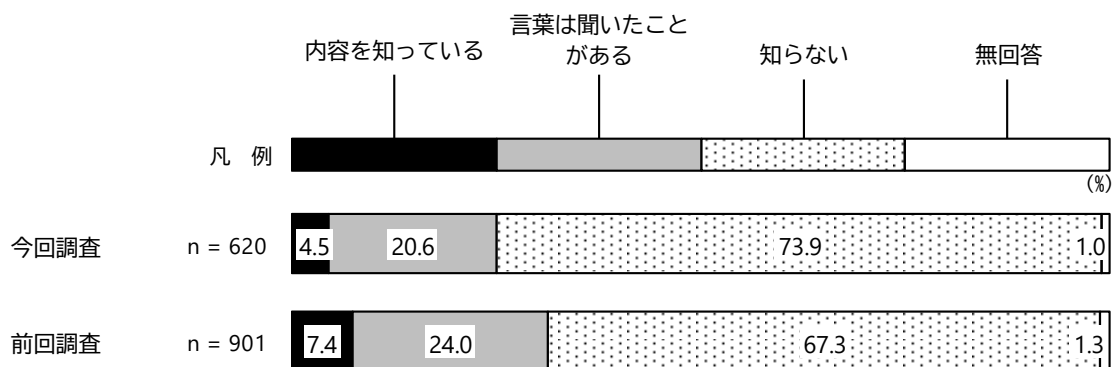
5-9 市民後見人の認知度

- ▶ 市民後見人の認知度については、「知らない」が73.9%と最も高く、次いで、「言葉は聞いたことがある」(20.6%)、「内容を知っている」(4.5%)となっている。

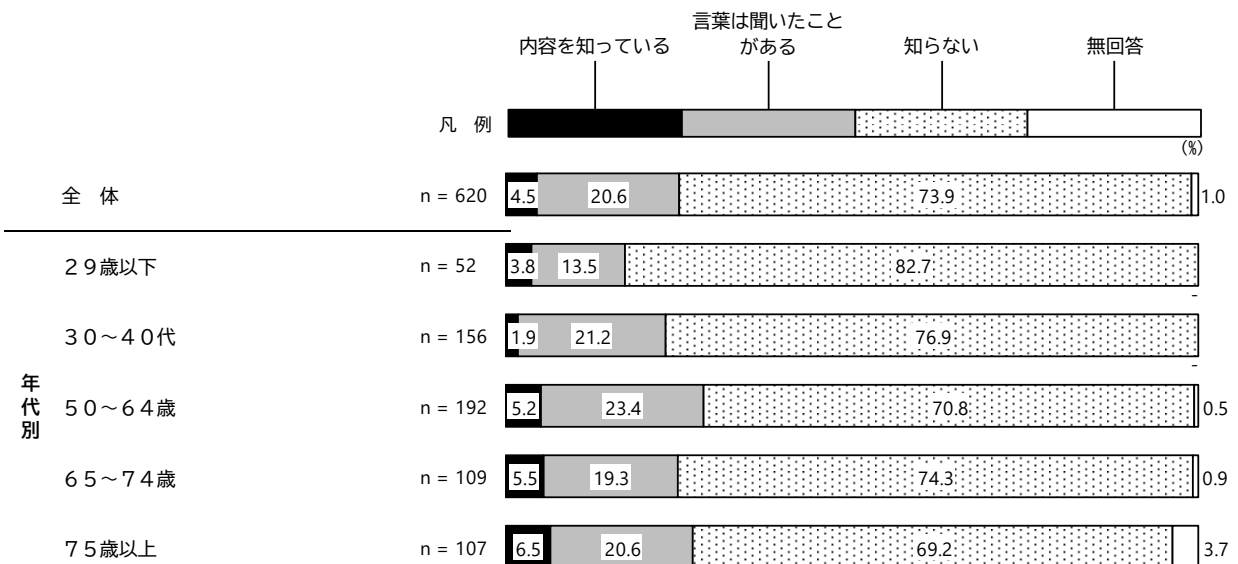
問 25 あなたは、成年後見に関する以下の事柄について知っていますか。（1つに○）

②市民後見人※

※市民後見人：成年後見制度において、弁護士や司法書士などの資格を持たない、親族以外の市民が成年後見人になること。市町村等の研修を修了し、家庭裁判所からの選任を受けることで活動することができる。



【年代別／市民後見人の認知度】

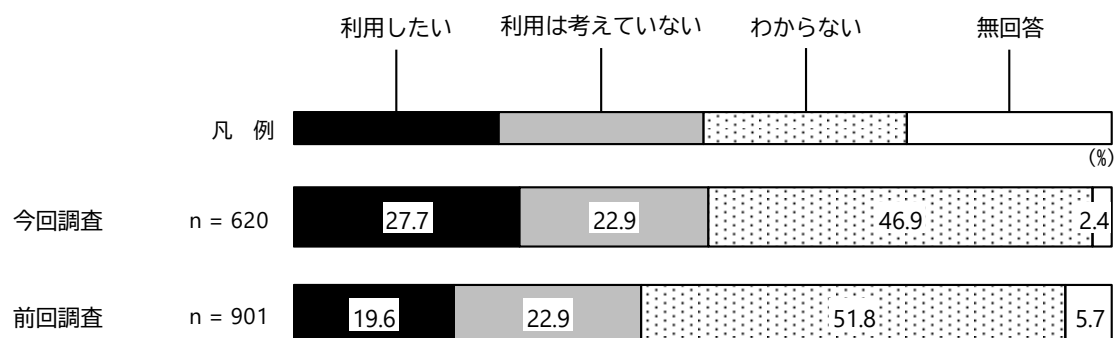


Ⅱ 調査結果（市民）

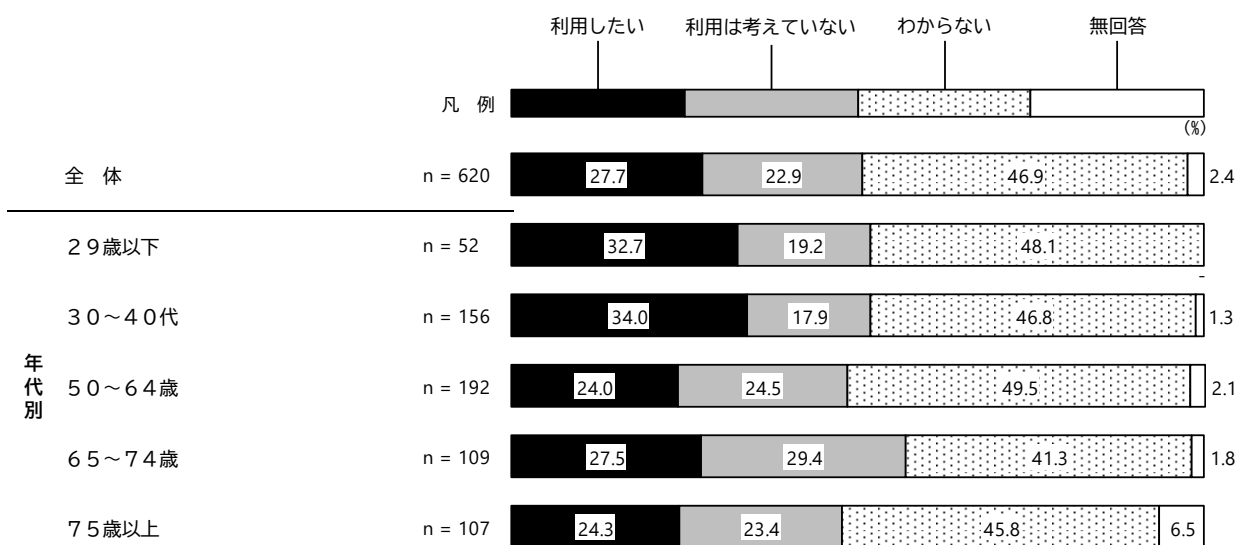
5-10 今後成年後見制度が必要になった場合に利用したいか

- ▶ 今後成年後見制度が必要になった場合に利用したいかについては、「利用したい」が27.7%、「利用は考えていない」が22.9%となっている。なお、「わからない」が46.9%となっている。

問 26 今後、自分に「成年後見制度」が必要になった時、制度を利用したいですか。（1つに○）



【年代別／今後成年後見制度が必要になった場合に利用したいか】

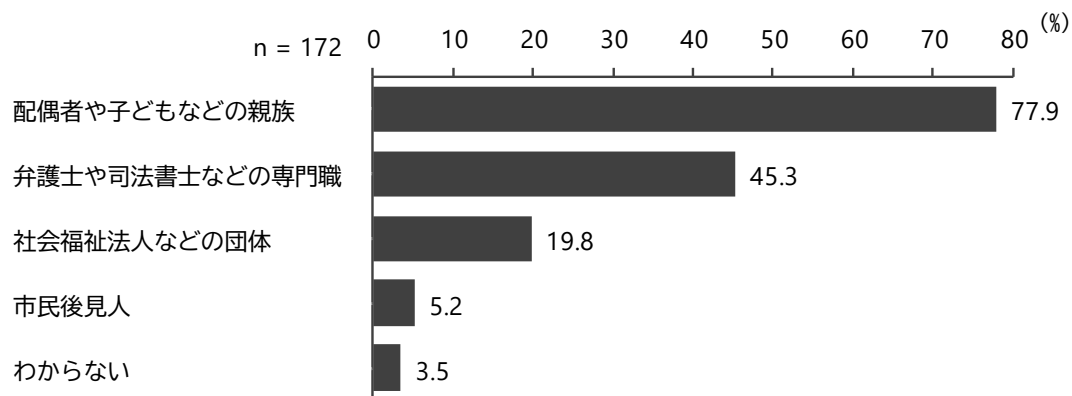


5-11 成年後見制度を利用する場合に後見人になってほしい人

- ▶ 成年後見制度を利用する場合に後見人になってほしい人については、「配偶者や子どもなどの親族」が 77.9%と最も高く、次いで、「弁護士や司法書士などの専門職」（45.3%）、「社会福祉法人などの団体」（19.8%）となっている。

【問 26 で「利用したい」を選択した方にお聞きます】

問 27 成年後見制度を利用することになった場合、誰に後見人になって支援してほしいですか。（あてはまるものすべてに○）



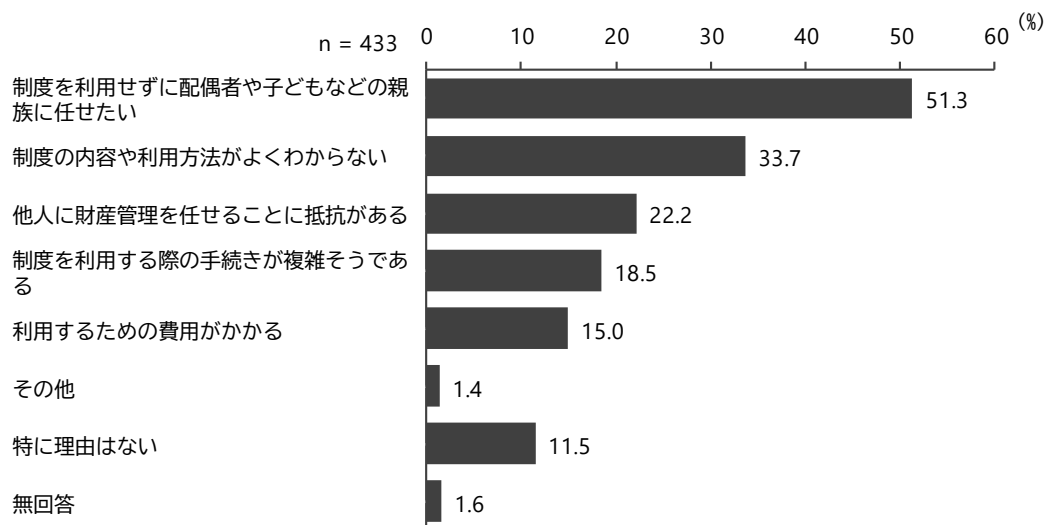
Ⅱ 調査結果（市民）

5-12 成年後見制度の利用を考えていない理由

- ▶ 成年後見制度の利用を考えていない理由については、「制度を利用せずに配偶者や子どもなどの親族に任せたい」が51.3%と最も高く、次いで、「制度の内容や利用方法がよくわからない」(33.7%)、「他人に財産管理を任せることに抵抗がある」(22.2%)となっている。なお、「特に理由はない」が11.5%となっている。

【問26で「利用は考えていない」「わからない」を選択した方にお聞きします】

問28 「利用は考えていない」「わからない」と答えた理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

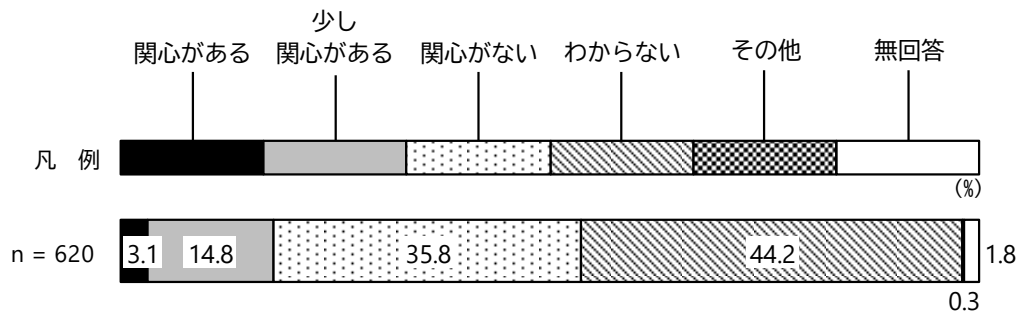


5-13 市民後見人の活動への関心

- ▶ 市民後見人の活動への関心については、「関心がない」が35.8%と最も高く、次いで、「少し関心がある」(14.8%)、「関心がある」(3.1%)となっている。なお、「わからない」が44.2%となっている。

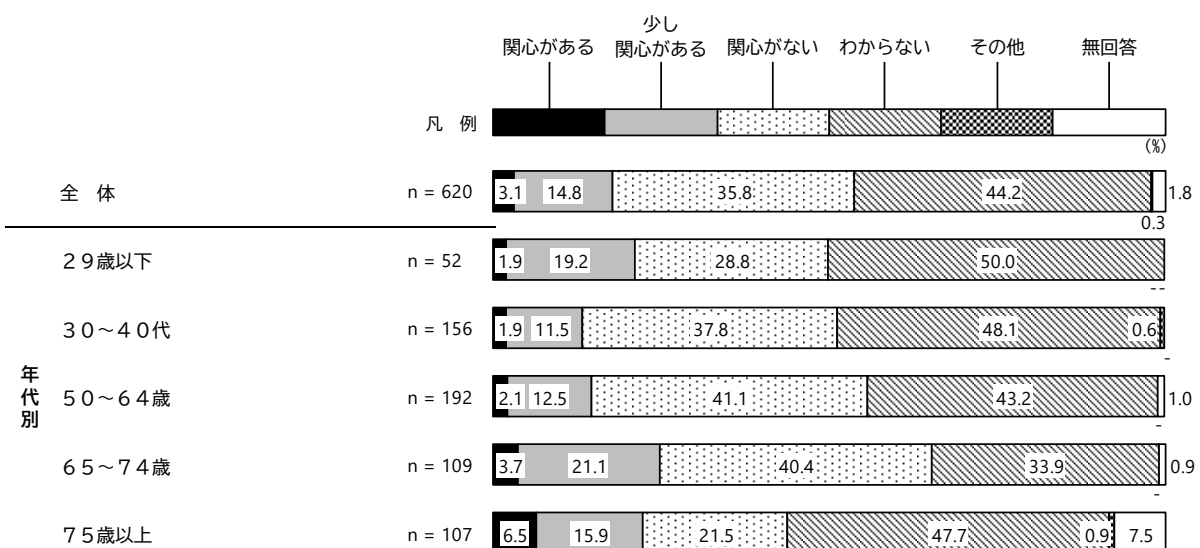
【すべての方にお聞きします】

問 29 あなたは「市民後見人」としての活動に関心がありますか。（1つに○）



【年代別／市民後見人の活動への関心】

- ▶ 年代別にみると、「関心がある」は、年代が上がるにつれて高くなっている。

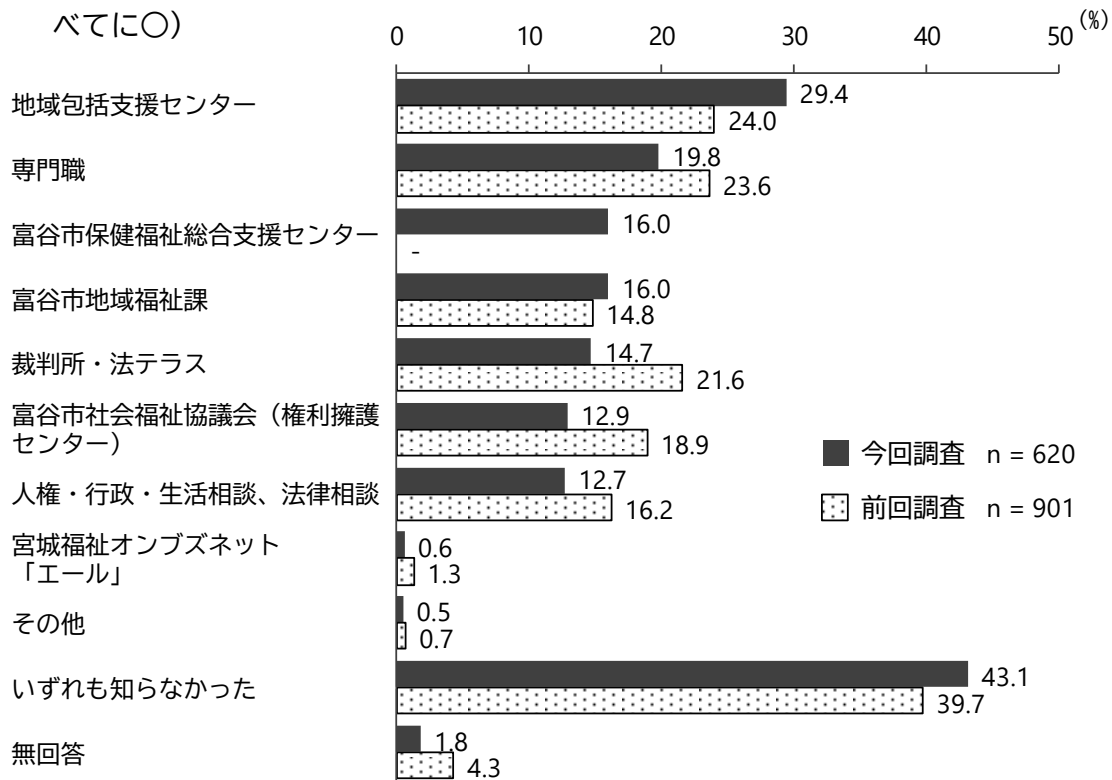


Ⅱ 調査結果（市民）

5-14 成年後見制度に関する相談窓口の認知度

- ▶ 成年後見制度に関する相談窓口の認知度については、「地域包括支援センター」が29.4%と最も高く、次いで、「専門職」（19.8%）、「富谷市保健福祉総合支援センター」（16.0%）となっている。なお、「いずれも知らなかった」が43.1%となっている。

問 30 成年後見制度に関する相談窓口で知っているものはどれですか。（あてはまるものすべてに○）



※「富谷市保健福祉総合支援センター」は今回調査で追加された選択肢であり、前回調査では未聴取。

【年代別／成年後見制度に関する相談窓口の認知度】

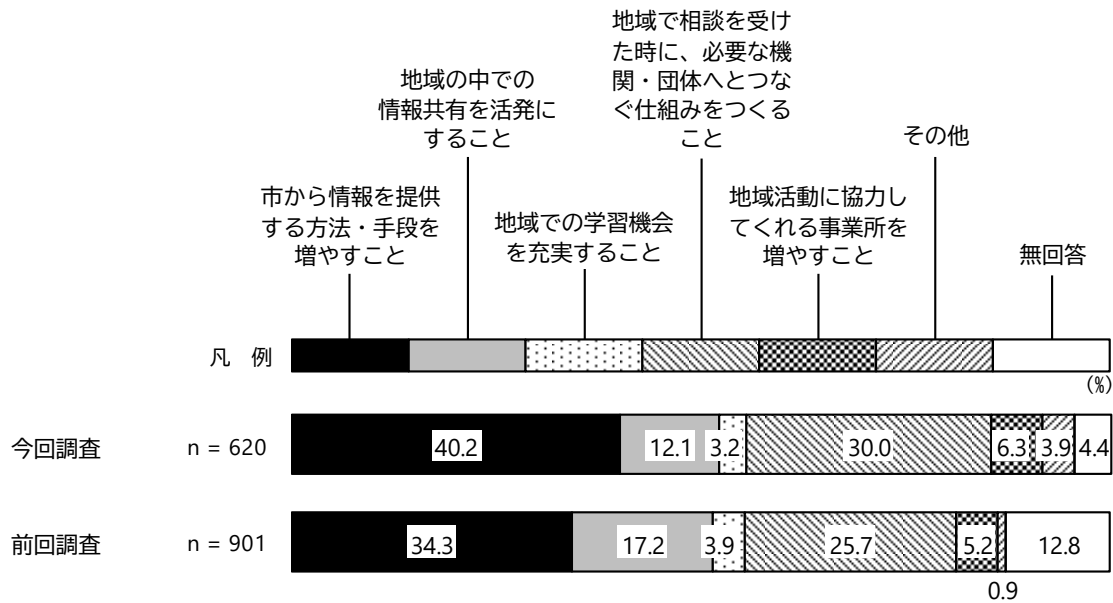
- ▶ 年代別にみると、「富谷市保健福祉総合支援センター」は、年代が上がるにつれて高くなっており、「いずれも知らなかった」は、年代が上がるにつれて低くなっている。

		n	地域包括支援センター	専門職	富谷市保健福祉総合支援センター	富谷市地域福祉課	裁判所・法テラス	富谷市社会福祉協議会（権利擁護センター）	人権・行政・生活相談、法律相談	宮城福祉オンブズネット「エール」	その他	いずれも知らなかった	無回答
全 体		620	29.4	19.8	16.0	16.0	14.7	12.9	12.7	0.6	0.5	43.1	1.8
年 代 別	29歳以下	52	28.8	7.7	9.6	15.4	13.5	7.7	5.8	-	-	53.8	-
	30～40代	156	21.2	14.7	10.9	14.1	14.1	7.7	12.2	-	-	50.6	-
	50～64歳	192	29.7	25.0	17.2	14.6	16.7	14.1	15.6	1.0	0.5	41.7	1.0
	65～74歳	109	37.6	27.5	19.3	21.1	19.3	18.3	11.0	1.8	-	35.8	0.9
	75歳以上	107	33.6	15.9	21.5	16.8	8.4	15.9	13.1	-	1.9	35.5	7.5

5-15 市の福祉サービスや福祉施設について最も必要なこと

- ▶ 市の福祉サービスや福祉施設について最も必要なことについては、「市から情報を提供する方法・手段を増やすこと」が40.2%と最も高く、次いで、「地域で相談を受けた時に、必要な機関・団体へつなぐ仕組みをつくること」（30.0%）、「地域の中での情報共有を活発にすること」（12.1%）となっている。

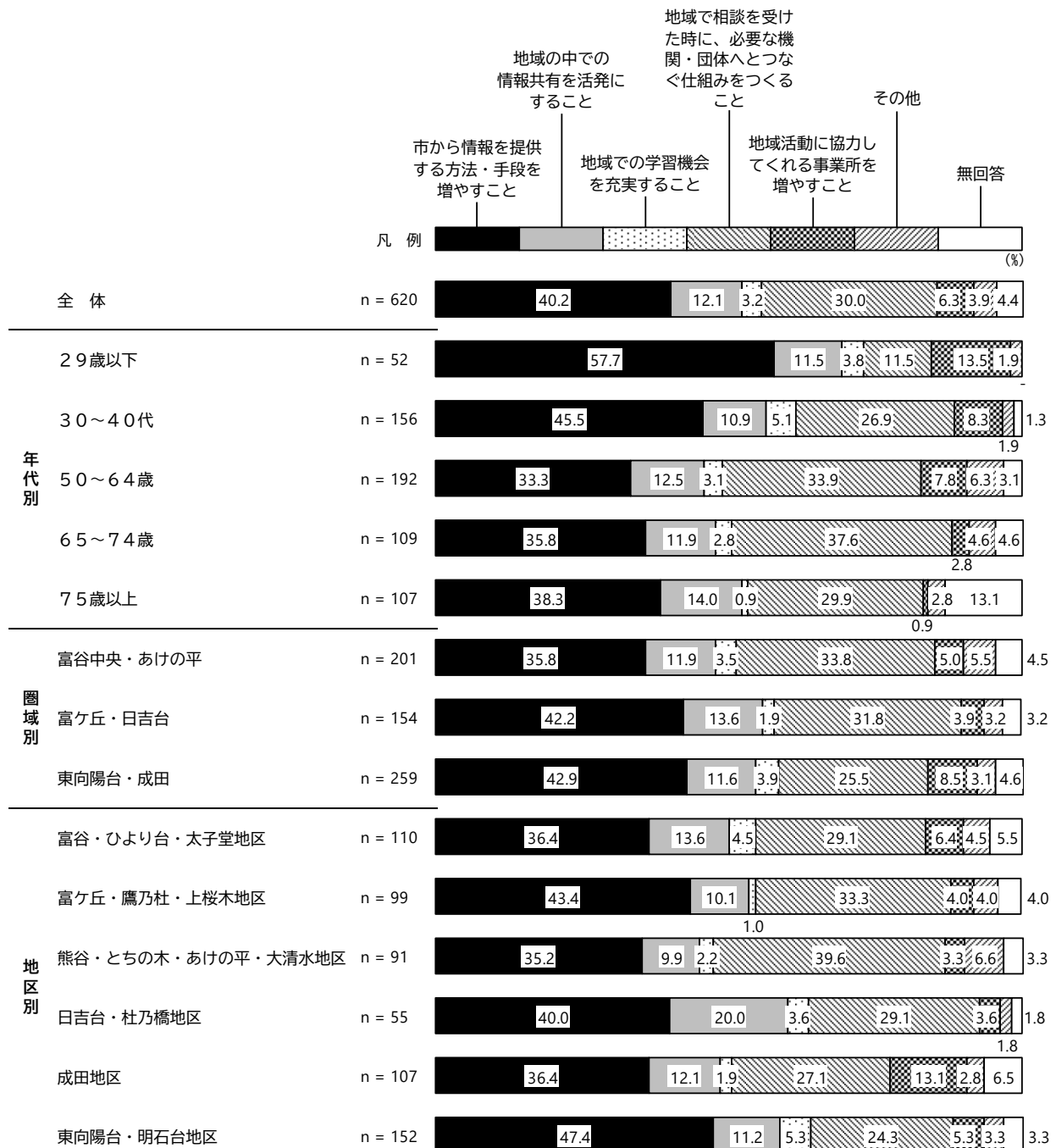
問 31 住民同士の助け合い、支え合いを進めていくために、市の福祉サービスや福祉施設について、あなたが最も必要と思うことはどれですか。（1つに○）



II 調査結果（市民）

【年代別・圏域別・地区別／市の福祉サービスや福祉施設について最も必要なこと】

- ▶ 年代別にみると、「地域活動に協力してくれる事業所を増やすこと」は、年代が上がるにつれて低くなっている。また、『29歳以下』では「市から情報を提供する方法・手段を増やすこと」(57.7%) が他の年代と比べて高くなっており、「地域で相談を受けた時に、必要な機関・団体へつなぐ仕組みをつくること」(11.5%) が他の年代と比べて低くなっている。

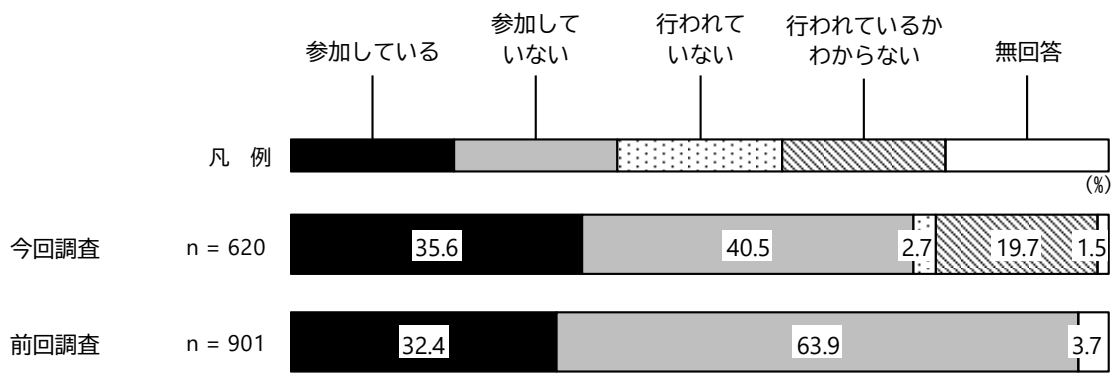


6 災害時の対応について

6-1 地域の防災訓練への参加状況

- ▶ 地域の防災訓練への参加状況については、「参加していない」が40.5%と最も高く、次いで、「参加している」（35.6%）、「行われているかわからない」（19.7%）となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、選択肢が増えたことに留意が必要だが、「参加していない」が23.4ポイント低くなっている。

問 32① 地域の防災訓練に参加していますか。（1つに○）

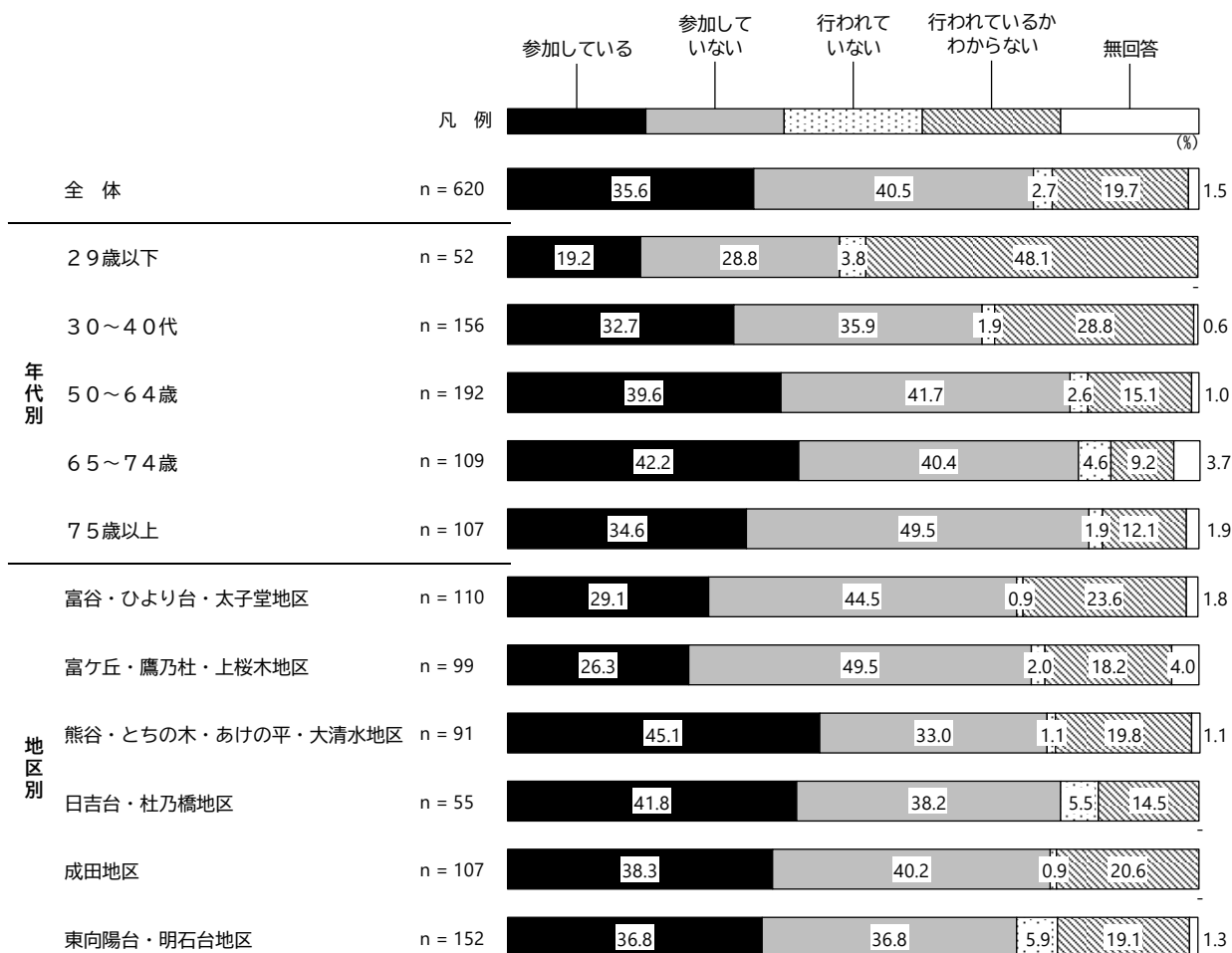


※「行われていない」、「行われているかわからない」は今回調査で追加された選択肢であり、前回調査では未聴取。

Ⅱ 調査結果（市民）

【年代別・圏域別・地区別／地域の防災訓練への参加状況】

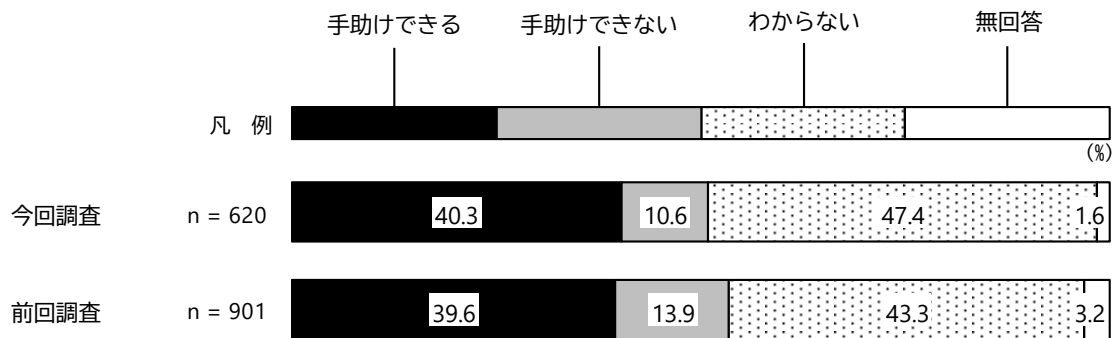
- ▶ 年代別にみると、『29歳以下』では「参加している」（19.2%）が他の年代と比べて低くなっている。
- ▶ 地区別にみると、『富谷・ひより台・太子堂地区』、『富ヶ丘・鷹乃杜・上桜木地区』では「参加している」が2割台後半と他の地区と比べてやや低くなっている。



6-2 災害時に支援を必要とする人の手助けができるか

- ▶ 災害時に支援を必要とする人の手助けができるかについては、「手助けできる」が40.3% 「手助けできない」が10.6%となっている。なお、「わからない」が47.4%となっている。

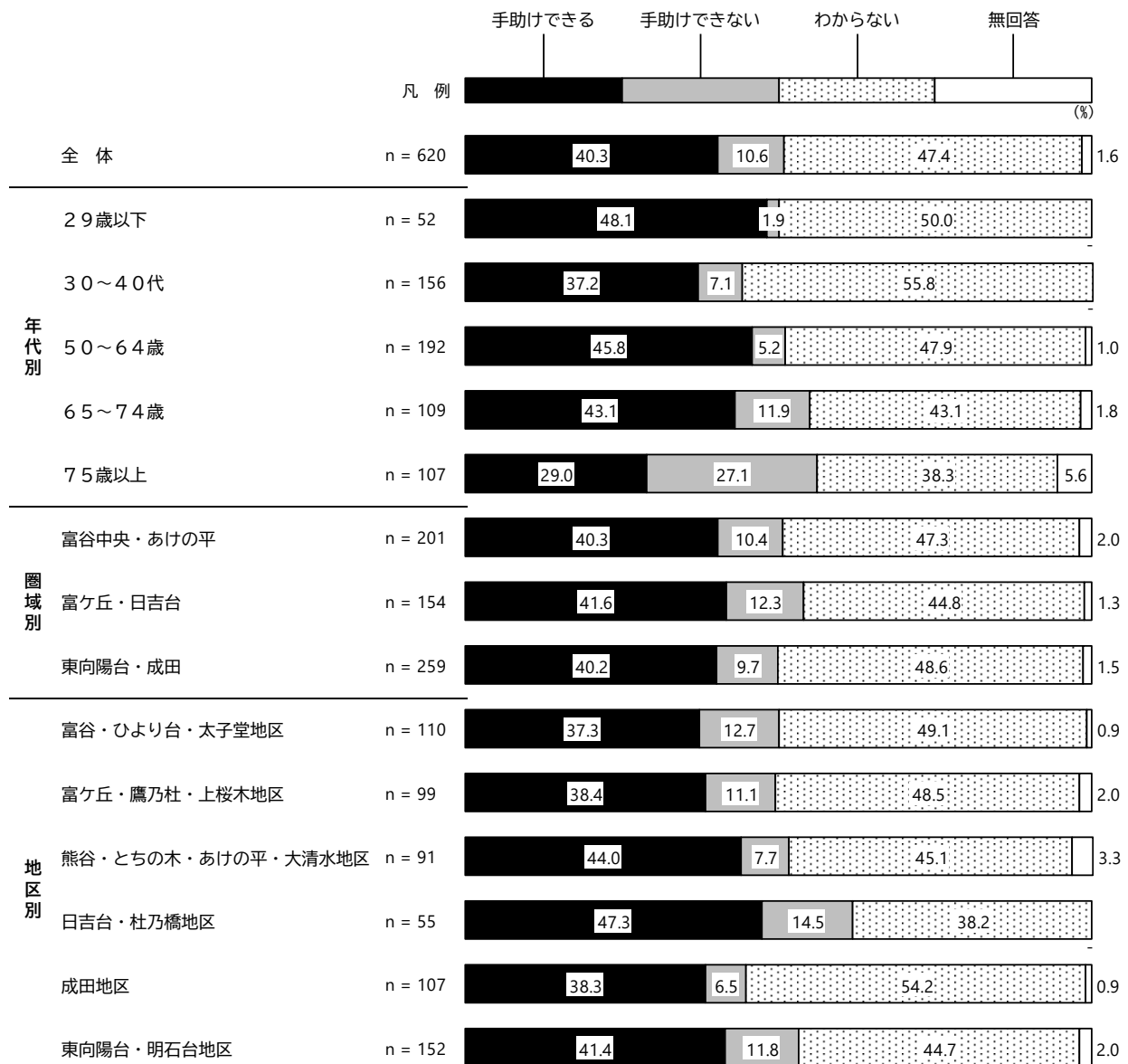
問 32② 災害時に支援を必要とする人の手助けができますか。（1 つに○）



Ⅱ 調査結果（市民）

【年代別・圏域別・地区別／災害時に支援を必要とする人の手助けができるか】

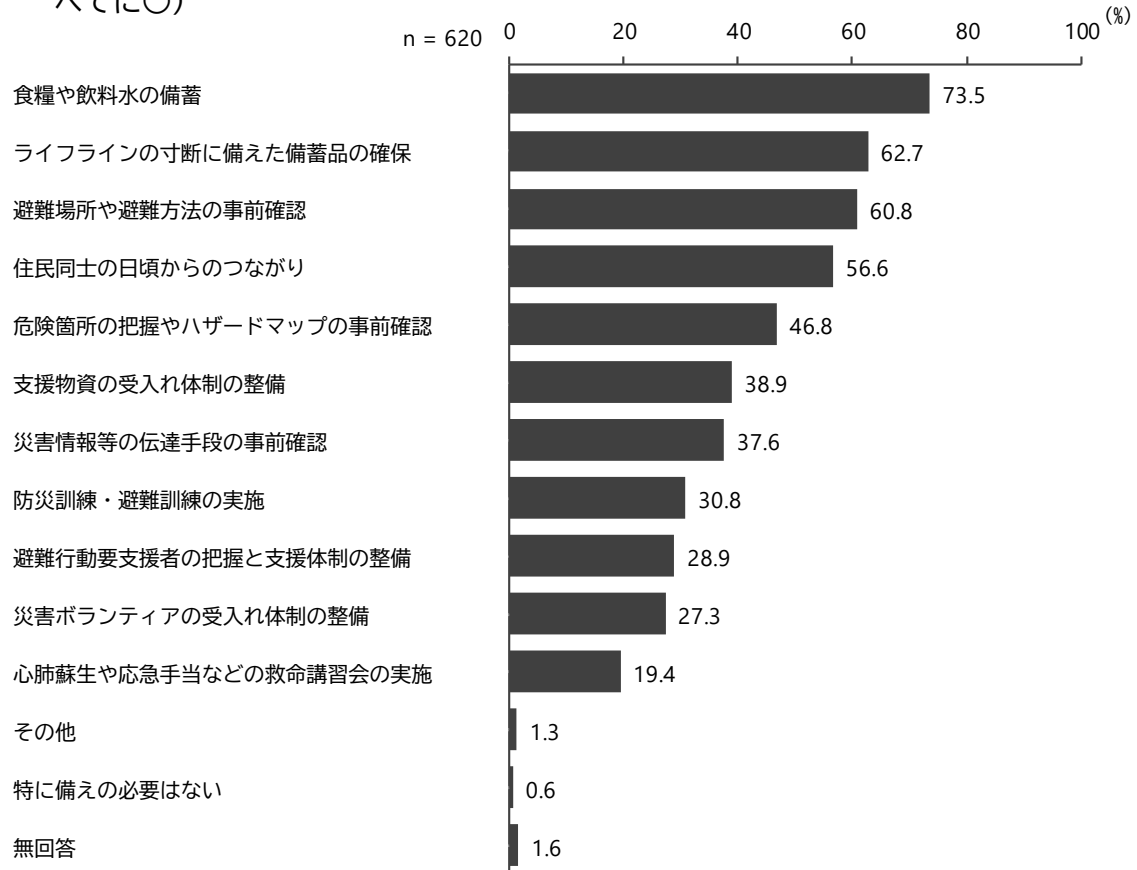
- ▶ 年代別にみると、『75歳以上』では「手助けできない」(27.1%)が他の年代と比べて高くなっている。



6-3 災害に対して地域で必要だと思う備え

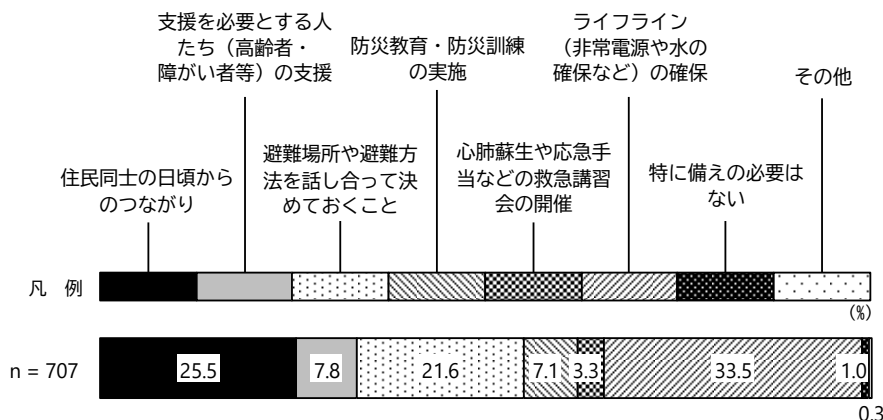
- ▶ 災害に対して地域で必要だと思う備えについては、「食糧や飲料水の備蓄」が73.5%と最も高く、次いで、「ライフラインの寸断に備えた備蓄品の確保」（62.7%）、「避難場所や避難方法の事前確認」（60.8%）となっている。

問 33 災害に対して、地域で必要だと思う備えはどれだと思いますか。（あてはまるものすべてに○）



【参考】学生アンケートの結果 ※単一回答設問として聴取

- ▶ 災害に対して地域で必要だと思う備えについては、「ライフライン（非常電源や水の確保等）の確保」が33.5%と最も高く、次いで「住民同士の日頃からのつながり」（25.5%）、「避難場所や避難方法を話し合っておくこと」（21.6%）であった。



※学生アンケートの結果は「Ⅳ 調査結果（学生）2-6（127ページ）」参照。

II 調査結果（市民）

【年代別・圏域別・地区別／災害に対して地域で必要だと思う備え】

- ▶ 年代別にみると、『30～40代』では「住民同士の日頃からのつながり」（46.2％）が他の年代と比べて低くなっている。また、『75歳以上』では「ライフラインの寸断に備えた備蓄品の確保」（48.6％）などが他の年代と比べて低くなっている。
- ▶ 圏域別にみると、『富谷中央・あけの平』では「ライフラインの寸断に備えた備蓄品の確保」（54.7％）が他の圏域と比べて低くなっている。
- ▶ 地区別にみると、『日吉台・杜乃橋地区』、『成田地区』では「ライフラインの寸断に備えた備蓄品の確保」が7割台前半、「支援物資の受入れ体制の整備」が4割台後半と、それぞれ他の地区と比べてやや高くなっている。『富谷・ひより台・太子堂地区』、『富ヶ丘・鷹乃杜・上桜木地区』では「防災訓練・避難訓練の実施」が2割台前半と他の地区と比べてやや低くなっている。

		n	食糧や飲料水の備蓄	ライフラインの寸断に備えた備蓄品の確保	避難場所や避難方法の事前確認	住民同士の日頃からのつながり	危険箇所の把握やハザードマップの事前確認	支援物資の受入れ体制の整備	災害情報等の伝達手段の事前確認	防災訓練・避難訓練の実施	避難行動要支援者の把握と支援体制の整備	災害ボランティアの受入れ体制の整備	救命心肺蘇生や応急手当などの救命講習会の実施	その他	特に備えの必要はない	無回答
全 体		620	73.5	62.7	60.8	56.6	46.8	38.9	37.6	30.8	28.9	27.3	19.4	1.3	0.6	1.6
年 代 別	29歳以下	52	78.8	67.3	61.5	59.6	50.0	42.3	36.5	28.8	30.8	32.7	26.9	1.9	-	-
	30～40代	156	75.0	62.8	67.3	46.2	59.0	35.9	35.9	23.1	24.4	25.6	16.7	0.6	0.6	-
	50～64歳	192	74.5	68.8	59.9	57.8	46.9	44.8	38.5	37.0	34.4	33.3	22.9	0.5	0.5	1.0
	65～74歳	109	67.9	64.2	56.0	59.6	40.4	39.4	45.0	34.9	36.7	26.6	19.3	1.8	1.8	3.7
	75歳以上	107	72.9	48.6	57.0	63.6	33.6	29.9	30.8	26.2	15.9	15.0	12.1	2.8	-	3.7
圏 域 別	富谷中央・あけの平	201	68.7	54.7	57.7	56.7	46.3	34.8	32.3	27.4	21.4	26.9	15.4	1.5	1.0	2.0
	富ヶ丘・日吉台	154	74.0	64.9	64.3	55.2	45.5	40.3	39.0	26.6	29.9	25.3	16.9	0.6	-	1.9
	東向陽台・成田	259	76.8	66.8	60.6	57.5	47.9	41.3	40.9	35.9	33.6	28.2	23.6	1.5	0.8	1.2
地 区 別	富谷・ひより台・太子堂地区	110	70.9	56.4	50.9	59.1	40.9	37.3	32.7	22.7	19.1	29.1	11.8	0.9	-	1.8
	富ヶ丘・鷹乃杜・上桜木地区	99	70.7	60.6	61.6	53.5	45.5	37.4	35.4	23.2	29.3	25.3	15.2	1.0	-	3.0
	熊谷・とちの木・あけの平・大清水地区	91	65.9	52.7	65.9	53.8	52.7	31.9	31.9	33.0	24.2	24.2	19.8	2.2	2.2	2.2
	日吉台・杜乃橋地区	55	80.0	72.7	69.1	58.2	45.5	45.5	45.5	32.7	30.9	25.5	20.0	-	-	-
	成田地区	107	77.6	71.0	66.4	58.9	46.7	47.7	42.1	34.6	30.8	33.6	27.1	2.8	0.9	-
	東向陽台・明石台地区	152	76.3	63.8	56.6	56.6	48.7	36.8	40.1	36.8	35.5	24.3	21.1	0.7	0.7	2.0

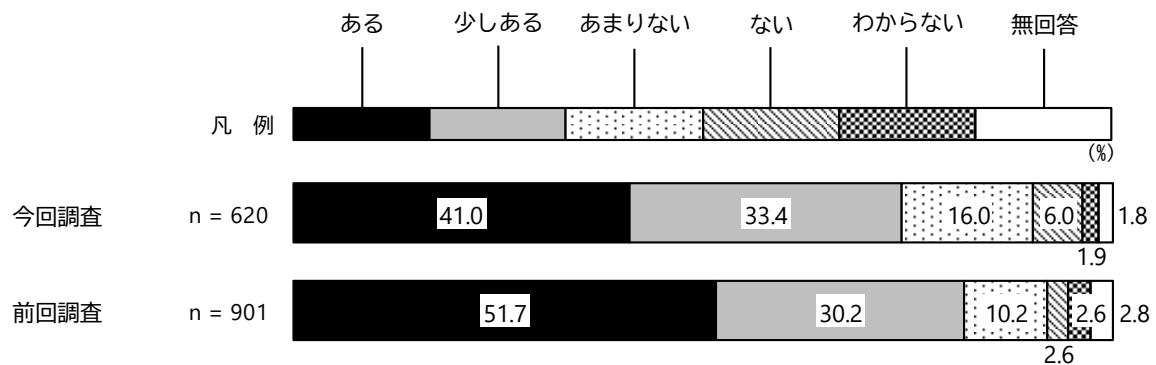
7 こころの健康について

7-1 趣味などの生きがい

- ▶ 趣味などの生きがいについては、「ある」が 41.0%と最も高く、次いで、「少しある」（33.4%）、「あまりない」（16.0%）となっている。

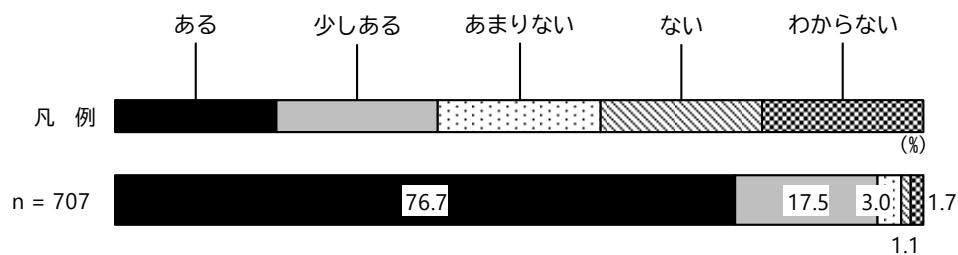
問 34 以下について、日常生活の中であてはまるものはどれですか。（1つに○）

①趣味などの生きがい



【参考】学生アンケートの結果

- ▶ 趣味などの楽しみについては、「ある」が 76.7%と最も高く、次いで「少しある」が 17.5%であった。

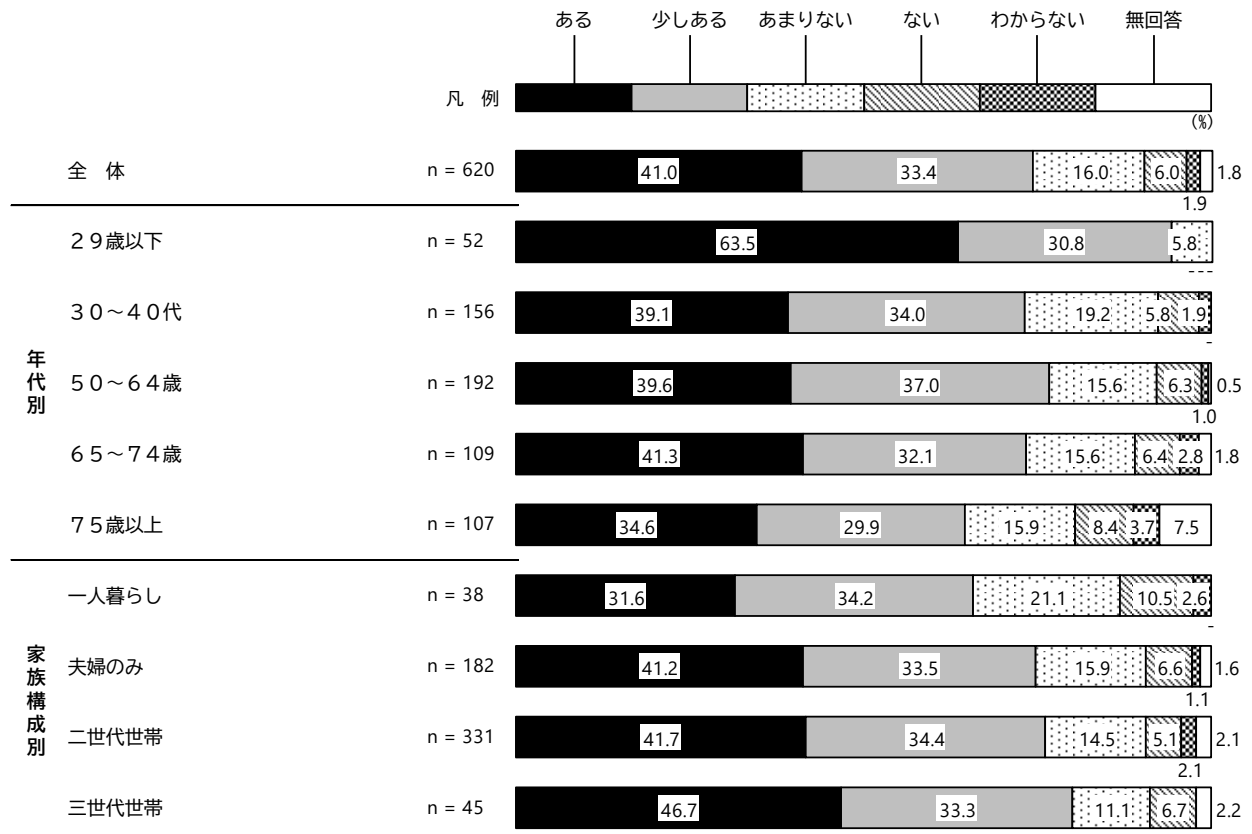


※学生アンケートの結果は「Ⅳ 調査結果（学生）2-11（131ページ）」参照。

Ⅱ 調査結果（市民）

【年代別・家族構成別／趣味などの生きがい】

- ▶ 年代別にみると、『29歳以下』では「ある」（63.5％）が他の年代と比べ高くなっている。

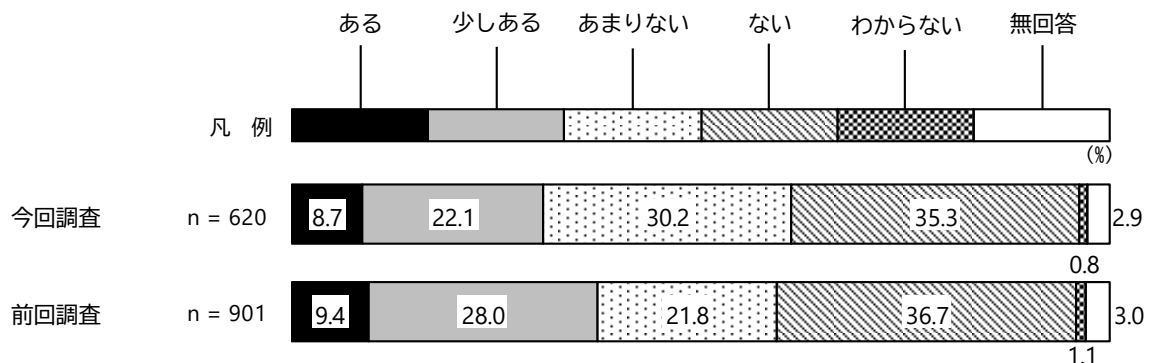


7-2 眠れないこと

- ▶ 眠れないことについては、「ない」が 35.3%と最も高く、次いで、「あまりない」(30.2%)、「少しある」(22.1%) となっている。

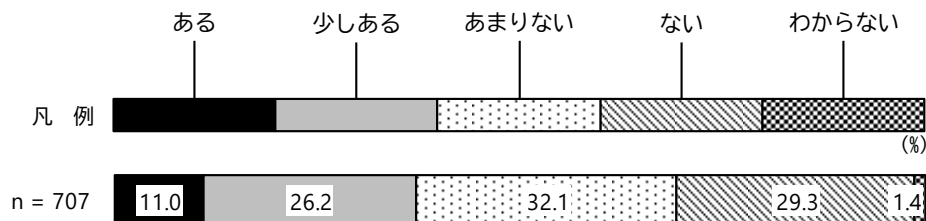
問 34 以下について、日常生活の中であてはまるものはどれですか。（1つに○）

②眠れないこと



【参考】学生アンケートの結果

- ▶ 学生アンケートでは、眠れないことについて「あまりない」が 32.1%と最も高かったが、概ね市民アンケートと同様の傾向であった。

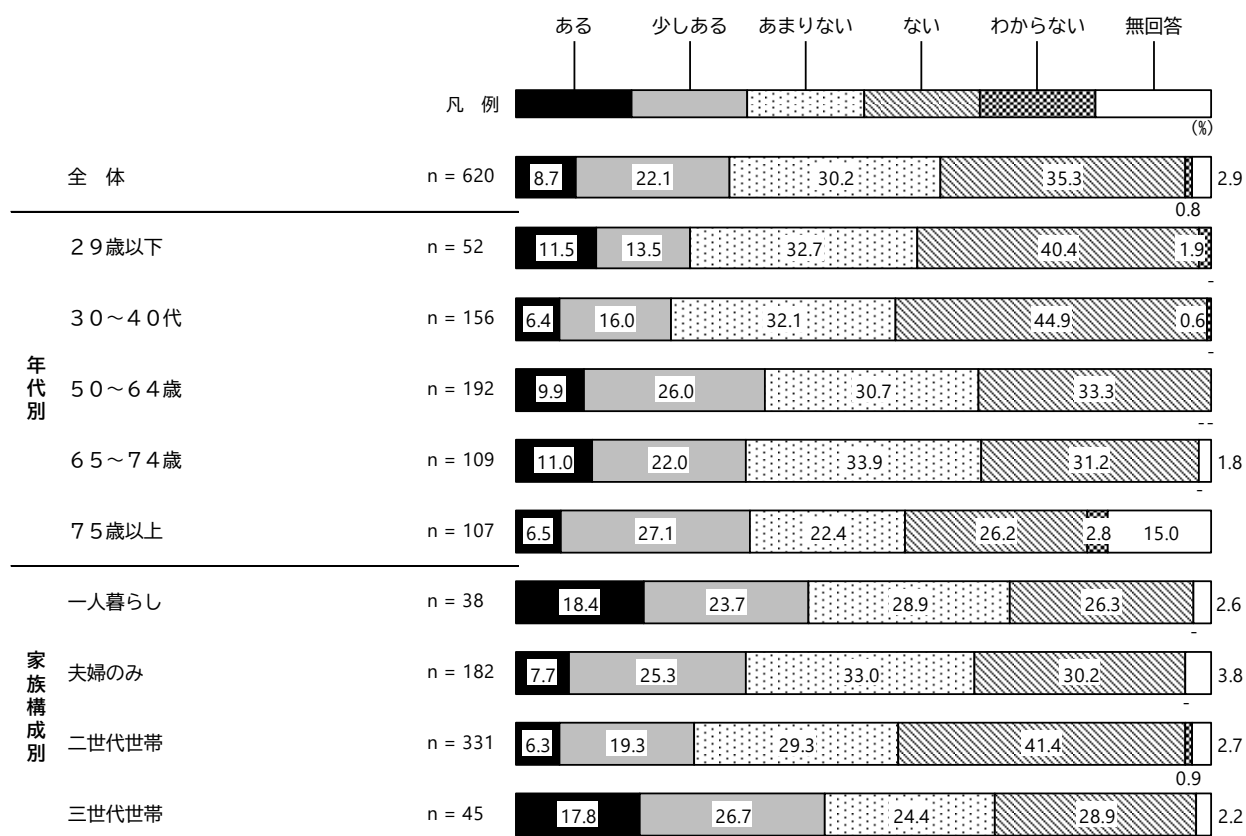


※学生アンケートの結果は「Ⅳ 調査結果（学生）2-11（131ページ）」参照。

Ⅱ 調査結果（市民）

【年代別・家族構成別／眠れないこと】

- ▶ 年代別にみると、概ね全体と同様の傾向となっているが、「少しある」は、年代が上がるにつれて概ね高くなっており、「あまりない」、「ない」は、年代が上がるにつれて概ね低くなっている。
- ▶ 家族構成別にみると、『一人暮らし』では「ある」が18.4%と最も高くなっている。

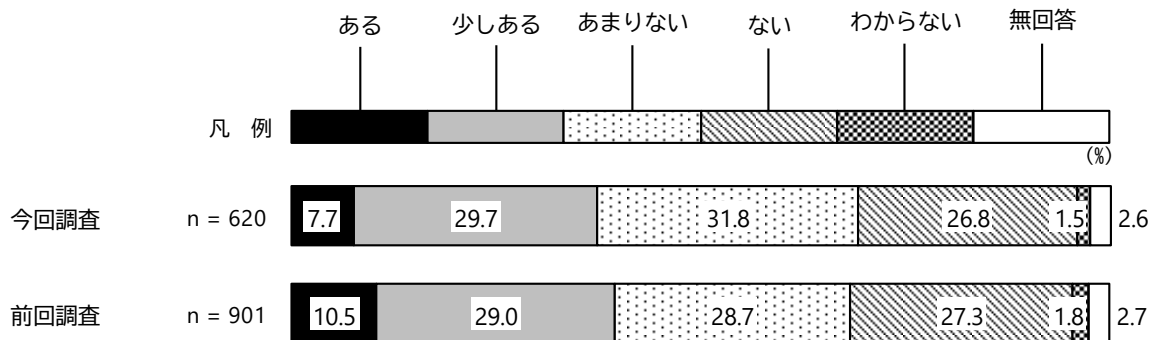


7-3 気分が沈み、気が晴れないように感じること

- ▶ 気分が沈み、気が晴れないように感じることは、「あまりない」が31.8%と最も高く、次いで、「少しある」（29.7%）、「ない」（26.8%）となっている。

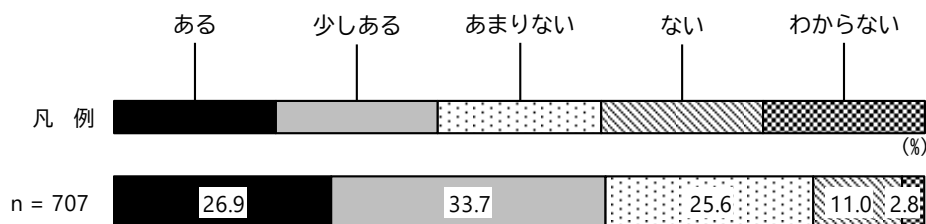
問 34 以下について、日常生活の中であてはまるものはどれですか。（1つに○）

③気分が沈み、気が晴れないように感じること



【参考】学生アンケートの結果

- ▶ 気分が沈み、気が晴れないように感じることは、「少しある」が33.7%で最も高く、次いで、「ある」（26.9%）、「あまりない」（25.6%）となっている。
- ▶ 市民アンケートと比較すると、「ある」、「少しある」がいずれも高い結果であった。

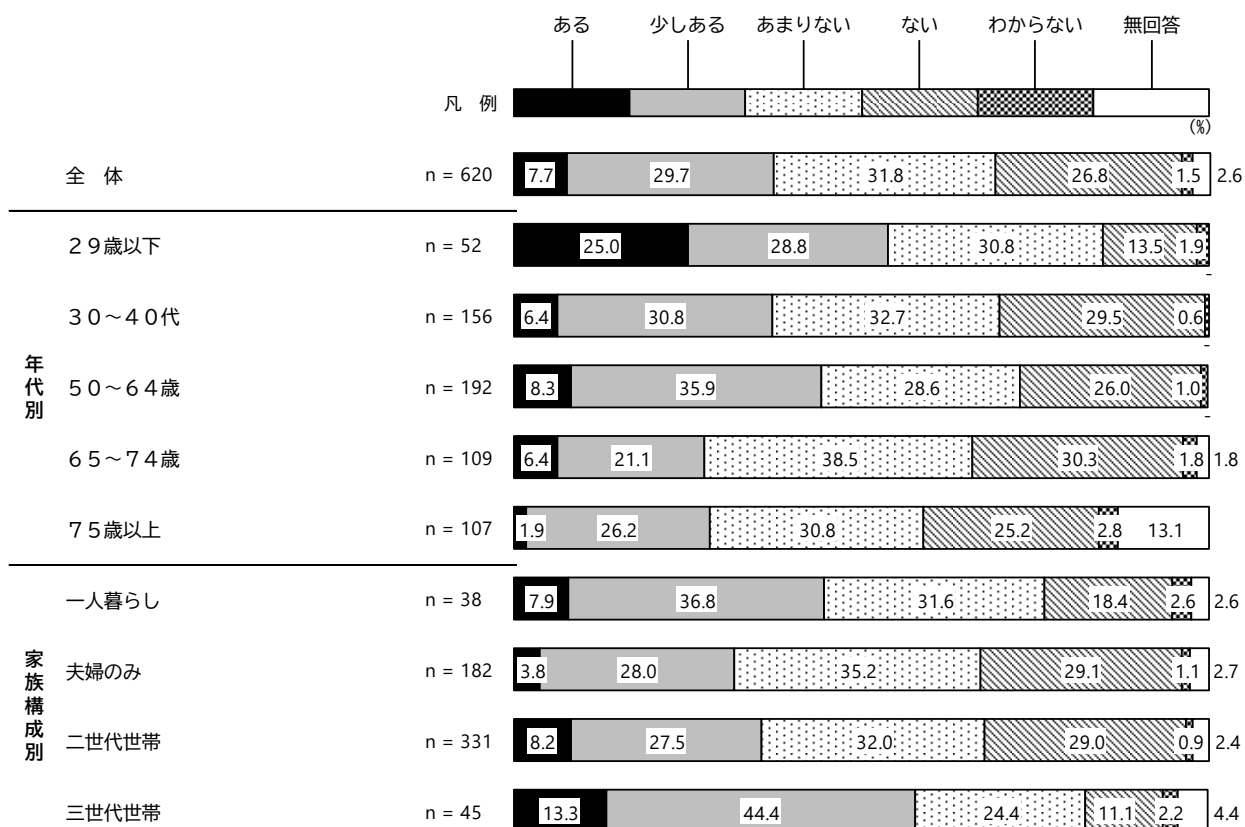


※学生アンケートの結果は「Ⅳ 調査結果（学生）2-11（131ページ）」参照。

Ⅱ 調査結果（市民）

【年代別・家族構成別／気分が沈み、気が晴れないように感じること】

- ▶ 年代別にみると、『29歳以下』では「ある」（25.0％）が他の年代と比べて高くなっており、「ない」（13.5％）が他の年代と比べて低くなっている。
- ▶ 家族構成別にみると、『夫婦のみ』、『二世世代世帯』では「ない」が約3割と他の家族構成と比べて高くなっている。

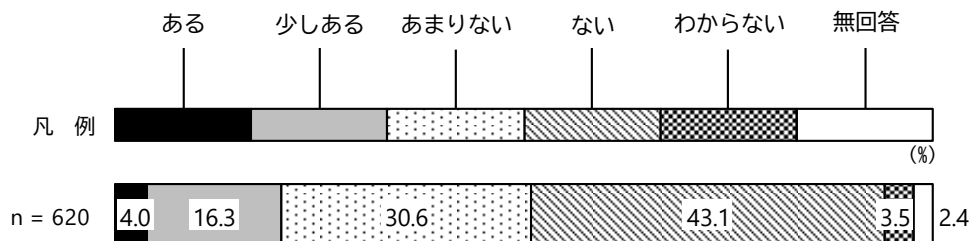


7-4 自分は価値のない人間だと感じる事

- ▶ 自分は価値のない人間だと感じる事については、「ない」が43.1%と最も高く、次いで、「あまりない」(30.6%)、「少しある」(16.3%)となっている。

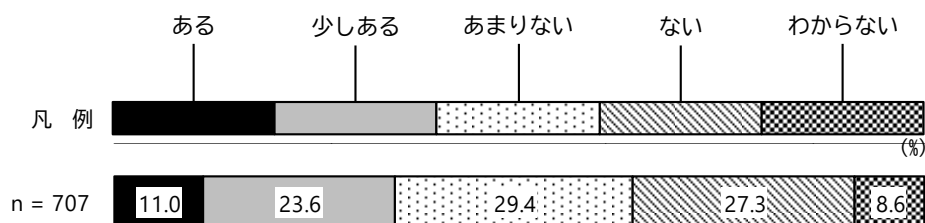
問 34 以下について、日常生活の中であてはまるものはどれですか。（1つに○）

④自分は価値のない人間だと感じる事



【参考】学生アンケートの結果

- ▶ 自分は価値のない人間だと感じる事については、「あまりない」が29.4%と最も高かったが、「ある」(11.0%)、「少しある」(23.6%)の割合が市民アンケートと比較して高い結果であった。
- ▶ 市民アンケートと比較すると、「ある」、「少しある」がいずれも高い結果であった。

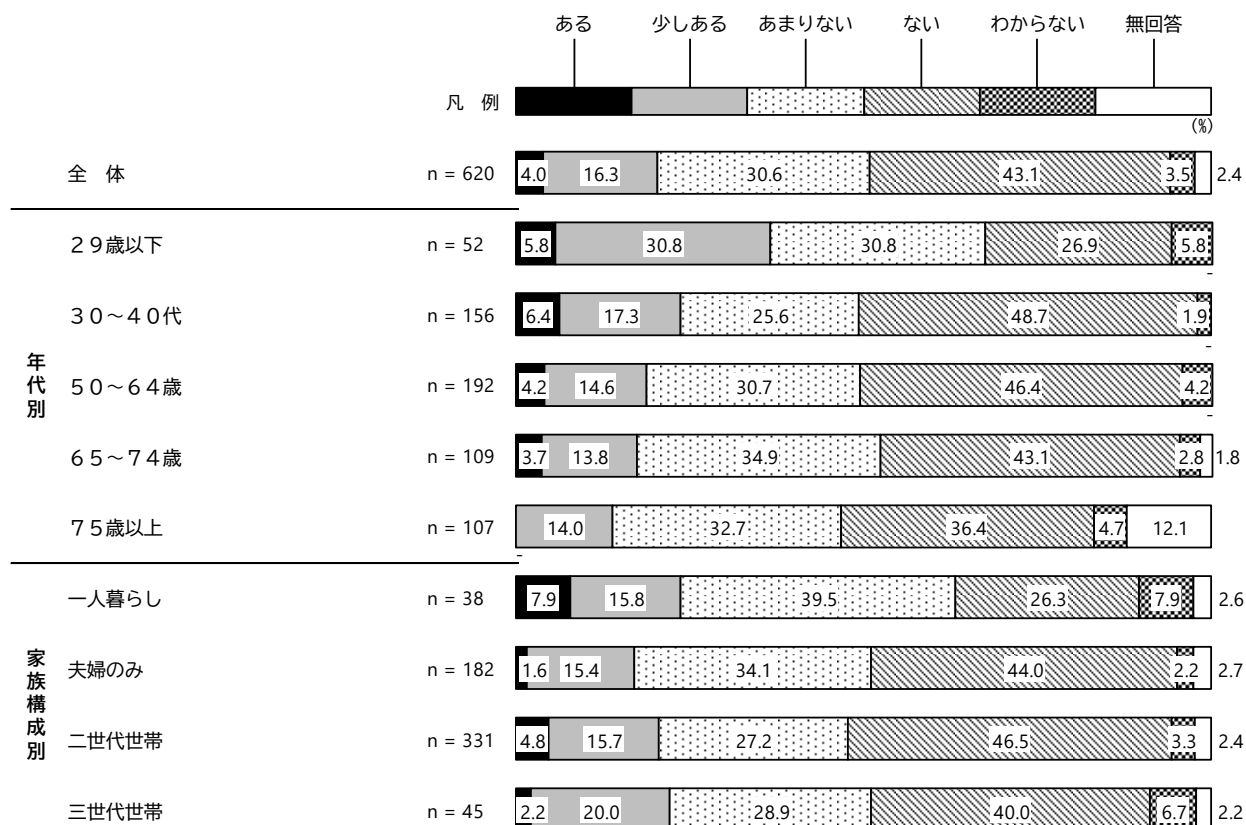


※学生アンケートの結果は「Ⅳ 調査結果（学生）2-11（131ページ）」参照。

Ⅱ 調査結果（市民）

【年代別・家族構成別／自分は価値のない人間だと感じること】

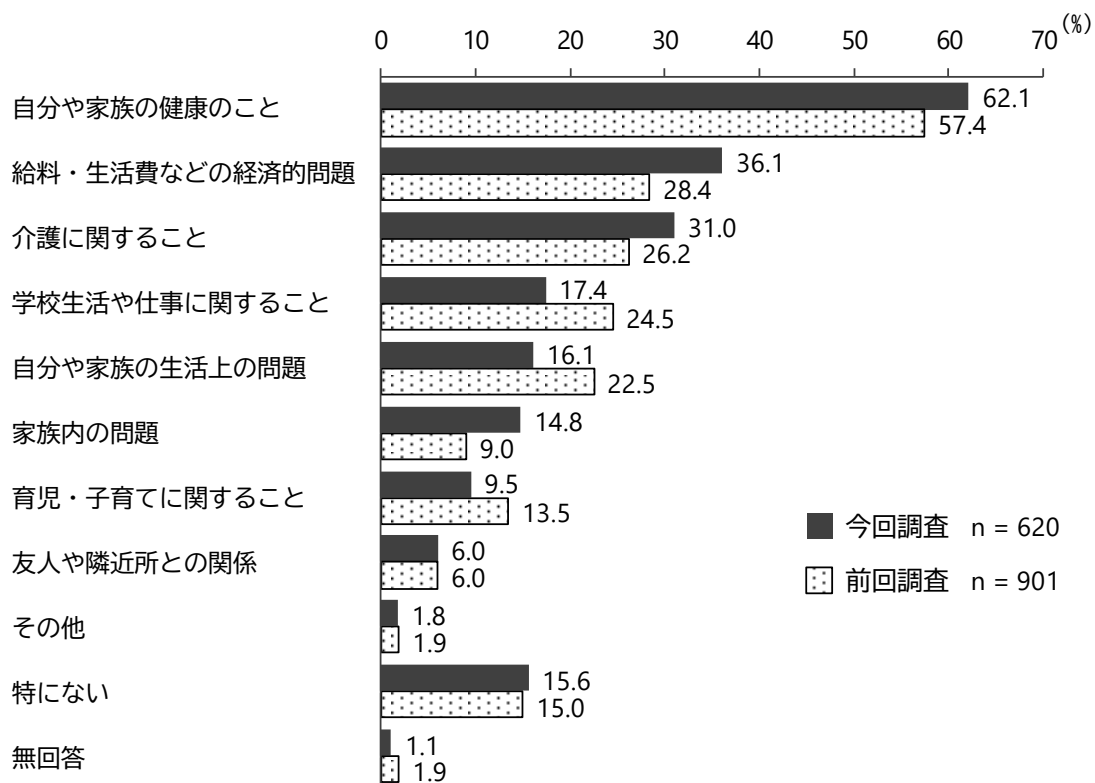
- ▶ 年代別にみると、『29歳以下』では、「ある」（5.8%）、「少しある」（30.8%）のいずれも他の年代よりも高くなっている。また、「ある」は、概ね年代が上がるにつれて低くなっている。
- ▶ 家族構成別にみると、『一人暮らし』では「ある」（7.9%）が他の家族構成と比べて高くなっている。



7-5 毎日の暮らしの中での不安や悩み

- ▶ 毎日の暮らしの中での不安や悩みについては、「自分や家族の健康のこと」が62.1%と最も高く、次いで、「給料・生活費などの経済的問題」（36.1%）、「介護に関すること」（31.0%）となっている。なお、「特にない」が15.6%となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「給料・生活費などの経済的問題」がやや高くなっており、「学校生活や仕事に関すること」がやや低くなっている。

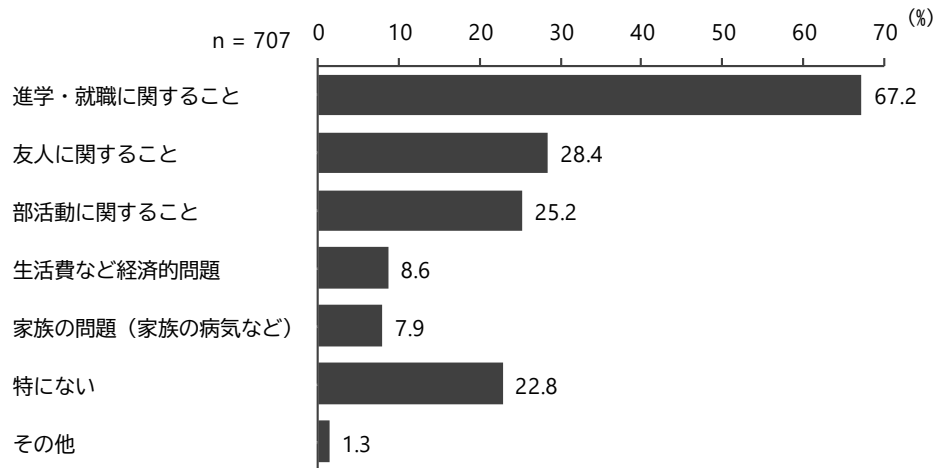
問 35 あなたは、毎日の暮らしの中で、次のようなことに不安や悩みを感じていますか。（あてはまるものすべてに○）



Ⅱ 調査結果（市民）

【参考】学生アンケートの結果

- ▶ 毎日の暮らしの中での不安や悩みについては、「進学・就職に関すること」が67.2%と最も高く、次いで「友人に関すること」（28.4%）、「部活動に関すること」（25.2%）であった。一方で、「特にない」も22.8%であった。



※学生アンケートの結果は「Ⅳ 調査結果（学生）2-12（132ページ）」参照。

【年代別・家族構成別／毎日の暮らしの中での不安や悩み】

- ▶ 年代別にみると、50歳以上では「自分や家族の健康のこと」が6割以上、「介護に関すること」が3割以上と他の年代と比べて高くなっている。『30～40代』では「育児・子育てに関すること」（30.1%）が他の年代と比べて高くなっている。
- ▶ 家族構成別にみると、『二世帯世帯』、『三世帯世帯』では「自分や家族の生活上の問題」が2割台、「育児・子育てに関すること」が1割台半ばと他の家族構成と比べて高くなっている。『三世帯世帯』では「家族内の問題」（33.3%）が他の家族構成と比べて高くなっている。

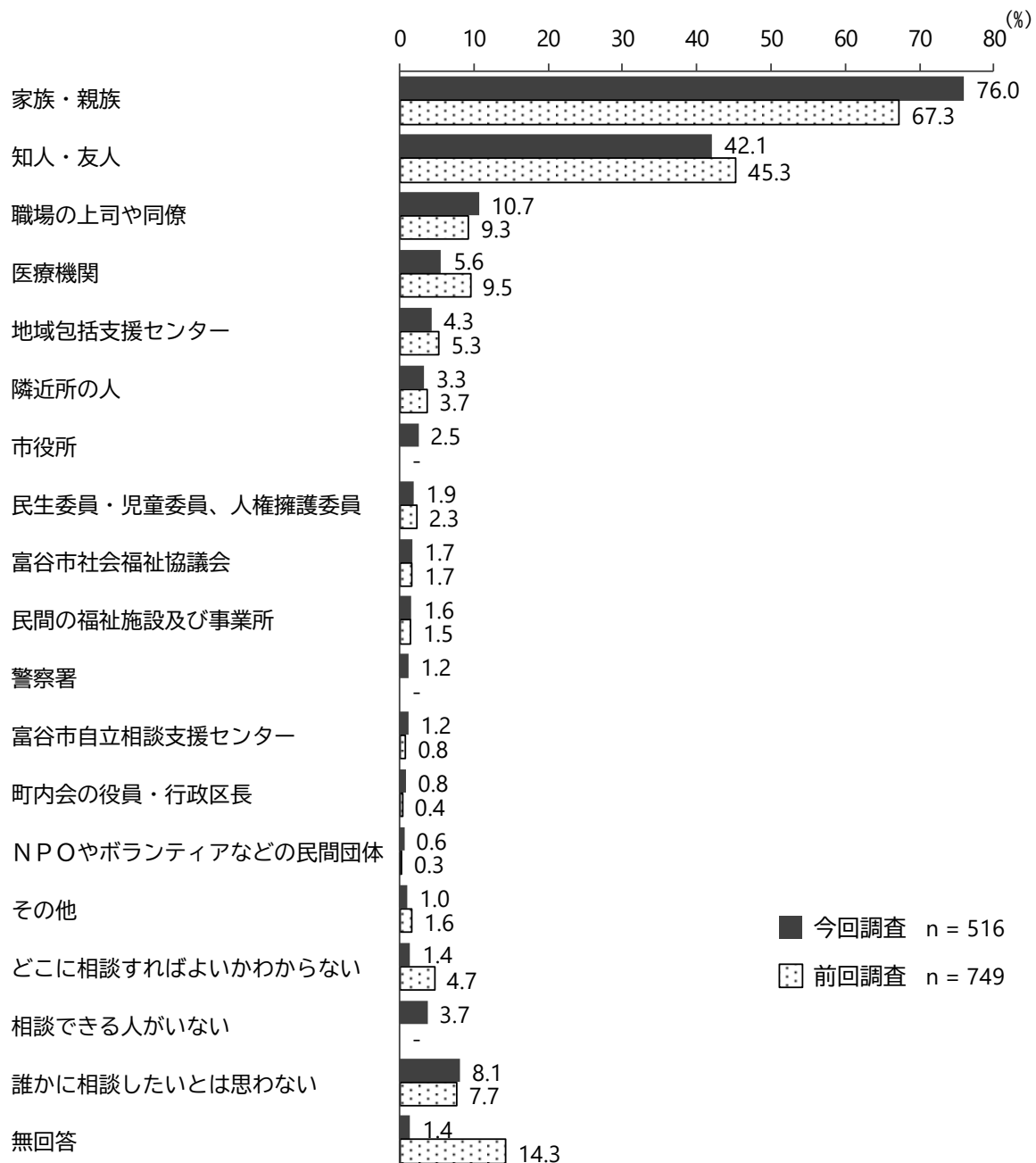
		n	自分や家族の健康のこと	給料・生活費などの経済的問題	介護に関すること	と学校生活や仕事に関すること	自分や家族の生活上の問題	家族内の問題	育児・子育てに関すること	友人や隣近所との関係	その他	特にない	無回答
全 体		620	62.1	36.1	31.0	17.4	16.1	14.8	9.5	6.0	1.8	15.6	1.1
年 代 別	29歳以下	52	34.6	36.5	7.7	36.5	38.5	19.2	7.7	1.9	1.9	17.3	-
	30～40代	156	50.6	49.4	18.6	31.4	25.6	19.9	30.1	4.5	2.6	10.9	0.6
	50～64歳	192	73.4	39.6	40.6	19.3	13.0	14.6	4.2	5.2	1.6	14.1	-
	65～74歳	109	70.6	31.2	33.9	1.8	9.2	9.2	-	10.1	1.8	17.4	1.8
	75歳以上	107	62.6	15.9	40.2	0.9	3.7	10.3	-	6.5	0.9	22.4	3.7
家 族 構 成 別	一人暮らし	38	60.5	34.2	36.8	18.4	10.5	10.5	-	15.8	5.3	15.8	2.6
	夫婦のみ	182	69.2	27.5	29.7	8.2	4.9	10.4	2.2	5.5	1.1	20.3	1.1
	二世帯世帯	331	58.3	39.6	31.4	21.1	21.8	15.1	14.2	4.5	1.5	13.9	0.9
	三世帯世帯	45	64.4	46.7	35.6	33.3	26.7	33.3	15.6	6.7	2.2	6.7	2.2

7-6 不安や悩みの相談先

- ▶ 不安や悩みの相談先については、「家族・親族」が76.0%と最も高く、次いで、「知人・友人」（42.1%）、「職場の上司や同僚」（10.7%）となっている。

【問35で「1」～「9」を選択した方にお聞きします】

問36 不安や悩みについて誰に相談しますか。（あてはまるものすべてに○）



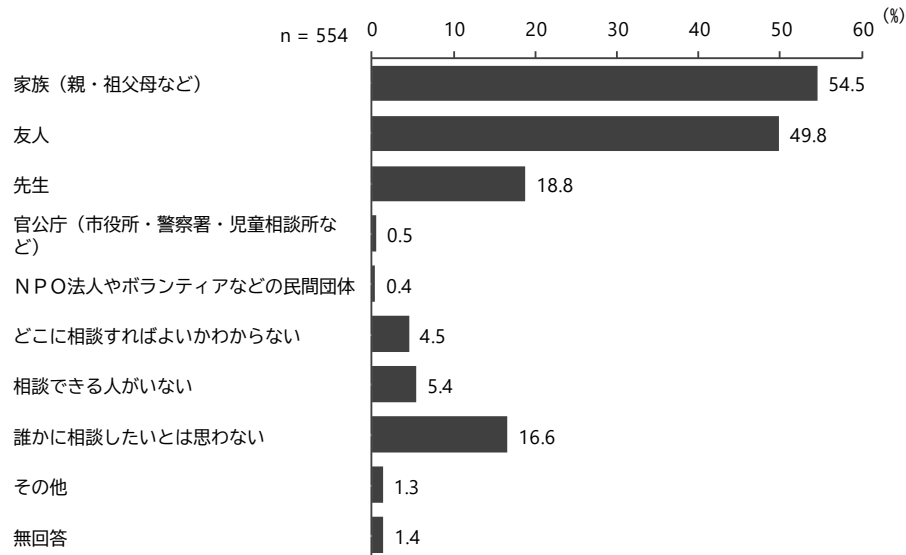
※「相談できる人がいない」は今回調査で追加された選択肢であり、前回調査では未聴取。

※前回調査の選択肢「市役所・警察署」（2.1%）は今回調査では未聴取。

Ⅱ 調査結果（市民）

【参考】学生アンケートの結果

- ▶ 不安や悩みの相談先については、「家族（親・祖父母など）」が 54.5%と最も高く、次いで「友人」（49.8%）であった。
- ▶ 「誰かに相談したいと思わない」が 16.6%であった。



※学生アンケートの結果は「Ⅳ 調査結果（学生）2-13（133ページ）」参照。

【年代別・家族構成別／不安や悩みの相談先】

- ▶ 年代別にみると、「知人・友人」は年代が上がるにつれて概ね低くなっており、「医療機関」、「地域包括支援センター」、「富谷市社会福祉協議会」は年代が上がるにつれて高くなっている。
- ▶ 家族構成別にみると、「知人・友人」は、世帯構成が多世代になるにつれて高くなっており、「誰かに相談したいと思わない」は世帯構成が多世代になるにつれて低くなっている。また、『一人暮らし』では「家族・親族」（48.4%）が他の年代と比べて低くなっており、「相談できる人がいない」（16.1%）が他の年代と比べて高くなっている。

		n	家族・親族	知人・友人	職場の上司や同僚	医療機関	地域包括支援センター	隣近所の人	市役所	擁護委員・民生委員・児童委員・人権	富谷市社会福祉協議会	民間の福祉施設及び事業所	その他	どこに相談すればよいかわからない	相談できる人がいない	誰かに相談したいと思わない	無回答
全 体		516	76.0	42.1	10.7	5.6	4.3	3.3	2.5	1.9	1.7	1.6	1.0	1.4	3.7	8.1	1.4
年代別	29歳以下	43	65.1	69.8	14.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.3	11.6	-
	30～40代	138	76.1	43.5	17.4	1.4	0.7	2.9	-	0.7	-	2.2	-	0.7	5.1	10.9	-
	50～64歳	165	77.6	44.8	12.7	6.1	3.0	3.0	3.0	0.6	0.6	0.6	1.2	1.2	4.8	6.7	1.2
	65～74歳	88	76.1	33.0	3.4	8.0	5.7	2.3	3.4	1.1	1.1	3.4	1.1	-	-	10.2	1.1
	75歳以上	79	78.5	29.1	1.3	12.7	13.9	7.6	6.3	8.9	8.9	1.3	2.5	5.1	3.8	2.5	3.8
家族構成別	一人暮らし	31	48.4	35.5	9.7	-	9.7	9.7	9.7	6.5	-	-	-	3.2	16.1	12.9	6.5
	夫婦のみ	143	79.7	37.8	7.0	7.0	4.9	2.8	2.8	2.8	0.7	1.4	0.7	1.4	2.8	9.8	2.1
	二世帯世帯	282	78.0	44.3	13.5	5.3	3.2	3.2	1.8	1.4	2.1	1.1	1.1	0.7	3.2	6.7	0.4
	三世帯世帯	41	87.8	48.8	9.8	7.3	7.3	2.4	-	-	4.9	4.9	-	2.4	-	4.9	-

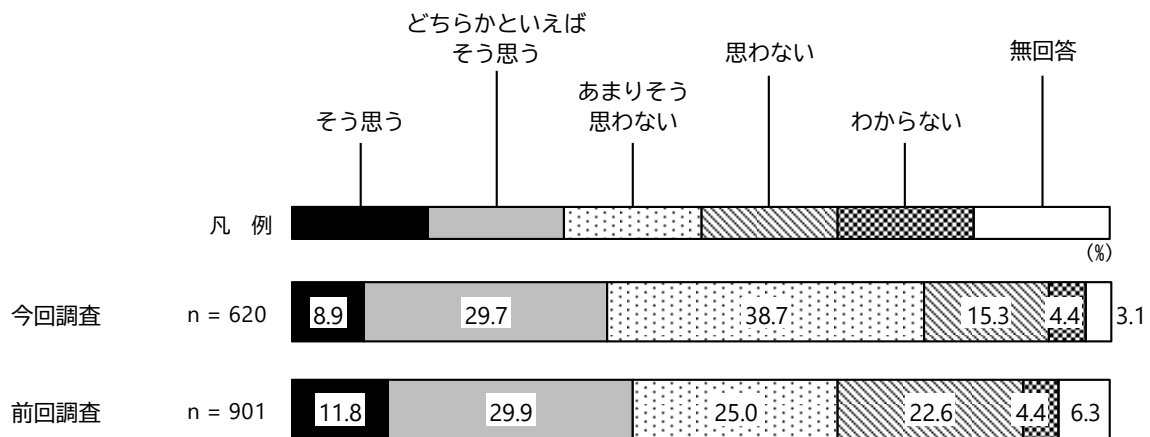
※上位 10 項目および「その他」、いずれもあてはまらない、無回答を抜粋して掲載している。

7-7 不安や悩みを人に相談・支援を求めることのためらい

- ▶ 不安や悩みを人に相談・支援を求めることのためらいについては、「あまりそう思わない」が38.7%と最も高く、次いで、「どちらかといえばそう思う」(29.7%)、「思わない」(15.3%)となっている。

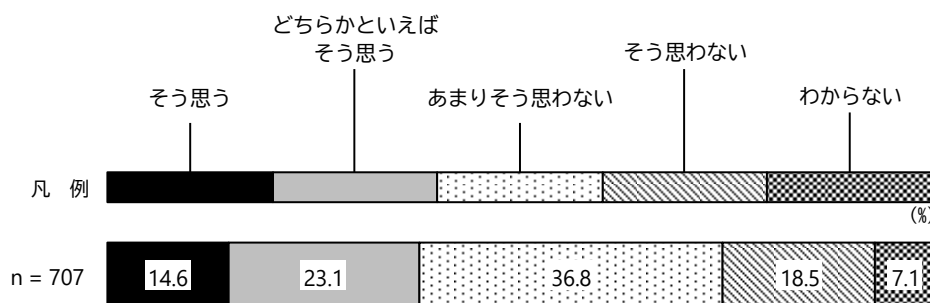
【すべての方にお聞きします】

問 37 あなたは不安や悩みを感じたときに、誰かに相談したり、助けを求めたりすることにためらいを感じますか。（1 つに○）



【参考】学生アンケートの結果

- ▶ 不安や悩みを人に相談・支援を求めることのためらいについては、「あまりそう思わない」が36.8%と最も高く、市民アンケートと同様の傾向であったが、「そう思う」が14.6%と市民アンケートの約1.6倍であった。

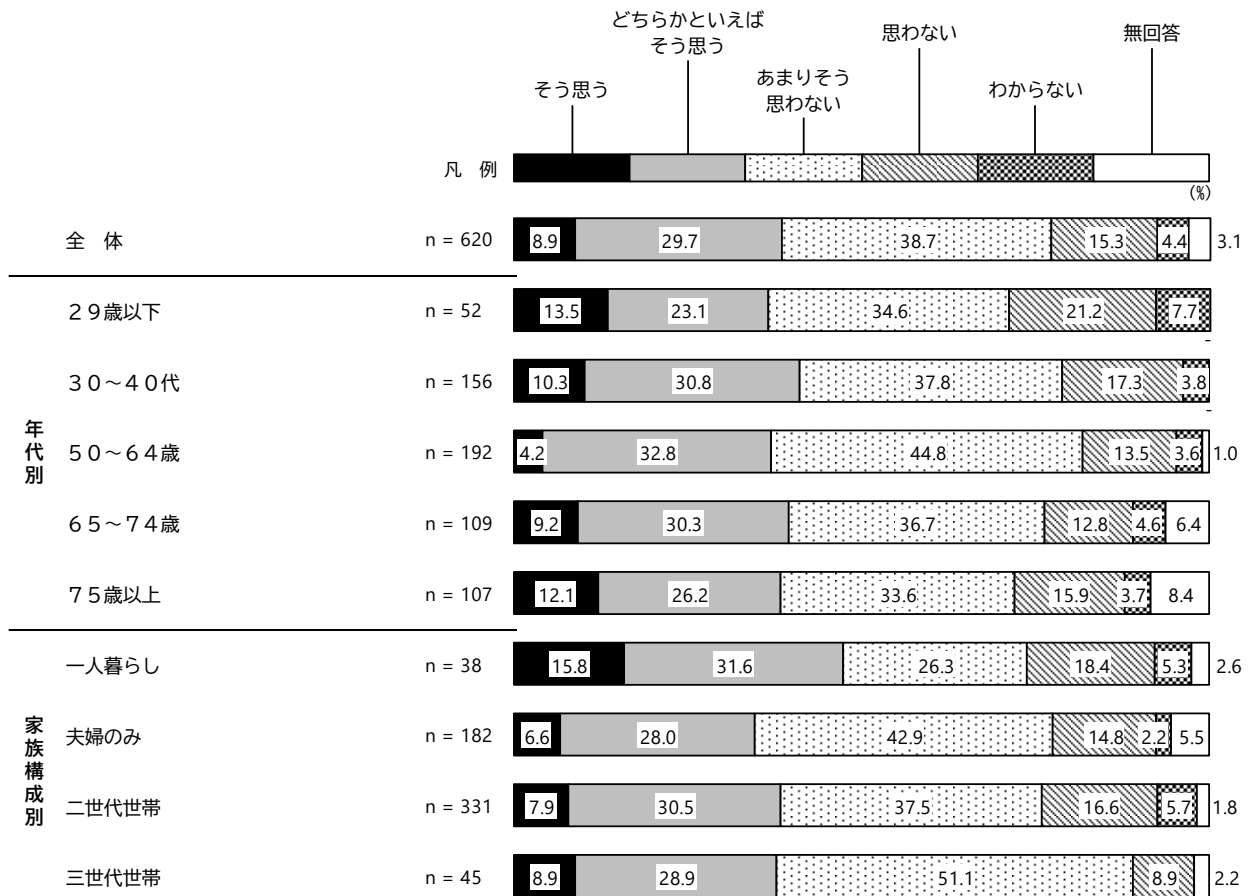


※学生アンケートの結果は「Ⅳ 調査結果（学生）2-14（134ページ）」参照。

Ⅱ 調査結果（市民）

【年代別・家族構成別／不安や悩みを人に相談・支援を求めることのためらい】

- ▶ 年代別にみると、「そう思う」は年代が上がるにつれて概ね低くなっている。
- ▶ 家族構成別にみると、『一人暮らし』では「そう思う」（15.8%）、「どちらかといえばそう思う」（31.6%）が他の家族構成と比べて高くなっている。

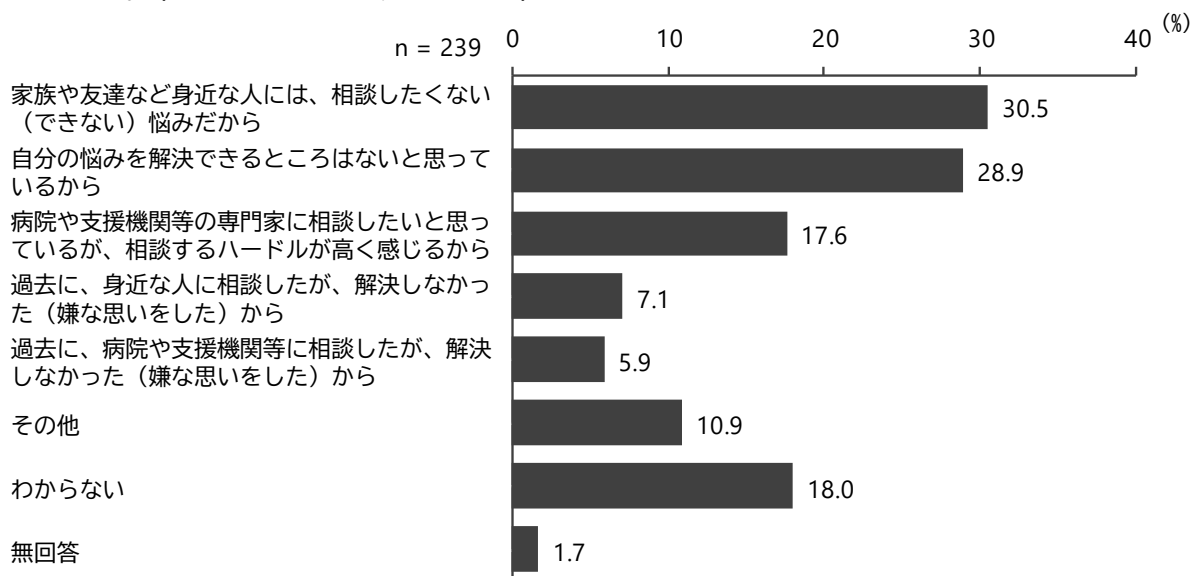


7-8 誰かに悩みを相談したり、助けを求めたりすることにためらいを感じる理由

- ▶ 誰かに悩みを相談したり、助けを求めたりすることにためらいを感じる理由については、「家族や友達など身近な人には、相談したくない（できない）悩みだから」が30.5%と最も高く、次いで、「自分の悩みを解決できるところはないと思っているから」（28.9%）、「病院や支援機関等の専門家に相談したいと思っているが、相談するハードルが高く感じるから」（17.6%）となっている。

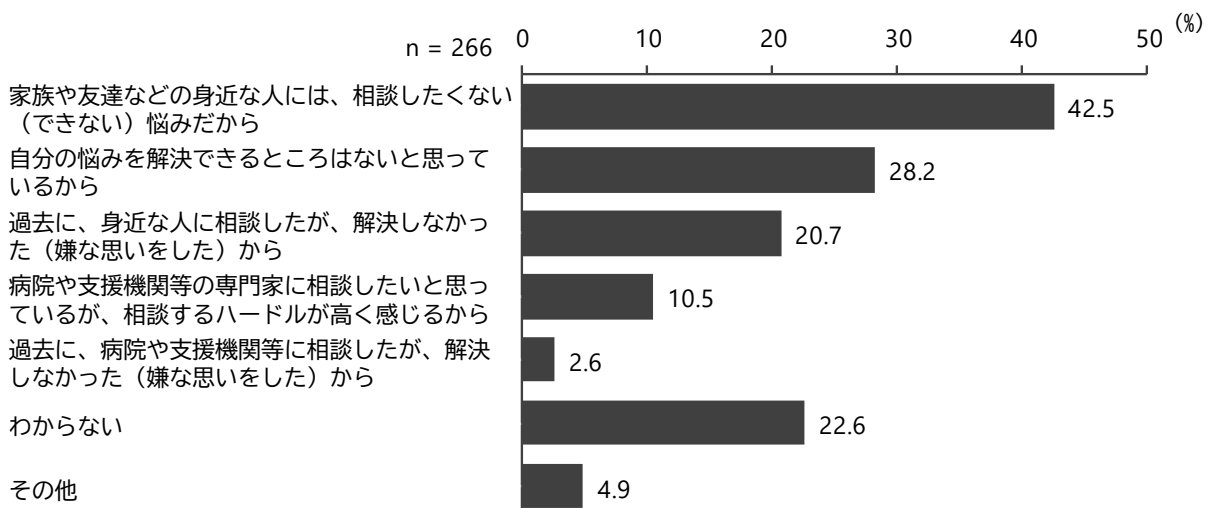
【問37で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を選んだ方にお聞きします】

問38 誰かに悩みを相談したり、助けを求めたりすることにためらいを感じる理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）



【参考】学生アンケートの結果

- ▶ 誰かに悩みを相談したり、助けを求めたりすることにためらいを感じる理由については、「家族や友達など身近な人には、相談したくない（できない）悩みだから」が42.5%と最も高く、市民アンケートと同様の傾向であった。



※学生アンケートの結果は「Ⅳ 調査結果（学生）2-15（135ページ）」参照。

Ⅱ 調査結果（市民）

【年代別・家族構成別／誰かに悩みを相談したり、助けを求めたりすることにためらいを感じる理由】

- ▶ 年代別にみると、一部の年代では調査数（n）が少ないことに留意が必要だが、『30～40代』では「家族や友達など身近な人には、相談したくない（できない）悩みだから」（42.2%）が他の年代と比べて高くなっており、「わからない」（7.8%）が他の年代と比べて低くなっている。
- ▶ 家族構成別にみると、一部の家族構成では調査数（n）が少ないことに留意が必要だが、『夫婦のみ』では「病院や支援機関等の専門家に相談したいと思っているが、相談するハードルが高く感じるから」（23.8%）が他の年代と比べてやや高くなっている。

												(%)
		n	家族や友達など身近な人には、相談したくない（できない）悩みだから	自分の悩みを解決できるところはない	病院や支援機関等の専門家に相談したいと思っているが、相談するハードルが高く感じるから	過去に、身近な人に相談したが、解決しなかった（嫌な思いをした）から	過去に、病院や支援機関等に相談したが、解決しなかった（嫌な思いをした）から	その他	わからない	無回答		
全 体		239	30.5	28.9	17.6	7.1	5.9	10.9	18.0	1.7		
年 代 別	2 9 歳以下	19	31.6	36.8	21.1	-	10.5	10.5	21.1	-		
	3 0 ～ 4 0 代	64	42.2	35.9	9.4	15.6	9.4	9.4	7.8	-		
	5 0 ～ 6 4 歳	71	29.6	23.9	16.9	7.0	2.8	12.7	19.7	1.4		
	6 5 ～ 7 4 歳	43	20.9	25.6	20.9	-	7.0	7.0	25.6	2.3		
	7 5 歳以上	41	24.4	26.8	26.8	4.9	2.4	14.6	19.5	4.9		
家 族 構 成 別	一人暮らし	18	33.3	22.2	11.1	11.1	11.1	5.6	16.7	5.6		
	夫婦のみ	63	23.8	31.7	23.8	4.8	3.2	7.9	20.6	4.8		
	二世帯世帯	127	33.9	29.9	16.5	7.9	6.3	12.6	16.5	-		
	三世帯世帯	17	41.2	5.9	11.8	5.9	5.9	17.6	17.6	-		

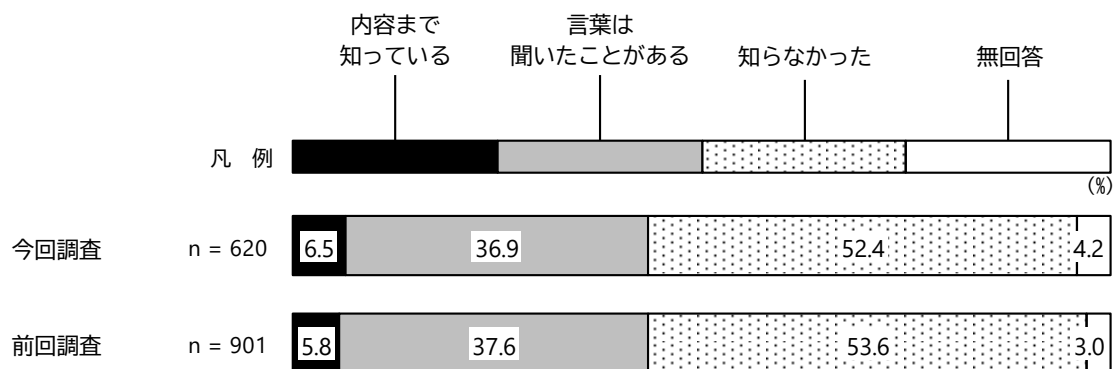
7-9 自殺予防週間／自殺対策月間

- ▶ 自殺予防週間／自殺対策月間については、「知らなかった」が52.4%と最も高く、次いで、「言葉は聞いたことがある」(36.9%)、「内容まで知っている」(6.5%)となっている。

【すべての方にお聞きします】

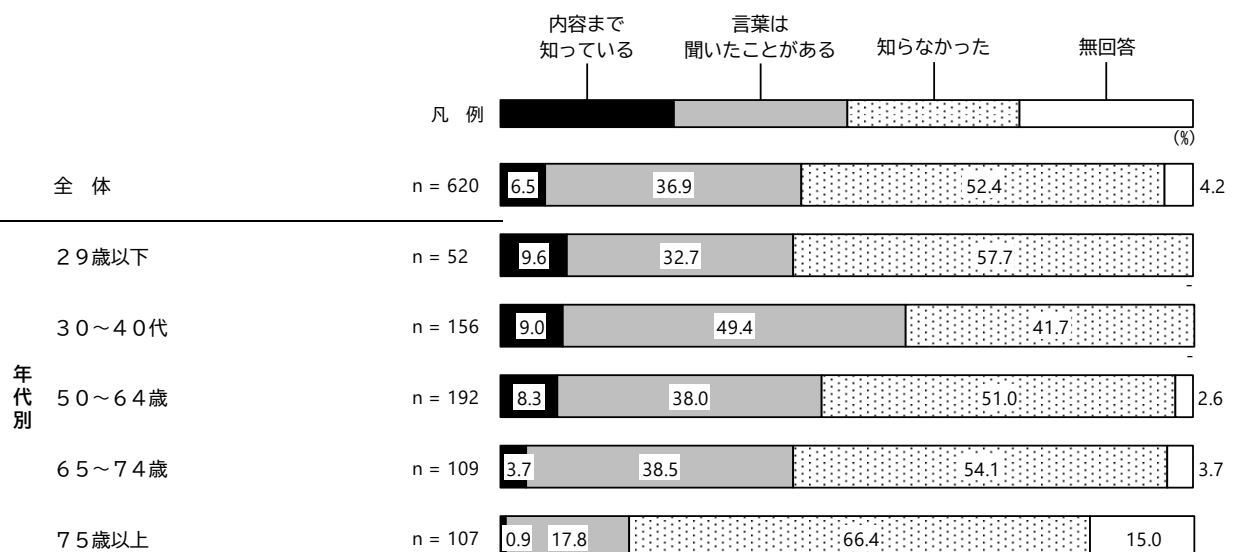
問 39 あなたは以下の内容について知っていますか。（1つに○）

①自殺予防週間／自殺対策月間



【年代別／自殺予防週間/自殺対策月間】

- ▶ 年代別にみると、「内容まで知っている」は、年代が上がるにつれて低くなっている。『30～40代』では「言葉は聞いたことがある」(49.4%)が他の年代と比べて高くなっている。



Ⅱ 調査結果（市民）

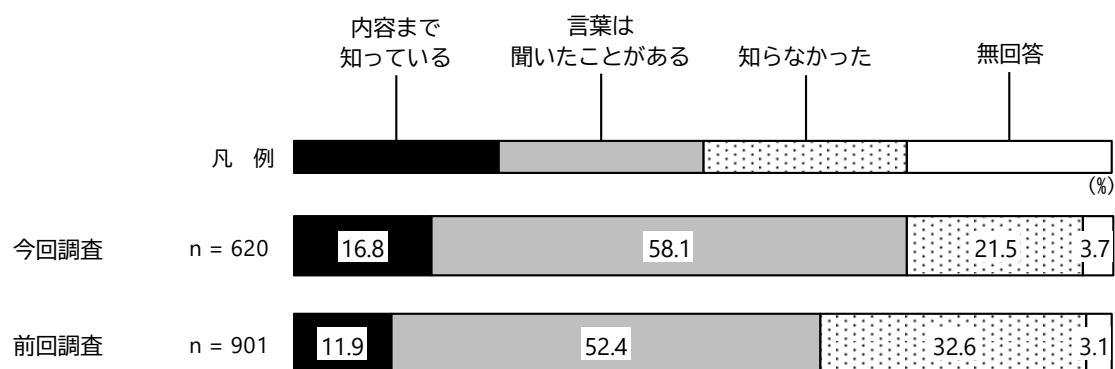
7-10 「こころの相談電話」などの電話相談窓口

- ▶ 「こころの相談電話」などの電話相談窓口については、「言葉は聞いたことがある」が58.1%と最も高く、次いで、「知らなかった」(21.5%)、「内容まで知っている」(16.8%)となっている。

【すべての方にお聞きします】

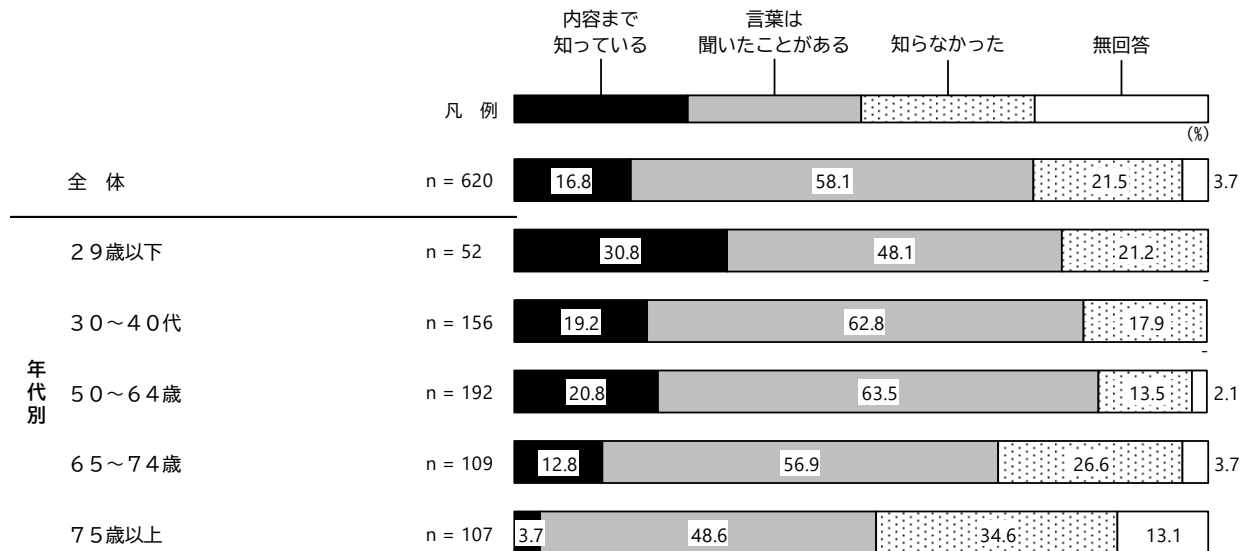
問 39 あなたは以下の内容について知っていますか。（1つに○）

②『こころの相談電話（宮城県精神保健福祉総合センター）』などの電話相談窓口



【年代別／「こころの相談電話」などの電話相談窓口】

- ▶ 年代別にみると、『29歳以下』では「内容まで知っている」（30.8%）が他の年代と比べて高くなっている。『75歳以上』では「内容まで知っている」（3.7%）が他の年代と比べてやや低くなっており、「知らなかった」（34.6%）が他の年代と比べてやや高くなっている。



Ⅱ 調査結果（市民）

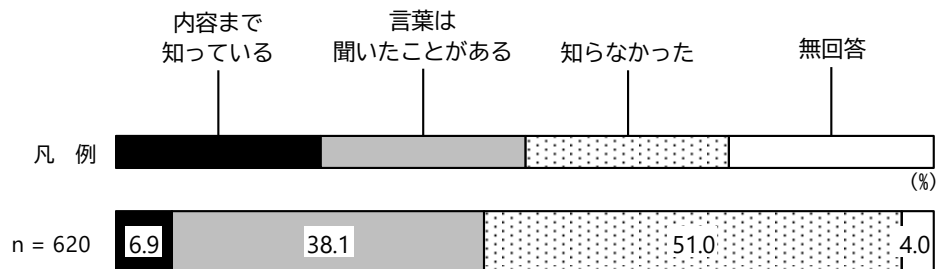
7-11 よりそいホットライン

- ▶ よりそいホットラインについては、「知らなかった」が51.0%と最も高く、次いで、「言葉は聞いたことがある」(38.1%)、「内容まで知っている」(6.9%)となっている。

【すべての方にお聞きします】

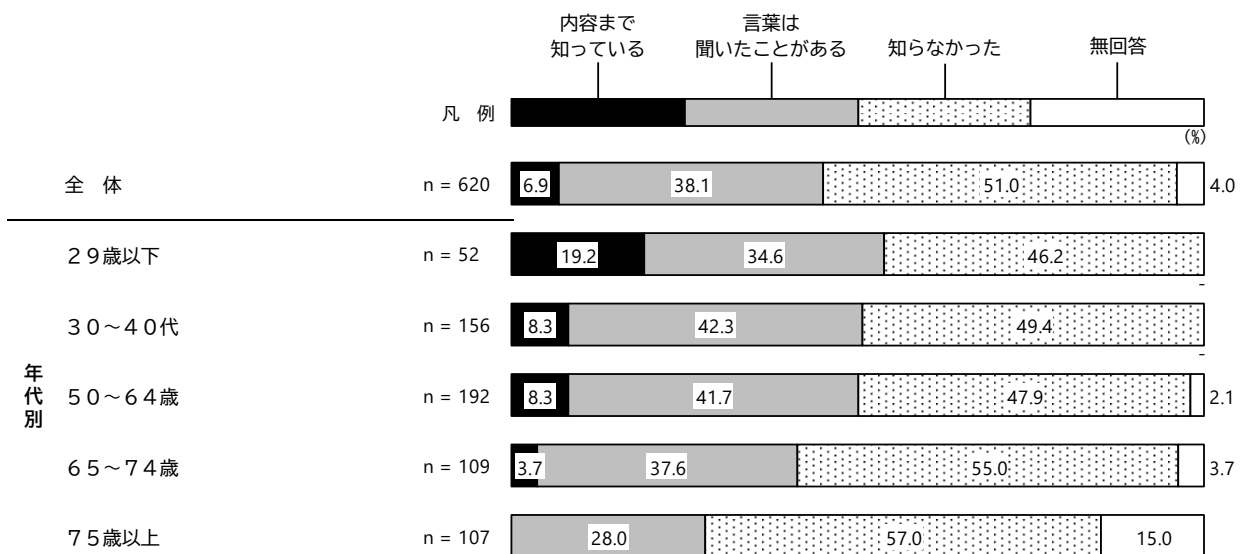
問 39 あなたは以下の内容について知っていますか。（1つに○）

③よりそいホットライン



【年代別／よりそいホットライン】

- ▶ 年代別にみると、『29歳以下』では「内容まで知っている」(19.2%)が他の年代と比べて高くなっている。



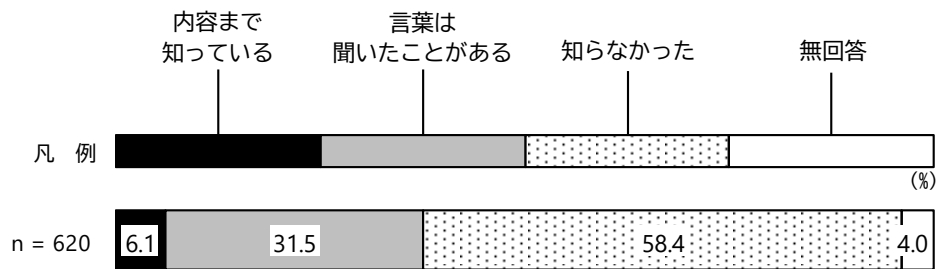
7-12 SNSを活用した相談

- ▶ SNSを活用した相談については、「知らなかった」が58.4%と最も高く、次いで、「言葉は聞いたことがある」(31.5%)、「内容まで知っている」(6.1%)となっている。

【すべての方にお聞きします】

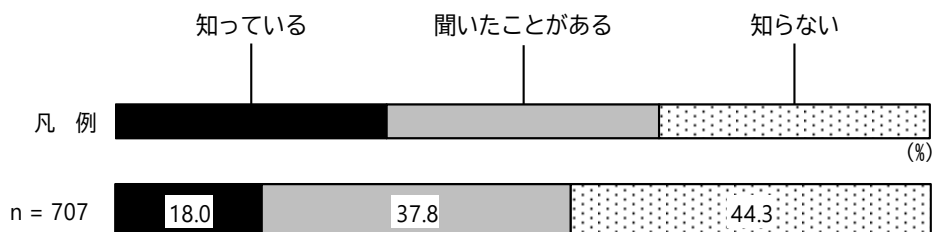
問 39 あなたは以下の内容について知っていますか。（1つに○）

④ SNSを活用した相談（LINE：生きづらびっと、こころのほっとチャット等）



【参考】学生アンケートの結果

- ▶ SNSを活用した相談については、「知らなかった」が44.3%と最も高く、次いで、「聞いたことがある」(31.5%)であったが、市民アンケートと比較して「知っている」、「聞いたことがある」の割合がいずれも高かった。

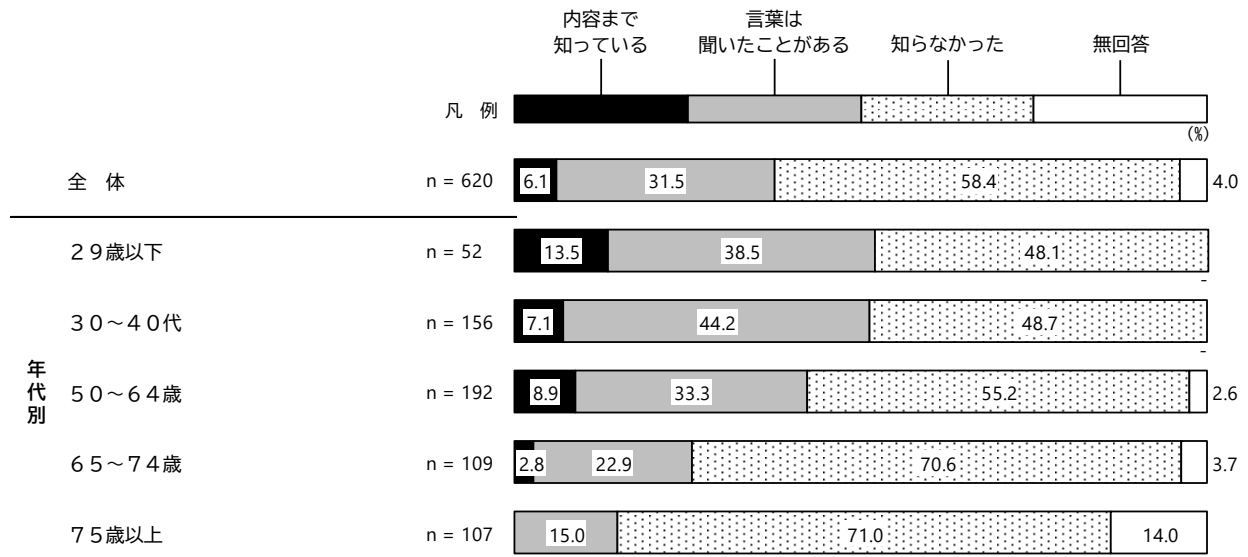


※学生アンケートの結果は「Ⅳ 調査結果（学生）2-16（136ページ）」参照。

Ⅱ 調査結果（市民）

【年代別／SNSを活用した相談】

- ▶ 年代別にみると、40代以下では「内容まで知っている」、「言葉は聞いたことがある」の合算値が5割を超えている。また、65歳以上では「言葉は聞いたことがある」が約2割以下と他の年代と比べて低くなっており、「知らなかった」が約7割と他の年代と比べて高くなっている。



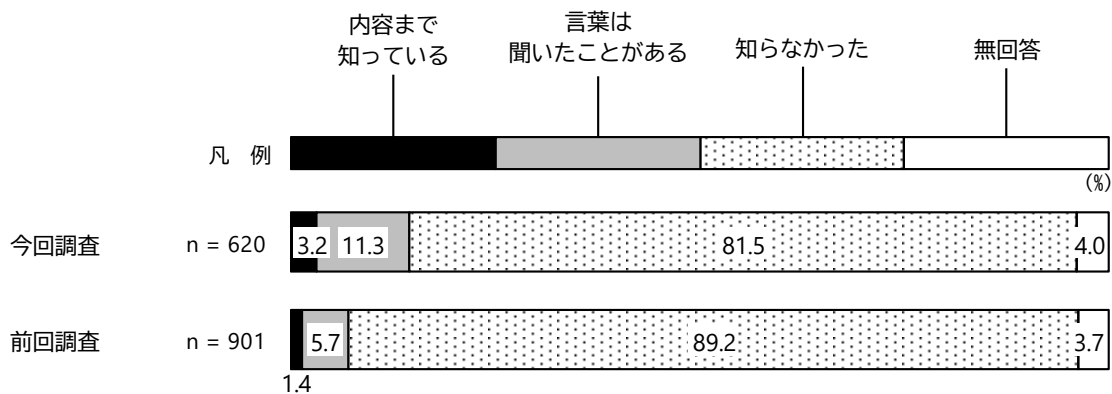
7-13 ゲートキーパー

- ▶ ゲートキーパーについては、「知らなかった」が81.5%と最も高く、次いで、「言葉は聞いたことがある」(11.3%)、「内容まで知っている」(3.2%)となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「内容まで知っている」、「言葉は聞いたことがある」がやや高くなっている。

【すべての方にお聞きします】

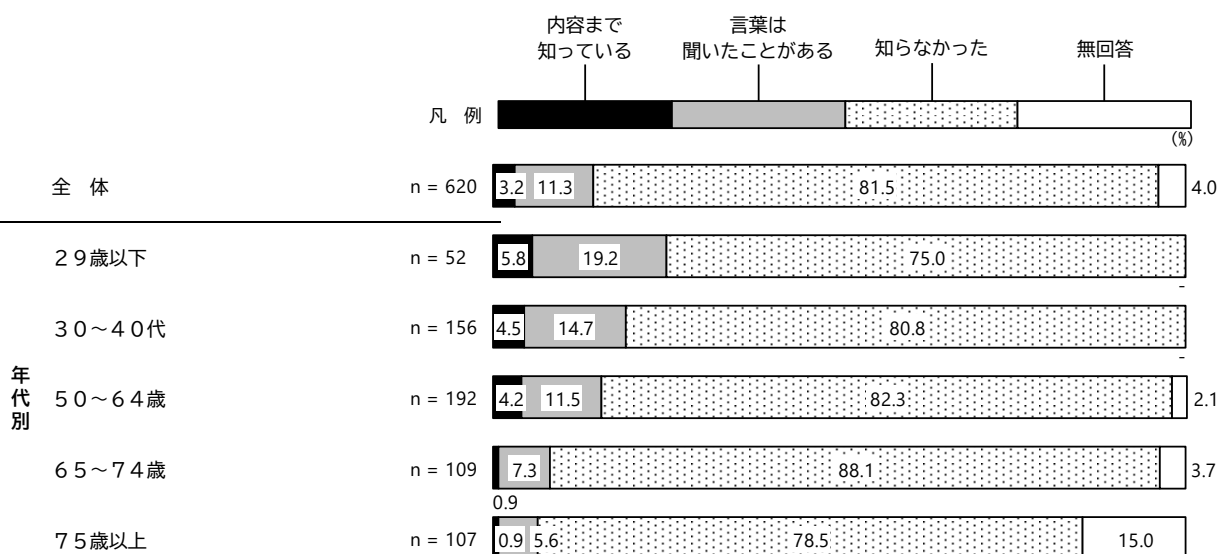
問 39 あなたは以下の内容について知っていますか。（1つに○）

⑤ゲートキーパー（自死のサインに気づき、適切な対応をとれる人）



【年代別／ゲートキーパー】

- ▶ 年代別にみると、「内容まで知っている」、「言葉は聞いたことがある」は、年代が上がるにつれて低くなっている。



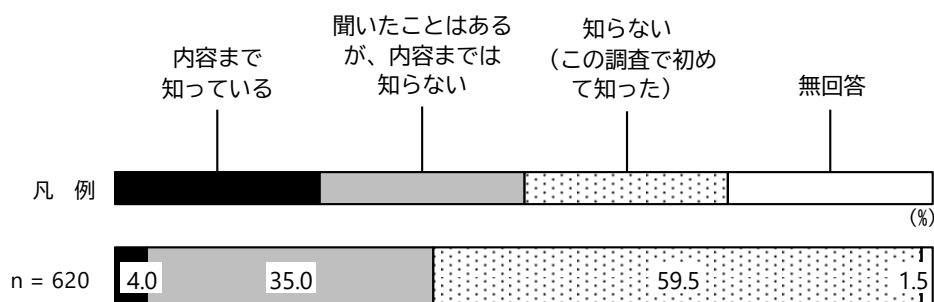
Ⅱ 調査結果（市民）

7-14 自死対策の認知度

- ▶ 自死対策の認知度については、「知らない（この調査で初めて知った）」が 59.5%と最も高く、次いで、「聞いたことはあるが、内容までは知らない」（35.0%）、「内容まで知っている」（4.0%）となっている。

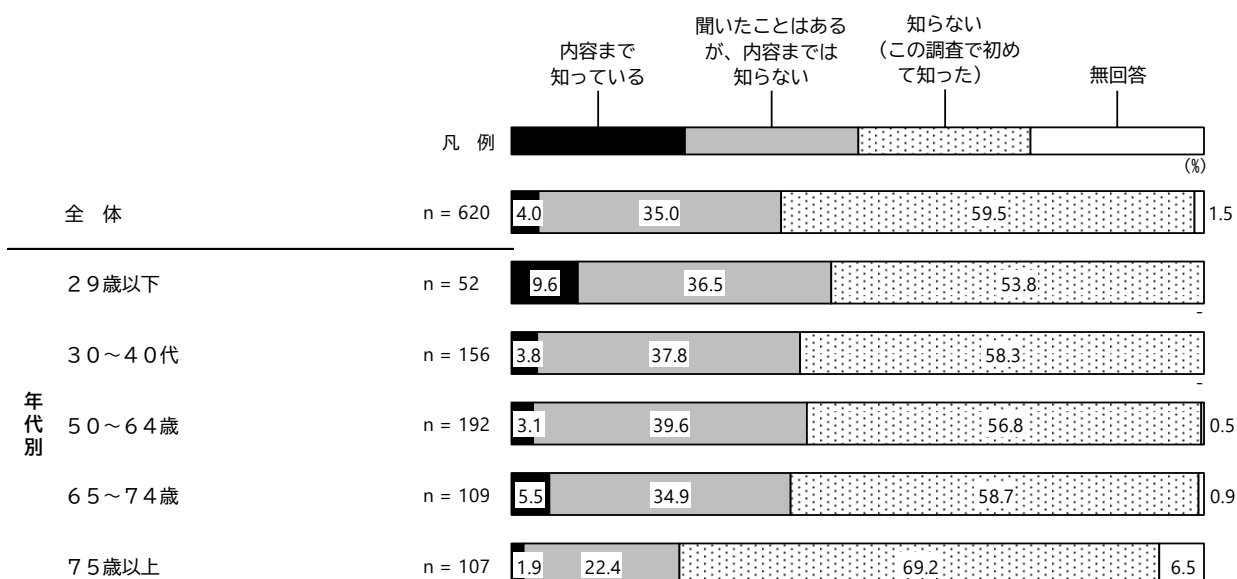
問 40 自死に対しての対策※があることを知っていますか。（1 つに○）

※自死対策：「自殺の多くは防ぐことができる問題である」という認識の下、保健や医療のみならず、教育や労働など様々な分野で連携を図り、取組み等を考えていくもの



【年代別／自死対策の認知度】

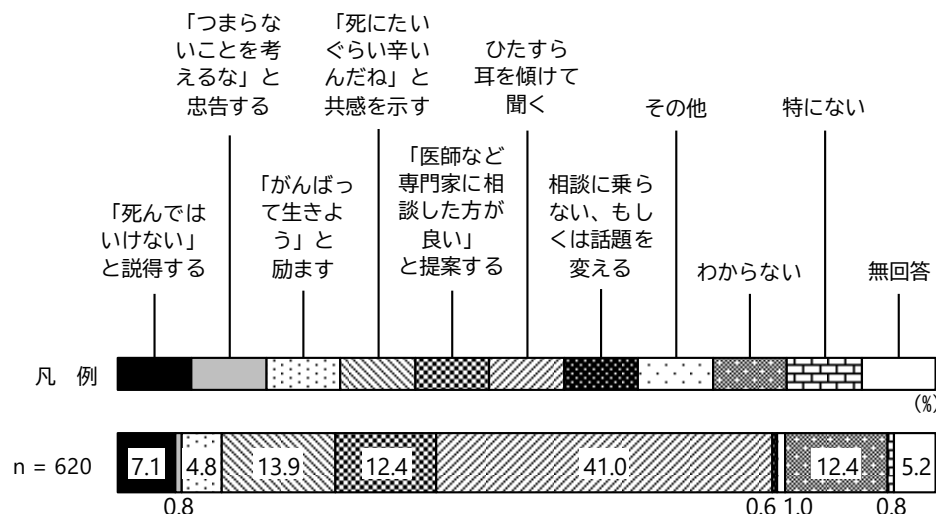
- ▶ 年代別にみると、『75歳以上』では「聞いたことはあるが、内容までは知らない」（22.4%）が他の年代と比べて低くなっており、「知らない（この調査で初めて知った）」（69.2%）が他の年代と比べて高くなっている。



7-15 身近な人から「死にたい」と打ち明けられたときの最も良い対応

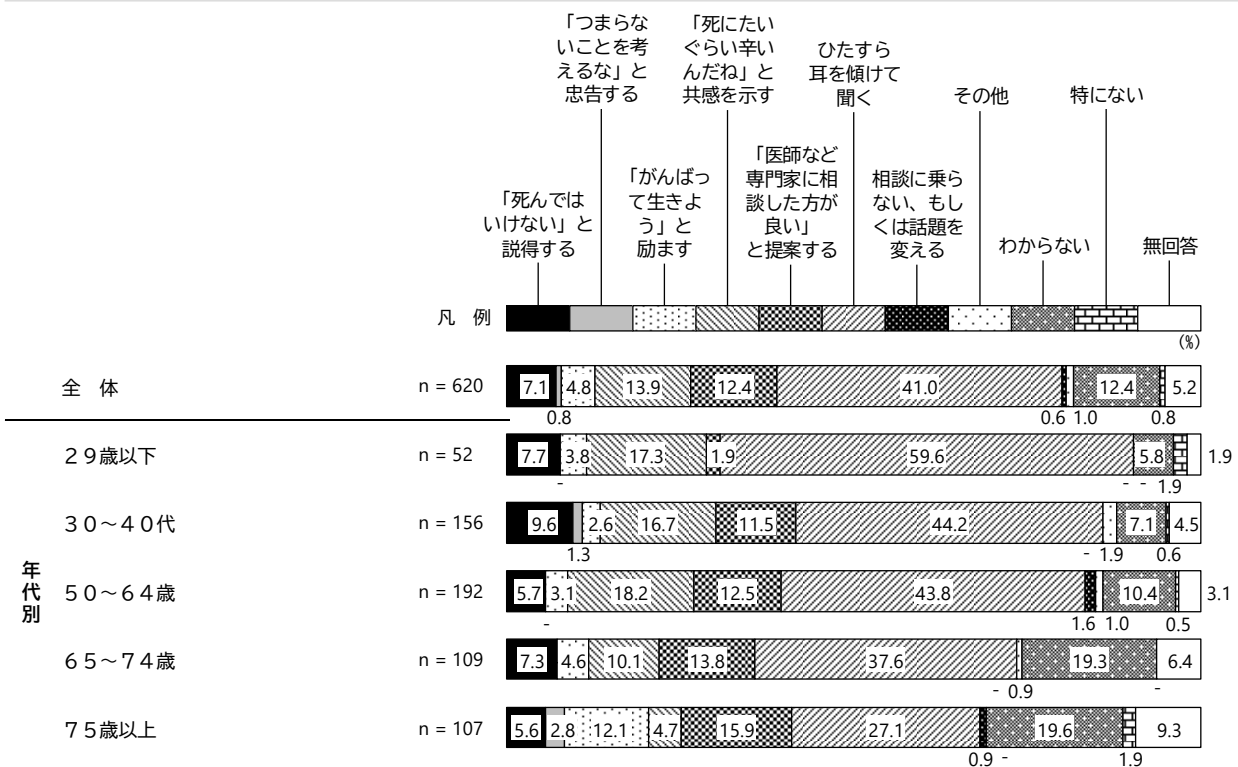
- ▶ 身近な人から「死にたい」と打ち明けられたときの最も良い対応については、「ひたすら耳を傾けて聞く」が41.0%と最も高く、次いで、「死にたいぐらい辛いんだね」と共感を示す（13.9%）となっている。なお、「わからない」が12.4%となっている。

問 41 あなたは、もしも身近な人から「死にたい」と打ち明けられたとき、どう対応するのが最も良いと思いますか。（1つに○）



【年代別／自死対策の認知度】

- ▶ 年代別にみると、『29歳以下』では「ひたすら耳を傾けて聞く」（59.6%）が他の年代と比べて高くなっており、「死にたいぐらい辛いんだね」と共感を示す（1.9%）が他の年代と比べてやや低くなっている。

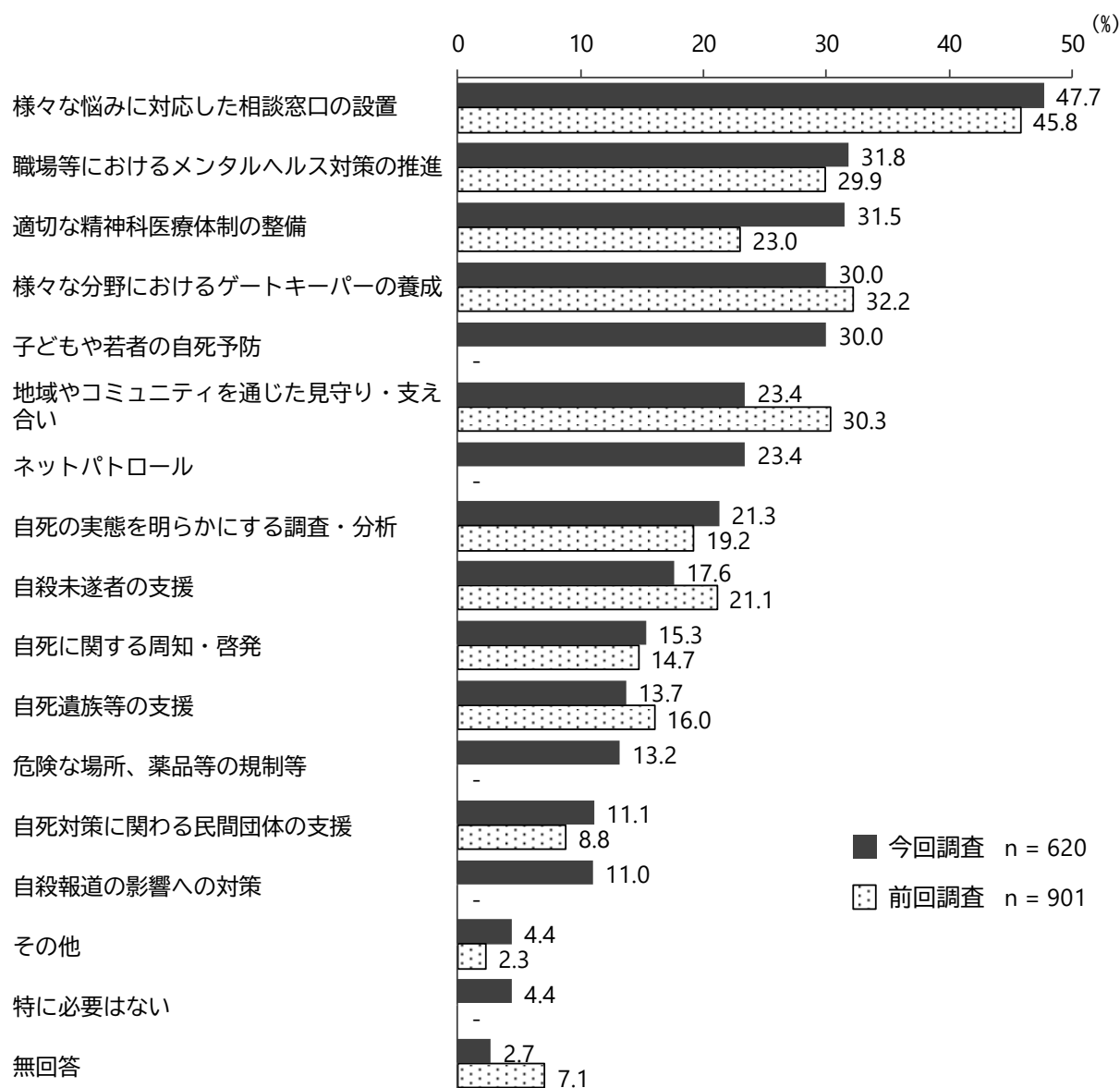


Ⅱ 調査結果（市民）

7-16 今後必要になる自死対策

- ▶ 今後必要になる自死対策については、「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」が47.7%と最も高く、次いで、「職場等におけるメンタルヘルス対策の推進」（31.8%）、「適切な精神科医療体制の整備」（31.5%）となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「適切な精神科医療体制の整備」がやや高くなっている。

問 42 今後、どのような自死対策が必要になると思いますか。（あてはまるものすべてに○）



※「子どもや若者の自死予防」、「ネットパトロール」、「危険な場所、薬品等の規制等」、「自殺報道の影響への対策」、「特に必要はない」は今回調査で追加された選択肢であり、前回調査では未聴取。

※前回調査の選択肢「SOS の出し方等に関する教育」（35.4%）は今回調査では未聴取。

【年代別／今後必要になる自死対策】

- ▶ 年代別にみると、「適切な精神科医療体制の整備」（38.5％）が、『29歳以下』では最も高くなっている。また、「職場等におけるメンタルヘルス対策の推進」、「子どもや若者の自死予防」は、年代が上がるにつれて低くなっている。

(%)																											
		n	窓 口 の 設 置	様 々 な 悩 み に 対 応 し た 相 談	職 場 等 に お け る メン タル ヘ ルス 対 策 の 推 進	備 適 切 な 精 神 科 医 療 体 制 の 整 備	キ ー ワ ー ド の 養 成	子 ど も や 若 者 の 自 死 予 防	地 域 や コ ミ ュ ニ ティ を 通 じ た 見 守 り ・ 支 え 合 い	ネ ッ ト バ ト ロ ー ル	調 査 ・ 分 析	自 死 の 実 態 を 明 ら か に す る	自 殺 未 遂 者 の 支 援	自 死 に 関 する 周 知 ・ 啓 発	そ の 他	特 に 必 要 は な い	無 回 答										
全 体		620	47.7		31.8		31.5		30.0		30.0		23.4		23.4		21.3		17.6		15.3		4.4		4.4		2.7
年 代 別	29歳以下	52	42.3		44.2		38.5		32.7		40.4		23.1		23.1		30.8		26.9		17.3		3.8		7.7		-
	30～40代	156	41.7		39.1		27.6		34.0		37.2		19.9		24.4		22.4		18.6		15.4		2.6		1.9		-
	50～64歳	192	53.6		31.3		33.9		30.7		31.3		28.1		24.0		24.0		16.7		14.6		3.6		4.7		1.0
	65～74歳	109	47.7		30.3		28.4		28.4		26.6		20.2		27.5		19.3		14.7		21.1		4.6		4.6		4.6
	75歳以上	107	49.5		18.7		31.8		23.4		16.8		23.4		17.8		13.1		15.0		10.3		7.5		5.6		9.3

※上位10項目および「その他」、「特に必要はない」、無回答を抜粋して掲載している。

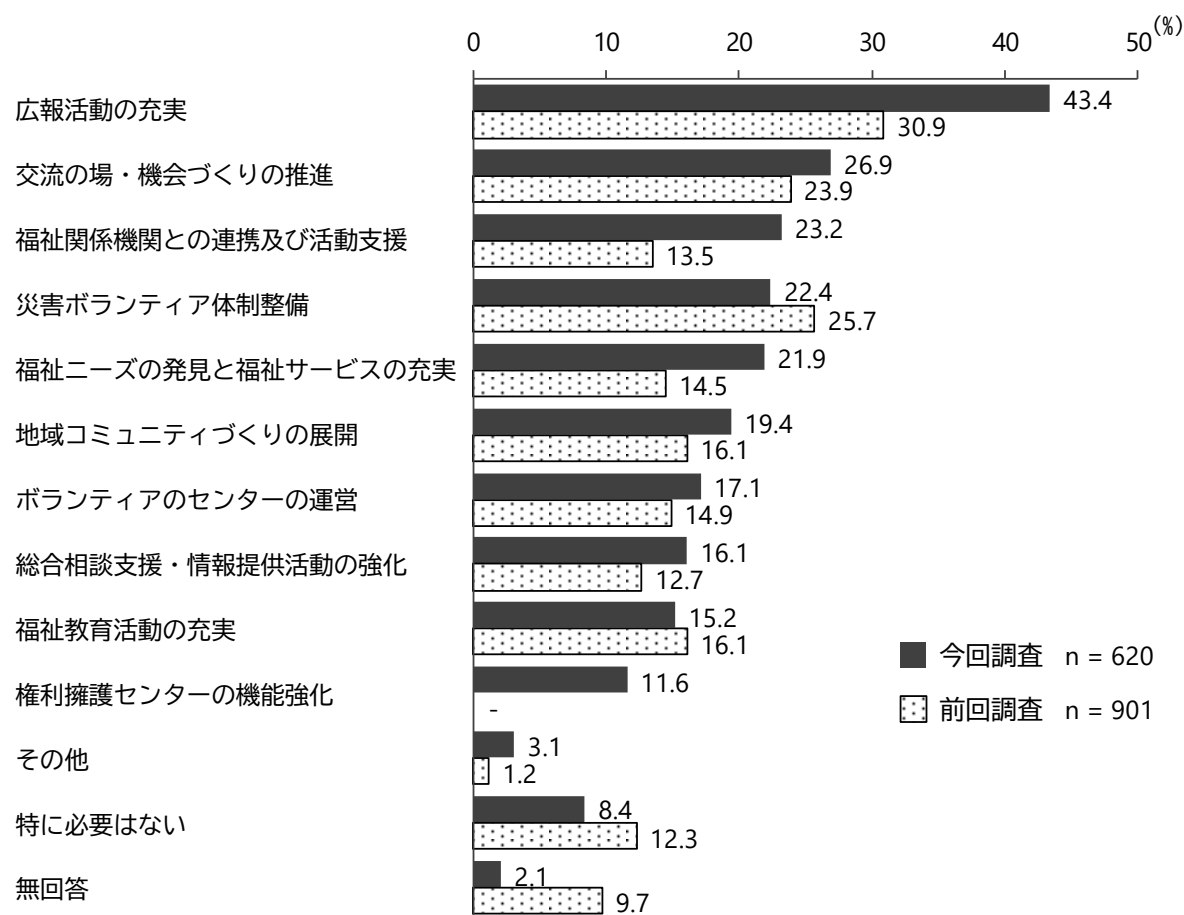
8 関係機関について

8-1 富谷市社会福祉協議会に期待すること

- ▶ 富谷市社会福祉協議会に期待することについては、「広報活動の充実」が43.4%と最も高く、次いで、「交流の場・機会づくりの推進」（26.9%）、「福祉関係機関との連携及び活動支援」（23.2%）となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「広報活動の充実」が12.5ポイント高くなっている。

問 43 富谷市社会福祉協議会※が行う活動や支援として、今後、期待することはどれですか。（あてはまるもの3つまで○）

※社会福祉協議会：地域の人々が、住み慣れたまちで安心して生活することのできる「福祉のまちづくり」の実現を目指し、総合的な福祉の推進を図るために 設置された社会福祉法人。地域住民や各種団体（団体・機関・福祉施設など）と協力し、高齢者・障がい者・子育てに関する様々な事業・活動を行っている。



※「権利擁護センターの機能強化」は今回調査で追加された選択肢であり、前回調査では未聴取。

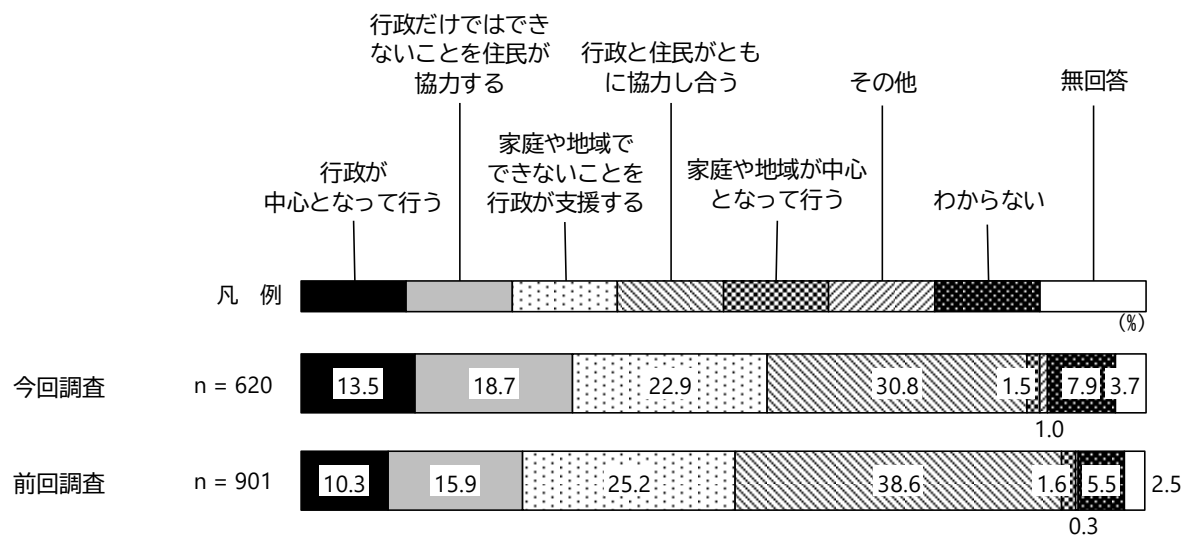
※前回調査の選択肢「地域福祉活動の人材確保と育成（地域福祉活動への支援等）」（16.8%）は今回調査では未聴取。

9 これからの地域福祉について

9-1 行政と地域住民とのあるべき協力関係【地域福祉計画成果目標】

- ▶ 行政と地域住民とのあるべき協力関係については、「行政と住民がともに協力し合う」が30.8%と最も高く、次いで、「家庭や地域でできないことを行政が支援する」(22.9%)、「行政だけではできないことを住民が協力する」(18.7%)となっている。

問 44 あなたは、今後地域の助け合い・支え合いを進めていく上で、行政と地域住民との協力関係はどのようにあるべきだと思いますか。（1つに○）



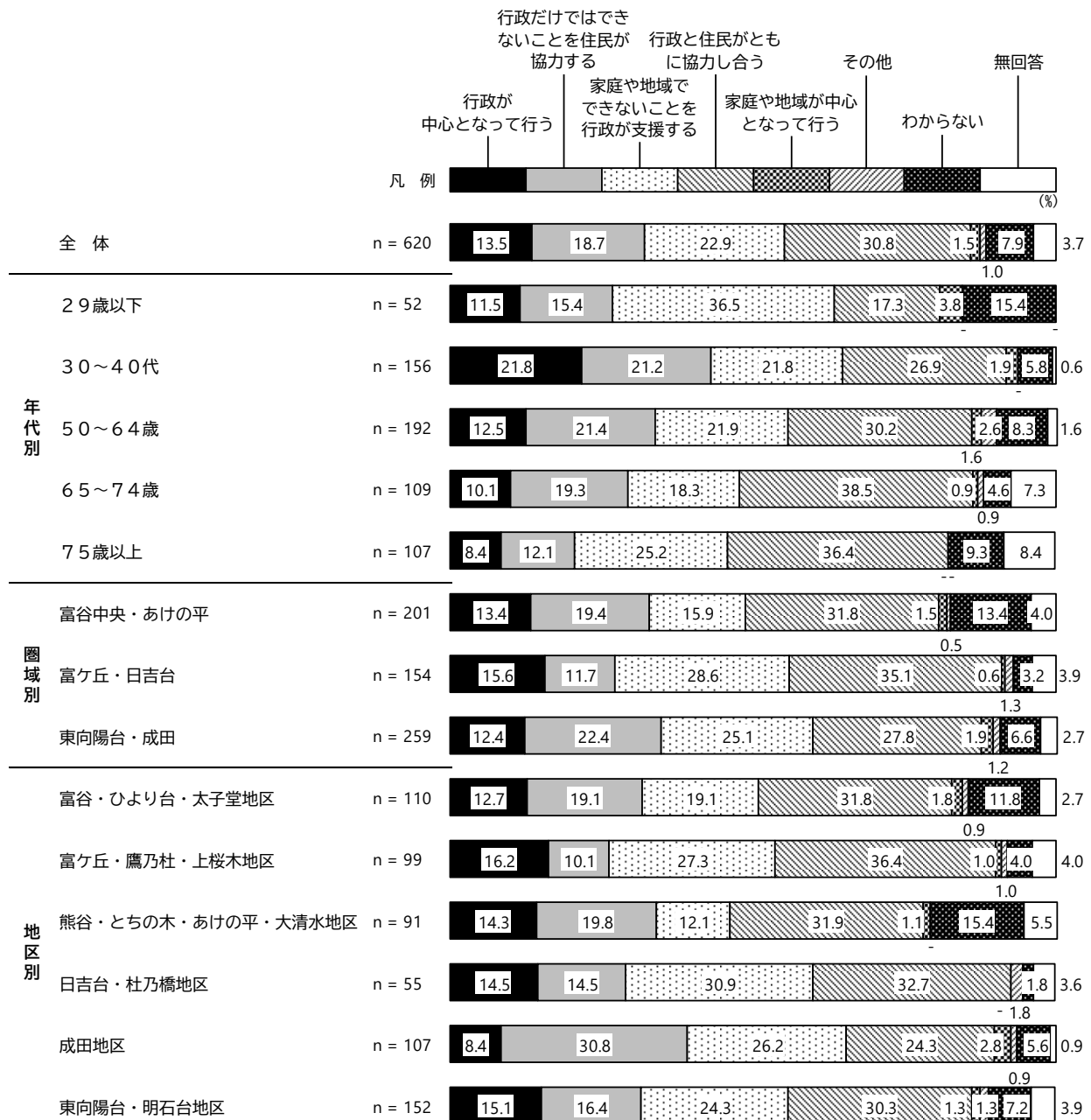
【富谷市地域福祉計画成果目標】

地域福祉を進めていく上で、行政と地域住民との協力関係について、「行政だけではできないことを住民が協力する」「家庭や地域でできないことを行政が支援する」「行政と住民がともに協力し合う」「家庭や地域が中心となっていく」と回答した割合の増加としており、令和元年度は81.3%、令和7年度の目標値は87.0%としている。

II 調査結果（市民）

【年代別・圏域別・地区別／行政と地域住民とのあるべき協力関係】

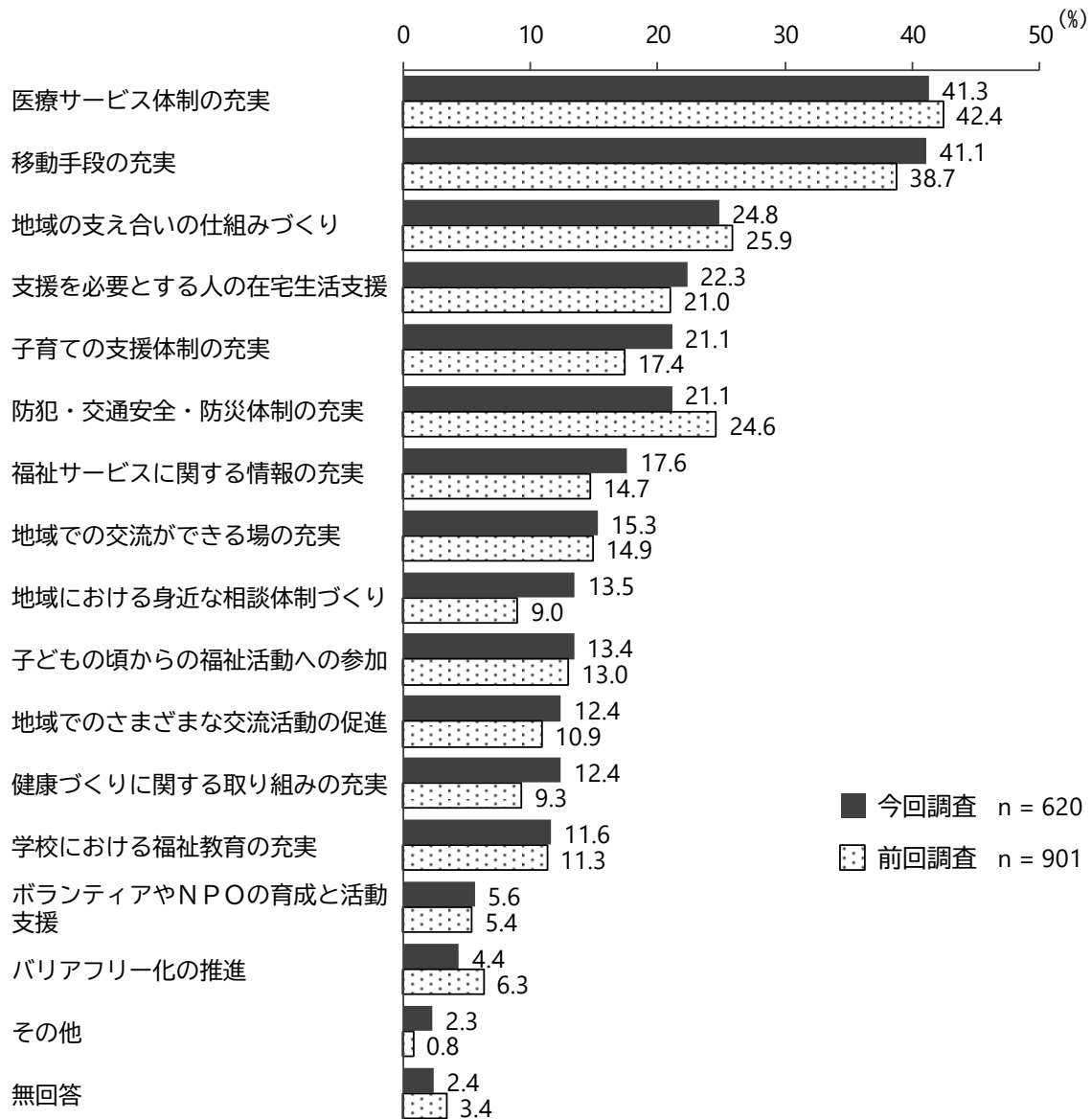
- ▶ 『29歳以下』では「家庭や地域でできないことを行政が支援する」（36.5%）が他の年代と比べて高くなっている。
- ▶ 圏域別にみると、『富谷中央・あけの平』では「家庭や地域でできないことを行政が支援する」（15.9%）が他の圏域と比べてやや低くなっており、『富ヶ丘・日吉台』では「行政だけではできないことを住民が協力する」（11.7%）が他の圏域と比べてやや低くなっている。
- ▶ 地区別にみると、『成田地区』では「行政だけではできないことを住民が協力する」（30.8%）が他の地区と比べて高くなっている。



9-2 地域で安心して暮らしていくために市が取り組むべきこと

- ▶ 地域で安心して暮らしていくために市が取り組むべきことについては、「医療サービス体制の充実」が41.3%と最も高く、次いで、「移動手段の充実」(41.1%)、「地域の支え合いの仕組みづくり」(24.8%)となっている。

問 45 今後、地域で安心して暮らしていくために、本市ではどのようなことに取り組んでいくべきだと思いますか。（優先度が高いと思うもの3つまで○）



II 調査結果（市民）

【年代別・圏域別・地区別／地域で安心して暮らしていくために市が取り組むべきこと】

- ▶ 年代別にみると、「福祉サービスに関する情報の充実」は、年代が上がるにつれて高くなっている。また、40代以下では「支援を必要とする人の在宅生活支援」が約1割と他の年代と比べて低くなっており、『29歳以下』では「医療サービス体制の充実」（25.0%）が他の年代と比べて低くなっている。
- ▶ 地区別にみると、『日吉台・杜乃橋地区』では「移動手段の充実」（50.9%）、「子どもの頃からの福祉活動への参加」（25.5%）が他の地区と比べてやや高くなっている。『成田地区』でも「移動手段の充実」（50.5%）が他の地区と比べてやや高くなっている。『熊谷・とちの木・あけの平・大清水地区』では「福祉サービスに関する情報の充実」（25.3%）が他の地区と比べてやや高くなっている。

			(%)											
		n	医療サービス体制の充実	移動手段の充実	地域の支え合いの仕組みづくり	支援を必要とする人の在宅生活支援	子育ての支援体制の充実	防犯・交通安全・防災体制の充実	福祉サービスに関する情報の充実	地域での交流ができる場の充実	地域における身近な相談体制づくり	子どもの頃からの福祉活動への参加	その他	無回答
全 体		620	41.3	41.1	24.8	22.3	21.1	21.1	17.6	15.3	13.5	13.4	2.3	2.4
年代別	29歳以下	52	25.0	63.5	19.2	13.5	38.5	25.0	11.5	13.5	5.8	15.4	1.9	-
	30～40代	156	35.9	45.5	25.6	11.5	37.8	26.9	12.2	17.3	14.7	14.1	1.3	1.3
	50～64歳	192	49.5	47.9	22.4	27.6	14.6	23.4	16.7	13.5	15.6	17.2	2.1	1.0
	65～74歳	109	43.1	29.4	31.2	24.8	11.0	16.5	23.9	16.5	11.9	12.8	1.8	1.8
	75歳以上	107	42.1	25.2	24.3	30.8	11.2	11.2	24.3	15.9	13.1	5.6	4.7	6.5
圏域別	富谷中央・あけの平	201	39.8	36.3	26.4	21.9	15.9	21.4	21.4	15.4	10.4	9.0	2.0	4.0
	富ヶ丘・日吉台	154	42.2	40.3	26.6	21.4	20.1	22.7	15.6	14.9	12.3	16.2	2.6	1.9
	東向陽台・成田	259	40.9	45.2	22.8	23.2	25.9	20.5	15.1	15.8	17.0	15.1	2.3	1.2
地区別	富谷・ひより台・太子堂地区	110	42.7	38.2	24.5	23.6	20.9	22.7	18.2	15.5	13.6	8.2	1.8	2.7
	富ヶ丘・鷹乃杜・上桜木地区	99	42.4	34.3	31.3	21.2	19.2	21.2	16.2	14.1	12.1	11.1	3.0	3.0
	熊谷・とちの木・あけの平・大清水地区	91	36.3	34.1	28.6	19.8	9.9	19.8	25.3	15.4	6.6	9.9	2.2	5.5
	日吉台・杜乃橋地区	55	41.8	50.9	18.2	21.8	21.8	25.5	14.5	16.4	12.7	25.5	1.8	-
	成田地区	107	47.7	50.5	16.8	28.0	18.7	21.5	15.0	18.7	20.6	15.9	1.9	-
	東向陽台・明石台地区	152	36.2	41.4	27.0	19.7	30.9	19.7	15.1	13.8	14.5	14.5	2.6	2.0

※上位10項目および「その他」、無回答を抜粋して掲載している。

9-3 地域づくりを進めるための考え・福祉に関する意見

- ▶ 地域づくりを進めるための考え・福祉に関する意見について、いただいた 136 件を記述内容に応じて以下の項目に分類したところ、各項目の意見の合計件数は 195 件となった。
- ▶ 「交通について」が 26 件と最も多く、次いで、「地域の交流や支えあいについて」（25 件）、「高齢者支援や医療について」（22 件）となっている。

問 46 誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりを進めるためのお考えや、福祉に関することなど、ご意見がありましたらご自由にお書きください。

	項目	件数
1	交通について	26
2	地域の交流や支えあいについて	25
3	高齢者支援や医療について	22
4	地域福祉と行政との関わりについて	21
5	市政一般について	19
6	町内活動について	17
7	防犯について	13
8	買い物について	11
9	このアンケートについて	11
10	情報発信について	8
11	子育て支援について	6
12	相談窓口について	5
13	災害・防災について	5
14	その他	6
	意見数計	195

※2つ以上の項目にまたがる意見はそれぞれの項目に分類した

【主な意見（抜粋）】 ※各項目と関連性の高い意見を一部抜粋。

1 交通について

- 天気や交通量に影響を受けにくく、定刻で地下鉄にアクセスできる公共交通機関がほしい。泉中央から明石台・成田方面に向かう最終バスの時間が年々早くなり、その影響か終バス後にタクシーも混んでいて、暗い中を歩くことになる。宮城交通とかけあって、1つでいいので23時台のバスを戻してほしい。（20代女性）
- 泉中央方面に行くバスの便が不足していると思います。土日の本数を増やして頂けると助かります。（30代男性）
- デマンド型交通は町3区は利用できないなど不公平感がある。身体の不自由な人が福祉センターや買物に行きたくても、タクシー料金が高かったり、人に頼むのをためら

II 調査結果（市民）

うなどして外出の機会が減ってしまう。支援が必要な人ほど交流や情報の共有が大切だと思うので移動手段の充実は大事だと思う。（60代女性）

2 地域の交流や支えあいについて

- 正直、住民同士の助け合いや地域の繋がりなどの考え方に抵抗があるし、現代の生活スタイル的に難しいと感じる。地域福祉などあるが、責任が生じることに关しては人の善意に頼るのではなく有償でプロに頼むべきものであると思うし、需要と供給が見合っていないのであればそちらへの支援をすべきで隣近所で…というのは共働きかつ核家族が多くなっている時代に非現実的だと思う。困りごとがあったときにはダイレクトに行政や医療とスムーズに繋がれて適切な支援を受けられる仕組みが充実してほしい。（30代女性）
- 子供からお年寄りまで、幅広い世代が交流できる地域交流が増えるといいなと思います。互いの世代が抱える問題は関わってみて初めて知る事ができるので、そういう交流の機会が多ければ自然に住民間に理解が生まれると思います。（40代女性）
- 町内会の集まりなどは苦手な人もいます。一人で食事している人も沢山いると思います。またおじさん達も居場所がない…そんな人達が自然と集まれる場所。例えば、バス停の近くに富谷市が運営する格安な居酒屋や定食屋など気軽に行ける様な場所があれば、自然とコミュニティが出来ていき、孤独を感じる事が少なくなり、より住みやすい地域になるのではないかと。（50代男性）

3 高齢者支援や医療について

- 介護支援の利用のしやすさ。介護への偏見をなくす。介護支援への補助金の充実（50代女性）
- 子供に対する支援等は多くなってきているが、高齢者への思いが見えていない気がする。富谷市での老人ホーム等が増えてくれたらと思います。民間の老人ホームは年金ではとても入居できないと思う。（60代男性）

4 地域福祉と行政との関わりについて

- 何かあった時、いざとなってからどうしたらいいかわからないことがあるため、実際の利用者の声のようなものを行政が発信してもいいと思う。（40代女性）
- 医療・福祉の連携を図り、シームレスにサービスを受けることができるような取り組みを進めていただきたい。（70代男性）

5 市政一般について

- 今、苦しんでいる人が多いのは、国や行政からの支援が乏しい中間層世代であることに早く気づくべき。支え続けて支えられない最も不幸な世代があることを知って欲しい。（50代男性）
- 富谷市には、4ヶ所の出張所が配置されており、どの年代でも制度が利用しやすい様にされている。申請、納税、証明取得、速くて丁寧に対応されている。富谷が仙台市に勤務している人達のベッドタウンといわれるのは、昔からこのような取り組みがさ

れているからであり、今更、近所の人に手伝ってもらわないと生活が難しいとか、そういう話は少々論点が違うと思う。出張所には、制度に精通していて、ホスピタリティのある人間をもっと置いて、色々な業務をさせれば良い。(70代女性)

6 町内活動について

- 単身世帯だと、日中自宅にいる場合が少ないので、なかなか町内会（会費や回覧）に参加しにくい。ゴミ出しもどうしたらいいのか、悩むところがある。事情等、お互いに理解し合わないと、地域の中では、コミュニティーは育ちにくいと感じる。(50代女性)
- 現在行なわれている月1回の清掃活動ですら、出席率は良くないし、同じ人が毎月出ている現状の中、地域の支え合いに率先して来る方は望み薄と思われるので、先ず仕組みづくりから始まり、同時に交流を少しでも高めて行き、支え合いの醸成の輪をつくり広げることが肝要と思う。併せて、子どもにもアプローチし地域一体（一帯）性と子どもの頃からの参画は大切なものと思われます。(70代男性)

7 防犯について

- 犯罪が多くなってきているので、防犯カメラ、街灯を増やすなど防犯を未然に防ぐ地域になってほしい。(50代男性)
- 不審者出没情報は流れてくるが、その犯罪者がどうなったか（「逮捕された」「人物を特定した」「野放しだから注意しろ」等）の情報もあると有難い。(30代女性)

8 買い物について

- 高齢者は地区によっては、たくさんいる所もあるので、1人で買い物や病院にいけない方もいるので、車の移動販売や病院送迎等のサービスがあってもいいと思う。(10代男性)
- 高齢者が増えてきて、車の免許証を返納し、自転車や徒歩で食料品を買いに行く姿を見かけます。あけの平には以前あったスーパーがなくなり不便です。徒歩で行ける距離にスーパーがあればと思います。(40代女性)

9 このアンケートについて

- こういったアンケートをしたことで何が、どのように変わったか、変えるのか、結果を発信、共有して欲しい。(30代男性)
- 今は家族共々健康で仕事もしているのであまり地域や福祉に対して身近に思うことはないのですが、このアンケートを通じて今後は地域住民としての支え合いや福祉についてあらためて考える事ができました。(60代女性)

10 情報発信について

- 現在、県外の高齢両親の支援をしています。将来的に家族や自分が支援を必要とした時に、どのような支援の取り組みがあるのかわからず、不安になります。富谷市にお

Ⅱ 調査結果（市民）

ける行政や社会福祉協議会、ボランティアの活動の具体例を積極的に発信していただけると助かります。（60代女性）

1.1 子育て支援について

- 保育園や幼稚園に入れていない未就園児を一時的に預かってくれるところが少ない。理由を問わずいつでも気軽に一時預かりができるところが増えて欲しい。また、明石台地区の子供の増加により、希望の保育園に入れない。そのため、保育園やこども園を増やして欲しい。そして、老朽化している学校の建て替えも検討してほしい。（30代女性）

1.2 相談窓口について

- 福祉相談の方法を多様化する努力をお願いしたい。窓口を訪問する体制から必要とする相手への訪問を基本としてほしい。言葉だけでは伝えられず、実体を確認いただく必要があるのではないか？（70代男性）

1.3 災害・防災について

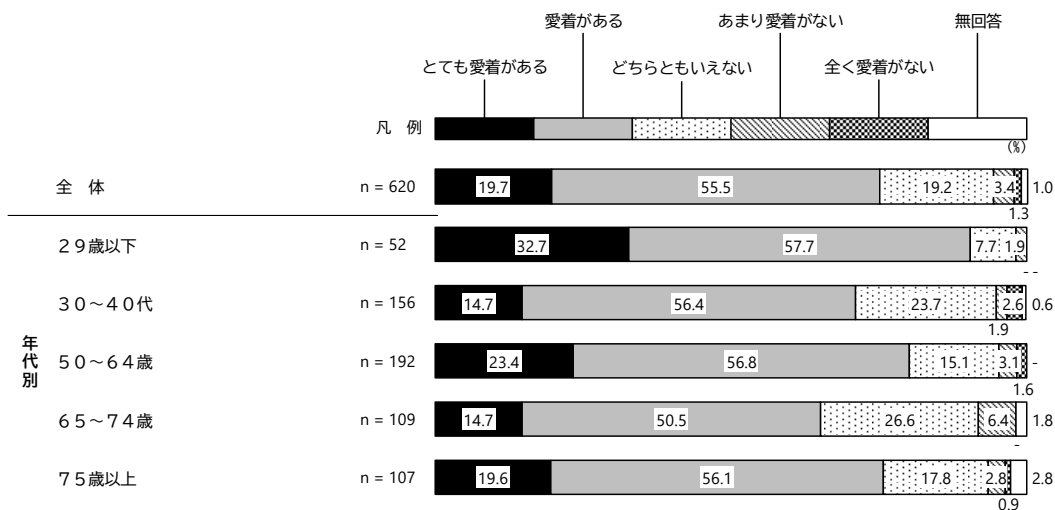
- 老後に備え、また災害に備え、無駄な予算投入は控えてほしい。例：Olympic、万博は箱ものが残る。災害の為の予算の使用の方が納得がいく。（50代男性）

10 調査結果（市民）について

10-1 地域との関わりについて

居住地域への愛着については、《愛着がある》（「とても愛着がある」＋「愛着がある」）との回答が全体の7割以上を占めている。年代別にみると、『29歳以下』では《愛着がある》方が約9割と、若い世代の居住地域への愛着の高さがうかがえる。

【問7：居住地域に愛着があるか】



居住地域の課題としては、「公共交通機関が少ない」が4割台半ばと最も高く、前回調査（約3割）と比べて高くなっている。次いで、「世代間交流が少ない」、「地域活動の担い手が不足している」、「隣近所での付き合いや交流が少ない」が約3割に上り、いずれも前回調査（2割台）を上回る結果となった。ほか、年代が上がるにつれて「隣近所での付き合いや交流が少ない」や「地域での情報共有ができていない」が高くなっている。

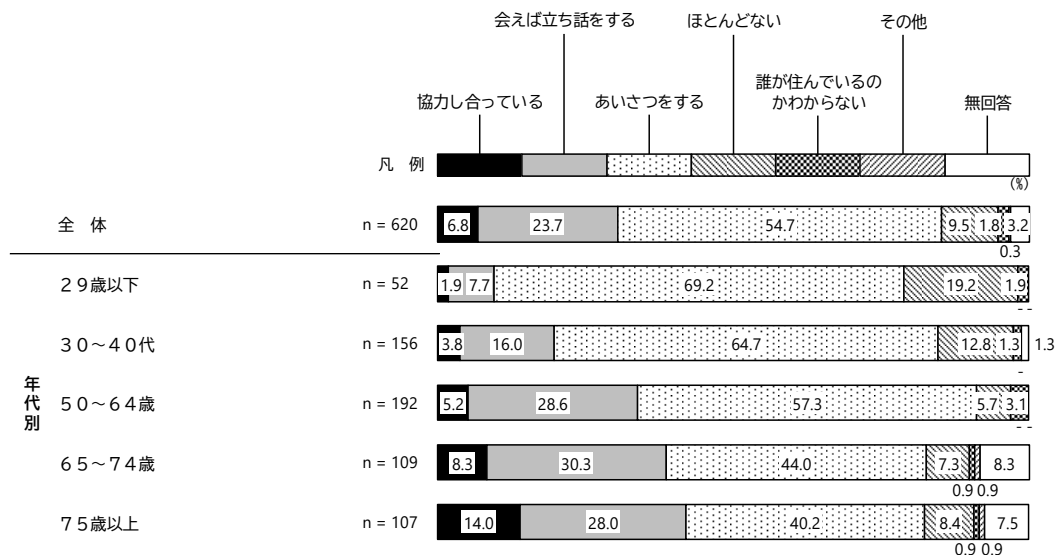
【問9：居住地域での課題・問題】

	n	公共交通機関が少ない	世代間交流が少ない	地域活動の担い手が不足している	隣近所での付き合いや交流が少ない	地域活動が活発ではない	地域での情報共有ができていない	高齢者や障がい者への支援が不足している	生活マナーが悪い	空き家が増えている	道路や歩道が整備されていない	その他	特になし	無回答
全体	620	46.0	31.0	30.2	29.7	14.8	14.5	12.4	10.8	9.7	9.5	5.2	11.9	1.5
29歳以下	52	63.5	19.2	19.2	15.4	15.4	5.8	7.7	5.8	5.8	11.5	-	7.7	1.9
30～40代	156	51.9	30.8	30.1	27.6	16.7	14.1	6.4	12.2	5.8	5.8	9.0	10.3	0.6
50～64歳	192	51.6	27.6	28.1	27.6	11.5	14.6	12.0	12.0	12.0	11.5	5.7	13.0	0.5
65～74歳	109	32.1	39.4	38.5	34.9	13.8	16.5	16.5	11.9	8.3	10.1	5.5	9.2	3.7
75歳以上	107	32.7	32.7	31.8	37.4	18.7	17.8	18.7	8.4	13.1	10.3	-	17.8	1.9

II 調査結果（市民）

隣近所の人との付き合いの程度については、「挨拶をする程度」が5割台半ばを占め、前回調査（4割台半ば）よりもやや高くなっている。また、「会えば立ち話をする」が2割台前半にとどまり、前回調査（約3割）よりもやや低くなっている。若年層では「あいさつをする」、「ほとんどない」など関係性が希薄な回答が高くなる傾向がみられ、年代が上がるにつれて「協力し合っている」、「会えば立ち話をする」など関係性が深い回答が高くなっている。

【問 10：隣近所の人との付き合いの程度】

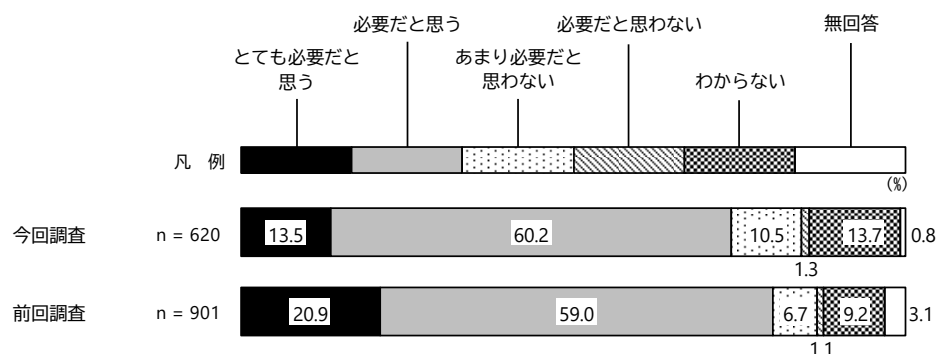


幅広い世代が地域への愛着をもっている一方、近年、地域や近隣におけるつながりが弱まっており、特に若年層においてその傾向がみられる結果となった。

10-2 地域福祉について

市民による自主的な助け合いや支え合いの関係が必要だと思うかについては、『必要』（「とても必要だと思う」＋「必要だと思う」）が7割以上を占めているものの、前回調査（約8割）を下回る結果となった。

【問 13：市民による自主的な助け合いや支え合いの関係が必要だと思うか】

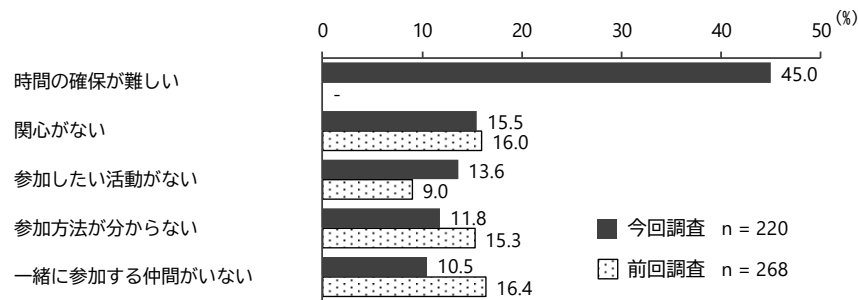


10-3 ボランティア活動について

ボランティア活動への参加状況については、約6割の方が「町内会」に参加していると回答しており、前回同様に高い割合を維持している。一方、「どの活動にも参加していない」方が3割台半ばを占めており、前回調査（約3割）を上回っている。

ボランティア活動に参加していない方に不参加の理由を尋ねると、半数近くの方が「時間の確保が難しい」ことを挙げている。

【問 17：ボランティアに参加していない理由】



※上位5項目を抜粋して掲載。

今後のボランティア活動については、《活動意欲がある方》（「したい（継続していきたい）」＋「どちらかといえばしたい」）が全体の約4割に上っている。

活動したいボランティアの内容を尋ねると、「隣近所の見守り」（約5割）が最も高くなっている。また、年代別にみると、『29歳以下』では「ゴミ拾いなど地域の美化活動」（5割）が「隣近所の見守り」（2割台半ば）を上回り最も高くなっており、『30～40代』でも同様の傾向がみられる。ほか、40代以下では「地域のパトロール」（2割台）が高くなっており、年代によって意欲がある活動が異なる状況がうかがえる。

【問 19：活動したいボランティアの内容】

		n	隣近所の見守り	ゴミ拾いなど地域の美化活動	登下校の見守り	趣味サークル等の支援	地域のパトロール	お弁当の配達	読み聞かせや読書会	子育てサークルの支援	子どもの預かり	スポーツの指導	その他	無回答
全 体		241	51.0	48.5	21.2	19.5	18.7	14.1	12.9	9.1	6.6	6.6	7.5	2.1
年 代 別	29歳以下	26	26.9	50.0	23.1	15.4	23.1	19.2	19.2	3.8	11.5	11.5	7.7	-
	30～40代	56	48.2	50.0	25.0	19.6	26.8	12.5	12.5	21.4	10.7	8.9	1.8	-
	50～64歳	85	57.6	49.4	17.6	20.0	14.1	15.3	15.3	7.1	7.1	9.4	7.1	2.4
	65～74歳	46	52.2	52.2	26.1	15.2	17.4	17.4	10.9	2.2	2.2	-	10.9	6.5
	75歳以上	27	59.3	37.0	14.8	29.6	14.8	3.7	3.7	7.4	-	-	11.1	-

II 調査結果（市民）

10-4 福祉サービス・支援制度について

福祉に関する情報の入手先については、「市広報紙」が8割台半ばと突出しており、全ての世代で7～8割台と最も高くなっている。一方、64歳以下では「インターネット（SNSを含む）」が3割台と高く、若年層を中心に情報を得る手段が多様化している現状がうかがえる。

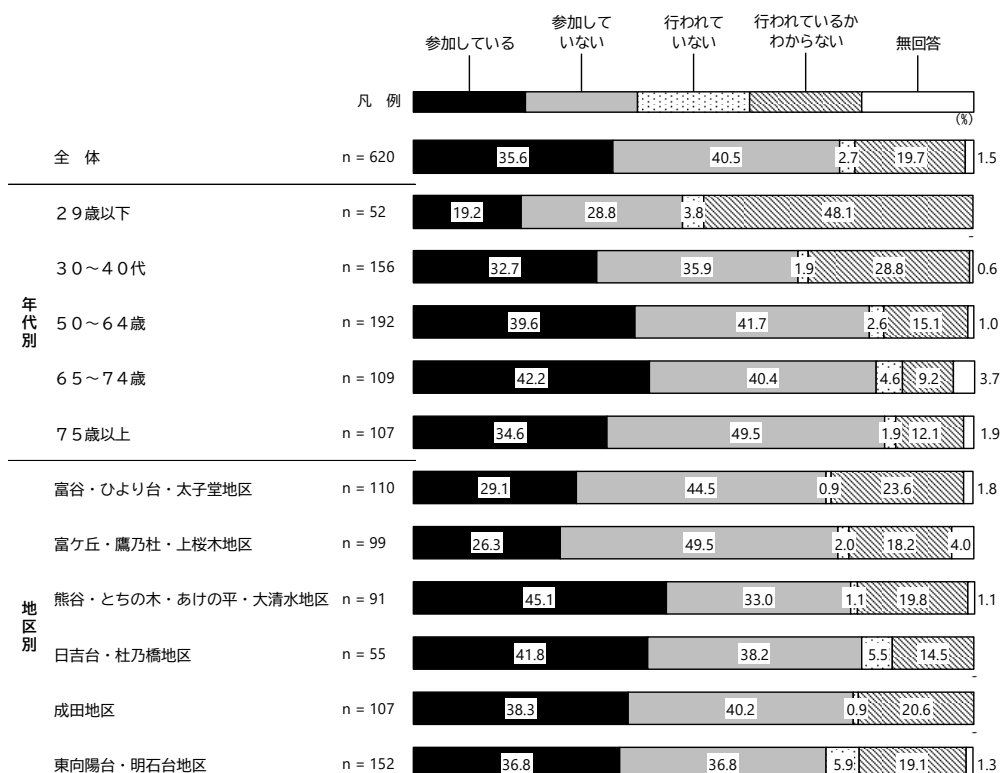
【問 22：市の福祉サービスや福祉施設の情報の入手先の認知度】

	n	市広報紙	インターネット（SNSを含む）	市役所等の公共機関	富谷市社会福祉協議会	知人・友人	隣近所の人	新聞	民生委員・児童委員	民間の福祉施設及び事業所	その他	入手先がわからない	入手していない	無回答
全 体	620	85.2	27.4	17.6	14.5	10.3	9.8	8.7	7.1	3.7	1.6	3.2	5.5	1.3
年 代 別														
29歳以下	52	76.9	30.8	3.8	-	5.8	9.6	9.6	1.9	-	7.7	3.8	13.5	-
30～40代	156	83.3	37.8	17.9	7.7	7.7	10.9	4.5	3.2	3.2	0.6	2.6	6.4	-
50～64歳	192	88.5	32.8	16.7	15.6	9.9	6.3	4.2	4.7	2.6	1.0	4.2	4.2	0.5
65～74歳	109	89.9	21.1	23.9	19.3	12.8	11.9	11.0	9.2	7.3	1.8	1.8	2.8	0.9
75歳以上	107	81.3	8.4	19.6	23.4	14.0	13.1	20.6	17.8	4.7	-	3.7	5.6	5.6

10-5 災害時の対応について

地域の防災訓練に「参加している」は3割台半ばにとどまっており、「行われているか分からない」が2割近くを占めている。「参加している」について年代別にみると、50～74歳では約4割とやや高くなっている。地区別にみると『富谷・ひより台・太子堂地区』『富ヶ丘・鷹乃杜・上桜木地区』では2割台後半とやや低くなっている。

【問 32①：地域の防災訓練への参加状況】

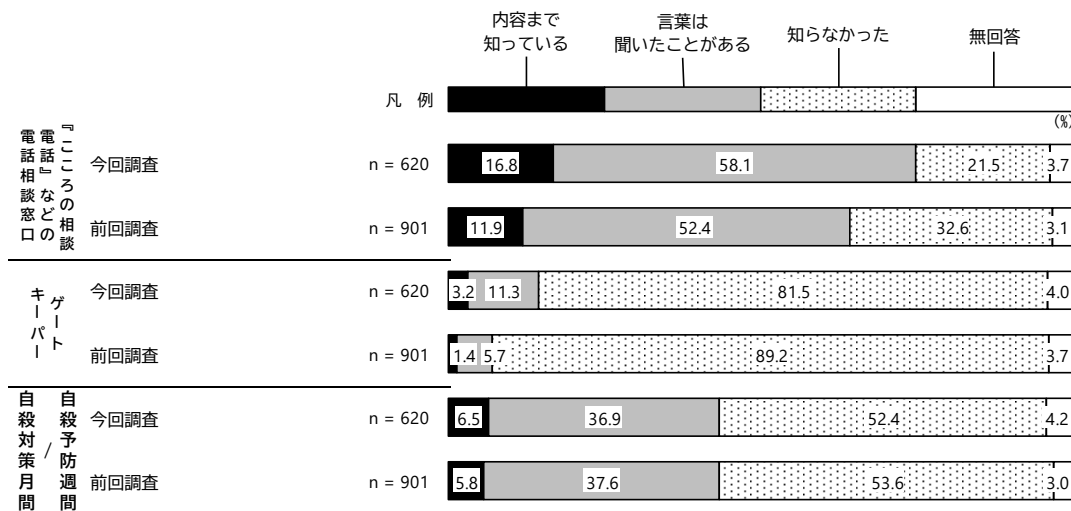


10-6 こころの健康について

自殺対策全体の認知度（「内容まで知っている」＋「言葉は聞いたことがある」）は約4割となっている。

相談窓口の認知度については、項目ごとに状況が異なるものの、概ね前回調査時と同程度以上の結果となった。【「こころの相談電話」などの電話相談窓口】（7割台半ば）や【ゲートキーパー】（1割台半ば）は、いずれも前回の認知度を上回る結果となった。【自殺予防週間／自殺対策月間】（4割台前半）は前回同様の認知度を維持している。また、今回調査で新たに聴取した項目について、【よりそいホットライン】が4割台半ば、【SNSを活用した相談】が3割台後半の認知度となっている。

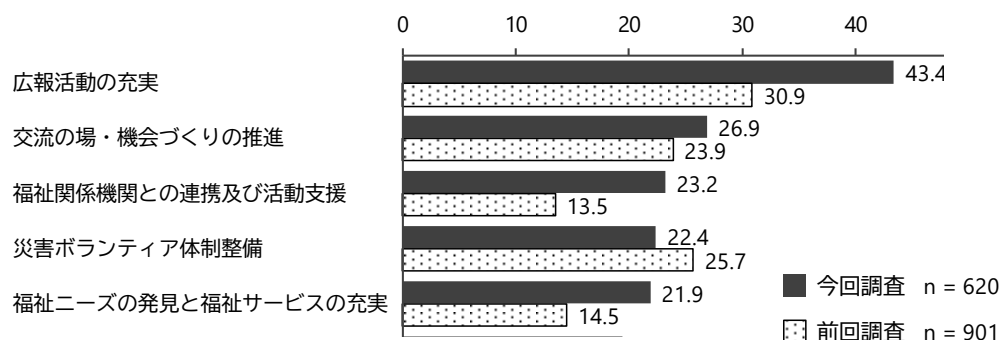
【問 39：相談窓口の認知度】



10-7 富谷市社会福祉協議会に期待すること

富谷市社会福祉協議会に期待することは、「広報活動の充実」（4割台前半）が最も高くなっている。次いで「交流の場づくり」（2割台半ば）や「関係機関との連携支援」（2割台前半）などが続いている。特に「広報活動の充実」、「福祉関係機関との連携及び活動支援」は前回調査より概ね10ポイント以上高くなっている。

【問 43：富谷市社会福祉協議会に期待すること】



※上位5項目を抜粋して掲載。

10－8 結果のまとめ

前回調査から継続して、多くの市民が地域の良さを自覚し、愛着や帰属意識を抱いていることが再確認された。こうした想いは、本市の福祉基盤を支える豊かな共助の土壌であると言える。一方で、地域とのかかわりについては、若年層を中心にあいさつ程度の緩やかなつながりに留まっている実態がある。また、70代後半以降の高齢層においては閉じこもりの傾向も指摘されており、社会的な孤立を防止する地域の支え合いの再構築が課題となっている。

地域活動の現状に目を向けると、熱心な担い手が存在する一方で、活動の固定化や高齢化が組織運営上の障壁となっている状況がうかがえる。今後は、旧来の慣習のみにとらわれず、誰もが地域活動に参画しやすい環境と活動のあり方を柔軟に転換していく必要がある。

具体的には、週末開催や単発参加型活動の拡充など、現役世代を含む多様なライフスタイルに合わせた選択肢を提供することに加え、若者や子育て世帯など、各年代の生活実感や関心に沿った新たなプログラムを新規に企画していくことが考えられる。

デジタル媒体は、若年層や外出が困難な高齢者が等しく地域活動に参画し、双方向の交流を図るための有効な手段として一層の活用をはかることが重要である。WEB会議ツールやチャットツールの導入にあたっては、高齢者を教える対象として固定するのではなく、共に新しい地域の交流のあり方を創る仲間として捉え、自宅からでも日常的に活動へ参画できる仕組みを実装していくことが必要だと考えられる。

このような活動時間、内容、手法の柔軟な転換を通じて、身体的制約のある高齢者や時間的制約のある若者をはじめとしたあらゆる市民が、主体的に地域活動へ参画できる機会を拡充していくことで、住民同士の共助を一層深化させるとともに、公的な情報発信においてもSNS等のデジタル媒体と広報紙を効果的に連動させることで、誰もが地域と主体的につながり、自然にふれあい、支え合える「地域共生社会の実現」を目指していくことが重要と考えられる。

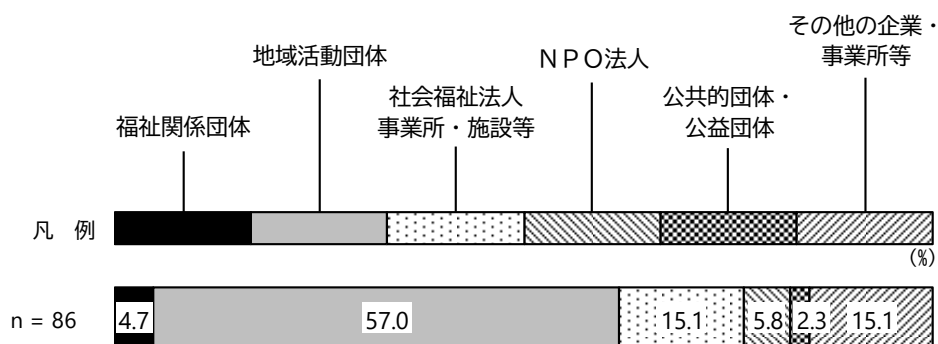
Ⅲ 調査結果（団体）

1 団体の概要について

1-1 所属先

- ▶ 所属先については、「地域活動団体」が57.0%と最も高く、次いで、「社会福祉法人事業所・施設等」、「その他の企業・事業所等」（いずれも15.1%）、「NPO法人」（5.8%）となっている。なお、「その他の企業・事業所等」は15.1%となっている。

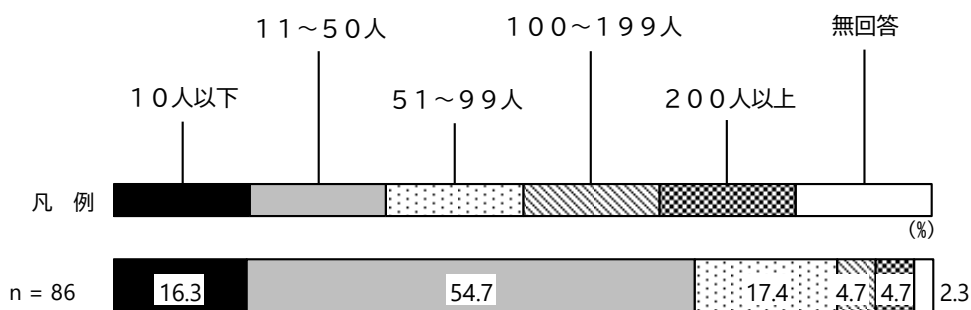
問1 あなたは、下記のどちらに所属していますか。（1つに○）



1-2 所属人数

- ▶ 所属人数については、「11～50人」が54.7%と最も高く、次いで、「51～99人」（17.4%）、「10人以下」（16.3%）となっている。

問2 職員・従業員・会員数は何人ですか。（1つに○）

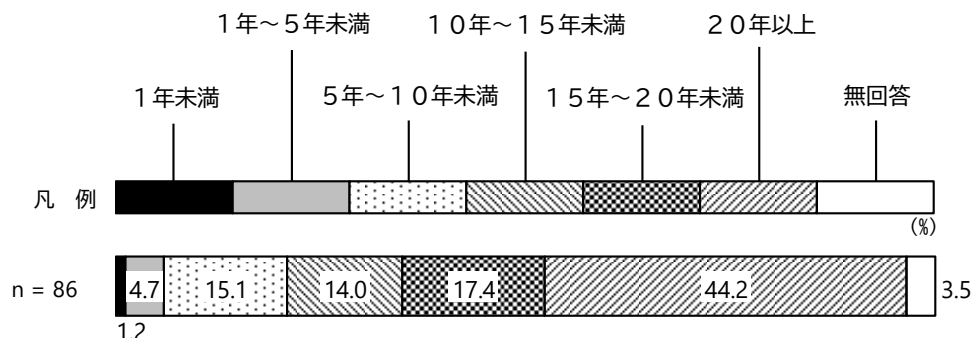


Ⅲ 調査結果（団体）

1-3 設立年数

- ▶ 設立年数については、「20年以上」が44.2%と最も高く、次いで、「15年～20年未満」（17.4%）、「5年～10年未満」（15.1%）となっている。

問3 貴団体が設立して何年になりますか。また、貴事業所が富谷市に立地して何年になりますか。（1つに○） ※いずれか期間が長い方をご回答ください

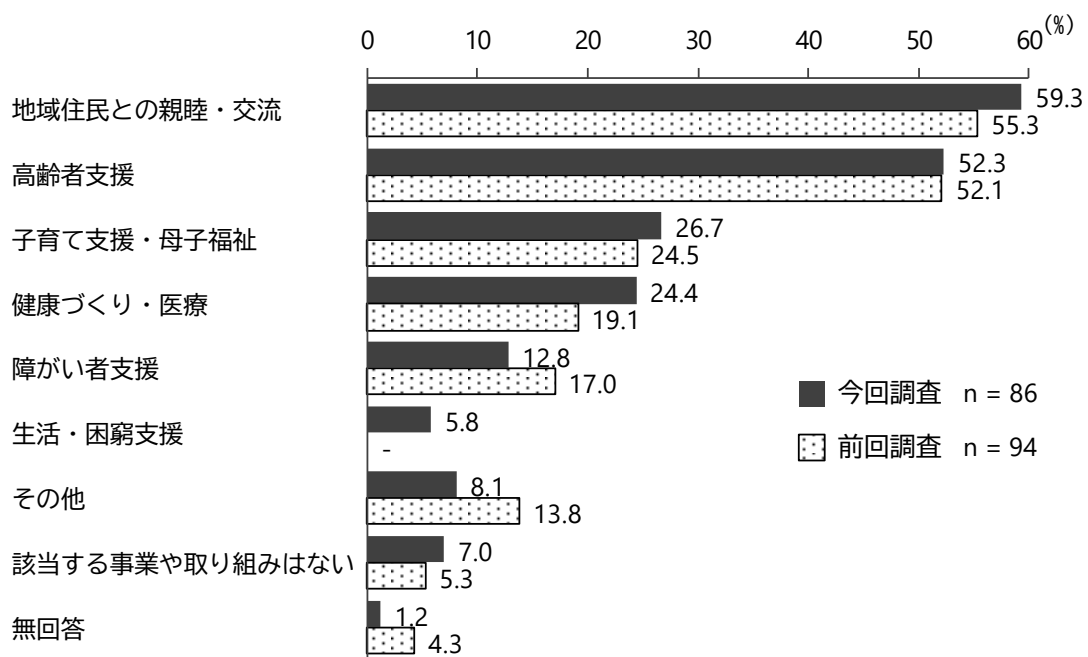


2 団体の活動等について

2-1 取り組んでいる事業や分野

- ▶ 取り組んでいる事業や分野については、「地域住民との親睦・交流」が59.3%と最も高く、次いで、「高齢者支援」（52.3%）、「子育て支援・母子福祉」（26.7%）となっている。

問4 貴団体・事業所で行っている事業や取り組みの分野は、次のどれにあてはまりますか。（あてはまるものすべてに○）



※「生活・困窮支援」は今回調査で追加された選択肢であり、前回調査では未聴取。

Ⅲ 調査結果（団体）

2-2 地域と一緒にいることやイベント等

- ▶ 地域と一緒にいることやイベント等について、団体からは、交流・居場所づくりや高齢者支援のほか、地域行事や子ども支援など幅広い回答がみられる。事業所からは、イベントへの参加・組織活動などを通じて地域活動に関わっている状況がうかがえる。

【問4で、「8」以外を選択した方にお聞きします】

問5 問4で回答いただいた事業や取り組みのうち、地域と一緒にいることや地域に向けて行っているイベント等があれば、教えてください。（自由記載）

【主な回答（抜粋）】

※各項目と関連性の高い意見を一部抜粋。

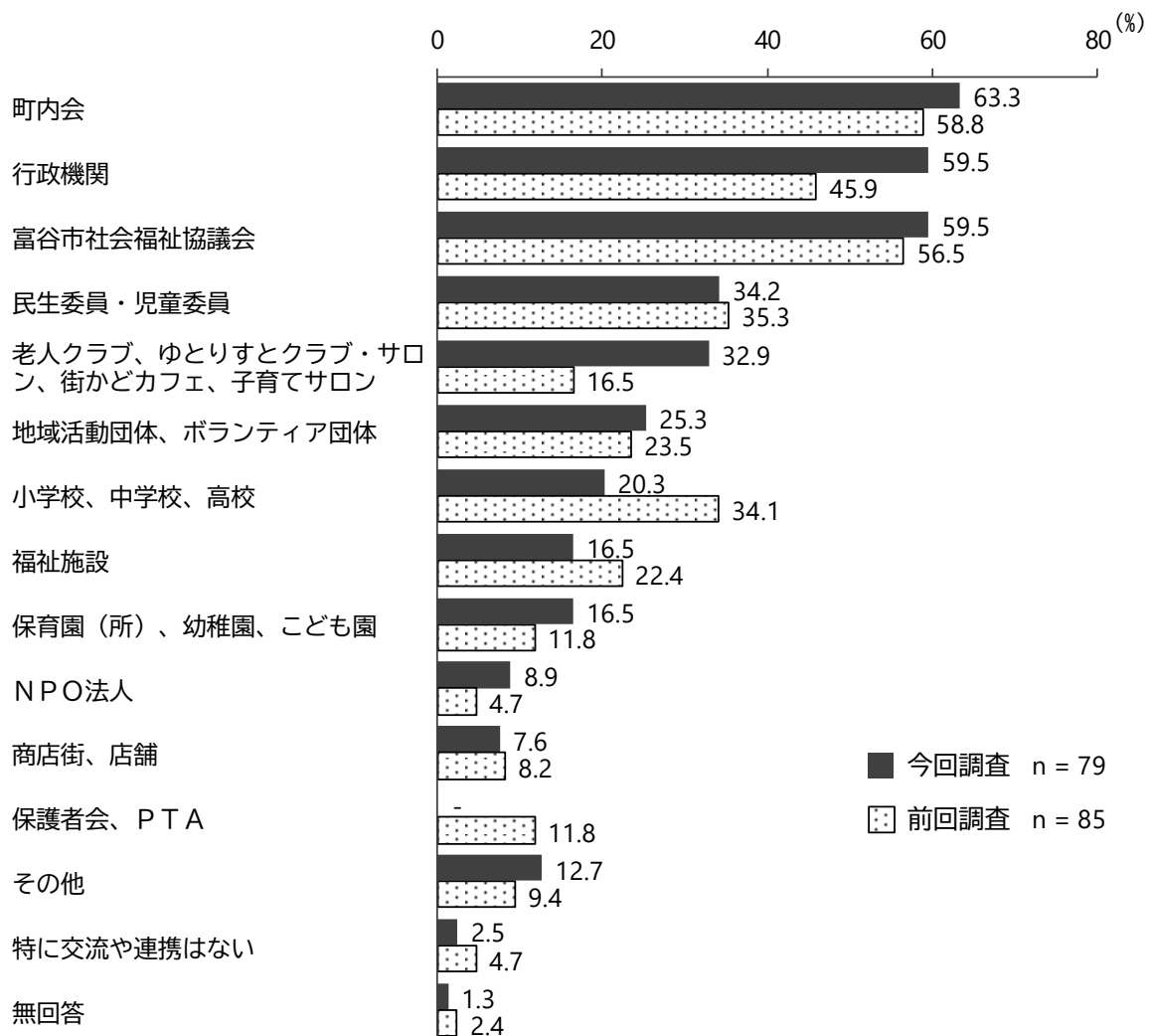
団体	●交流・居場所づくり（サロン、茶話会、街かどカフェ、定例会など） ・月に1回、イベントを開催。毎回ではないが、手作り昼食を皆でいただきながら親睦を深めている。年に1回バスで日帰り旅行を行っている。
	●高齢者支援・福祉活動（高齢者交流、敬老会、健康教室など） ・毎月一回高齢者との交流。年一回健康教室、他。
	●地域行事への協力（夏祭り、公民館まつり、防災訓練、清掃活動など） ・夏祭り、秋祭り、町内会祭り、町内会一斉清掃年8回、防災訓練年1回。
	●子ども・子育て支援（子育てサロン、読み聞かせ、学校・保育園との交流など） ・子育て支援事業（園庭、ホール開放、電話相談）。
事業所	●イベント等への参加・組織活動（夏祭り、朝市、運営推進会議、女性部会など） ・地域の方を交えた運営推進会議の開催。

2-3 他の団体・機関等との交流・連携の状況

- ▶ 他の団体・機関等との交流・連携の状況については、「町内会」が 63.3%と最も高く、次いで、「行政機関」、「富谷市社会福祉協議会」（いずれも 59.5%）、「民生委員・児童委員」（34.2%）となっている。なお、「その他」は 12.7%となっており、具体的な内容としては「地域包括支援センター」などが多くなっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「老人クラブ、ゆとりすとクラブ・サロン、街かどカフェ、子育てサロン」が 16.4 ポイント、「行政機関」が 13.6 ポイント高くなっている。また、「小学校、中学校、高校」が 13.8 ポイント、「保護者会、PTA」が 11.8 ポイント低くなっている。

【問4で、「8」以外を選択した方にお聞きします】

問6 問4で回答いただいた事業や取り組みを行う上でどのような団体や機関等との交流や連携を行っていますか。（あてはまるものすべてに○）



Ⅲ 調査結果（団体）

2-4 具体的な交流・連携

- ▶ 具体的な交流・連携先について、団体からは、行政・福祉関係機関に加え、地域団体・住民組織や教育・子ども関連機関などの回答がみられる。事業所からは、教育機関、行政機関・関係団体等と連携しているとの回答がみられる。
- ▶ 具体的な交流・連携の内容について、団体からは、イベントの実施・協力をはじめ、会場・設備・物品等の提供・利用や、継続的な連携など幅広い内容がみられる。事業所からは、イベント協力や施設利用に関する回答などがみられる。

問7 具体的な交流や連携、協力の内容を教えてください。（自由記載）

①交流・連携先

【主な回答（抜粋）】

※各項目と関連性の高い意見を一部抜粋。

団体	●行政・福祉関係機関（市役所、社会福祉協議会、地域包括支援センター、保健福祉部門など） ・行政、富谷市社会福祉協議会、NPO法人、学校関係。
	●地域団体・住民組織（町内会、老人クラブ、民生委員・児童委員、地域活動団体など） ・街かどカフェの日にイベント等に協力。町内会班長。（町内全体に呼びかける）
	●教育・子ども関連機関（小・中・高校、保育所、児童クラブ、大学など） ・児童クラブと地域交流、トモトモユューとの地域交流会とプレーパーク、障害者、東北文化大学生との交流会。
	●ボランティア・民間団体（ボランティア団体、NPO法人、フードバンク、地域事業者など） ・とみサポころねボランティア、傾聴ボランティア定期受け入れ。
事業所	●教育機関等との連携（学校との関わり、職場体験の受入など） ・成田中学校、成田小学校、成田東小学校への寄付。成田中から職場体験受入。地元採用。
	●行政機関・関係団体との連携（市健康推進課、公共施設、評議会、商工会など） ・富谷市健康推進課職員の方、町中会館をお借りする。

②内容

【主な回答（抜粋）】

※各項目と関連性の高い意見を一部抜粋。

団体	●イベントの実施・協力（健康・防災等の講話、体操・演奏、読み聞かせ、ワークショップなどの実施） ・サポーターの口利きで外部団体を召いて、フラダンスの演技を披露していただきました。10人での演技は見事なものでした。最後は、皆で芋煮を味わいました。 ・11月の健康講座で、市の保健師さんによる風邪・インフルエンザの予防についての講話と「富谷貯筋」の軽体操、包括支援センター「わかば」さんによるフレイル予防の音楽に合わせての体操等を実施しました。大好評でした。
	●会場・設備・物品等の提供・利用（町内会館・公民館等の会場利用、備品の貸出、移動バスの利用など） ・福祉施設での発表会や公民館・まほろばホール等、各機関と連携する事により声がけ機会を多く得られる。
	●助成金・資金面での支援および事務的支援（活動費助成、寄付、補助金手続き支援、会場確保や手配に関する支援など） ・助成金の手続き、入会の手続き、研修旅行の際のバスの確保の手続き、一年間の月一回のイベント会場（公民館）の確保の手続き、使用道具の貸与。
	●ボランティアによる協力（イベント運営補助、見守り、同行支援など） ・会員間のボランティアで全てを運営しています。 ・ハーモニカアンサンブルで、ボランティア演奏は108回になります。ジャンルは日本の歌、歌謡曲、ポップス、民謡等です。
	●情報交換（活動相談・助言、他団体との調整・交流など） ・町内会全体で、ゆとりすとクラブ・街かどカフェ、子供会等、支え合いながら情報交換し合っている。困った事があれば行政の方にも相談に行きアドバイスを受けたりしながら、皆さんとの交流を計っている。子供会のお母さん達の参加を促したいところ。
	●イベントの実施・協力（夏まつり参加、健康講和など） ・地域イベント（夏まつり等）への参加。
事業所	●会場の利用（イベント時の町内会館の利用など） ・健康（フレイル予防、体操、栄養）の話をしていただいた。会場として、町中会館をお借りしている。
	●物品の提供 ・手作り玩具などの提供。

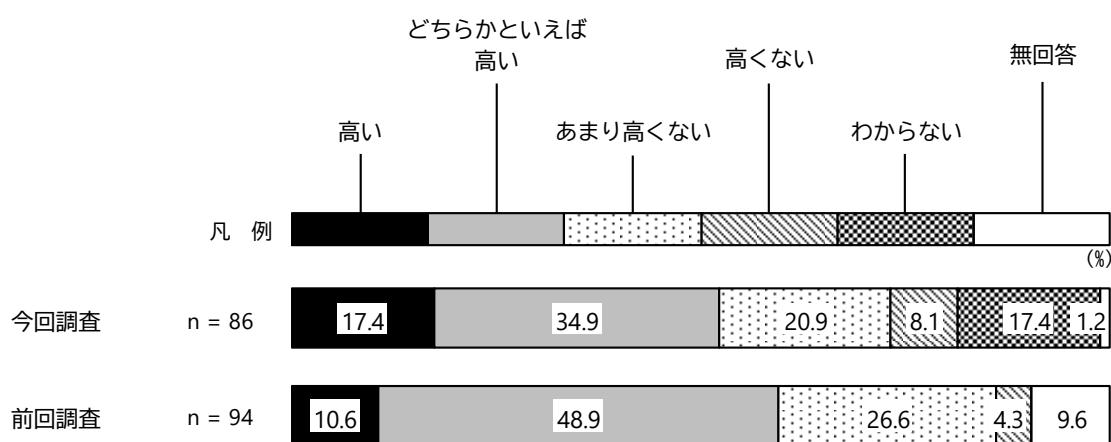
3 地域への認識について

3-1 助け合いに対する意識の高さ

- ▶ 助け合いに対する意識の高さについては、「どちらかといえば高い」が34.9%と最も高く、次いで、「あまり高くない」(20.9%)、「高い」(17.4%)となっている。なお、「わからない」が17.4%となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、選択肢が増えたことに留意が必要だが、「どちらかといえば高い」が14.0ポイント低くなっている。

【すべての方にお聞きします】

問8 富谷市における住民相互の助け合いに対する意識は高いと感じますか。(1つに○)

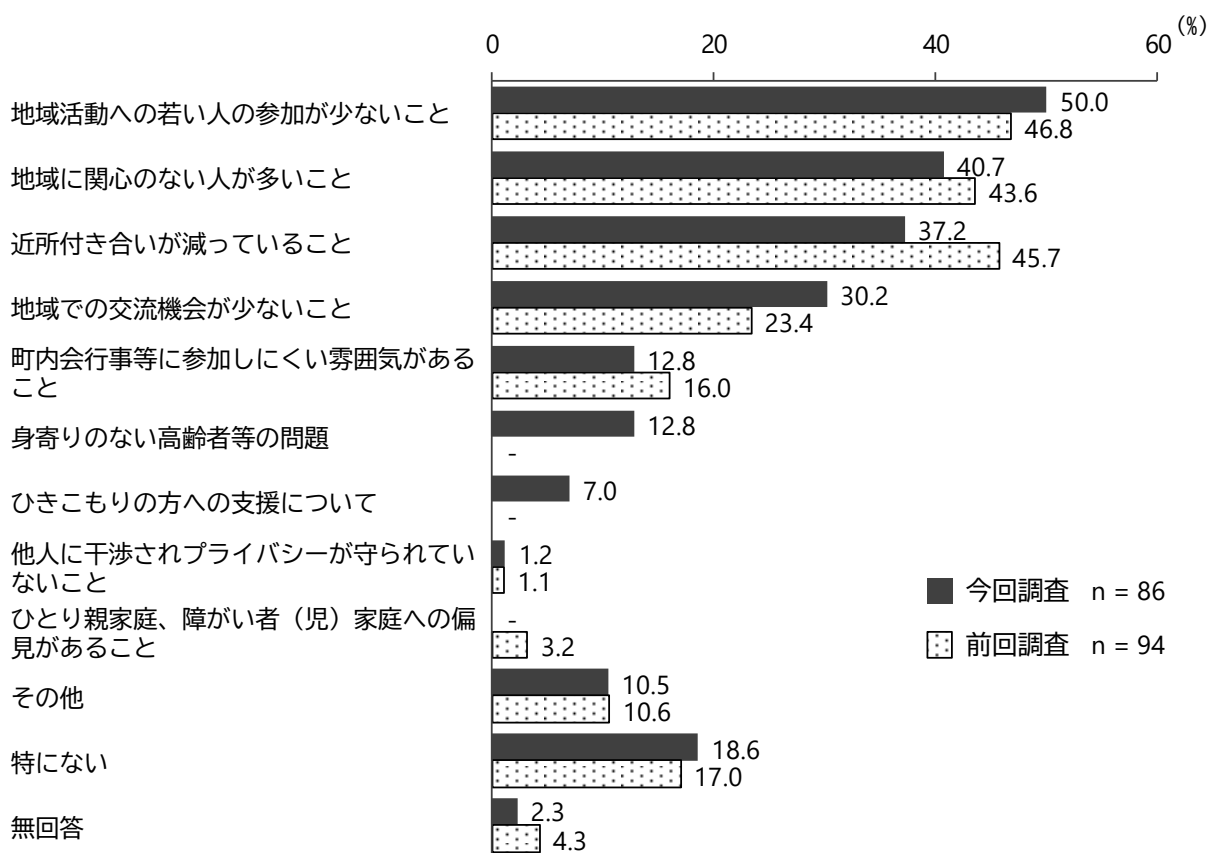


※「わからない」は今回調査で追加された選択肢であり、前回調査では未聴取。

3-2 地域の問題点や日常の困りごと

- ▶ 地域の問題点や日常の困りごとについては、「地域活動への若い人の参加が少ないこと」が50.0%と最も高く、次いで、「地域に関心のない人が多いこと」（40.7%）、「近所付き合いが減っていること」（37.2%）となっている。なお、「その他」は10.5%となっており、具体的な内容としては「認知症当事者の方々が交流できる場が少ない」や「子どもは参加させるが親は参加しない」などとなっている。また、「特にない」が18.6%となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「近所付き合いが減っていること」がやや低くなっている。

問9 普段の業務・活動の中で感じる地域の問題点や地域の人々から聞く日常の困りごとは、どのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）



※「身寄りのない高齢者等の問題」、「ひきこもりの方への支援について」は今回調査で追加された選択肢であり、前回調査では未聴取。

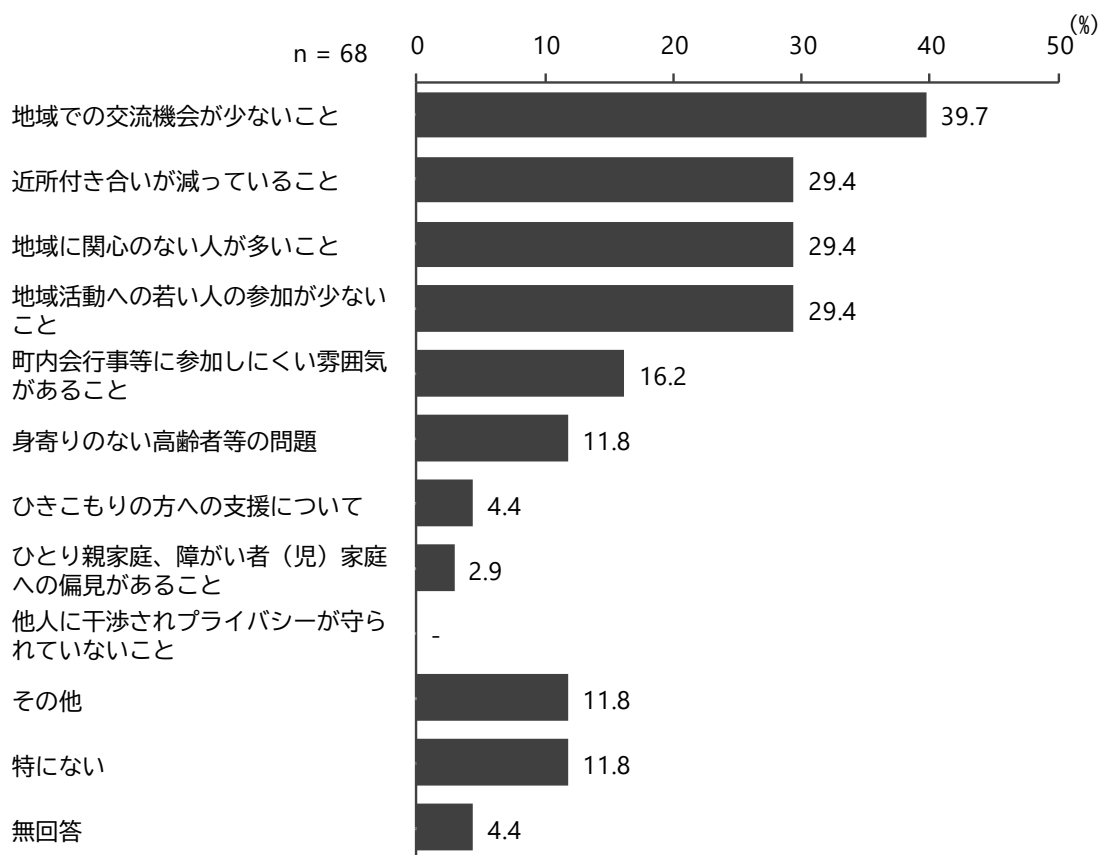
Ⅲ 調査結果（団体）

3-3 日々の困りごとの中で既に取り組んでいること・実施できること

- ▶ 日々の困りごとの中で既に取り組んでいること・実施できることについては、「地域での交流機会が少ないこと」が39.7%と最も高く、次いで、「近所付き合いが減っていること」、「地域に関心のない人が多いこと」、「地域活動への若い人の参加が少ないこと」（いずれも29.4%）となっている。なお、「その他」は11.8%となっており、具体的な内容としては「会員やスタッフの知り合いの輪を広げる」、「町内会との連携」、「声がけ運動」などとなっている。また、「特にない」が11.8%となっている。

【問9で「1」～「10」のいずれかを選択した方にお聞きします】

問10 問9で回答いただいた地域の問題点や地域の人々から聞く日常の困りごとの中で、貴事業所・団体で既に取り組んでいることや実施できることとしては、どのようなことがあげられますか。（あてはまるものすべてに○）

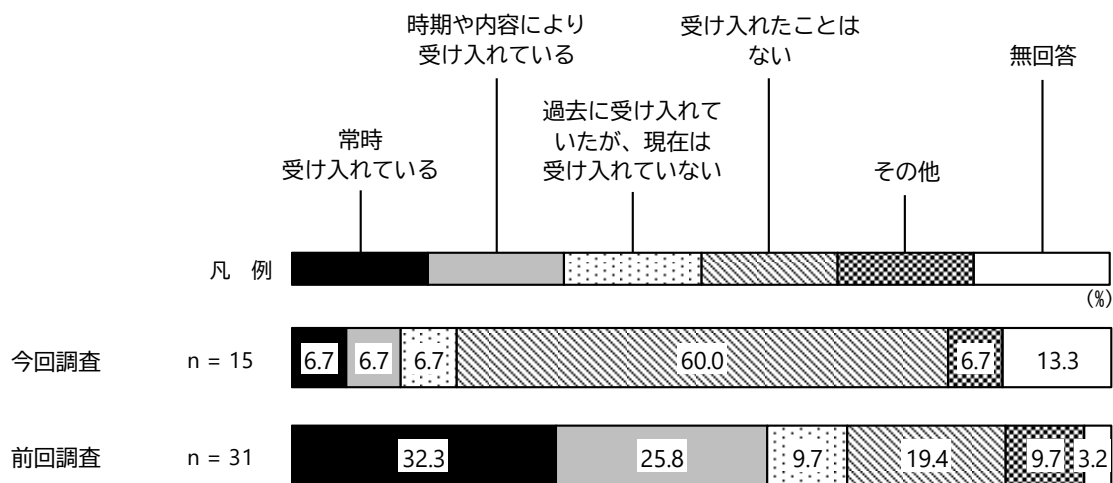


3-4 事業所の普段の業務におけるボランティアの受け入れ状況

- ▶ 事業所の普段の業務におけるボランティアの受け入れ状況については、「受け入れたことはない」が 60.0%と最も高く、次いで、「常時受け入れている」、「時期や内容により受け入れている」、「過去に受け入れていたが、現在は受け入れていない」（いずれも 6.7%）となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、調査数（n）が少ないことに留意が必要だが、「受け入れたことはない」が 40.6 ポイント高くなっている。また、「常時受け入れている」が 25.6 ポイント、「時期や内容により受け入れている」が 19.1 ポイント低くなっている。

【問 1 で「公共的団体・公益団体（シルバー人材センター、郵便局等）」「その他の企業・事業所等」のいずれかを選択した方にお聞きします】

問 11 貴事業所において、普段の業務で富谷市内の団体や住民によるボランティアの受け入れを行っていますか。（1 つに○）



3-5 事業所におけるボランティアの活動内容

- ▶ 事業所におけるボランティアの活動内容については、傾聴に関する活動との回答が 1 件みられた。

【問 11 で「常時受け入れている」「時期や内容により受け入れている」のいずれかを選択した方にお聞きします】

問 12 ボランティアによる具体的な活動内容を教えてください。（自由記載）

- ・ 社会福祉協議会の傾聴ボランティア

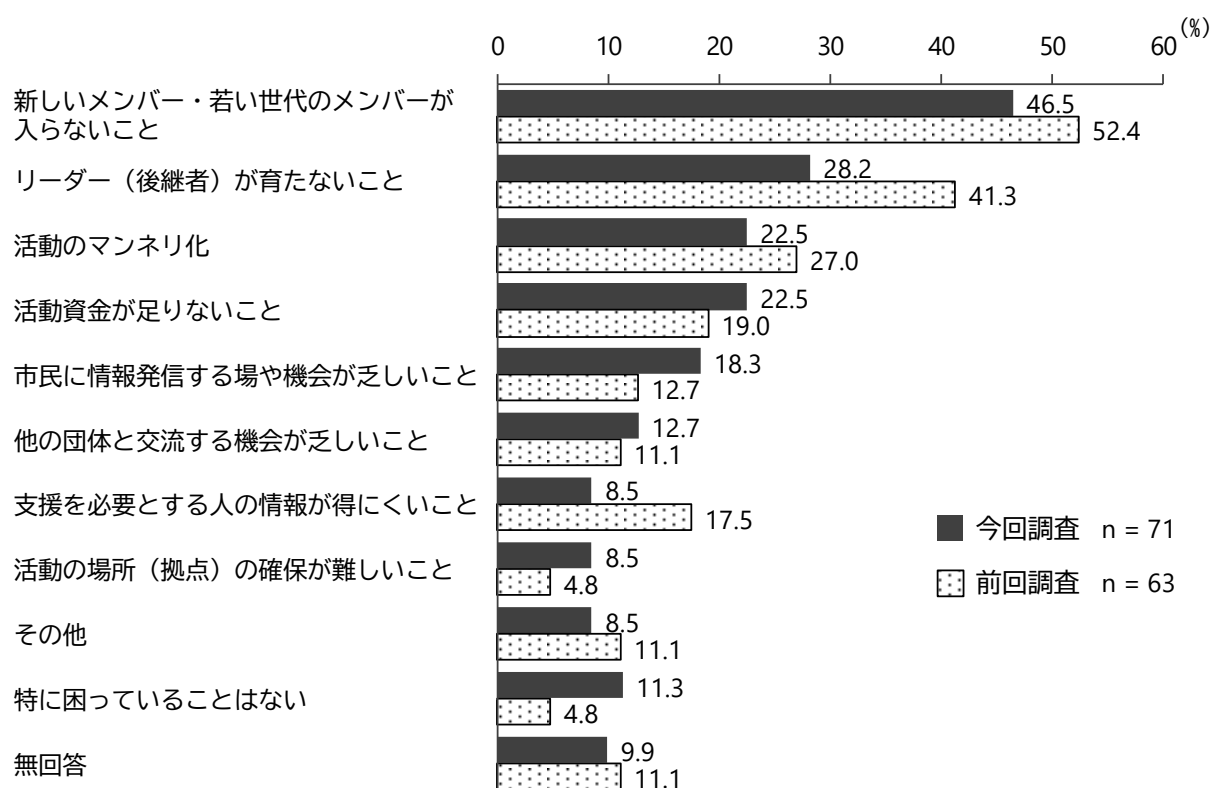
Ⅲ 調査結果（団体）

3-6 団体が活動を行う上で困っていること

- ▶ 団体が活動を行う上で困っていることについては、「新しいメンバー・若い世代のメンバーが入らないこと」が46.5%と最も高く、次いで、「リーダー（後継者）が育たないこと」（28.2%）、「活動のマンネリ化」、「活動資金が足りないこと」（いずれも22.5%）となっている。なお、「特に困っていることはない」が11.3%となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「リーダー（後継者）が育たないこと」が13.1ポイント低くなっている。

【問1で「福祉関係団体」「地域活動団体」「社会福祉法人事業所・施設等」「NPO法人」のいずれかを選択した方にお聞きします】

問13 貴団体が活動を行う上で困っていることはどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

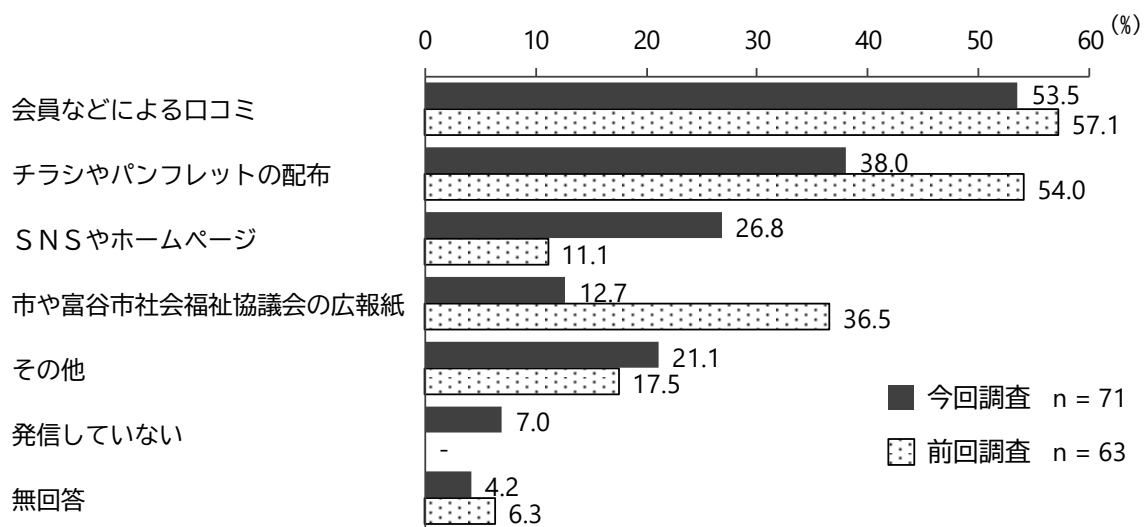


※前回調査の選択肢「人々のニーズに合った活動ができていないこと」（4.8%）は今回調査では未聴取。

3-7 団体の活動情報の発信方法

- ▶ 団体の活動情報の発信方法については、「会員などによる口コミ」が 53.5%と最も高く、次いで、「チラシやパンフレットの配布」（38.0%）、「SNSやホームページ」（26.8%）となっている。なお、「その他」は 21.1%となっており、具体的な内容としては「町内会の回覧」や「とみここ通信等」などが多くなっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、選択肢が増えたことに留意が必要だが、「SNSやホームページ」が 15.7 ポイント高くなっている。また、「市や富谷市社会福祉協議会の広報紙」が 23.8 ポイント、「チラシやパンフレットの配布」が 16.0 ポイント低くなっている。

問 14 貴団体では、活動に関する情報をどのように発信していますか。（あてはまるものすべてに○）



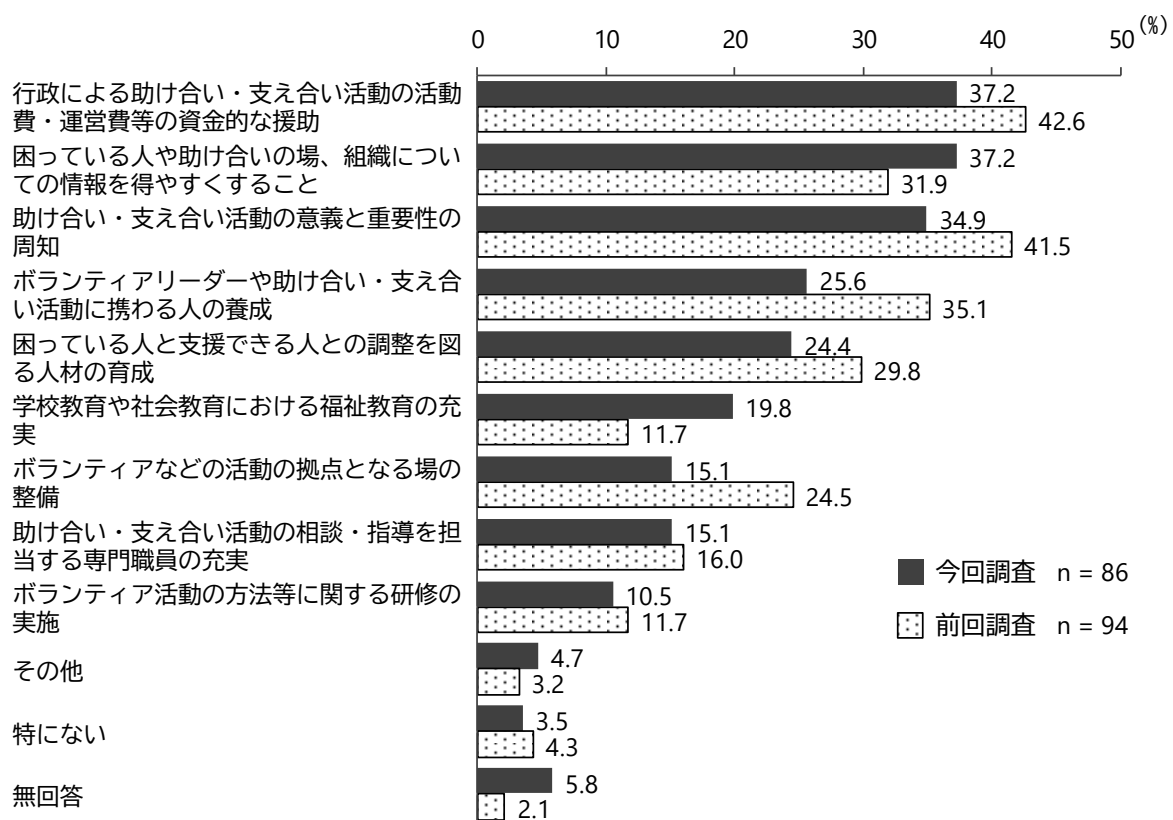
※「発信していない」は今回調査で追加された選択肢であり、前回調査では未聴取。

3-8 助け合い・支え合い活動を活発にするために重要なこと

- ▶ 助け合い・支え合い活動を活発にするために重要なことについては、「行政による助け合い・支え合い活動の活動費・運営費等の資金的な援助」、「困っている人や助け合いの場、組織についての情報を得やすくすること」がいずれも 37.2%と最も高く、次いで、「助け合い・支え合い活動の意義と重要性の周知」（34.9%）となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「ボランティアリーダーや助け合い・支え合い活動に携わる人の養成」、「ボランティアなどの活動の拠点となる場の整備」がやや低くなっている。

【すべての方にお聞きします】

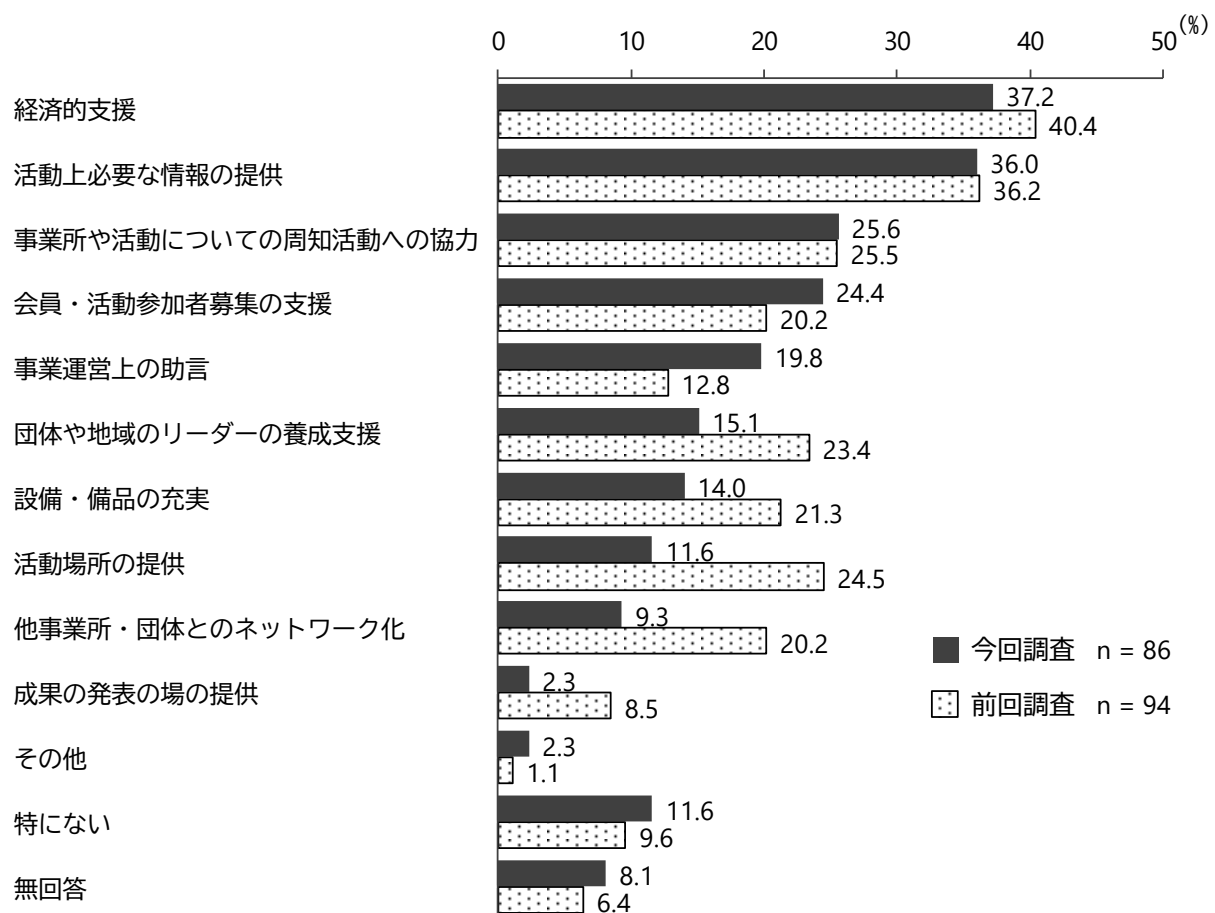
問 15 地域における助け合い・支え合い活動を活発にするためには、どのようなことが重要だと思いますか。（あてはまるもの3つまでに○）



3-9 活動をしていく上で市に望むこと

- ▶ 活動をしていく上で市に望むことについては、「経済的支援」が 37.2%と最も高く、次いで、「活動上必要な情報の提供」(36.0%)、「事業所や活動についての周知活動への協力」(25.6%)となっている。なお、「特にない」が 11.6%となっている。
- ▶ 前回調査と比較すると、「活動場所の提供」が 12.9 ポイント、「他事業所・団体とのネットワーク化」が 10.9 ポイント低くなっている。

問 16 貴団体・事業所が活動をしていく上で市に望むことはどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）



3-10 地域福祉の推進についての意見・要望等

- ▶ 地域福祉の推進についての意見・要望等について、回答いただいた 36 件を記述内容に応じて以下の項目に分類したところ、各項目の意見の合計件数は 49 件となった。
- ▶ 「行政とのかかわりについて」が 17 件と最も多く、次いで「市民の地域福祉に関する意識の醸成について」（9 件）、「取り組みの内容や課題について」（6 件）となっている。

問 17 地域福祉の推進についてご意見・ご要望等、ご自由にお書きください。（自由記載）

	項目	件数
1	行政とのかかわりについて	17
2	市民の地域福祉に関する意識の醸成について	9
3	取り組みの内容や課題について	6
4	情報共有や相談体制の充実について	5
5	地域の支えあい活動や町内会について	5
6	費用について	3
7	人員不足について	2
8	交通について	2
	意見数計	49

※2つ以上の項目にまたがる意見はそれぞれの項目に分類した

【主な意見（抜粋）】

1 行政とのかかわりについて

※各項目と関連性の高い意見を一部抜粋。

- 地域活動を行いたいという市民の意識は比較的高い方が多く、その方々をいかにして活動に取り込みながら、キーパーソンを養成していくかが今後非常に重要なことと考えています。市民活動を活性化していくには、行政主導だけでは限界があります。社協もそうですが、あくまでもきっかけづくりに主眼を置き、住民の自主性・持続性のある活動にするための種まきをするのが役割として大切ではないかと考えます。
- 地域性を重視し、側面から市、社協はバックアップしていただいているが、もうすこし“これぞ”という本職としてのアドバイスがあればと思う。我々は毎回知恵をしばり「楽しみ」を目標に活動していると思っていますが…行政における提案は移動研修のみです。それはとてもありがたいのですが…企画することのむずかしさ。講師をよびたくても講師料金は高いので、ひとつのゆとりすとは、むずかしいことも。無料の講演がもっとあるといいなあ…と思います。今の人は楽しみ、お茶のみだけでなく、知識も望んでいるのだそうです。今後、行政においても住人のことを思いながらの姿勢で取り組んでいただきたいです。

2 市民の地域福祉に関する意識の醸成について

- 小学校や、中学校でも、福祉について勉強する時間があったら後々、いろんな福祉に出会った時に何か役に立てると思います。「住み良い町」の1つに福祉の充実というの

もあるのではないのでしょうか。自分に何ができるかを考える機会がたくさんあって、市民に広がっていけば、住み良い町につながっていくのではないかと思います。

- ボランティア団体としての立場から、大事だと感じていることは、楽しいから関わる、関わることでこの地域で暮らすことが嬉しく喜びとなること。未来へ希望を感じられるような雰囲気作りをすることで、自然と繋がり合うことの良さが伝わること。このような活動の大切さを行政に携わる方たちも実感として感じることで、経験することで、本当に必要な支援が見えてくるのではないのでしょうか。

3 取り組みの内容や課題について

- 私たちは地域ボランティア活動で地域活性化のため、以前はお野菜、果物を仕入れ提供、又、手作り品を展示するなど交流に努めてまいりましたが、スタッフの高齢化、又は、健康上の問題のため、限られた活動になってしまいましたが、定期的に「ライチ会」を開き続けています。

4 情報共有や相談体制の充実について

- より具体的な情報の共有。課題の掘り下げ→解決への道筋に対する役割分担など意識はあるものの、（できる範囲でのお手伝いで）何をどうすれば良いかの共有やとりまとめが不足していると感じる。

5 地域の支え合い活動や町内会について

- スタッフも会員も同じ高齢者になって来ました。スタッフの刷新が必要と考えています。住民が高齢になるにつれて、町内会からの脱会者が増えて来ている。一人暮らしの高齢者や中年層の世帯が増える事で、住民同志のコミュニケーションが希薄になって来ている。この状況を危惧し、町内会長の発案で、若い世代チームとシニアチームのメンバーを募り、町内会を維持していく為に、2カ月に1回の会合を開いて、脱会の理由、町内会のあり方、魅力ある町内会とは等々意見交換をしている。

6 費用について

- 地域イベントが交流活動を担っている所もあり自費をあててイベント開催などしている事もあるので地域おこしや街おこしメンバーを当団体に派遣頂けるとありがたい。

7 人員不足について

- サポーターの中で様々な理由で代表を努める人が出ず、人選に苦慮しています。老々サポーターの状況なので若い人の力が欲しいところです。活動の楽しみが伝われば会員、サポーターも増えるのですが、現実はいきびしいです。

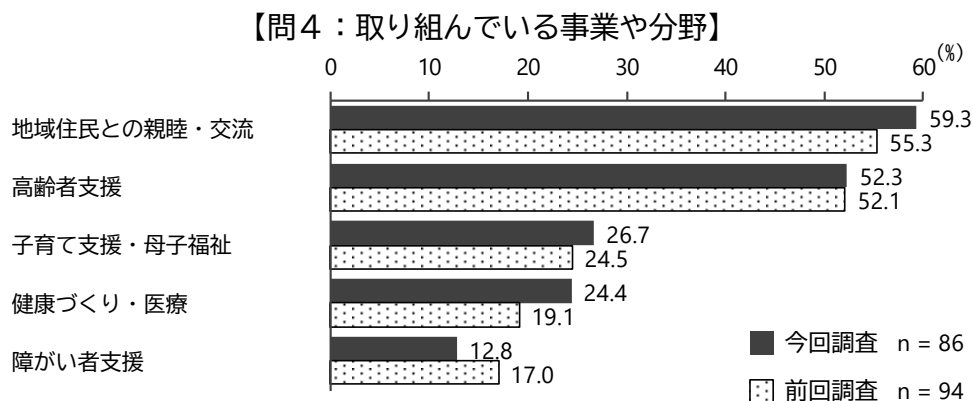
8 交通について

- 土・日のイベント時には臨時で市民バスやシャトルバス（公民館⇄会場）を利用できるようにする等、参加したくてもできない方への配慮をお願いしたいです。

4 調査結果（団体）について

4-1 団体の活動等について

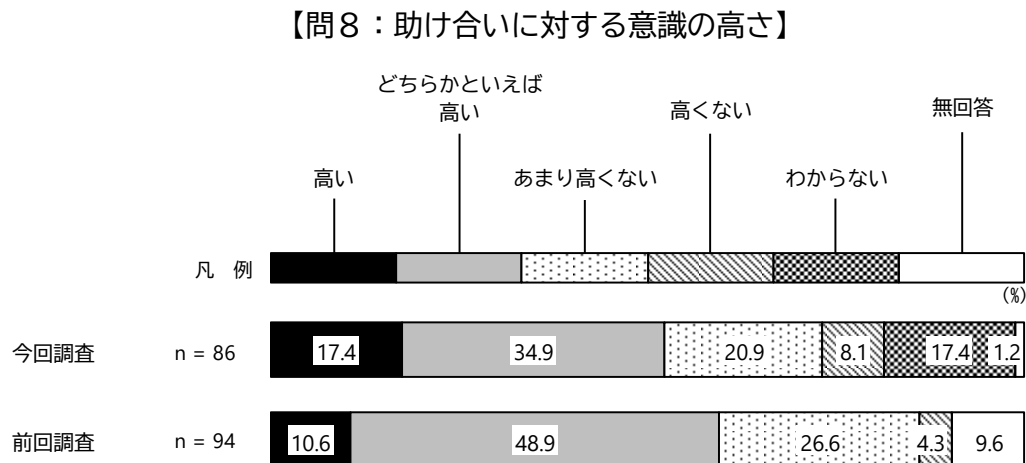
取り組んでいる事業や分野については、「地域住民との親睦・交流」（約6割）、「高齢者支援」（約5割）などが高くなっており、前回調査同様、幅広い分野での活動の状況がうかがえる。



※上位5項目を抜粋して掲載。

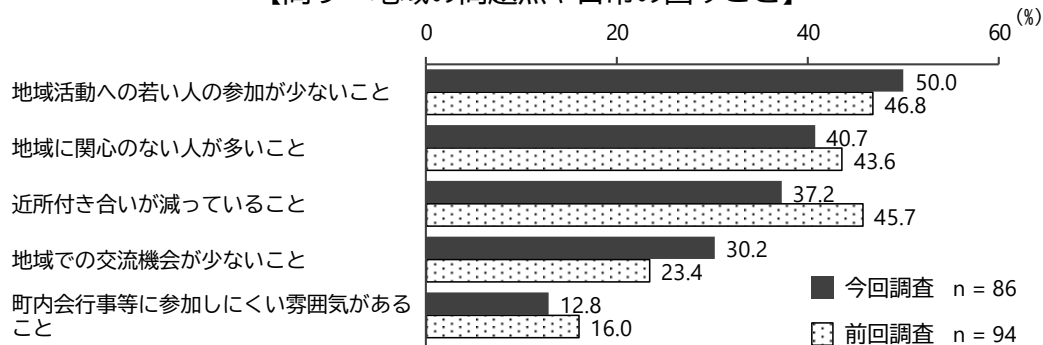
4-2 地域への認識について

地域における助け合いに対する意識について、《高い》（「高い」＋「どちらかといえば高い」）は5割台前半と半数を超えているものの、前回調査（約6割）よりもやや低くなっており、市民の共助の意識の維持・向上が課題となっている状況がうかがえる。



地域の問題点や日常の困りごとについては、「地域活動への若い人の参加が少ないこと」（5割）が最も高く、次いで「地域に関心のない人が多いこと」、「近所付き合いが減っていること」（いずれも約4割）、「地域での交流機会が少ないこと」（約3割）となっており、引き続き地域活動への関心や、近隣交流のあり方に課題がある状況がうかがえる。

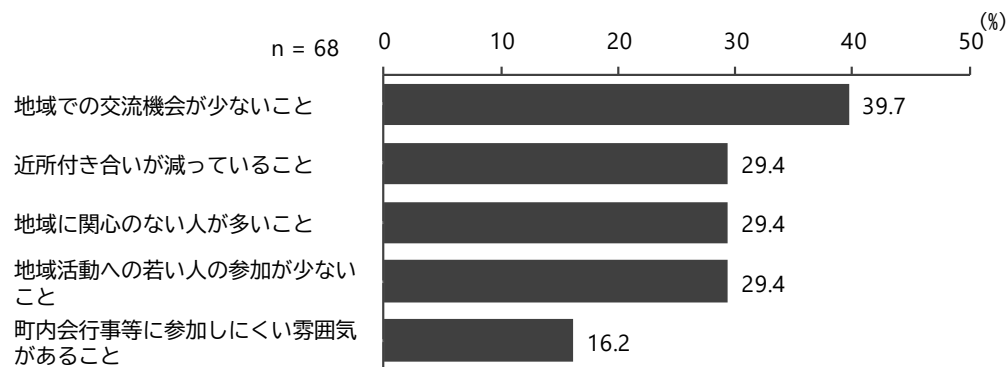
【問9：地域の問題点や日常の困りごと】



※上位5項目を抜粋して掲載。

地域の問題点や日常の困りごとがあると回答した団体・事業者には、課題に対して既に取り組んでいる・取り組むことが可能なことを伺ったところ、「地域での交流機会が少ないこと」（約4割）が最も高く、次いで「近所付き合いが減っていること」、「地域に関心のない人が多いこと」、「地域活動への若い人の参加が少ないこと」（いずれも約3割）が続いている。

【問10：日々の困りごとの中で既に取り組んでいること・実施できること】



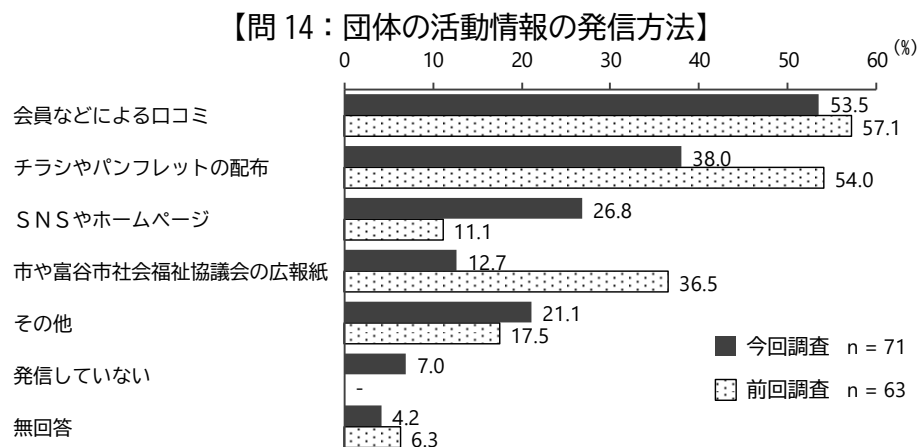
※上位5項目を抜粋して掲載。

地域が抱える課題に対し、多くの団体・事業者が交流機会の活動など解決に向けた前向きな取り組みを検討・展開している状況がうかがえる。

Ⅲ 調査結果（団体）

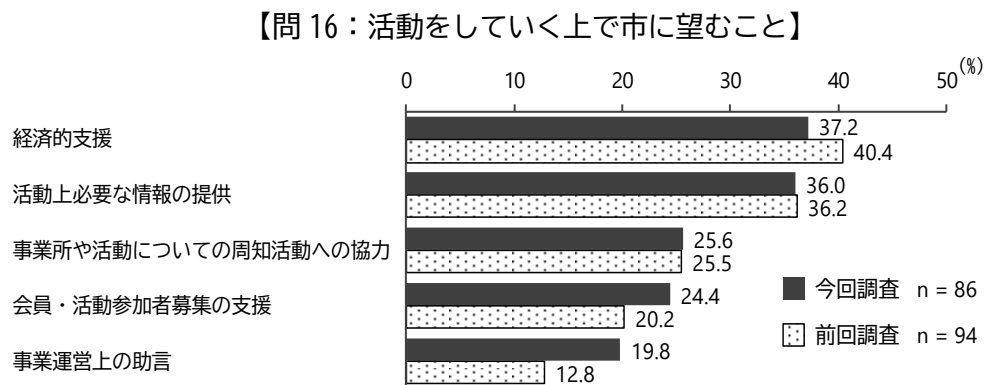
4-3 団体の活動情報の発信方法

団体の情報発信の手法については、「会員などによる口コミ」（５割台前半）が依然として最も高く、前回調査と比較して「ＳＮＳやホームページ」（２割台半ば）が１０ポイント以上高くなっていることから、デジタル媒体の活用により発信方法が多様化している状況がうかがえる。



4-4 活動をしていく上で市に望むこと

活動をしていく上で市に望むことについては、前回調査と同様に「経済的支援」、「活動上必要な情報の提供」（いずれも３割台後半）が高くなっている。行政と団体・事業所の一層の連携体制の強化が重要と考えられる。



※上位５項目を抜粋して掲載。

4-5 結果のまとめ

前回調査に引き続き、多くの団体・事業者が地域住民の交流や支援に精力的に取り組んでいる一方、地域活動への関心の低下や若年層の参加不足など、市民アンケートと共通する課題がある状況がうかがえる。

活動情報の周知においては、口コミやチラシ等の配布に加え、ＳＮＳやホームページなどのデジタル媒体を活用した発信が活発になりつつある状況がうかがえる。地域活動への若年層の参加促進が課題として挙げられている中、今後は団体・事業者と行政がさらに連携を深め、各世代が無理なく活動に参加できる仕組みづくりや、活動の継続性を支える多角的な支援を講じていくことが重要であると考えられる。

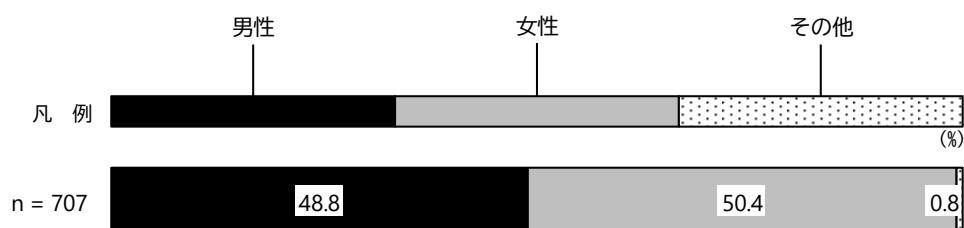
IV 調査結果（学生）

1 回答者ご自身について

1-1 性別

▶ 性別については、「男性」が48.8%、「女性」が50.4%となっている。

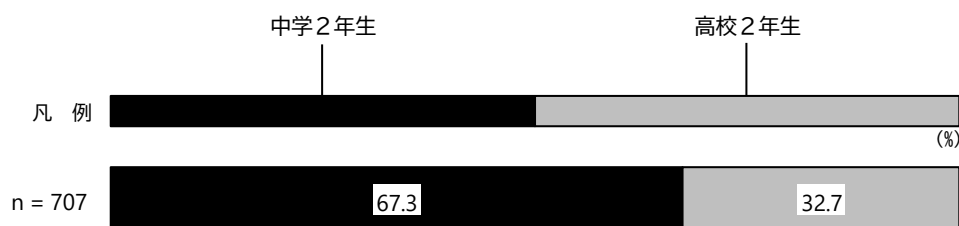
【1】あなたの性別を教えてください。※自認する性別をお答えください。



1-2 学年

▶ 学年については、「中学2年生」が67.3%、「高校2年生」が32.7%となっている。

【2】あなたの学年を教えてください。

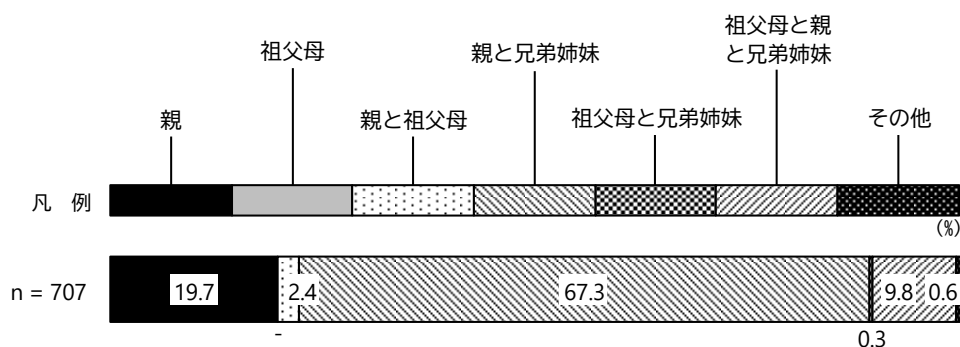


IV 調査結果（学生）

1-3 家族構成

- ▶ 家族構成については、「親と兄弟姉妹」が67.3%と最も高く、次いで、「親」（19.7%）、「祖父母と親と兄弟姉妹」（9.8%）となっている。

【3】現在あなたが同居している家族構成を教えてください。（1つに○）



1-4 居住地区

- ▶ 居住地区については、「富谷市外」が18.7%と最も高く、次いで、「富谷・ひより台・太子堂地区」（17.5%）、「東向陽台・明石台地区」（16.8%）となっている。

【4】あなたのお住まいの地区を教えてください。

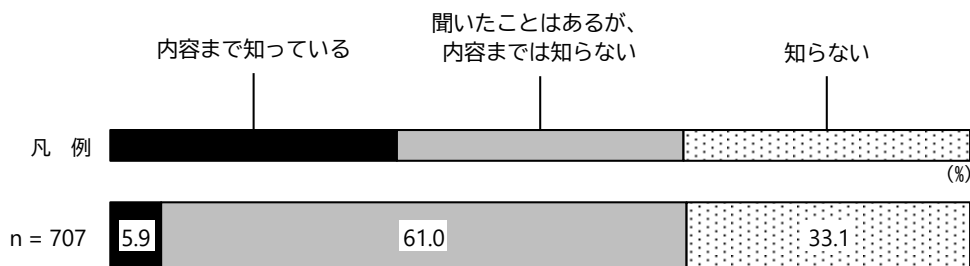


2 地域福祉について

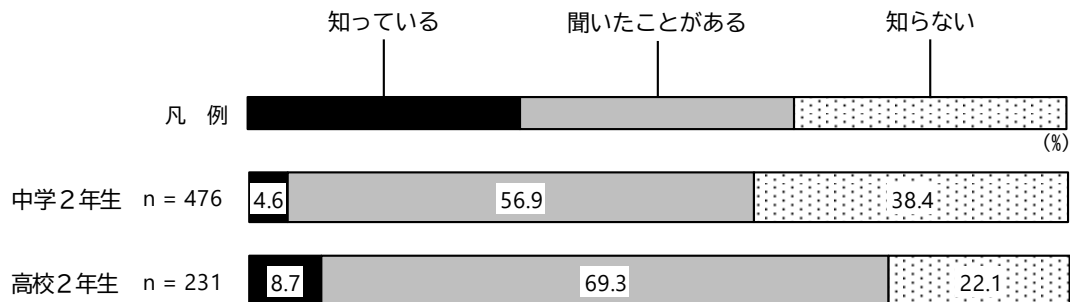
2-1 地域福祉の認知度

- ▶ 「地域福祉」という言葉を知っているかについては、「聞いたことはあるが、内容までは知らない」が61.0%と最も高く、次いで、「知らない」(33.1%)、「内容まで知っている」(5.9%)となっている。

【5】あなたは、「地域福祉」という言葉を知っていますか。（1つに○）



【参考】中学2年生、高校2年生別で見たアンケート調査結果

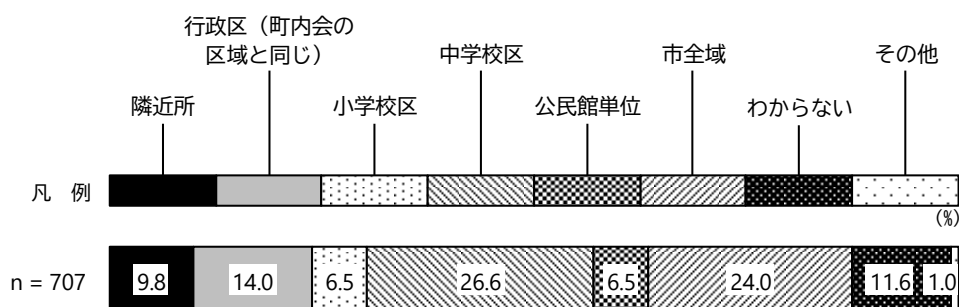


IV 調査結果（学生）

2-2 身近に感じられる「地域」の範囲

- ▶ 身近に感じられる「地域」の範囲については、「中学校区」が26.6%と最も高く、次いで、「市全域」（24.0%）、「行政区（町内会の区域と同じ）」（14.0%）となっている。なお、「わからない」が11.6%となっている。

【6】あなたにとって身近に感じられる「地域」の範囲を教えてください。（1つに○）

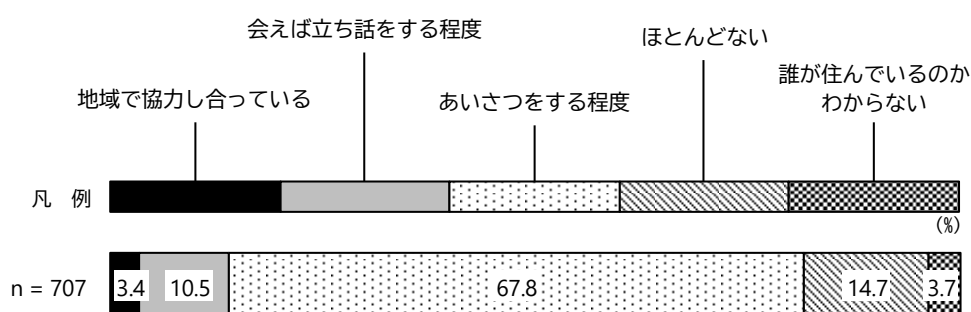


2-3 普段、隣近所の人とどの程度関わりがあるか

- ▶ 普段、隣近所の人とどの程度関わりがあるかについては、「あいさつをする程度」が67.8%と最も高く、次いで、「ほとんどない」（14.7%）、「会えば立ち話をする程度」（10.5%）となっている。

【7】あなたは普段、隣近所の人とどの程度関わりがありますか。（1つに○）

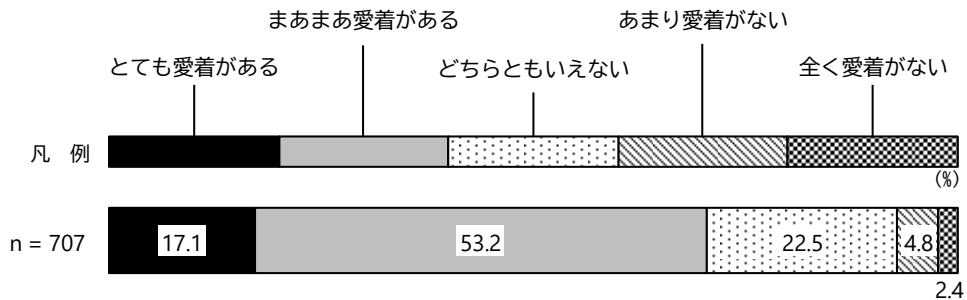
※隣近所の人：友人やその保護者、町内会の方など



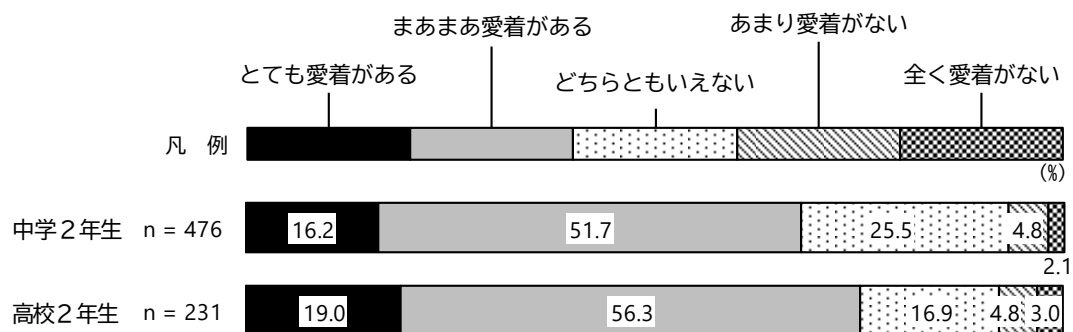
2-4 居住地域に愛着があるか

- ▶ 居住地域に愛着があるかについては、「まあまあ愛着がある」が53.2%と最も高く、次いで、「どちらともいえない」(22.5%)、「とても愛着がある」(17.1%)となっている。

【8】あなたは現在住んでいる地域（問4の地域）に愛着がありますか。（1つに○）



【参考】中学2年生、高校2年生別で見たアンケート調査結果

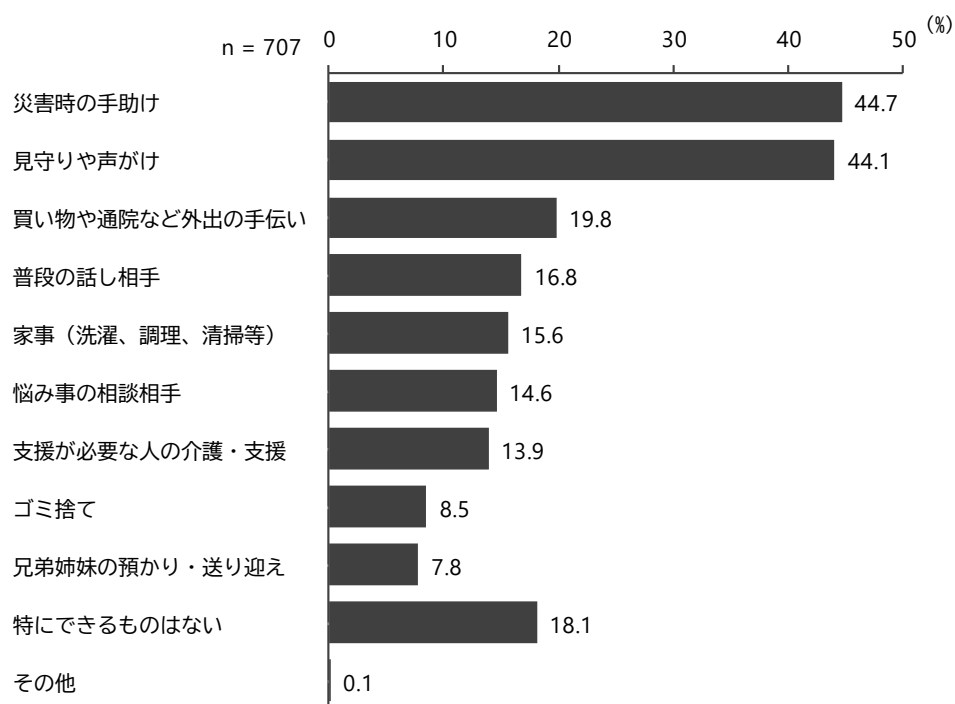


IV 調査結果（学生）

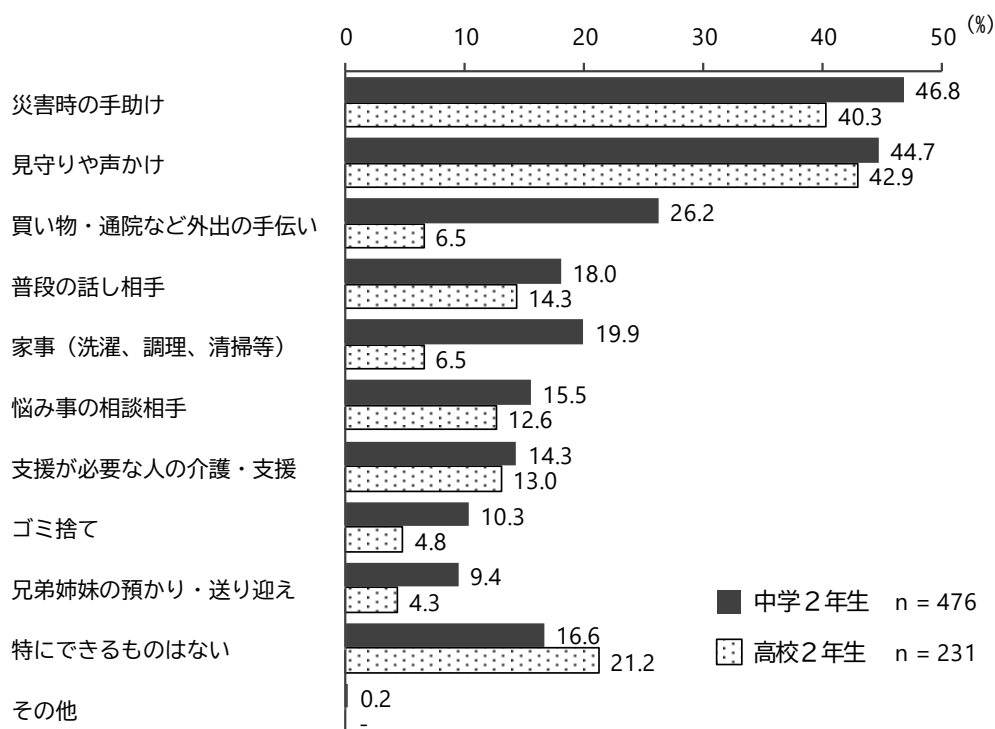
2-5 日常生活が不自由になった場合にしてほしい手助け

- ▶ 日常生活が不自由になった場合にしてほしい手助けについては、「災害時の手助け」が44.7%と最も高く、次いで、「見守りや声かけ」（44.1%）、「買い物や通院など外出の手伝い」（19.8%）となっている。なお、「特にできるものはない」が18.1%となっている。

【9】ご家族の方が、病気や日常生活が不自由になったとき、地域の方々にどのような手助けをしてほしいですか。（あてはまるものすべてに○）



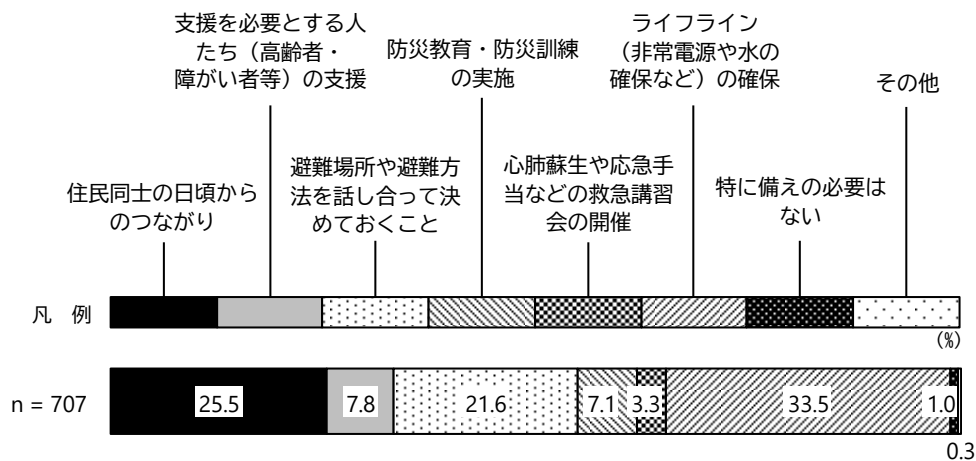
【参考】中学2年生、高校2年生別で見たアンケート調査結果



2-6 災害時に地域で最も必要だと思う備え

- ▶ 災害時に地域で最も必要だと思う備えについては、「ライフライン（非常電源や水の確保など）の確保」が 33.5%と最も高く、次いで、「住民同士の日頃からのつながり」（25.5%）、「避難場所や避難方法を話し合っておくこと」（21.6%）となっている。

【10】あなたは、災害（地震・台風など）の際に地域で最も必要だと思う備えはどれだと思いますか。（1つに○）

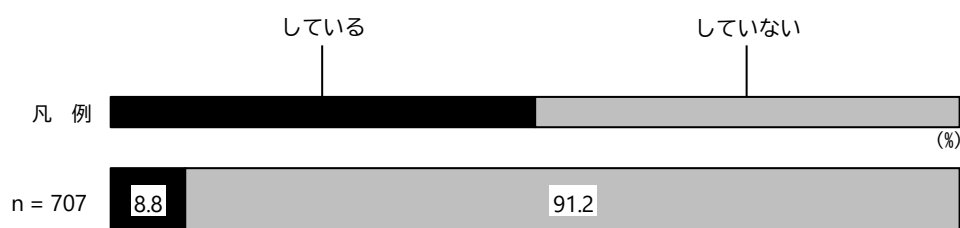


2-7 現在ボランティア活動をしているか

- ▶ 現在ボランティア活動をしているかについては、「している」が8.8%、「していない」が91.2%となっている。
- ▶ 主なボランティア活動としては、清掃・ゴミ拾い（地域の清掃活動、部活動での清掃活動）、募金（赤十字、あしなが育成会等）、エコキャップ集め、ジュニアリーダーやボーイスカウト等の意見があった。

【11】あなたは、現在ボランティア活動をしていますか。（1つに○）

※ボランティア活動の一環として行っている学校クラブ活動なども含みます。

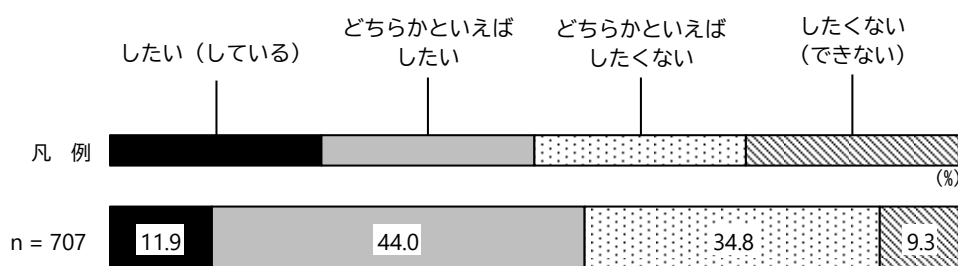


2-8 今後ボランティア活動をしたいと思うか

- ▶ 今後ボランティア活動をしたいと思うかについては、「どちらかといえばしたい」が44.0%と最も高く、次いで、「どちらかといえばしたくない」(34.8%)、「したい(している)」(11.9%)となっている。

【13】あなたは、今後ボランティア活動をしたいと思いますか。（1つに○）

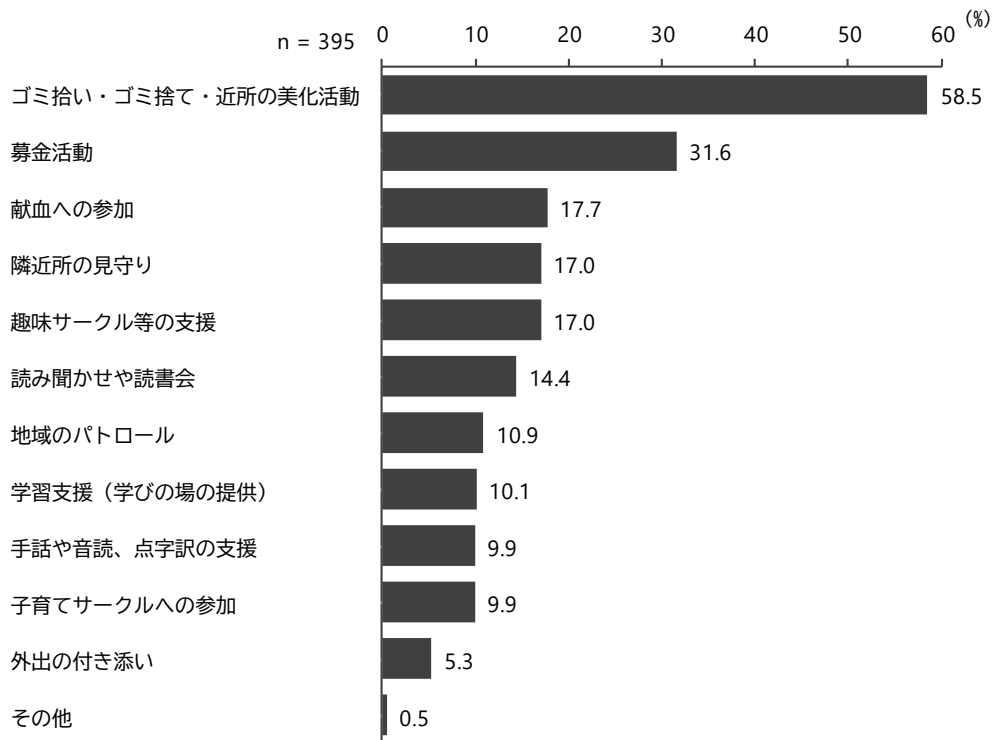
※ボランティア活動の一環として行っている学校クラブ活動なども含みます。



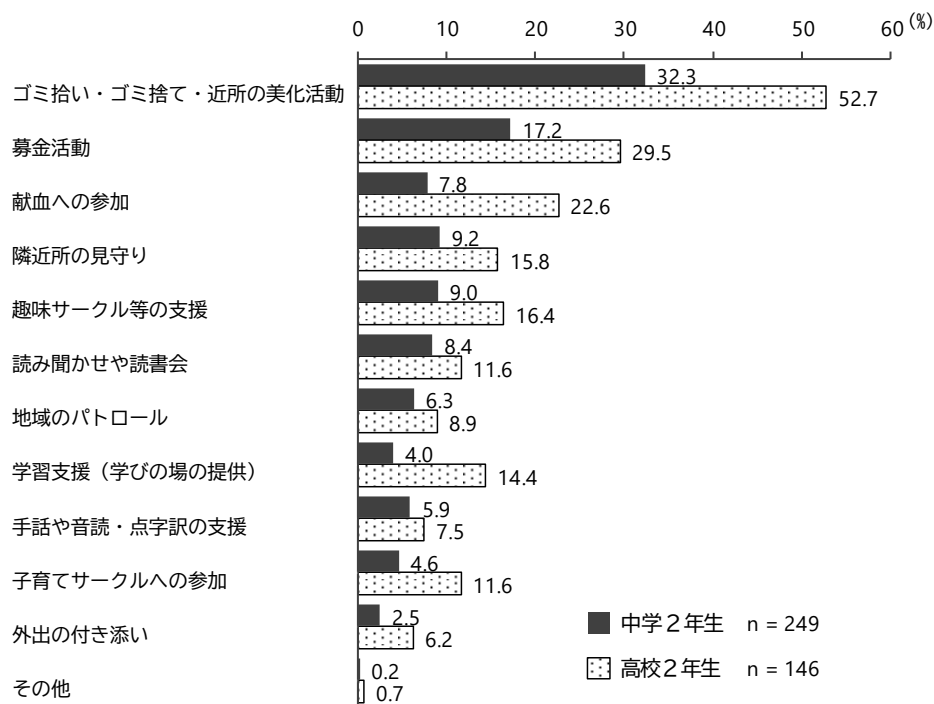
2-9 活動したいボランティアの内容

- ▶ 活動したいボランティアの内容については、「ゴミ拾い・ゴミ捨て・近所の美化活動」が58.5%と最も高く、次いで、「募金活動」（31.6%）、「献血への参加」（17.7%）となっている。

【14】【問13で「したい」「どちらかといえばしたい」を選択した方にお聞きします】
どのような内容のボランティア活動をしたいですか。（あてはまるものすべてに○）



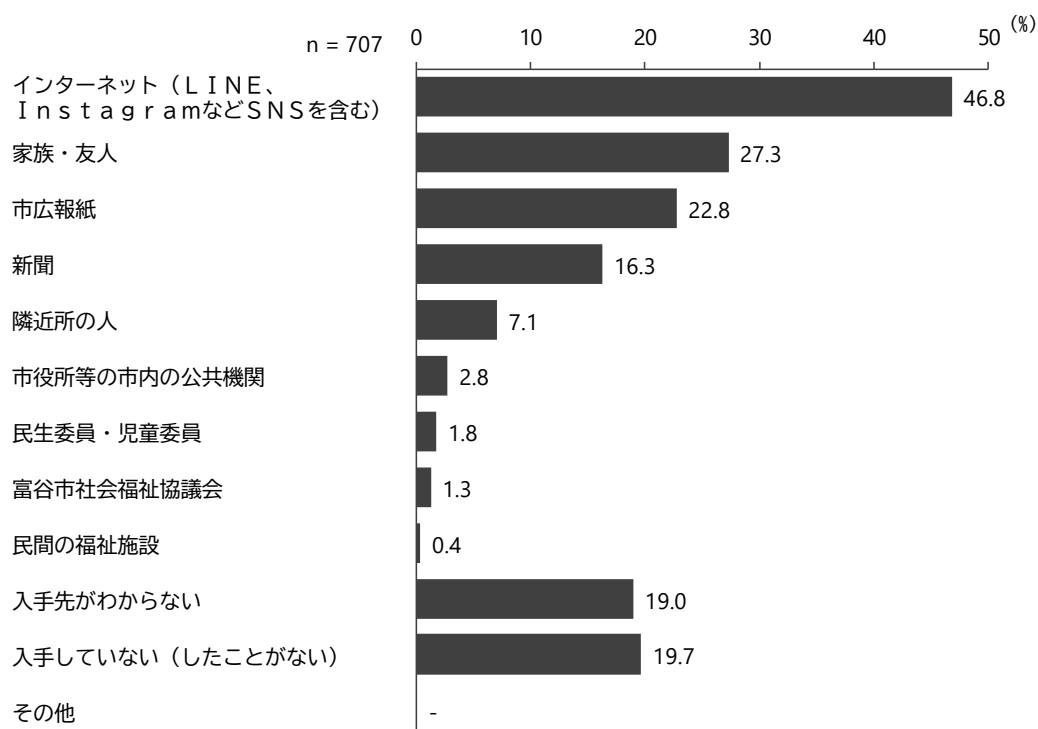
【参考】中学2年生、高校2年生別で見たアンケート調査結果



2-10 市の福祉サービスなどの情報の入手先として知っているもの

- ▶ 市の福祉サービスなどの情報の入手先として知っているものについては、「インターネット（LINE、InstagramなどSNSを含む）」が46.8%と最も高く、次いで、「家族・友人」（27.3%）、「市広報紙」（22.8%）となっている。なお、「入手先が分からない」が19.0%、「入手していない（したことがない）」が19.7%となっている。

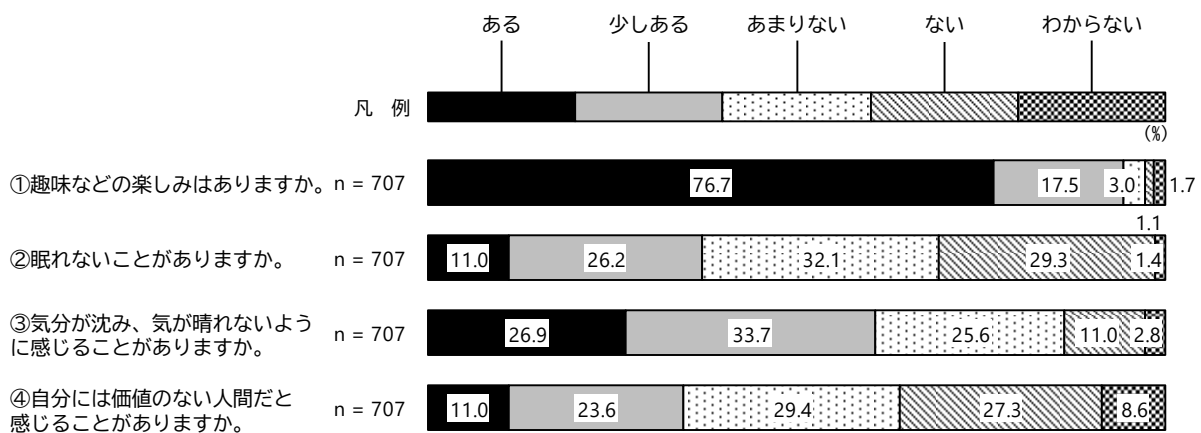
【15】市の福祉サービスなどの情報の入手先として知っているものを教えてください。（あてはまるものすべてに○）



2-11 日常生活について

- ▶ 【趣味などの楽しみの有無】については、「ある」が76.7%と最も高く、次いで、「少しある」(17.5%)、「あまりない」(3.0%)となっている。
- 【眠れないことの有無】については、「あまりない」が32.1%と最も高く、次いで、「ない」(29.3%)、「少しある」(26.2%)となっている。
- 【気分が沈み、気が晴れないように感じることの有無】については、「少しある」が33.7%と最も高く、次いで、「ある」(26.9%)、「あまりない」(25.6%)となっている。
- 【自分は価値のない人間だと感じることの有無】については、「あまりない」が29.4%と最も高く、次いで、「ない」(27.3%)、「少しある」(23.6%)となっている。

【16】日常生活の中であてはまるものはどれですか。（1つに○）

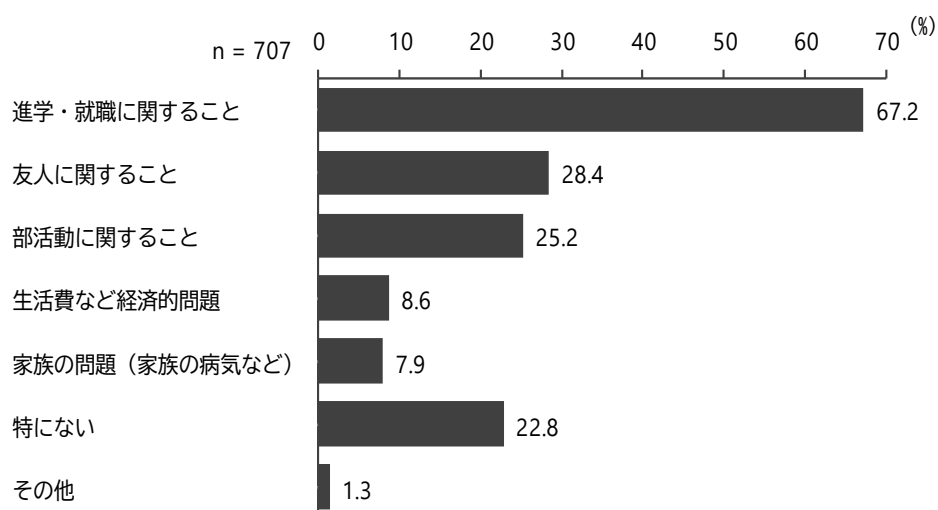


IV 調査結果（学生）

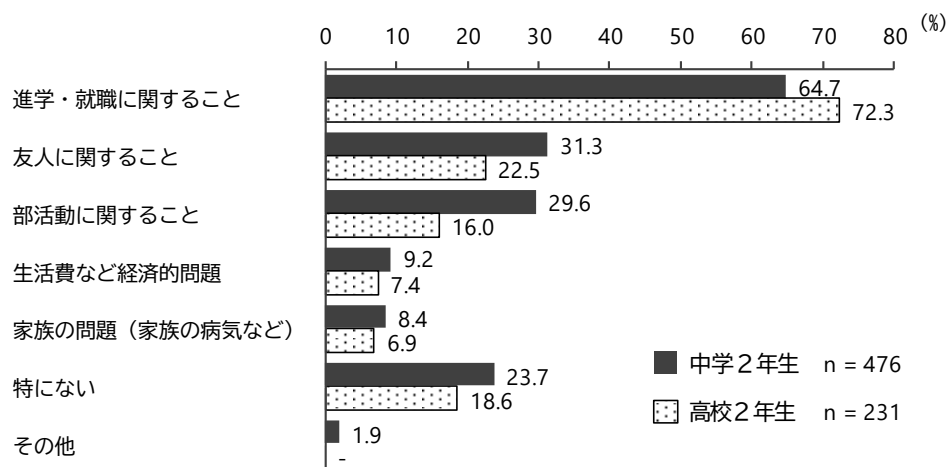
2-12 毎日の暮らしの中での不安や悩み

- ▶ 毎日の暮らしの中での不安や悩みについては、「進学・就職に関すること」が67.2%と最も高く、次いで、「友人に関すること」(28.4%)、「部活動に関すること」(25.2%)となっている。なお、「特にない」が22.8%となっている。

【17】あなたは、毎日の暮らしの中で、次のどのようなことに不安や悩みを感じていますか。
(あてはまるものすべてに○)



【参考】中学2年生、高校2年生別で見たアンケート調査結果

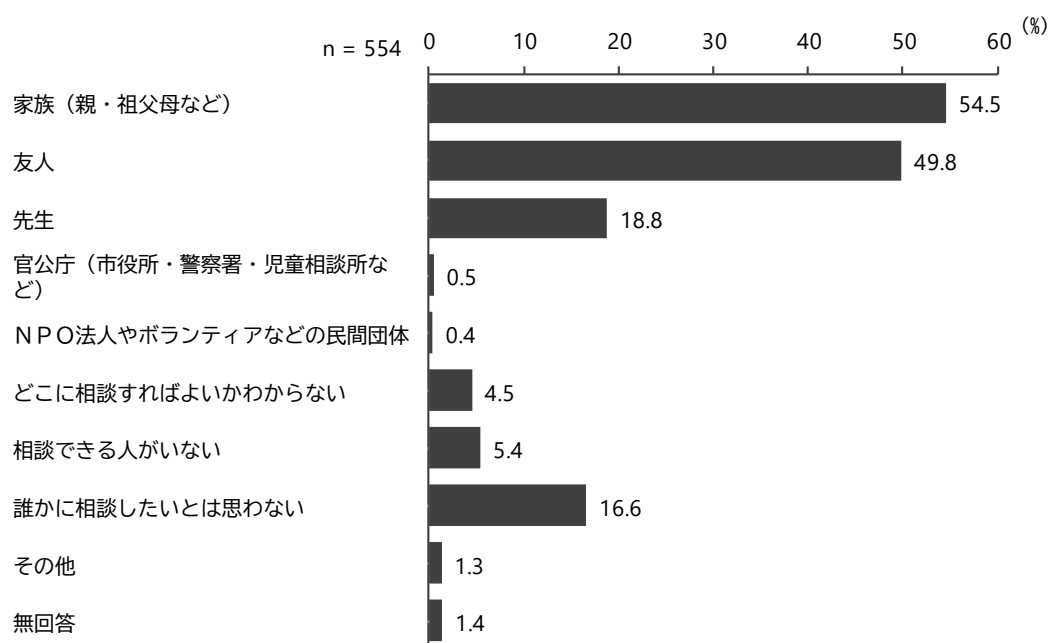


2-13 不安や悩みの相談先

- ▶ 不安や悩みの相談先については、「家族（親・祖父母など）」が 54.5%と最も高く、次いで、「友人」（49.8%）、「先生」（18.8%）となっている。なお、「誰かに相談したいと思わない」が 16.6%となっている。

【18】【問 17 で「特にない」以外を選択した方にお聞きします】

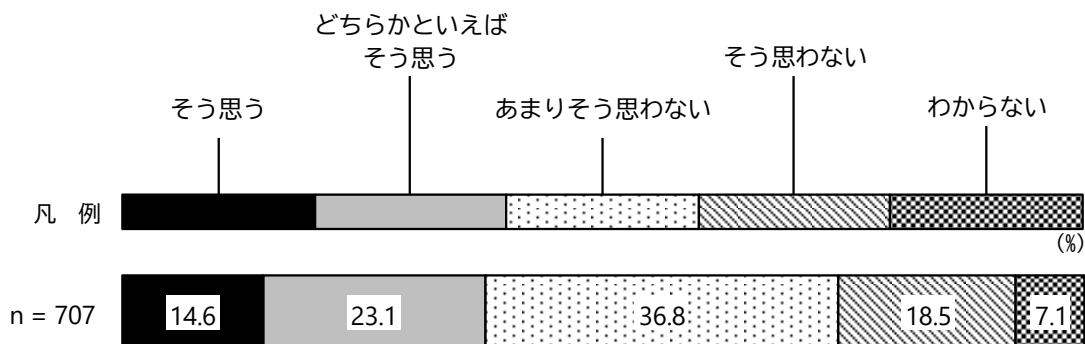
不安や悩みについて、誰に相談しますか。（あてはまるものすべてに○）



2-14 不安や悩みを人に相談・支援を求めることのためらい

- ▶ 不安や悩みを人に相談・支援を求めることのためらいについては、「あまりそう思わない」が36.8%と最も高く、次いで、「どちらかといえばそう思う」(23.1%)、「そう思わない」(18.5%)となっている。

【19】あなたは不安や悩み、ストレスを感じたときに、誰かに相談したり、助けを求めることにためらいを感じますか。（1つに○）

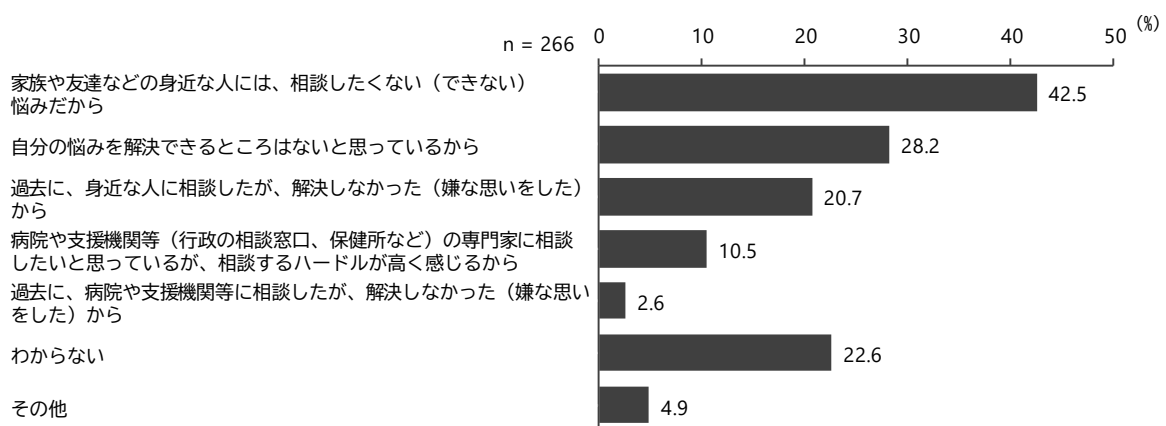


2-15 誰かに悩みを相談したり、助けを求めたりすることにためらいを感じる理由

- ▶ 誰かに悩みを相談したり、助けを求めたりすることにためらいを感じる理由については、「家族や友達などの身近な人には、相談したくない（できない）悩みだから」が42.5%と最も高く、次いで、「自分の悩みを解決できる場所はないと思っているから」（28.2%）、「過去に、身近な人に相談したが、解決しなかった（嫌な思いをした）から」（20.7%）となっている。なお、「わからない」が22.6%となっている。

【20】【問19で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を選択した方にお聞きします】

誰かに悩みを相談したり、助けを求めることにためらいを感じる理由についてお答えください。（あてはまるものすべてに○）

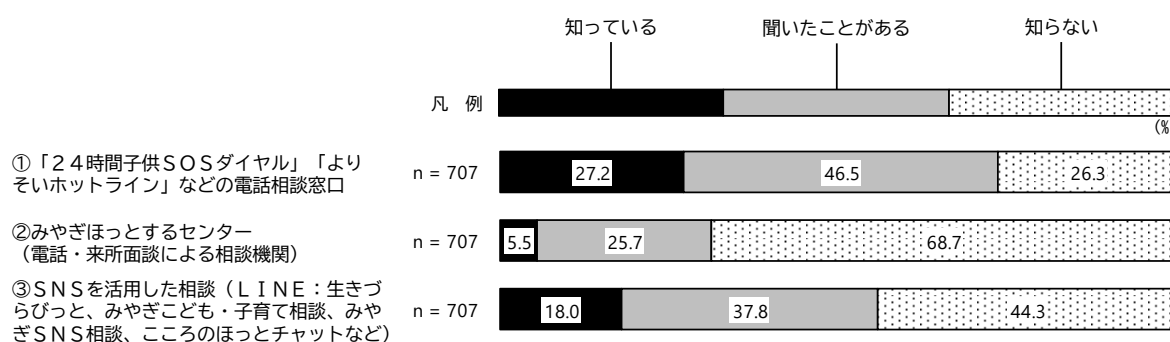


IV 調査結果（学生）

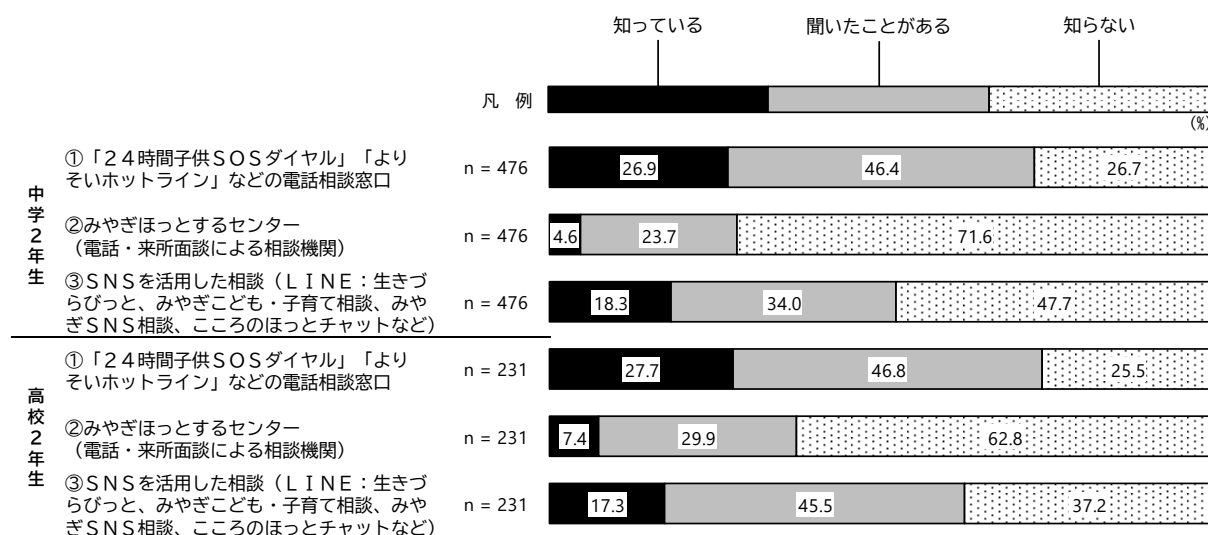
2-16 相談窓口の認知度

- ▶ 【「24時間子供SOSダイヤル」「よりそいホットライン」などの電話相談窓口】については、「聞いたことがある」が46.5%と最も高く、次いで、「知っている」(27.2%)、「知らない」(26.3%)となっている。
- 【みやぎほっとするセンター（電話・来所面談による相談機関）】については、「知らない」が68.7%と最も高く、次いで、「聞いたことがある」(25.7%)、「知っている」(5.5%)となっている。
- 【SNSを活用した相談（LINE：生きづらびっと、みやぎこども・子育て相談、みやぎSNS相談、こころのほっとチャットなど）】については、「知らない」が44.3%と最も高く、次いで、「聞いたことがある」(37.8%)、「知っている」(18.0%)となっている。

【21】あなたは、以下の内容について知っていますか。（1つに○）



【参考】中学2年生、高校2年生別で見たアンケート調査結果

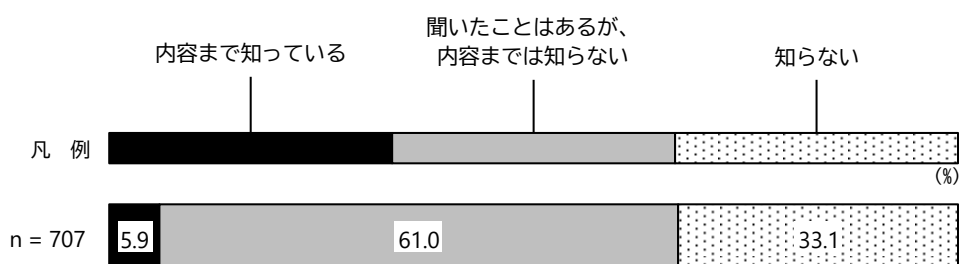


3 調査結果（学生）について

3-1 地域福祉について

地域福祉の認知度については、《知っている》（「内容まで知っている」＋「聞いたことはあるが、内容までは知らない」）が約7割を占めている。イメージであっても「地域福祉」という言葉を知ってもらうということが大切であり、機会があるごとに世代を問わず周知啓発を継続していくことが重要であるとうかがえる。

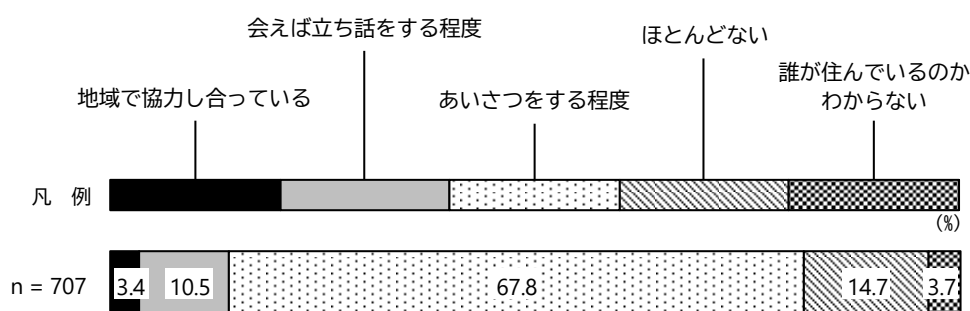
【問5：地域福祉の認知度】



隣近所の人との付き合いの程度については、「あいさつをする程度」（6割台後半）が最も高く、「会えば立ち話をする程度」（約1割）、「地域で協力し合っている」（1割未満）を合わせると、約8割の学生が隣近所の人との関わりがあるとされており、つながり意識が高いことがうかがえる。

【問7：隣近所の人との付き合いの程度】

※隣近所の人：友人やその保護者、町内会の方など。



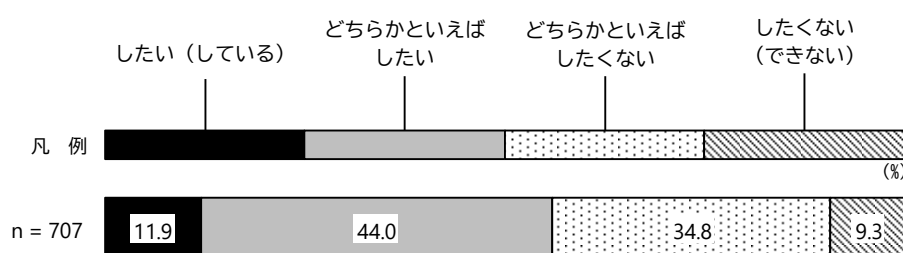
IV 調査結果（学生）

3-2 ボランティア活動について

ボランティアとしての活動状況については、「している」学生は約1割となっている。また、今後ボランティア活動をしたいかについては、「したい」（「したい（している）」＋「どちらかといえばしたい」）が5割を上回る結果となっており、半数以上の学生がボランティア活動を前向きに捉えていることがうかがえる。ボランティア活動を前向きに捉えている学生に、活動したい内容を尋ねたところ、主に美化活動が上位を占める結果となった。

【問 13：今後ボランティア活動をしたいか】

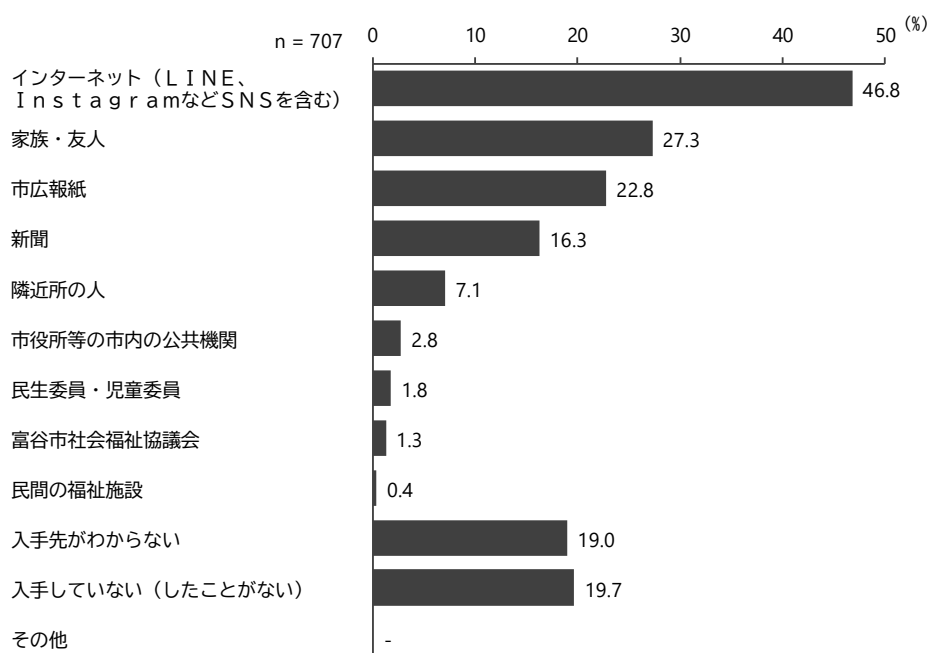
※ボランティア活動の一環として行っている学校クラブ活動なども含む。



3-3 福祉サービスなどの情報の入手先について

市の福祉サービスなどの情報の入手先として知っているものについては、「SNS等を含むインターネットなどからの情報入手」（4割台半ば）が最も高くなっている。市民アンケートでは「市広報紙」が前回同様に高い結果となったことに反して、世代による情報源の差が顕著に表れる結果となった。学生などの若年層には、インターネットなどによる情報発信がより効果的である状況がうかがえる。

【問 15：市の福祉サービスなど情報の入手先として知っているもの】

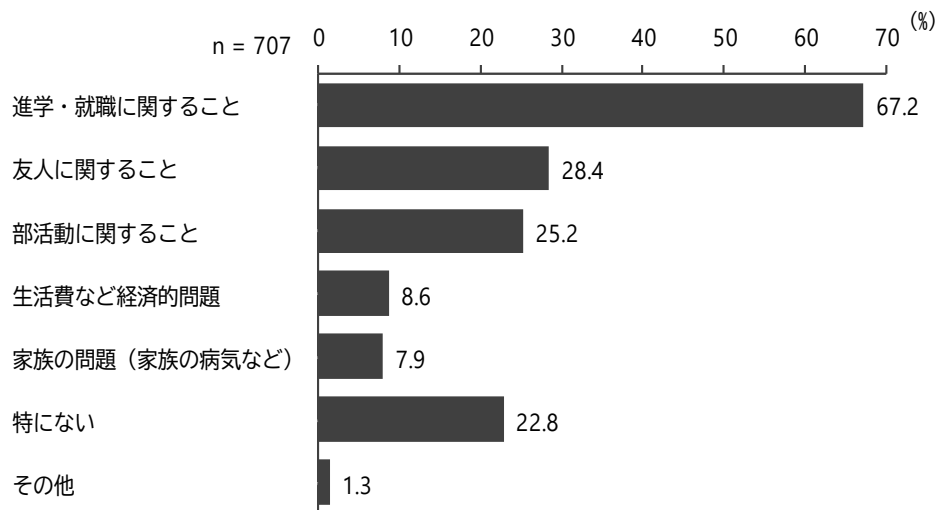


3-4 不安や悩みについて

毎日の暮らしの中での不安や悩みについては、「進学・就職に関すること」が6割台後半と突出している。一方、「友人に関すること」が2割台後半と次いで高くなっている。

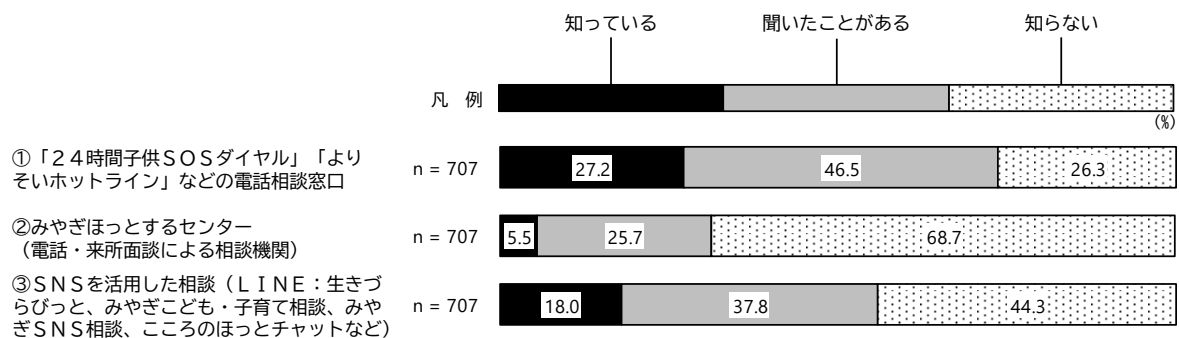
不安や悩みの相談先については、「家族」、「友人」（いずれも5割前後）など身近な存在が上位を占める結果となった。不安や悩みを人に相談・支援を求めることのためらいを感じるかを尋ねたところ、「ためらいを感じる」（「そう思う」＋「どちらかといえばそう」）学生が約4割を占めていた。

【問 17：毎日の暮らしの中での不安や悩み】



相談窓口の認知度については、「24時間子供SOSダイヤル」や「よりそいホットライン」などの電話相談窓口は、約7割の学生に認知されているものの、学生にとって馴染みがあると思われる「SNSを活用した相談」では、「知っている」（1割台後半）、「聞いたことがある」（3割台後半）を合わせても5割台半ばに留まる結果となった。

【問 21：相談窓口の認知度】



3-5 結果のまとめ

地域福祉に関する学生の認知度は6割台後半と高くなっている反面、市の福祉サービスについては「情報の入手先が分からない」、「入手していない」がいずれも約2割を占めており、今後とも、市広報紙のみならず、インターネット（LINE、InstagramなどのSNSを含む）等を活用した媒体など様々な機会を捉えながら、周知啓発を進めていく必要があることがうかがえる。

ボランティア活動については、全体の1割未満が何らかの活動を実施している状況であった。具体的な活動内容をみると、清掃・ゴミ拾い（地域の清掃活動、部活動での清掃活動）、募金（赤十字、あしなが育成会等）、エコキャップ集め、ジュニアリーダーやボーイスカウト等の回答がみられることから、学校クラブ活動や環境美化活動も含めて、更なる意識の醸成の機会拡充に取り組んでいくことが重要であると考えられる。

相談窓口の認知度に関しては、様々な相談に対応可能な専門機関があるものの、いずれも詳しく知らない学生が約7割以上と高くなっており、様々な媒体を活用しながら更なる周知啓発に努めていく必要があると考える。

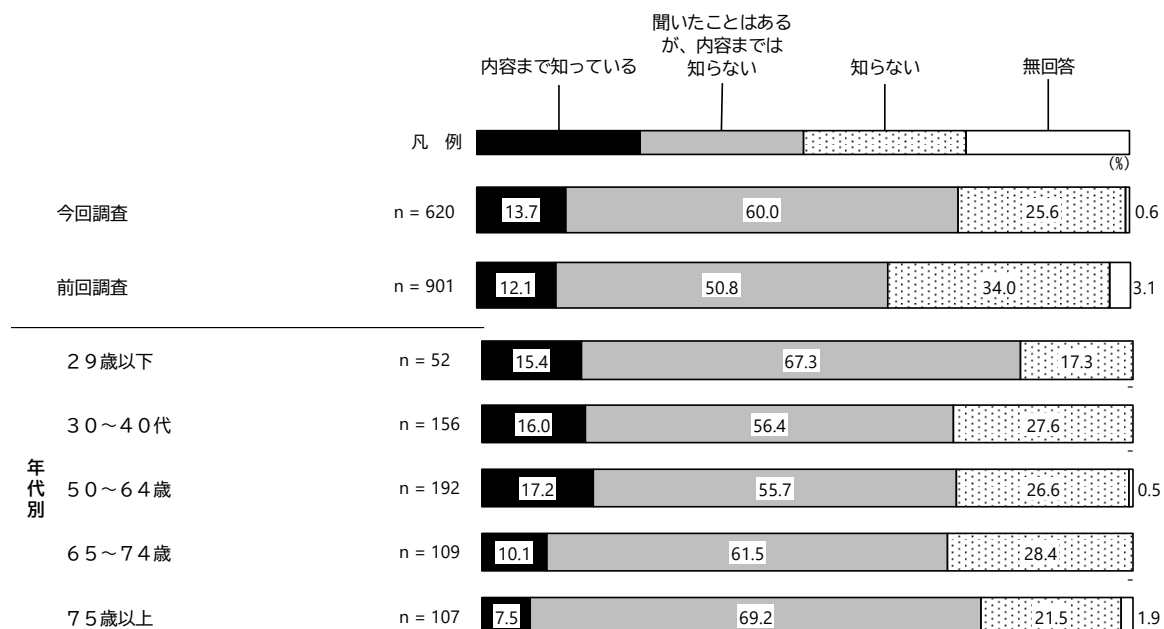
V 成果目標の達成状況

1 基本目標1「ともに学び、ともに活かす」

成果目標名	2019 年 (令和元年)	2025 年 (令和 7 年)	2025 年 (令和 7 年)
	実績	現状	目標
『地域福祉』の認知度向上 『地域福祉』について、「内容まで知っている」、もしくは「聞いたことはあるが、内容までは知らない」と回答した割合	62.9%	73.7%	68.0%

- ▶ 『地域福祉』の認知度は、73.7%となっている。令和元年（62.9%）よりも 10.8 ポイント高くなっており、目標値（68.0%）を上回る結果となった。
- ▶ 年代別にみると、『29歳以下』では、『知っている』（「内容まで知っている」＋「聞いたことはあるが、内容までは知らない」）が8割台前半と他の年代と比べてやや高くなっている。
- ▶ 『地域福祉』の認知度向上を契機として、さらなる啓発活動の展開を図るとともに、市民が地域課題を自分事として捉え、共に支え合える社会環境の構築を継続していくことが重要だと考えられる。

【市民：問 12 地域福祉の認知度】



2

基本目標2「地域でつながり、守り育む」

成果目標名	2019 年 (令和元年)	2025 年 (令和7年)	2025 年 (令和7年)
	実績	現状	目標
どの活動にも参加していない市民を減らす 地域活動やボランティア活動について、「どの活動にも参加していない」と回答した割合の減少	29.9%	35.5%	24.0%

- ▶ 「どの活動にも参加していない」と回答した市民の割合は、35.5%となっている。令和元年（29.9%）よりも5.6ポイント高くなっており、目標値（24.0%）を上回る結果となった。
- ▶ 年代別にみると、「どの活動にも参加していない」と回答した市民の割合は、40代以下で高くなっており、特に『29歳以下』では71.2%となっている。
- ▶ 圏域別にみると、『東向陽台・成田』では「どの活動にも参加していない」が31.3%と、他の圏域と比べてやや低くなっている。
- ▶ 地区別にみると、『熊谷・とちの木・あけの平・大清水地区』では「どの活動にも参加していない」が44.0%と、他の圏域と比べてやや高くなっている。
- ▶ 地域活動への参加層を広げていくためには、ライフスタイルの多様化を踏まえ、活動意欲を持つ市民がより気軽に参加できる環境整備が重要である。今後は、デジタル媒体の一層の活用や、活動内容や参加形態の柔軟な見直しなどにより、参画機会のさらなる充実を図る必要があると考えられる。

【市民：問16 参加しているボランティア活動】

		(%)										
	n	町内会	クラブ、趣味団体、サークル	保護者会、PTA	ボランティアや有志グループ	老人クラブ、ゆとりすとか、街かどクラブ	子ども会育成会	富谷市社会福祉協議会の活動	自主防災組織	その他	どの活動にも参加していない	無回答
全 体	620	58.7	8.9	8.5	4.4	3.5	2.6	1.9	1.6	1.6	35.5	0.6
年 代 別	29歳以下	52	21.2	7.7	-	3.8	-	1.9	-	-	71.2	-
	30～40代	156	55.1	4.5	24.4	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	41.0	-
	50～64歳	192	67.7	7.8	7.8	3.6	0.5	2.1	0.5	1.6	27.6	-
	65～74歳	109	67.0	11.9	-	8.3	3.7	0.9	2.8	1.8	26.6	0.9
	75歳以上	107	58.9	13.1	-	7.5	15.0	0.9	5.6	3.7	32.7	2.8
圏 域 別	富谷中央・あけの平	201	51.7	7.5	6.0	5.5	6.0	2.5	2.5	1.0	40.3	0.5
	富ヶ丘・日吉台	154	59.7	11.0	5.8	2.6	2.6	1.9	1.3	1.9	36.4	0.6
	東向陽台・成田	259	63.3	8.9	12.4	4.6	2.3	3.1	1.9	1.9	31.3	0.8
地 区 別	富谷・ひより台・太子堂地区	110	51.8	7.3	5.5	3.6	7.3	1.8	1.8	1.8	37.3	0.9
	富ヶ丘・鷹乃杜・上桜木地区	99	59.6	11.1	7.1	2.0	3.0	3.0	1.0	2.0	38.4	1.0
	熊谷・とちの木・あけの平・大清水地区	91	51.6	7.7	6.6	7.7	4.4	3.3	3.3	-	44.0	-
	日吉台・杜乃橋地区	55	60.0	10.9	3.6	3.6	1.8	-	1.8	1.8	32.7	-
	成田地区	107	60.7	8.4	13.1	4.7	1.9	1.9	0.9	2.8	33.6	0.9
	東向陽台・明石台地区	152	65.1	9.2	11.8	4.6	2.6	3.9	2.6	1.3	29.6	0.7

3

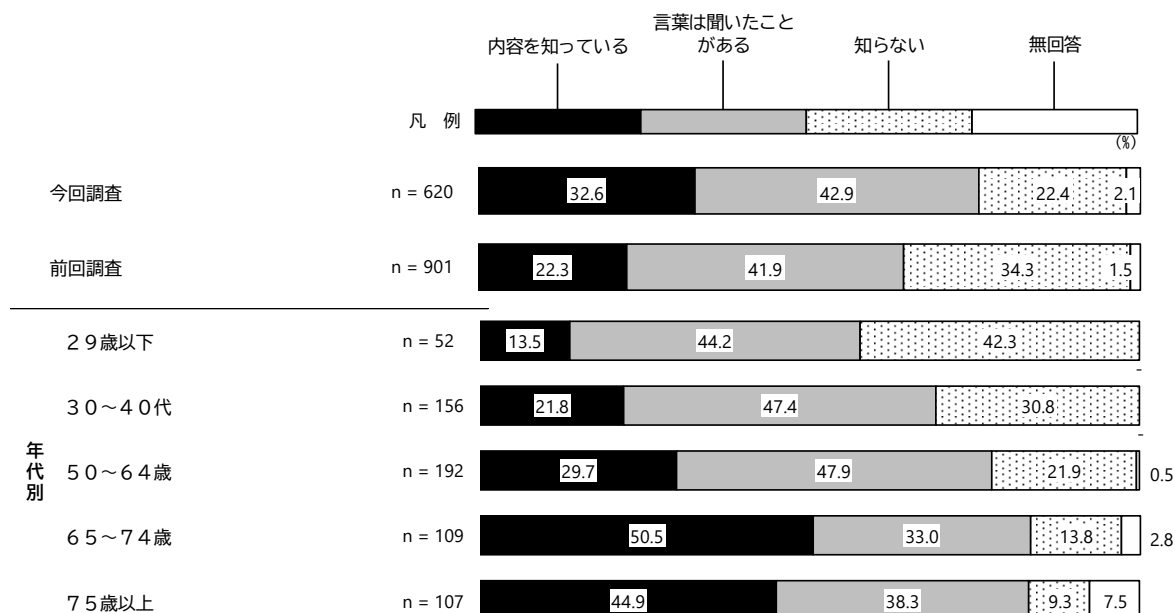
基本目標3「自分らしく暮らせる地域を築く」

成果目標名		2019年 (令和元年)	2025年 (令和7年)	2025年 (令和7年)
		実績	現状	目標
『市の福祉サービスや福祉施設』の認知度向上 市の各福祉サービスや福祉施設について、「内容を知っている」もしくは「言葉は聞いたことがある」と回答した割合の増加	高齢者福祉	64.2%	75.5%	70.0%
	障がい者福祉	62.5%	52.3%	68.0%
	児童福祉	74.2%	69.7%	80.0%

3-1 高齢者福祉

- ▶ 『市の福祉サービスや福祉施設』（高齢者福祉）の認知度は、75.5%となっている。令和元年時点（64.2%）よりも11.3ポイント高くなっており、目標値（70.0%）を上回る結果となった。
- ▶ 年代別にみると、《知っている》（「内容を知っている」＋「言葉は聞いたことがある」）は、概ね年代が上がるほど高くなっている。
- ▶ 認知度の向上を踏まえ、今後さらに進展が予想される少子高齢化や単身高齢世帯の増加を見据えて、地域における身近な見守りや相談支援体制の一層の充実を図るなど、支援を必要とする方に適切なタイミングで情報を届けるための体制を、さらに強化していくことが重要である。

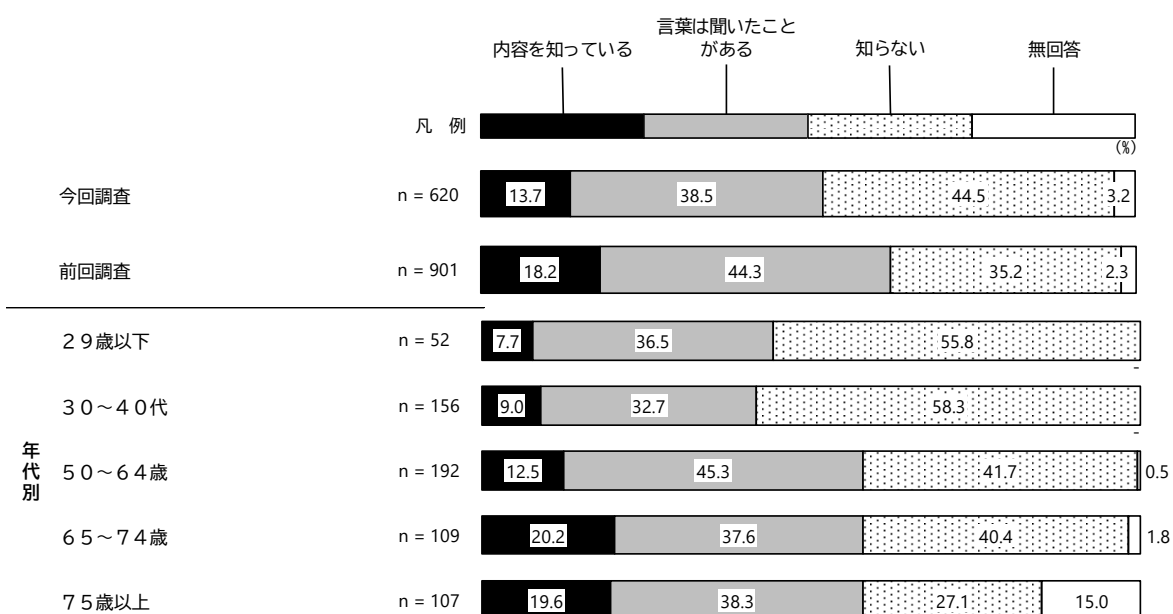
【市民：問21① 高齢者福祉に関するサービスの認知度】



3-2 障がい者福祉

- ▶ 『市の福祉サービスや福祉施設』（障がい者福祉）の認知度は、52.3%となっている。令和元年時点（62.5%）よりも10.2ポイント低くなっており、目標値（68.0%）を下回る結果となった。
- ▶ 年代別にみると、《知っている》（「内容を知っている」＋「言葉は聞いたことがある」）は、40代以下で4割台前半、50代以上で5割台後半となっており、若年層において認知度が低くなっている状況がうかがえる。
- ▶ 認知度の向上に課題がある現状に鑑み、関係機関との連携を一層密にし、支援を必要とする方への利便性の高い情報提供を強化すること必要と考えられる。あわせて、地域における障がい者福祉への理解を深める取り組みを拡充し、全世代で共助の意識を育むことで、包括的な環境づくりを推進していくことが重要である。

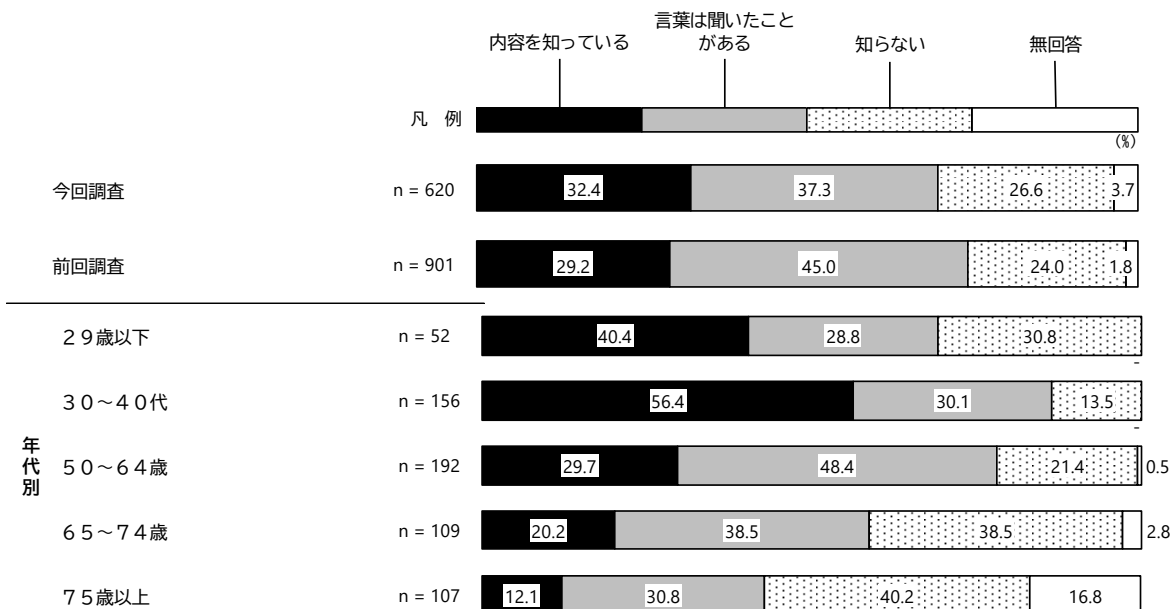
【市民：問21② 障がい者福祉に関するサービスの認知度】



3-3 児童福祉

- ▶ 『市の福祉サービスや福祉施設』（児童福祉）の認知度は、69.7%となっている。令和元年（74.2%）よりも4.5ポイント低くなっており、目標値（80.0%）を下回る結果となった。
- ▶ 年代別にみると、64歳以下では《知っている》（「内容を知っている」＋「言葉は聞いたことがある」）が約7～9割と、65歳以上に比べて高くなっている。
- ▶ 認知度の向上に課題がある現状に鑑み、子育て世帯を中心に、既存の支援策を広く周知するとともに、地域全体で健やかな子どもの育ちを育む機運を醸成していくことが必要と考えられる。情報提供の充実に加え、多世代交流の機会を創出するなど、地域社会とのつながりを強化する取り組みを推進し、地域全体で子どもを見守り支え合える包括的な支援体制を構築していくことが重要である。

【市民：問 21③ 児童福祉に関するサービスの認知度】

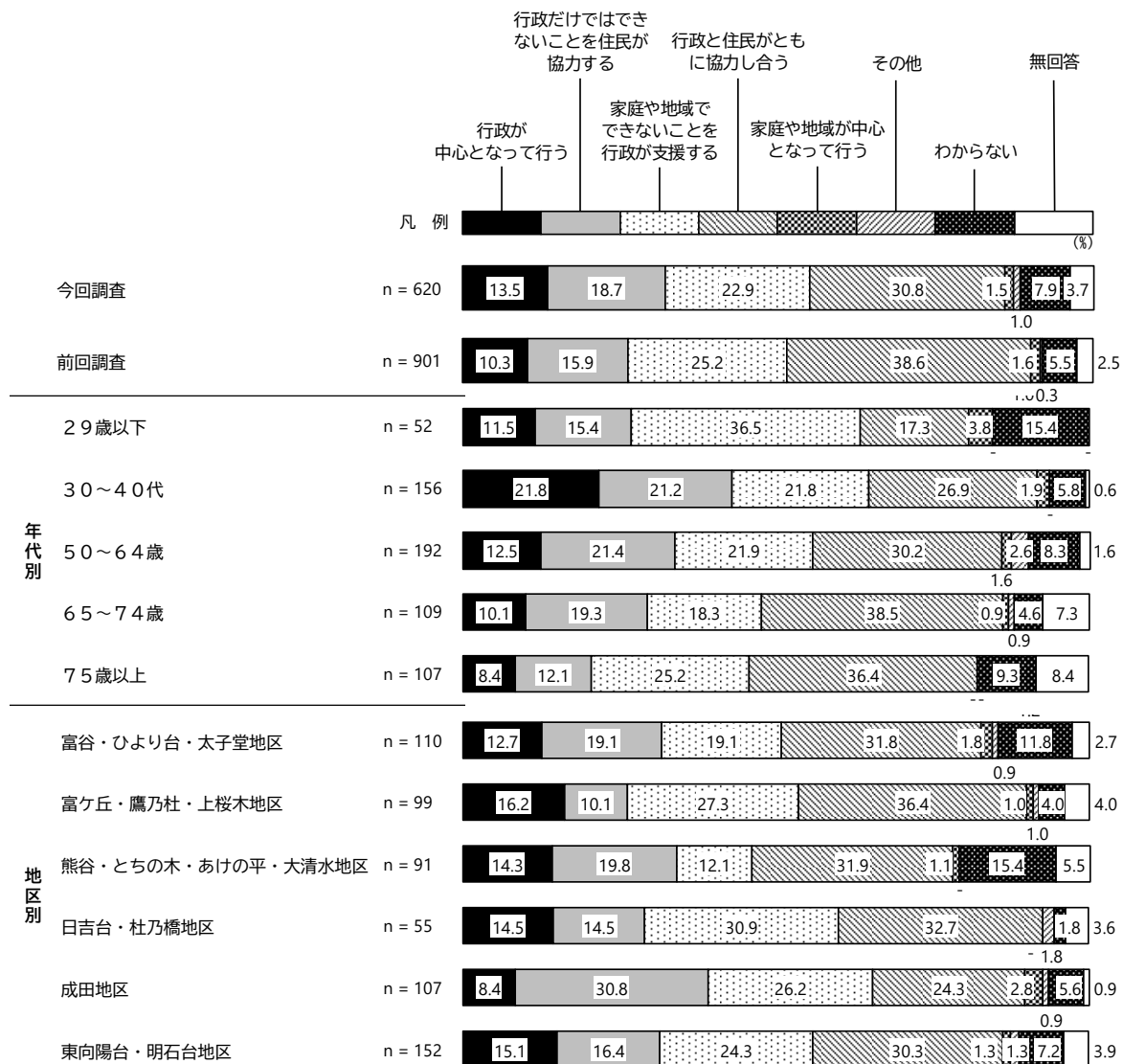


4 基本目標4「地域福祉の輪を広げる」

成果目標名	2019 年 (令和元年)	2025 年 (令和7年)	2025 年 (令和7年)
	実績	現状	目標
『地域福祉』推進に向けた意識の醸成 地域福祉を進めていく上で、行政と地域住民との協力関係について、「行政だけではできないことを住民が協力する」「家庭や地域でできないことを行政が支援する」「行政と住民がともに協力し合う」「家庭や地域が中心となっていく」と回答した割合の増加	81.3%	73.9%	87.0%

- ▶ 『地域福祉』推進に向けた意識の醸成については、73.9%となっている。令和元年(81.3%)よりも7.4ポイント低くなっており、目標値(87.0%)を下回る結果となった。
- ▶ 《住民が参画する》(「行政だけではできないことを住民が協力する」+「家庭や地域でできないことを行政が支援する」+「行政と住民がともに協力し合う」+「家庭や地域が中心となっていく」との回答について年代別にみると、全年代で7割台となっている。
- ▶ 《住民が参画する》との回答について地区別にみると、『成田地区』では8割台半ばと、他の地区よりもやや高くなっている一方で、『熊谷・とちの木・あけの平・大清水地区』では6割台半ばと、他の地区よりもやや低くなっている。
- ▶ 『地域福祉』推進に向けた意識の醸成に課題がある現状に鑑み、生活課題の複合化や福祉ニーズの多様化に的確に対応できる体制の整備が必要だと考えられる。地域活動への気軽な参加を促す機会の拡充により住民の主体的な関わりを深めるとともに、関係機関の連携と住民同士の支え合いを一層強化することで、地域共生社会の実現を推進していくことが重要である。

【市民：問 44 行政と地域住民とのあるべき協力関係】



VI 資料編

1

使用した調査票（市民）

第2期富谷市地域福祉計画策定のためのアンケート調査

市民用

～ご協力のお願い～

市民の皆様には日頃より福祉行政にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。
富谷市では、令和3年3月に「第1期富谷市地域福祉計画」を策定し「みんなで地域を守り育み支え合う富谷市」を基本理念として、地域共生社会の実現を目指し、各種取組を進めております。
このアンケート調査は、第2期となる次期計画の策定にあたり、皆様の地域福祉に関するお考えや、福祉サービスの利用状況、地域活動への参加状況などの実態を把握し、今後の地域福祉の推進のための基礎資料として活用させていただくためのものとなります。
この調査は、市内にお住まいの18歳以上の方から無作為に抽出した1,000名の方にお願ひしております。調査は無記名であり、ご回答いただいた内容は統計的に処理いたします。お忙しいところ誠に恐縮ですが、趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和7年11月 富谷市

本調査は、令和7年10月1日時点で市内に在住の方を抽出させていただいております。そのため、発送までに抽出された方やお亡くなりになった方に当たっては、何卒ご容赦くださいますようお願い申し上げます。

ご回答にあたってのお願い

- 回答はすべて、封筒のあて名に本人がお答えください。
- このアンケートは、無記名（氏名や住所の記入をしない）でお答えください。
- 次の2つのうち、どちらか1つの方法で、12月11日（木）までにご回答をお願いします。

① インターネット（スマートフォン・パソコン等）で回答

- ▶ 右の二次元コードまたは下記 URL より回答画面にアクセスし、「回答用番号」を入力してログインのうえ、画面の指示に従ってご回答ください。

URL
https://sc2webcas.net/form/pub/sc1/tomisya_fukushi_1

回答用番号

② アンケート調査票（この冊子）に直接記入し、郵送で回答

- ▶ 黒か青のボールペンまたはえんぴつ（シャープペン）で記入してください。「○」は1つ「あてはまるものすべてに○」等の表記に従って、該当する番号に○をつけてください。一部、数字等を記入いただく質問もございます。
- ▶ 「その他」に○をつけた場合は、その後の（ ）内に具体的な内容を記入してください。
- ▶ ご記入いただきましたら、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、郵便ポストにご投函ください。

お問い合わせ先

富谷市 保健福祉部 長寿福祉課 電話：022-358-0513（直通）

地域福祉とは？

地域福祉とは、誰もが幸せに暮らせる地域であるために、住民一人ひとりが住んでいる地域にある困りごとを「自分のこと」としてとらえ、「幸せづくりの担い手」となってみんなで支え合っていくことです。生活に困っている人に手を差し伸べることや、援助することだけでなく、すべての人に等しくもたらされるべき「幸せ」のことであり、誰もが安心して暮らせる幸せな生活を推進していくことをいいます。



富谷市地域福祉計画

地域福祉の推進に向けて

地域福祉を推進するためには、市民の皆様が福祉関係団体、社会福祉協議会、行政などが、それぞれの役割を果たし、お互いに力を合わせる関係をつくる必要があります。「自助」・「共助」・「公助」の視点が重要となります。



地域福祉を進めていくためには、地域のことや、日頃感じる生活の課題などを一番よく知っている、地域の皆さんの参加と協力が不可欠となります。

市民参加の一環として、アンケート調査へのご協力をよろしくお願いします。

あなたご自身についてお聞きします。

問1 あなたの自認する性別を教えてください。（1つに○）

- 1 男性 2 女性 3 その他

問2 あなたの年齢を教えてください。（1つに○）

※令和7年10月1日現在の年齢でお答えください

- 1 18～19歳 5 50～59歳 9 75～79歳
2 20～29歳 6 60～64歳 10 80歳以上
3 30～39歳 7 65～69歳
4 40～49歳 8 70～74歳

問3 現在あなたが同居している家族構成を教えてください。（1つに○）

- 1 一人暮らし 4 三世帯世帯（祖父母と親と子）
2 夫婦のみ 5 その他（ ）
3 二世帯世帯（親と子）

問4 あなたの職業を教えてください。（1つに○）

- 1 会社員 4 自営業 7 学生
2 公務員 5 農業 8 その他（ ）
3 パート・アルバイト 6 無職

地域との関わりについてお聞きします。

問5 現在あなたのお住まいの地区を教えてください。（1つに○）

- 1 富谷・ひより台・太子堂地区 4 日吉台・杜乃橋地区
2 富ヶ丘・鷹乃杜・上桜木地区 5 成田地区
3 熊谷・との木・あけの平・大清水地区 6 東向陽台・明石台地区

※富谷地区：町上、町中、町下、一ノ岡、二ノ岡、三ノ岡、志戸田、穀田、原、大倉、今泉、大亀、石橋、明石、西成田

問6 あなたは現在の地区（問5の地区）に住んで何年になりますか。（1つに○）

- 1 1年未満 4 10～20年未満 7 40～50年未満
2 1～5年未満 5 20～30年未満 8 50年以上
3 5～10年未満 6 30～40年未満

問7 あなたは現在住んでいる地域（問5の地区）に愛着がありますか。（1つに○）

- 1 とても愛着がある 4 あまり愛着がない
2 愛着がある 5 全く愛着がない
3 どちらともいえない

問8 あなたが住んでいる地域（問5の地区）の人々は地域の助け合い・支え合いに積極的だと思いますか。（1つに○）

- 1 とてもそう思う 4 あまりそう思わない
2 そう思う 5 全くそう思わない
3 どちらともいえない

問9 あなたが住んでいる地域（問5の地区）ではどのような課題・問題があると感じていますか。
（あてはまるものすべてに○）

- 1 隣近所での付き合いや交流が少ない
- 2 地域活動が活発ではない
- 3 地域活動の担い手が不足している
- 4 地域での情報共有ができていない
- 5 世代間交流が少ない（若者と高齢者等）
- 6 高齢者や障がい者への支援が少ない
- 7 子育て世帯への支援が少ない（子どもの見守り・居場所等）
- 8 一人暮らし世帯への支援が少ない（見守り等）
- 9 公共交通機関が少ない
- 10 道路や歩道が整備されていない
- 11 子ども・大人のいじめ問題
- 12 生活マナーが悪い（ゴミ、騒音問題等）
- 13 犯罪が増加している
- 14 災害時の避難体制が整っていない
- 15 空き家が増えている
- 16 その他（ ）
- 17 特にない

問10 あなたは普段、隣近所の人とどの程度のお付き合いをしていますか。（1つに○）

- | | |
|-------------|------------------|
| 1 協力し合っている | 4 ほとんどない |
| 2 会えば立ち話をする | 5 誰が住んでいるのかわからない |
| 3 あいさつをする | 6 その他（ ） |

問11 あなたにとって身近に感じられる「地域」の範囲を教えてください。（1つに○）

- | | |
|------------------|----------|
| 1 隣近所 | 5 公民館単位 |
| 2 行政区（町内会の区域と同じ） | 6 市全域 |
| 3 小学校区 | 7 その他（ ） |
| 4 中学校区 | 8 分からない |

3

地域福祉についてお聞きします。

問12 あなたは、「地域福祉」という言葉を知っていますか。（1つに○）

- 1 内容まで知っている
- 2 聞いたことはあるが、内容までは知らない
- 3 知らない

問13 あなたは、市民による自主的な助け合いや支え合いの関係が必要だと思いますか。
（1つに○）

- | | |
|---------------|------------|
| 1 とても必要だと思う | 4 必要だと思わない |
| 2 必要だと思う | 5 わからない |
| 3 あまり必要だと思わない | |

問14 隣近所に、日常生活で困っている家庭があった場合、あなたはどのような手助けができますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1 見守りや声かけ | 7 支援が必要な人の介護・支援 |
| 2 普段の話し相手 | 8 災害時の手助け |
| 3 買い物・通院など外出の手伝い | 9 悩み事の相談相手 |
| 4 家事（洗濯・調理・清掃等） | 10 その他（ ） |
| 5 ゴミ捨て | 11 特にできるものはない |
| 6 子どもの預かり・送迎 | |

問15 あなたやご家族の中で日常生活が不自由になったとき、地域の人にどのような手助けをしてほしいですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1 見守りや声かけ | 7 支援が必要な人の介護・支援 |
| 2 普段の話し相手 | 8 災害時の手助け |
| 3 買い物・通院など外出の手伝い | 9 悩み事の相談相手 |
| 4 家事（洗濯・調理・清掃等） | 10 その他（ ） |
| 5 ゴミ捨て | 11 特にしてほしいことはない |
| 6 子どもの預かり・送迎 | |

4

地域活動についてお聞きします。

問16 あなたは、どのような内容の地域活動やボランティア活動に参加していますか。
（あてはまるものすべてに○）

- 1 町内会（清掃活動・各種行事への参加）
- 2 子ども会育成会
- 3 保護者会・PTA
- 4 自主防災組織
- 5 老人クラブ、ゆとりすクラブ・サロン、街かどカフェ
- 6 ボランティアや有志グループ
- 7 富谷市社会福祉協議会の活動
- 8 スポーツ・趣味団体・サークル
- 9 その他（ ）
- 10 どの活動にも参加していない → **問17** △

【問16で、「どの活動にも参加していない」を選択した方にお聞きします】

問17 参加していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 参加したい活動がない
- 2 参加方法が分からない
- 3 時間の確保が難しい
- 4 その他の地域活動等をしている
- 5 地域活動に関する情報がない
- 6 活動するための費用がない
- 7 一緒に参加する仲間がいない
- 8 以前、不快な思いをしたことがある
- 9 関心がない
- 10 その他（ ）
- 11 特に理由はない

5

【すべての方にお聞きします】

問18 あなたは、今後ボランティア活動をしたいと思いますか。（1つに○）

- | | |
|-----------------------|----------------|
| 1 したい（継続していきたい） | → 問19 △ |
| 2 どちらかといえばしたい | |
| 3 どちらかといえばしたくない（できない） | → 問20 △ |
| 4 したくない（できない） | |

【問18で、「したい（継続していきたい）」「どちらかといえばしたい」を選択した方にお聞きします】

問19 どのような内容のボランティア活動をしたいですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|----------------|-------------------|
| 1 隣近所の見守り | 9 献血の呼びかけ |
| 2 お弁当の配達 | 10 読み聞かせや読書会 |
| 3 趣味サークル等の支援 | 11 学習支援（学びの場の提供等） |
| 4 手話や盲話、点字訳の支援 | 12 ゴミ拾い・地域の美化活動 |
| 5 外出支援 | 13 登下校の見守り |
| 6 子どもの預かり | 14 地域のバトロール |
| 7 子育てサークルの支援 | 15 スポーツの指導 |
| 8 募金活動 | 16 その他（ ） |

【すべての方にお聞きします】

問20 今後、地域活動やボランティア活動に参加するうえで、行政に支援してほしいことを教えてください。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1 活動できる拠点や場所の整備 | 6 交通費など資金的な援助 |
| 2 活動に関する情報提供 | 7 参加の呼びかけ |
| 3 人材・リーダーの育成 | 8 その他（ ） |
| 4 活動に関する研修や講習会の実施 | 9 特にない |
| 5 有償ボランティア制度の導入 | |

6

福祉サービス・支援制度についてお聞きします。

問 21 あなたは以下の内容について知っていますか。(①～③それぞれ1つに○)

	内容を知っている	言葉は聞いたことがある	知らない
※記入例	1	2	3
① 高齢者福祉に関するサービス (とみばす、地域包括支援センター等)	1	2	3
② 障がい者福祉に関するサービス(とみばす、地域活動支援センター「TOMOTOMOYOUYOU」等)	1	2	3
③ 児童福祉に関するサービス (放課後児童クラブ、子育て支援センター「とみここ」等)	1	2	3

問 22 市の福祉サービスや福祉施設の情報の入手先として知っているものを教えてください。
(あてはまるものすべてに○)

1 市広報紙(広報とみや)	7 市役所等の公共機関
2 新聞	8 富谷市社会福祉協議会
3 インターネット(SNSを含む)	9 民間の福祉施設及び事業所
4 隣近所の人	10 その他()
5 知人・友人	11 入手先がわからない
6 民生委員・児童委員	12 入手していない

問 23-1 あなたは、生活困窮[※]の問題や支援制度について知っていますか。(1つに○)

1 内容を知っている	2 言葉は聞いたことがある	3 知らない
------------	---------------	--------

※生活困窮：経済的な問題等により、最低限度の生活を維持できなくなるおそれのある状態。

問 23-2 あなたは、生活困窮に関する相談窓口(富谷市自立相談支援センター[※])を知っていますか。(1つに○)

1 内容を知っている	2 言葉は聞いたことがある	3 知らない
------------	---------------	--------

※富谷市自立相談支援センター：生活が困難している方や就労経験がなく就労に不安を抱えている方などに対し、専門の相談支援員が問題の解決に向けて、自立に関する支援を行っている機関。

7

問 24 あなたは、生活困窮の問題や支援制度について、具体的にどのような支援が最も必要だと思いますか。(1つに○)

- 1 就労支援(求職活動、就労に必要な能力の向上のための支援等)
- 2 生活支援(資金的な援助や生活の質を高めるための支援等)
- 3 学習支援(生活困難家庭の子どもの学習支援や進学支援)
- 4 居住支援(住居を持たない方や不安定な居住形態の方に一定期間宿泊場所や衣食を提供する支援)
- 5 その他()
- 6 わからない

問 25 あなたは、成年後見に関する以下の事柄について知っていますか。(それぞれ1つに○)

①成年後見制度[※]

1 内容を知っている	2 言葉は聞いたことがある	3 知らない
------------	---------------	--------

※成年後見制度：認知症や障がいなどの理由で、様々な契約や手続きを一人で行うことが難しい方へ、ご本人の意思を尊重した上で、法律行為等の支援を行う制度。支援を行う方を「成年後見人」という。

②市民後見人[※]

1 内容を知っている	2 言葉は聞いたことがある	3 知らない
------------	---------------	--------

※市民後見人：成年後見制度において、弁護士や司法書士などの資格を持たない、親族以外の市民が成年後見人になること。市町村等の研修を修了し、家庭裁判所からの選任を受けることで活動することができる。

問 26 今後、自分に「成年後見制度」が必要になった時、制度を利用したいですか。(1つに○)

1 利用したい	→ 問 27 ▲
2 利用は考えていない	→ 問 28 ▲
3 わからない	

【問 26 で「利用したい」を選択した方にお聞きします】

問 27 成年後見制度を利用することになった場合、誰に後見人になって支援してほしいですか。
(あてはまるものすべてに○)

- 1 配偶者や子どもなどの親族
- 2 弁護士や司法書士などの専門職
- 3 社会福祉法人などの団体
- 4 市民後見人
- 5 わからない

8

【問 26 で「利用は考えていない」「わからない」を選択した方にお聞きします】

問 28 「利用は考えていない」「わからない」と答えた理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

- 1 制度を利用せずに配偶者や子どもなどの親族に任せたい
- 2 制度の内容や利用方法がよくわからない
- 3 他人に財産管理を任せことに抵抗がある
- 4 制度を利用する際の手続きが複雑そうである
- 5 利用するための費用(経済的負担)がかかる
- 6 その他()
- 7 特に理由はない

【すべての方にお聞きします】

問 29 あなたは「市民後見人」としての活動に関心がありますか。(1つに○)

1 関心がある	4 関心がない
2 少し関心がある	5 わからない
3 一度研修を受けてみたい	6 その他()

問 30 成年後見制度に関する相談窓口で知っているものはどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

- 1 地域包括支援センター
- 2 富谷市保健福祉総合支援センター(中核機関)
- 3 富谷市地域福祉課(中核機関)
- 4 富谷市社会福祉協議会(権利擁護センター)
- 5 人権・行政・生活相談、法律相談
- 6 宮城福祉オンズネット「エール」
- 7 裁判所・法テラス
- 8 専門職(弁護士、司法書士等)
- 9 その他()
- 10 いずれも知らなかった

※中核機関：成年後見制度などの「権利擁護支援」が必要な市民を地域で支援する際に、全体をコーディネートする機関。制度利用の相談や周知啓発、後見人への支援、関係機関の連携促進などを行う。

問 31 住民同士の手助け合い、支え合いを進めていくために、市の福祉サービスや福祉施設について、あなたが最も必要と思うことはどれですか。(1つに○)

- 1 市から情報を提供する方法・手段を増やすこと
- 2 地域の中での情報共有を活発にすること
- 3 地域での学習機会を充実すること
- 4 地域で相談を受けた時に、必要な機関・団体へとつなぐ仕組みをつくること
- 5 地域活動に協力してくれる事業所を増やすこと
- 6 その他()

9

災害時の対応についてお聞きします。

問 32-1 地域の防災訓練に参加していますか。(1つに○)

1 はい	3 行われていない
2 いいえ	4 行われているかわからない

問 32-2 災害時に支援を必要とする人の手助けができますか。(1つに○)

1 はい	2 いいえ	3 わからない
------	-------	---------

問 33 災害に対して、地域で必要だと思う備えはどれだと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

- 1 住民同士の目覚めからのつながり
- 2 避難行動要支援者^{※1)}の把握と支援体制の整備
- 3 避難場所や避難方法の事前確認
- 4 危険箇所の把握やハザードマップ^{※2)}の事前確認
- 5 災害情報等の伝達手段の事前確認
- 6 防災訓練・避難訓練の実施
- 7 心身障害や応急手当などの救命講習会の実施
- 8 ライフラインの寸断に備えた備蓄品(非常電源や毛布、簡易トイレ等)の確保
- 9 食糧や飲料水の備蓄
- 10 支援物資の受け入れ体制の整備
- 11 災害ボランティアの受け入れ体制の整備
- 12 その他()
- 13 特に備えの必要はない

※1 避難行動要支援者：災害発生時に、自力での避難が困難な方(高齢者、障がい者など)で、避難するために地域等の支援を必要とする方。富谷市では、ご本人の申請に基づき「避難行動要支援者名簿」を取りまとめている。

※2 ハザードマップ：自然災害が起きた際に、どこでどのような被害が起きるか(浸水想定区域、土砂災害の危険箇所など)、またどこへ避難すればよい(避難場所、避難経路など)を地図上に示したものの。

10

こころの健康*についてお聞きします。

※こころの健康：いきいきと自分らしく生きるために、自分の気持ちを見ることができ、他者と社会と良い関係を築くことができる、主体的な自己決定ができることなどで、こころの健康を保つことができると言われている。こころの健康には、身体状況や社会経済状況、住居や職場の環境、対人関係など多くの要因が影響を及ぼし、様々な病気の発症因子にもなり得る。

問 34 以下について、日常生活の中であてはまるものはどれですか。（①～⑤それぞれ1つに○）

	ある	少しある	あまりない	ない	わからない
※記入例	1	2	3	4	5
① 趣味などの生きがい	1	2	3	4	5
② 眠れないこと	1	2	3	4	5
③ 気分が沈み、気が晴れないように感じること	1	2	3	4	5
④ 自分は価値のない人間だと感じること	1	2	3	4	5

問 35 あなたは、毎日の暮らしの中で、次のようなことに不安や悩みを感じていますか。（あてはまるものすべてに○）

1 自分や家族の健康のこと	6 育児・子育てに関すること
2 介護に関すること	7 家族内の問題
3 学校生活や仕事に関すること	8 自分や家族の生活上の問題（進学、就職、結婚等）
4 給料・生活費などの経済的問題	9 その他（ ）
5 友人や隣近所との関係	10 特になし → 問 37へ

11

【問 35で「1」～「9」を選択した方にお聞きします】

問 36 不安や悩みについて誰に相談しますか。（あてはまるものすべてに○）

1 家族・親族	10 地域包括支援センター
2 知人・友人	11 富谷市社会福祉協議会
3 隣近所の人	12 民間の福祉施設及び事業所
4 町内会の役員・行政区長	13 医療機関（医師・看護師・相談員等）
5 職場の上司や同僚	14 NPOやボランティアなどの民間団体
6 民生委員・児童委員、人権擁護委員	15 その他（ ）
7 市役所	16 どこに相談すればよいかわからない
8 警察署	17 相談できる人がいない
9 富谷市自立相談支援センター	18 誰かに相談したいとは思わない

【すべての方にお聞きします】

問 37 あなたは不安や悩みを感じたときに、誰かに相談したり、助けを求めたりすることにためらいを感じますか。（1つに○）

1 そう思う	3 あまりそう思わない
2 どちらかといえばそう思う	4 思わない
	5 わからない

【問 37で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を選んだ方にお聞きします】

問 38 誰かに悩みを相談したり、助けを求めたりすることにためらいを感じる理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1 家族や友達など身近な人には、相談したくない（できない）悩みだから
2 病院や支援機関等（行政の相談窓口、保健所等）の専門家に相談したいと思っているが、相談するハードルが高く感じるから
3 過去に、身近な人に相談したが、解決しなかった（嫌な思いをした）から
4 過去に、病院や支援機関等に相談したが、解決しなかった（嫌な思いをした）から
5 自分の悩みを解決できるのではないと思っているから
6 その他（ ）
7 わからない

12

【すべての方にお聞きします】

問 39 あなたは以下の内容について知っていますか。（①～⑤それぞれ1つに○）

	内容まで知っている	ある程度知っている	知らなかった
※記入例	1	2	3
① 自殺予防週間/自殺対策月間	1	2	3
② 『こころの相談電話（宮城県精神保健福祉総合センター）』などの電話相談窓口	1	2	3
③ よりいそいそホットライン	1	2	3
④ SNSを活用した相談（LINE：生きづらびっと、こころのほっとチャット等）	1	2	3
⑤ ゲートキーパー（自殺のサインに気づき、適切な対応をとれる人）	1	2	3

厚生労働省では、電話、SNSなどの相談窓口を紹介している特設サイト「まもろうよ こころ」を設置しております。もし、回答する中で、負担を感じたり、相談したい悩みなどがあれば、ご活用ください。

あなたの声を聞かせてください

もし、あなたが悩みを覚えていたら、確認してみませんか？

厚生労働省特設サイト「まもろうよ こころ」のQRコードです

電話でのご相談の場合（主な電話相談の番号）

- ・ こころの健康相談ダイヤル 0570-064-556（有料） 相談対応の曜日・時間は都道府県によって異なります。
- ・ よりいそいそホットライン 0120-279-338（フリーダイヤル・無料）
- ・ 新卒・高卒・就職前からおかけになる場合 0120-279-226（フリーダイヤル・無料）

13

問 40 自殺に対する対策があることを知っていますか。（1つに○）

1 内容まで知っている	3 知らない（この調査で初めて知った）
2 聞いたことはあるが、内容までは知らない	

※自殺対策：「自殺の多くは防ぐことができる問題である」という認識の下、保健や医療のみならず、教育や労働など様々な分野で連携を図り、取組み等を考えていくもの。

問 41 あなたは、もしも身近な人から「死にたい」と打ち明けられたとき、どう対応するのが最も良いと思いますか。（1つに○）

1 「死んではいけない」と説教する	6 ひたすら耳を傾けて聞く
2 「つまらないことを考えるな」と忠告する	7 相談に乗らない、もしくは話題を変える
3 「がんばって生きよう」と励ます	8 その他（ ）
4 「死にたいくらい辛いんだね」と共感を示す	9 わからない
5 「医師など専門家に相談した方がよい」と提案する	10 特になし

問 42 今後、どのような自殺対策が必要になると思いますか。（あてはまるものすべてに○）

1 自殺の実態を明らかにする調査・分析
2 様々な分野におけるゲートキーパー（自殺のサインに気づき、適切な対応をとれる人）の養成
3 地域やコミュニティを通じた見守り・支え合い
4 様々な悩みに対応した相談窓口の設置
5 危険な場所、薬品等の規制等
6 自殺未遂者の支援
7 自殺対策に関わる民間団体の支援
8 自殺に関する周知・啓発
9 職場等におけるメンタルヘルス対策の推進
10 子どもや若者の自殺予防
11 ネットバトロール（一緒に自殺する者を募ったり、自殺の手段を教えたりするネット上の書き込みや、自殺の動画等を配信した者に対する取り締まり、支援情報の案内等）
12 自殺遺族等の支援
13 適切な精神科医療体制の整備
14 自殺報道の影響への対策（報道機関への注意喚起等）
15 その他（ ）
16 特に必要はない

14

関係機関についてお聞きします。

問 43 富谷市社会福祉協議会[※]が行う活動や支援として、今後、期待することはどれですか。
(あてはまるもの3つまで○)

- | |
|--|
| 1 広報活動の充実(社協だよりやホームページ、SNSでの情報発信等) |
| 2 福祉教育活動の充実(福祉体験学習・夏休み福祉体験教室等) |
| 3 交流の場・機会づくりの推進(センターカフェ、世代間交流事業等) |
| 4 地域コミュニティづくりの展開(ゆとりすとクラブ・サロンの支援等) |
| 5 ボランティアのセンターの運営(ボランティア養成や活動状況の発信等) |
| 6 災害ボランティア体制整備(地域での防災・減災活動等) |
| 7 権利擁護センターの機能強化(日常生活自立支援事業等) |
| 8 福祉関係機関との連携及び活動支援 |
| 9 総合相談支援・情報提供活動の強化(各種資金貸付事業、生活相談事業等) |
| 10 福祉ニーズの発見と福祉サービスの充実(健康づくり事業、障がい者支援、ファミリーサポート支援事業等) |
| 11 その他() |
| 12 特に必要はない |

※社会福祉協議会：地域の人々が、住み慣れたまちで安心して生活することできる「福祉のまちづくり」の実現を目指す。総合的な福祉の推進を図るために、設置された社会福祉法人。地域住民や各種団体(団体・機関・福祉施設など)と協力し、高齢者・障がい者・子育てに関する様々な事業・活動を行っている。

これからの地域福祉についてお聞きします。

問 44 あなたは、今後地域の助け合い・支え合いを進めていく上で、行政と地域住民との協力関係はどのようにあるべきだと思いますか。(1つに○)

- | |
|------------------------|
| 1 行政が中心となって行う |
| 2 行政だけではできないことを住民が協力する |
| 3 家庭や地域でできないことを行政が支援する |
| 4 行政と住民がともに協力し合う |
| 5 家庭や地域が中心となって行う |
| 6 その他() |
| 7 わからない |

15

問 45 今後、地域で安心して暮らしていくために、本市ではどのようなことに取り組んでいくべきだと思いますか。(優先度が高いと思うもの3つまで○)

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 1 地域の支え合いの仕組みづくり | 9 医療サービス体制の充実 |
| 2 地域での交流ができる場の充実 | 10 バリアフリー化の推進 |
| 3 子どもの頃から福祉活動への参加 | 11 ボランティアやNPOの育成と活動支援 |
| 4 子育ての支援体制の充実 | 12 移動手段の充実 |
| 5 学校における福祉教育の充実 | 13 地域における身近な相談体制づくり |
| 6 支援を必要とする人の在宅生活支援 | 14 福祉サービスに関する情報の充実 |
| 7 地域でのさまざまな交流活動の促進 | 15 防犯・交通安全・防災体制の充実 |
| 8 健康づくりに関する取り組みの充実 | 16 その他() |

問 46 誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりを進めるための考えや、福祉に関することなど、ご意見がありましたらご自由にお書きください。

調査はこれで終了です。ご協力ありがとうございました。
この調査票は、同封いたしました返信用封筒(切手不要)に入れ、
令和7年12月11日(木)までにご投函ください。

※本調査は無記名調査のため、氏名や住所の記入は不要です

16

2

使用した調査票（団体）

第2期富谷市地域福祉計画策定のためのアンケート調査

団体用

～ご協力のお願い～

地域でご活動している事業所や団体の皆様におかれましては、日頃から市政にご理解・ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

富谷市では、令和3年3月に「第1期富谷市地域福祉計画」を策定し、「みんなで地域を守り育み 支え合う富谷市」を基本理念として、地域共生社会の実現を目指し、各種取組を進めております。

このアンケートは、第2期となる次期計画の策定にあたり、地域福祉に関する現在の状況やその他皆様のご意見を広くお聞きし、今後の各種施策に反映させるため、活用させていただくためのものとなります。お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和7年11月 富谷市

ご回答にあたってのお願い

- ☐ 回答はすべて、封筒のあて名のご本人がお答えください。
☐ このアンケートは、無記名（氏名や住所の記入をしない）でお答えください。
☐ 次の2つのうち、どちらか1つの方法で、**12月11日（木）**までに回答をお願いします。

① インターネット（スマートフォン・パソコン等）で回答

- ▶ 右の二次元コードまたは下記 URL より回答画面にアクセスし、「回答用番号」を入力してログインのうえ、画面の指示に従ってご回答ください。

URL

https://src2.webcas.net/form/pub/src2/tomiya_fukushi_2

回答用番号

② アンケート調査票（この冊子）に直接記入し、郵送で回答

- ▶ 黒か青のボールペンまたはえんぴつ（シャープペン）で記入してください。「○」は1つ「あてはまるものすべてに○」等の表記に従って、該当する番号に○をつけてください。一部、数字等をご記入いただく質問もございます。
▶ 「その他」に○をつけた場合は、その後の（ ）内に具体的な内容をご記入ください。
▶ ご記入いただきましたら、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、郵便ポストにご投函ください。

お問い合わせ先

富谷市 保健福祉課 長寿福祉課 電話：022-358-0513（直通）

地域福祉とは？

地域福祉とは、誰もが幸せに暮らせる地域であるために、住民一人ひとりが住んでいる地域にある困りごとを「自分のこと」としてとらえ、「幸せづくりの担い手」となってみんなで支え合っていくことです。生活に困っている人に手を差し伸べることや、援助することだけではなく、すべての人に等しくもたらされるべき「幸せ」のことであり、誰もが安心して暮らせる幸せな生活を推進していくことをいいます。



富谷市地域福祉計画

地域福祉の推進に向けて

地域福祉を推進するためには、市民の皆様や福祉関係団体、社会福祉協議会、行政などが、それぞれの役割を果たし、お互いに力を合わせる関係をつくることが必要となり、「自助」・「互助・共助」・「公助」の視点が重要となります。



地域福祉を進めていくためには、地域のことや、日頃感じる生活の課題などを一番よく知っている、地域の皆さんの参加と協力が不可欠となります。

アンケート調査へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

貴団体・事業所の概要についてお聞きします

【団体・事業所名】

問1 あなたは、下記のどちらに所属していますか。（1つに○）

- 福祉関係団体（遺族会、身体障害者福祉協会、母子福祉会、手をつなぐ育成会）
- 地域活動団体（老人クラブ、ゆとりすとクラブ・サロン、街かどカフェ、子育てサロン等）
- 社会福祉法人事業所・施設等
- NPO法人
- 公共的団体・公益団体（シルバー人材センター、郵便局等）
- その他の企業・事業所等

問2 職員・従業員・会員数は何人ですか。（1つに○）

- | | |
|----------|------------|
| 1 10人以下 | 4 100～199人 |
| 2 11～50人 | 5 200人以上 |
| 3 51～99人 | |

問3 貴団体が設立して何年になりますか。また、貴事業所が富谷市に立地して何年になりますか。（1つに○） ※いずれか期間が長い方をご回答ください

- | | | |
|-----------|-------------|-------------|
| 1 1年未満 | 3 5年～10年未満 | 5 15年～20年未満 |
| 2 1年～5年未満 | 4 10年～15年未満 | 6 20年以上 |

貴団体の活動等についてお聞きします

問4 貴団体・事業所で取り組んでいる事業や取り組みの分野は、次のどれにあてはまりますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|--------------|--------------------------|
| 1 高齢者支援 | 5 生活・困窮支援 |
| 2 障がい者支援 | 6 地域住民との親睦・交流 |
| 3 子育て支援・母子福祉 | 7 その他（ ） |
| 4 健康づくり・医療 | 8 「該当する事業や取り組みはない」 → 問8へ |

【問4で、「8」以外を選択した方にお聞きします】

問5 問4で回答いただいた事業や取り組みのうち、地域と一緒にやっていることや地域に向けて行っているイベント等があれば、教えてください。（自由記載）

【問4で、「8」以外を選択した方にお聞きします】

問6 問4で回答いただいた事業や取り組みを行う上でどのような団体や機関等との交流や連携を行っていますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|------------------------------------|-----------------------|
| 1 行政機関 | 8 NPO法人 |
| 2 町内会 | 9 商店街、店舗 |
| 3 民生委員・児童委員 | 10 保育園（所）、幼稚園、こども園 |
| 4 老人クラブ、ゆとりすとクラブ・サロン、街かどカフェ、子育てサロン | 11 小学校、中学校、高校 |
| 5 福祉施設 | 12 保護者会、PTA |
| 6 富谷市社会福祉協議会 | 13 その他（ ） |
| 7 地域活動団体、ボランティア団体 | 14 「特に交流や連携はない」 → 問8へ |

【問6で、「1」～「13」のいずれかを選択した方にお聞きします】

問7 具体的な交流や連携、協力の内容を教えてください。（自由記載）

【交流・連携先】

【内容】

地域への認識についてお聞きします

【すべての方にお聞きします】

問8 富谷市における住民相互の助け合いに対する意識は高いと感じますか。(1つに○)

- | | |
|--------------|---------|
| 1 高い | 4 高くない |
| 2 どちらかといえば高い | 5 わからない |
| 3 あまり高くない | |

問9 普段の業務・活動の中で感じる地域の問題点や地域の人々から聞く日常の困りごとは、どのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------------------|-------------------|
| 1 近所付き合いが減っていること | 7 地域での交流機会が少ないこと |
| 2 町内会行事等に参加しにくい雰囲気があること | 8 身寄りのない高齢者等の問題 |
| 3 ひとり親家庭、障がい者(児)家庭への偏見があること | 9 ひきこもりの方への支援について |
| 4 他人に干渉されプライバシーが守られていないこと | 10 その他() |
| 5 地域に関心のない人が多いこと | 11 特にない |
| 6 地域活動への若い人の参加が少ないこと | |

【問9で「1」～「10」のいずれかを選択した方にお聞きします】

問10 問9で回答いただいた地域の問題点や地域の人々から聞く日常の困りごとの中で、貴事業所・団体で既に取り組んでいることや実施できることとしては、どのようなことがあげられますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------------------|-------------------|
| 1 近所付き合いが減っていること | 7 地域での交流機会が少ないこと |
| 2 町内会行事等に参加しにくい雰囲気があること | 8 身寄りのない高齢者等の問題 |
| 3 ひとり親家庭、障がい者(児)家庭への偏見があること | 9 ひきこもりの方への支援について |
| 4 他人に干渉されプライバシーが守られていないこと | 10 その他() |
| 5 地域に関心のない人が多いこと | 11 特にない |
| 6 地域活動への若い人の参加が少ないこと | |

3

【問1で「公共的団体・公益団体(シルバー人材センター、郵便局等)」 「その他の企業・事業所等」のいずれかを選択した方にお聞きします】

問11 貴事業所において、普段の業務で富谷市内の団体や住民によるボランティアの受け入れを行っていますか。(1つに○)

- | | |
|---------------------------|--|
| 1 常時受け入れている | |
| 2 時期や内容により受け入れている | |
| 3 過去に受け入れていたが、現在は受け入れていない | |
| 4 受け入れたことはない | |
| 5 その他() | |

【問11で「常時受け入れている」「時期や内容により受け入れている」のいずれかを選択した方にお聞きします】

問12 ボランティアによる具体的な活動内容を教えてください。(自由記載)

【問1で「福祉関係団体」「地域活動団体」「社会福祉法人事業所・施設等」「NPO法人」のいずれかを選択した方にお聞きします】

問13 貴団体が活動を行う上で困っていることはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------------|----------------------|
| 1 活動のマンネリ化 | 6 他の団体と交流する機会が乏しいこと |
| 2 新しいメンバー・若い世代のメンバーが入らないこと | 7 活動の場所(拠点)の確保が難しいこと |
| 3 リーダー(後継者)が育たないこと | 8 活動資金が足りないこと |
| 4 市民に情報発信する場や機会が乏しいこと | 9 その他() |
| 5 支援を必要とする人の情報が得にくいこと | 10 特に困っていることはない |

問14 貴団体では、活動に関する情報をどのように発信していますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------------|--------------|
| 1 市や富谷市社会福祉協議会の広報紙 | 4 会員などによる口コミ |
| 2 チラシやパンフレットの配布(配布場所:) | 5 その他() |
| 3 SNSやホームページ | 6 発信していない |

4

【すべての方にお聞きします】

問15 地域における助け合い・支え合い活動を活発にするためには、どのようなことが重要だと思いますか。(あてはまるもの3つまでに○)

- | | |
|------------------------------------|--|
| 1 助け合い・支え合い活動の意義と重要性の周知 | |
| 2 ボランティアなどの活動の拠点となる場の整備 | |
| 3 行政による助け合い・支え合い活動の活動費・運営費等の資金的な援助 | |
| 4 ボランティアリーダーや助け合い・支え合い活動に携わる人の養成 | |
| 5 助け合い・支え合い活動の相談・指導を担当する専門職員の充実 | |
| 6 困っている人と支援できる人との調整を図る人材の育成 | |
| 7 困っている人や助け合いの場、組織についての情報を得やすくすること | |
| 8 ボランティア活動の方法等に関する研修の実施 | |
| 9 学校教育や社会教育における福祉教育の充実 | |
| 10 その他() | |
| 11 特にない | |

問16 貴団体・事業所が活動をしていく上で市に望むことはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1 事業所や活動についての周知活動への協力 | 7 他事業所・団体とのネットワーク化 |
| 2 活動に必要な情報の提供 | 8 事業運営上の助言 |
| 3 活動場所の提供 | 9 設備・備品の充実 |
| 4 会員・活動参加者募集の支援 | 10 成果の発表の場の提供 |
| 5 団体や地域のリーダーの養成支援 | 11 その他() |
| 6 経済的支援 | 12 特にない |

5

問17 地域福祉の推進についてご意見・ご要望等、ご自由にお書きください。(自由記載)

調査はこれで終了です。ご協力ありがとうございました。

この調査票は、同封いたしました返信用封筒(切手不要)に入れ、
令和7年12月11日(木)までにご投函ください。

6

3

使用した調査票（学生）

第2期 富谷市地域福祉計画 学生アンケート

【1】あなたの性別を教えてください。 ※自認する性別をお答えください。 必須

☐ 男性 ☐ 女性 ☐ その他

【2】あなたの学年を教えてください。 必須

☐ 中学2年生 ☐ 高校2年生

【3】現在あなたが同居している家族構成を教えてください。(1つに○) 必須

☐ 親
☐ 祖父母
☐ 親と祖父母
☐ 親と兄弟姉妹
☐ 祖父母と兄弟姉妹
☐ 祖父母と親と兄弟姉妹
☐ その他

【4】あなたのお住まいの地区を教えてください。 必須

☐ 富谷（町上、町中、町下、一ノ岡、二ノ岡、三ノ岡、志戸田、穀田、原、大壺、今泉、大亀、石森、明石、西成田）・ひより台・太子堂地区
☐ 富ヶ丘・鷹乃杜・上桜木地区
☐ 熊谷・とちの木・あけの平・大清水地区
☐ 日吉台・杜乃橋地区
☐ 成田地区

☐ 東向陽台・明石台地区
☐ 富谷市外

【5】あなたは、「地域福祉」という言葉を知っていますか。(1つに○) 必須

☐ 内容まで知っている
☐ 聞いたことはあるが、内容までは知らない
☐ 知らない

【6】あなたにとって身近に感じられる「地域」の範囲を教えてください。(1つに○) 必須

☐ 隣近所
☐ 行政区（町内会の区域と同じ）
☐ 小学校区
☐ 中学校区
☐ 公民館単位
☐ 市全域
☐ わからない
☒ その他

【7】あなたは普段、隣近所の人とどの程度関わりがありますか。(1つに○) 必須

※隣近所の人：友人やその保護者、町内会の方など 必須

☐ 地域で協力し合っている
☐ 会えば立ち話をする程度
☐ あいさつをする程度
☐ ほとんどない
☐ 誰が住んでいるのかわからない

【8】あなたは現在住んでいる地域（問4の地域）に愛着がありますか。(1つに○) 必須

☐ とても愛着がある
☐ まあまあ愛着がある
☐ どちらともいえない
☐ あまり愛着がない
☐ 全く愛着がない

【9】ご家族の方が、病気や日常生活が不自由になったとき、地域の方々にどのような手助けをしてほしいですか。(あてはまるものすべてに○) 必須

☐ 見守りや声がけ
☐ 普段の話し相手
☐ 買い物や通院など外出の手伝い
☐ 家事（洗濯、調理、清掃等）
☐ ゴミ捨て
☐ 兄弟姉妹の預かり・送り迎え
☐ 支援が必要な人の介護・支援
☐ 災害時の手助け
☐ 悩み事の相談相手

☐ 特にできるものはない
☒ その他

その他を選択した方は具体的な内容をご入力ください。 必須

具体的な内容

0 / 500

【10】あなたは、災害（地震・台風など）の際に地域で最も必要だと思う備えはどれだと思いますか。(1つに○) 必須

☐ 住民同士の日頃のつながり
☐ 支援を必要とする人たち（高齢者・障がい者等）の支援
☐ 避難場所や避難方法を話し合っておくこと
☐ 防災教育・防災訓練の実施
☐ 心臓蘇生や応急手当などの救急講習会の開催
☐ ライフライン（非常電源や水の確保など）の確保
☐ 特に備えの必要はない
☒ その他

その他を選択した方は具体的な内容をご入力ください。 必須

具体的な内容

0 / 500

【11】あなたは、現在ボランティア活動をしていますか。(1つに○) ※ボランティア活動の一環として行っている学校クラブ活動なども含みます。 必須

☒ している
☐ していない

【12】【問11で「している」を選択した方にお聞きします】現在、どのようなボランティア活動をしていますか。

0 / 50000 【13】あなたは、今後ボランティア活動をしたいと思いますか。(1つに○) ※ボランティア活動の一環として行っている学校クラブ活動なども含みます。 必須 ☒ したい (している) ☐ どちらかといえばしたい ☐ どちらかといえばしたくない ☐ したくない (できない) 【14】【問13で「したい」「どちらかといえばしたい」を選択した方にお聞きします】 どのような内容のボランティア活動をしたいですか。(あてはまるものすべてに○) 必須 ☐ 隣近所の見守り ☐ 趣味サークル等の支援 ☐ 手話や盲識、点字訳の支援 ☐ 外出の付き添い ☐ 子育てサークルへの参加 ☐ 募金活動 ☐ 献血への参加 ☐ 読み聞かせや読書会 ☐ 学習支援 (学びの場の提供) ☐ ゴミ拾い・ゴミ捨て・近所の美化活動	☐ 地域のパトロール ☒ その他 その他を選択した方は具体的な内容をご入力ください。 必須 具体的な内容 0 / 500 【15】市の福祉サービスなどの情報の入手先として知っているものを教えてください。(あてはまるものすべてに○) 必須 ☐ 市広報紙 ☐ 新聞 ☐ インターネット (LINE、InstagramなどSNSを含む) ☐ 隣近所の人 ☐ 家族・友人 ☐ 民生委員・児童委員 ☐ 市役所等の市内の公共機関 ☐ 富谷市社会福祉協議会 ☐ 民間の福祉施設 ☐ 入手先がわからない ☐ 入手していない (したことがない) ☒ その他 その他を選択した方は具体的な内容をご入力ください。 必須 具体的な内容 0 / 500
---	--

【16】日常生活の中であてはまるものはどれですか。(1つに○) ①趣味などの楽しみはありますか。 必須 ☐ ある ☐ 少しある ☐ あまりない ☐ ない ☐ わからない 【16】日常生活の中であてはまるものはどれですか。(1つに○) ②眠れないことがありますか。 必須 ☐ ある ☐ 少しある ☐ あまりない ☐ ない ☐ わからない 【16】日常生活の中であてはまるものはどれですか。(1つに○) ③気分が沈み、気が晴れないように感じることはありませんか。 必須 ☐ ある ☐ 少しある ☐ あまりない ☐ ない ☐ わからない 【16】日常生活の中であてはまるものはどれですか。(1つに○) ④自分には価値のない人間だと感じることはありませんか。 必須	☐ ある ☐ 少しある ☐ あまりない ☐ ない ☐ わからない 【17】あなたは、毎日の暮らしの中で、次のどのようなことに不安や悩みを感じていますか。(あてはまるものすべてに○) 必須 ☐ 進学・就職に関すること ☐ 友人に関すること ☐ 部活動に関すること ☐ 生活費など経済的問題 ☐ 家族の問題 (家族の病気など) ☐ 特になし ☒ その他 その他を選択した方は具体的な内容をご入力ください。 必須 具体的な内容 0 / 500 【18】【問17で「特になし」以外を選択した方にお聞きします】 不安や悩みについて、誰に相談しますか。(あてはまるものすべてに○) 必須 ☐ 家族 (親・祖父母など) ☐ 友人 ☐ 先生 ☐ 官公庁 (市役所・警察署・児童相談所など)
---	---

☐ NPO法人やボランティアなどの民間団体
☐ どこに相談すればよいかわからない
☐ 相談できる人がいない
☐ 誰かに相談したいとは思わない
☒ その他
 その他を選択した方は具体的な内容をご入力ください。 必須
 具体的な内容

【19】あなたは不安や悩み、ストレスを感じたときに、誰かに相談したり、助けを求めることにためらいを感じますか。(1つに○) 必須
☒ そう思う
☐ どちらかといえばそう思う
☐ あまりそう思わない
☐ そう思わない
☐ わからない

【20】【問19で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を選択した方にお聞きします】
 誰かに悩みを相談したり、助けを求めることにためらいを感じる理由についてお答えください。(あてはまるものすべてに○) 必須
☐ 家族や友達などの身近な人には、相談したくない(できない) 悩みだから
☐ 病院や支援機関等(行政の相談窓口、保健所など)の専門家に相談したいと思っているが、相談するハードルが高く感じるから
☐ 過去に、身近な人に相談したが、解決しなかった(嫌な思いをした)から
☐ 過去に、病院や支援機関等に相談したが、解決しなかった(嫌な思いをした)から

☐ 自分の悩みを解決できる場所はないと思っているから
☐ わからない
☒ その他
 その他を選択した方は具体的な内容をご入力ください。 必須
 具体的な内容

【21】あなたは、以下の内容について知っていますか。(1つに○)
 ①「24時間子供SOSダイヤル」「よりそいホットライン」などの電話相談窓口 必須
☐ 知っている
☐ 聞いたことがある
☐ 知らない

【21】あなたは、以下の内容について知っていますか。(1つに○)
 ②みやぎほっとするセンター(電話・来所面談による相談機関) 必須
☐ 知っている
☐ 聞いたことがある
☐ 知らない

【21】あなたは、以下の内容について知っていますか。(1つに○)
 ③SNSを活用した相談(LINE:生きづらびっと、みやぎこども・子育て相談、みやぎSNS相談、こころのほっとチャットなど) 必須
☐ 知っている
☐ 聞いたことがある
☐ 知らない

こころの相談窓口「まもろうよ こころ」(厚生労働省 特設サイト)
 厚生労働省では、電話、SNSなどの相談窓口を統合している特設サイト「まもろうよ こころ」を稼働しております。もし、回答する中で、質問を感じたり、相談したい悩みなどあれば、ご連絡ください。
 あなたの声を
 聴かせてください
 厚生労働省特設サイト「まもろうよ こころ」
 QRコード
 電話での相談の案内(主な電話相談の番号)
 こころの相談窓口(ダイヤル) 0120-064-556(無料) 相談内容や利用の都合によって異なります
 よりそいホットライン 0120-279-338(フリーダイヤル・無料)
 (若手県・宮城県・福島県からおかけになる場合 0120-279-226(フリーダイヤル・有料))

【回答終了】
 これで学生アンケートの回答は終了です。
 ご協力ありがとうございました。

→ 確認画面へ進む

入力内容を一時保存する

Powered by LoGoフォーム・© TRUSTBANK, Inc. 利用規約 プライバシーポリシー

digicert
 EV SECURITY

令和 7 年度
第 2 期富谷市地域福祉計画アンケート調査
－調査結果報告書－

発行年月：令和 8 年 3 月

発 行：富谷市 保健福祉部 長寿福祉課